

和歌山県近代の文化遺産調査報告書Ⅰ

— 県内所在把握調査 —

2023年3月

和歌山県教育委員会

序

近代の我が国では、先進国入りを果たすために経済、社会、政治、文化などあらゆる分野で西欧化が図られてきました。和歌山県でも新たな産業の勃興や鉄道、道路などの交通機関の発達、国土の防衛、教育や文化の発展などのために多くの土木構造物や建築物、工作物が造られてきました。これらは、駅舎や橋梁、道路など我々が普段何気なく利用しているものも多く、歴史の一コマを物語る貴重な遺産でもあります。

しかし、近年の開発の進展や生活様式の変化等により、その重要性が認識されず、消滅や散逸等の危機にさらされているものもあります。また、文化財としては比較的新しいため、文化財としての認識や評価が定着していないことから、保護措置が十分には講じられていない状況にあります。

和歌山県教育委員会では、建設後 50 年を経過し登録文化財の対象となり得る建造物や史跡等を対象とし、令和 2 年度から市町村文化財担当部局の協力を得て、近代の文化遺産調査を行ってきました。今回の調査では、平成 16～18 年度に行った近代化遺産調査（建造物等）及び平成 18～21 年度に行った近代和風建築調査の補足調査を行うとともに、記念物分野の文化財についても調査を実施しました。

今回の報告書は、県内における近代の文化遺産の所在及び歴史的価値の最新の状況を明らかにし、今後の保護措置を講じる上での参考とすることを目的に所在把握調査データを取りまとめたものです。

最後になりましたが、本調査報告に際し、多大な御指導・御協力を賜りました関係機関・関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

令和 5 年 3 月

和歌山県教育委員会
教育長 宮崎 泉

例 言

1. 本書は、令和4年12月末時点で各市町村が把握している近代の文化遺産についての情報を市町村ごとに取りまとめたものである。
2. 調査は、和歌山県教育委員会から各市町村文化財部局に依頼し、各市町村文化財部局が調査を実施し、把握する情報を一覧表に取りまとめた。
3. 本書の作成は、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課（以下、県文化遺産課）が行った。
4. 本書の執筆は、調査の経緯と方法を県文化遺産課、市町村別概要を各市町村文化財部局が執筆し、全体の編集は県文化遺産課が行った。市町村別概要の代表的な近代の文化遺産は、各市町村文化財部局が選定したものである。掲載の写真は、各市町村文化財部局から提供を受けたものである。
5. 紀北・紀中・紀南地域の代表的な近代の文化遺産位置図は、地理院タイルに市町村別概要で紹介している文化遺産の位置と名称を追記して掲載した。
6. 本書で紹介している文化遺産は、所有者が個人及び団体等であるものが多く、現地確認や見学などの際は、プライバシーを十分尊重するとともに、所有者の許可が必要である。

目 次

調査の経緯と方法	1
市町村別概要	4
和歌山県 近代の文化遺産一覧表	42
和歌山市	43
海南市	77
紀美野町	85
紀の川市	87
岩出市	95
橋本市	98
九度山町	103
高野町	105
かつらぎ町	112
有田市	124
湯浅町	137
広川町	139
有田川町	141
御坊市	147
美浜町	152
日高町	157
由良町	159
日高川町	161
印南町	166
みなべ町	168
田辺市	171
白浜町	182
上富田町	187
すさみ町	188
新宮市	189
那智勝浦町	204
太地町	205
古座川町	206
北山村	208
串本町	209

調査の経緯と方法

1 調査の経緯

全国的な近代の文化遺産の取り組みとしては、文化庁によって「近代の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者会議」が設置され、記念物分科会において調査研究結果（「近代の文化遺産の保存と活用について（報告）」）が取りまとめられている。この調査結果において、史跡指定の対象とする遺跡の時期として当面は第二次世界大戦終結頃までとすること、対象とすべき文化遺産の分野として政治・経済・文化・社会等あらゆる分野における重要な歴史的遺跡とすることが適当とされた。同時に、近代の文化遺産の保護を推進するにあたっては、遺存状況の全国調査を実施する必要があると提言されたことを受けて、平成 8 年（1996）度から文化庁による近代の文化遺産の調査が開始され、平成 8～10 年（1996～1998）に和歌山県も調査を行い、文化庁へ提出している。この調査については、文化庁において今なお詳細調査が実施され、報告書が刊行されている。また、国による史跡指定と並行して、地方公共団体による積極的な保護措置の推進を図る必要があるとの提言もなされている。

また、平成 8 年（1996）度の文化財保護法改正による登録文化財制度の創設により、概ね建設後 50 年を経過した文化財についても保護措置の対象となった。

和歌山県における近代の文化遺産の取り組みとしては、建造物分野については、土木遺産・建築遺産を対象に県教育委員会が平成 16～18 年（2004～2006）度実施した近代化遺産調査（建造物等）及び平成 18～21 年（2006～2010）度実施した近代和風建築調査があげられる。記念物分野では、平成 10 年（1998）に文化庁に提出した近代の文化遺産の所在調査がある。今回、この成果を再検証したところ、市町村より提出された遺跡の件数や分野が偏っていることが判明した。また、所在調査の段階から評価を求められるなど、調査当初から取捨選択がなされ、必ずしも悉皆的に実施されたとは言えない状況であった。さらには、各調査から相当の期間が経過したこともあり、当時把握できていた文化遺産が現在は既に失われてしまった可能性がある。一方、当時の調査で調査対象外とされたものや、当時ではその価値に疑問があった文化遺産、あるいは把握できていなかった文化遺産があることが考えられる。

2 調査の目的

近代の文化遺産に関する和歌山県の状況は、建造物分野では調査を行ってきたものの、記念物分野ではこれまで積極的に近代の文化遺産の調査を行ってきたとは言いがたい。また、建造物分野においても前回の調査から 10 年以上が経過している。このため、県内における近代の文化遺産の所在及び歴史的価値の最新の状況を明らかにし、今後の保護措置を講じる上での参考とすることを目的として、近代の文化遺産の所在把握調査を実施した。なお、令和 5 年（2023）度以降には詳細調査を予定している。

3 調査の対象

調査の対象は、江戸時代末期から昭和 45 年（1970）頃までの文化遺産のうち、不動産（建造物・土木構造物・石碑・遺跡等（車両・船舶等も含む））全般とした。調査は分野分類に基

づくこととし、文化庁の分類を参考に、鉱業、エネルギー産業（鉱業除く）、重工業、軽工業、交通・運輸・通信業、商業・金融業、農林水産業、社会、政治、文化及びその他の 11 分野を対象とした。

また、対象時期に該当しない文化遺産であっても、江戸時代末期から昭和 45 年（1970）頃の時期に関係するものについては対象とした。

4 調査の体制

本調査は、県文化遺産課が主体となり実施し、市町村文化財担当部局に域内に所在する近代の文化遺産所在把握調査と一覧表の作成、市町村概要の執筆を依頼した。

なお、調査を実施するにあたり、調査方法、調査成果及び普及事業等に関して専門的見地から指導を得るため、調査指導会を開催した。指導員は、日本近代史・整備活用・建築史・土木史の有識者に依頼した。

調査指導会

小風 秀雅	（お茶の水女子大学名誉教授）	【日本近代史】
小野 健吉	（大阪観光大学観光学部教授）	【整備活用】
清水 重敦	（京都工芸繊維大学デザイン・建築学系教授）	【建築史】
岡田 昌彰	（近畿大学理工学部教授）	【土木史】

5 調査の方法

令和 2 年（2021）度に県文化遺産課から県内市町村文化財担当部局に対して、以下の事項に留意して所在把握調査を行うよう依頼した。

- ・所在把握調査は、悉皆的な所在把握を目的とするため、文化財的価値や保存状態などに関わらず、可能な限り一覧表に記載する。
- ・調査にあたっては、市町村文化財担当部局のみでの把握だけでなく、他部局、市町村文化財保護審議委員、県文化財保護指導委員、郷土史家、地元自治会（地元住民）など、できるだけ多くの方から情報を収集するようにする。
- ・県史、市町村史、郷土史に関する書籍などに記載されているものは、もれなく記入する。

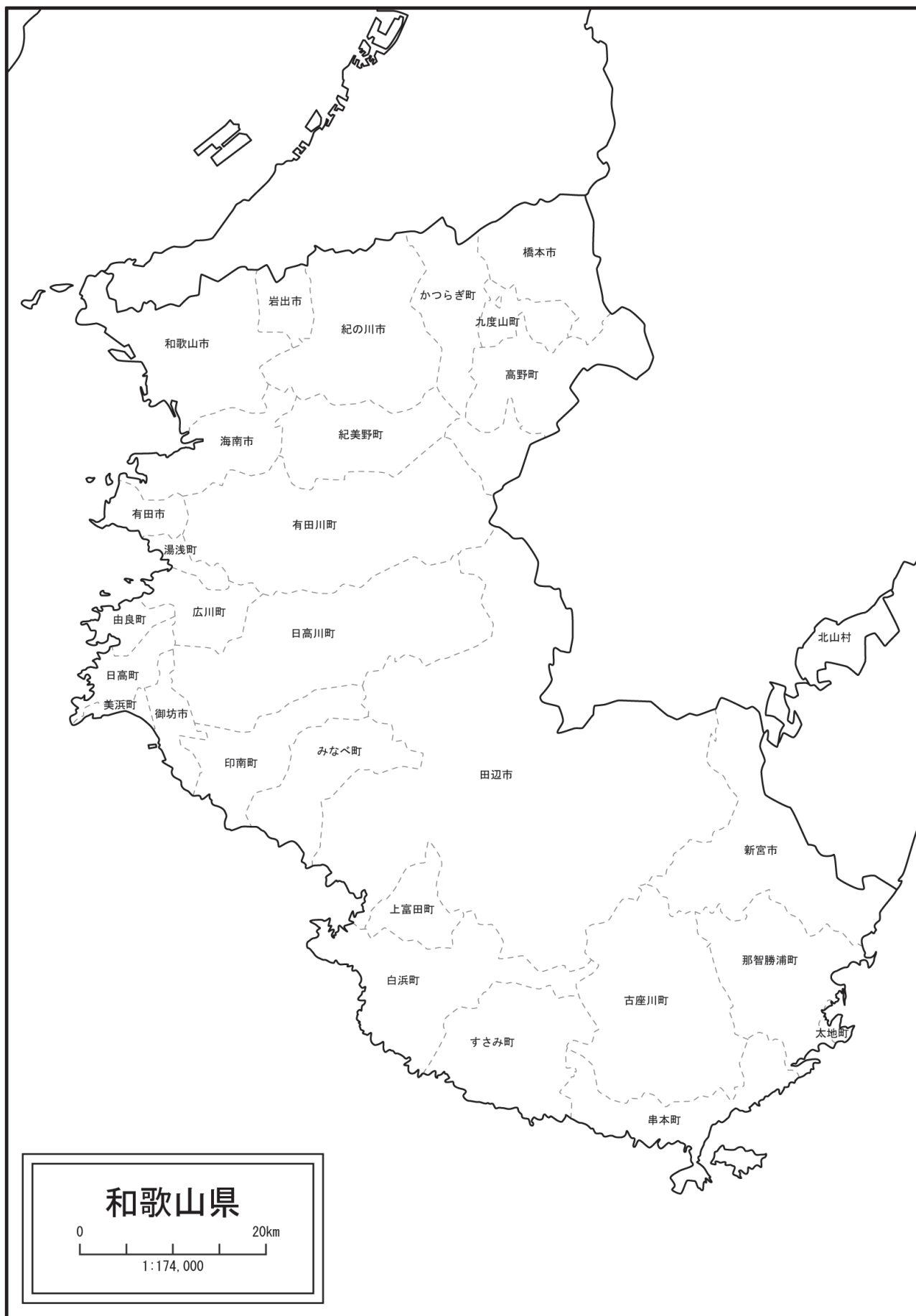
令和 2 年（2020）度を実施した所在把握調査成果は県文化遺産課で取りまとめ、県内全市町村の一覧表を令和 4 年（2022）度に市町村文化財部局に送付し、他の市町村の調査を参考に補足調査を依頼した。その後、これを取りまとめて編集を行い、和歌山県近代の文化遺産一覧表を作成した。

調査方法は各市町村で異なるが、文献調査、聞き取り調査、地図に記載された情報などをもとに実施した現地調査など、各市町村が工夫して実施した。市町村によっては、調査対象地域が広域であったり、調査対象が膨大であったりしたため、悉皆調査とはなっていない可能性がある。調査成果の取扱いにあたっては、その点を留意いただきたい。

和歌山県近代の文化遺産調査報告書は、全 3 分冊での刊行を予定しており、令和 5 年（2023）度以降に詳細調査報告を 2 冊刊行予定である。今後も所在把握に努め、続刊において適宜補填していくことを予定している。

調査担当部局及び調査協力者・団体

市町村名	文化財担当部局	調査協力者・団体
和歌山市	産業交流局 文化スポーツ部 文化振興課 産業交流局 観光国際部 和歌山城整備企画課	森崎 順臣（郷土史家）
海南市	教育委員会 生涯学習課 文化振興班	野田 泰生（海南市歴史資料館長） 馬場 一博（海南市中央公民館長）
紀美野町	教育委員会 教育課	
紀の川市	教育委員会 生涯学習課	
岩出市	教育委員会 生涯学習課	
橋本市	教育委員会 生涯学習課	
九度山町	教育委員会 社会教育課	
高野町	教育委員会	
かつらぎ町	教育委員会 生涯学習課	
有田市	教育委員会 生涯学習課 文化振興係	
湯浅町	教育委員会 歴史文化財係	
広川町	企画政策課	
有田川町	教育委員会 社会教育課	河島 一昭（有田川町文化財保護 審議会）、熊ノ郷 真
御坊市	教育委員会 生涯学習課	
美浜町	教育委員会 教育課	
日高町	教育委員会 教育課	
由良町	教育委員会 教育課	
日高川町	教育委員会 教育課	
印南町	教育委員会 教育課	
みなべ町	教育委員会 教育学習課	
田辺市	教育委員会 文化振興課	
白浜町	教育委員会	ひきがわ歴史クラブ、尾崎彰宏、 冷水喜久夫
上富田町	教育委員会 社会教育班	
すさみ町	教育委員会 社会教育課	
新宮市	教育委員会 文化振興課 文化財係	中瀬古 友夫、山本 殖生（新宮 市文化財保護審議会委員）
那智勝浦町	教育委員会 生涯学習課	
太地町	歴史資料室	
古座川町	教育委員会 教育課	
北山村	教育委員会	
串本町	教育委員会 教育課	



自地図専門店 freemap.jp

和歌山県内の市町村 位置図

和歌山市

【代表的な近代の文化遺産】

・由良要塞跡（和歌山市友ヶ島・加太・深山）

由良要塞は、陸軍が大阪湾への敵艦船の侵入を防ぐため湾への入口にあたる紀淡海峡に築いた要塞で、加太や深山、友ヶ島周辺でも明治 22 年（1889）から砲台や弾薬庫の建設がはじまった。明治 32 年（1899）7 月の要塞地帯法成立により、加太・深山・友ヶ島一帯は由良要塞地帯に編入され、深山には要塞砲兵聯隊の一部が分屯することになった。

現在でも砲座跡や弾薬庫等が良好に残されており、近代日本の軍事的な歩みを今に伝える貴重な遺産である。

・郭家住宅（和歌山市今福）

郭家住宅は、和歌山市今福の住宅街に所在する洋館を正面に構えた住宅で、国の登録有形文化財（建造物）となっている。洋館の他には座敷や離れ、土蔵などがある。

洋館は代々紀州藩の御典医であった郭家が、明治 10 年（1877）に木造二階建、瓦葺の擬洋風建築で建てたものである。一階は、薬局や待合室等に使われ、右側に応接室が付属している。外観は二階にバルコニーを設けたコロニアルスタイルで、同様の形式は明治初期の神戸・横浜など開港地に多くみられる。

これら郭家の建物群は全国的に見ても貴重で、近代和歌山を象徴する建築となっている。

・四役戦亡記念碑（和歌山市岡山丁）

明治 7 年（1874）から明治 10 年（1877）の間に起こった佐賀の乱（1874）、台湾出兵（1874）、神風連の乱（1876）、西南戦争（1877）という 4 つの国内外の戦争、争乱で戦死した和歌山県出身兵士 491 名の慰霊・顕彰のため建てられた石碑である。旧藩主徳川茂承と旧和歌山藩出身陸軍将校の発起により建てられ、碑の文字は西南戦争で征討総督を務めた有栖川宮熾仁親王によるものである。

岡公園内にある弁財天山（天妃山）の頂上にあり、戦死者の霊をとむらう招魂祭が後に会場を和歌山城内に移すまで山上で行われていた。

・和歌山城天守閣（和歌山市一番丁）

落雷により焼失した後、嘉永 3 年（1850）に再建された和歌山城天守は、明治維新以降も残されていたが、昭和 20 年（1945）7 月の和歌山大空襲により焼失してしまった。敗戦後しばらくすると、市民らから再建を求める声があがり、構造は鉄筋コンクリート造であるが、外観は非常に忠実に再現する形で昭和 33 年（1958）10 月に再建された。

設計は後に全国各地の天守復元に携わった、東京工業大学教授（当時）の藤岡通夫が担当した。



由良要塞跡



郭家住宅



四役戦亡記念碑



和歌山城天守閣

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	1	0	15	72	7	15	50	173	526	0

海 南 市

【代表的な近代の文化遺産】

・琴ノ浦温山荘庭園（海南市船尾）

琴ノ浦温山荘庭園は新田長次郎氏により大正から昭和初期にかけて造営された池泉回遊式の庭園で国名勝に指定されている。約 46,500 m²の敷地には主屋（重要文化財）を中心に東西に大きな池を配し、池は黒江湾に面した立地を活かし、潮入りとなっている。また、矢ノ島と呼ばれる山を庭園内に取り込む事で変化に富んだ景観を作りだしている。庭園内には自然石に交じりコンクリートモルタルで巧妙に作られた擬石や擬木が用いられており、独特の意匠や技法が随所に見られる庭園である。

・旧鰐川隧道（海南市下津町鰐川）

旧鰐川隧道は、国道 42 号 鰐川トンネルの南約 180m にあり、大正 8 年に旧県道に造られた煉瓦造りのトンネルである。長さ 16.32m、幅 5.40m、トンネル抗口はイギリス積、アーチ部は長手積で、坑道はイギリス積となっている。旧熊野街道（熊野古道）がここより東側の山中を通っており、車両の通行できない道であったため、明治 18 年（1885）に新熊野街道が完成し、大正 8 年（1919）には更に新しいルートとしてこの隧道が造られた。



琴ノ浦温山荘庭園



旧鰐川隧道

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	5	19	66	1	22	6	22	38	0

紀 美 野 町

【代表的な近代の文化遺産】

・黒田恵一郎、儀助親子記念碑（紀美野町毛原中・中・大角）

明治 22 年（1889）に旧 6 ヶ村が合併して長谷毛原村が誕生し、道路整備に力を注いだ。明治 33 年に村長に選ばれた黒田恵一郎は、当時としては思い切った構想で現在の海南高野線の道路を立案し明治 34 年に大工事に着手した。「奥から作り始めたら途中でやめるわけにはいかない。」という黒田の考えで、最初に村の一番奥に巾 1 間（1.8m）の立派な道路を完成させた。その後、黒田は町長を辞してから私財をつぎ込み、村内の工事が終わると下流の国吉や神野の村々に工事を続けるよう呼びかけつつ亡くなった。

その後、長男の儀助が父親の生涯をかけた大事業を完成させるため、多額の資金を下流の村々へ寄付し、事業を受け継いだ。親子 2 代にわたる大事業は着工後 20 年目の大正 9 年（1920）に完成した。

この道は現在国道 370 号線となり紀美野町の幹線道路となっている。黒田親子の偉業をたたえ、大正 11～14 年の期間に沿線 3 ヶ所で記念碑が建てられた。

・貝尻用水（紀美野町三尾川～大角～樋下～神野市場）

貝尻兼蔵の生まれた下神野村（現紀美野町）は、山間地のため水不足がはなはだしく、水の安定確保は農民の悲願であった。農業を営み資産家であった兼蔵は「人のためになる仕事をしたい」と農業用水路の工事に乗り出す決心をした。しかし、用水路完成には天拝峠の水路トンネル貫通が必須であった。そのため、兼蔵は自分の檜山の老木を手放し、独力でトンネルを掘削する決意をし、工事に取りかかった。このとき兼蔵は 61 歳、明治 45 年（1912）のことであった。

天拝峠のトンネル工事は難航を極めたが、工事開始後 3 年目に全長 50m のトンネルが貫通し、神野市場までの全長 4 Km、幅 1 m の農業灌漑用水路を完成させるとともに耕地整理も行った。こうして、稲作に必要な大量の水の安定供給により、村の米作り農家の人々の生活の基盤が確立できた。昭和 28 年（1953）の水害にも一部川岸の崩壊があり水路が決壊したが修復され、長きにわたり活用されてきた。

現在もその一部を使って、田畑にたくさんの水を運んでいる。大正 15 年（1926）に神野橋のたもとに竣工記念碑が建立されている。



黒田恵一郎、儀助親子記念碑



黒田恵一郎、儀助親子記念碑



黒田恵一郎、儀助親子記念碑



貝尻用水竣工記念碑

【中分類別件数】

鉱山	エネルギー産業	重工業	軽工業	交通・運輸・通信業	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	0	11	0	5	4	19	3	0

紀 の 川 市

【代表的な近代の文化遺産】

・西川家たばこ乾燥小屋（紀の川市東三谷）

旧打田町は昭和 10 年代から煙草の生産農家が急増した。東三谷地区では昭和 11 年（1936）に 3 件の農家で始められ、多い時は 50 軒程まで増加するが、昭和 30 年代には減少に転じており、現在では、同地区周辺に数軒が残されるのみである。

煙草の乾燥に用いる乾燥小屋は専売公社の補助により造られたため、基本的な造りは専売公社の規格によるものである。木造、切妻屋根、棧瓦葺きで、テンマドあるいは、テンソウと称される越屋根が付く。内装は土壁の真壁造りで、外壁には板が張られているが、戦後、トタン張りとされた。外部から乾燥状況を観察するための高窓が妻面に設けられている。西川家の乾燥小屋は、隣接する 2 棟が妻面の壁を同一とする形であるが、1 棟は改変が著しい。

乾燥室は吹き抜け構造で、内部には煙草を吊るヨコノサンと呼ばれている棧が 3 列に渡り、上下 6 段設置されている。燃料には薪を使用し、焚き口から煙突で排煙した。乾燥室の地面にメガネと呼ばれる二股に分かれた管を焚き口から配管し、管を暖めて室温を上昇させた。燻す際は気密性を高めるために、入口の扉は、引き戸のガラス戸と開き戸の板戸の二重扉となっている。市内でも数少ない農業の近代化を伝える貴重な建造物である。

・靖軒中尾純翁碑と奚疑塾跡（紀の川市西井阪）

靖軒中尾純翁碑は、昭和 53 年（1978）に靖軒中尾純翁を顕彰する会によって中尾家の屋敷地西側に建てられた。

中尾靖軒は天保 7 年（1836）に田中組井坂村に生まれ、18 歳の時に京都に遊学し、染川星巖等の漢学者に師事する。慶応 2 年（1866）に、森田節斎に入門し、明治 16 年（1883）に漢学の為の私塾「奚疑塾」を開く。『田中村郷土誌』には「寄宿舍を設け、学ぶ者には食費を徴せず、遠近より来り学ぶ者は、常に五六十人を下らず、郷党現に幾多社会に活動せる名士をその門下より出した」とある。塾は中尾靖軒が亡くなる大正 4 年（1915）まで続き、講義では素読を中心とし、漢籍を教えるなど郷土の文化向上に努めた。

奚疑塾は屋敷地の東側にあった長屋を使用しており、寄宿舍は屋敷地の西側の門前にあったといわれている。奚疑塾と寄宿舍は姿を消したが、現存する屋敷などが往時の姿を偲ばせる。

・本多和一郎君之碑（紀の川市北大井）

明治 33 年（1900）に本多和一郎の遺徳を忍び塾生の有志によって北大井阿弥陀寺境内に石碑が建てられた。

本多和一郎は、嘉永 5 年（1852）に池田村北大井に生まれ、明治 11 年（1878）頃、慶應義塾で漢学、洋学、欧米文化について学び大きな影響を受けた。明治 13 年（1880）に帰郷し、伝法寺（紀の川市池田新）に「共修学舎」を開塾し、根来寺蓮華院に移転の後、自宅の長屋を塾として若者たちに英学や漢学などの教育を行った。また、キリスト教の洗礼を受けキリ

スト教の普及とともに、塾内に渡米相談所を置き若者に渡米を奨励した。池田村では、伊達多仲が、後に外務大臣となる叔父の陸奥宗光の影響を受け、明治5年（1872）に米国の大学で学び牧師となり、詳しい米国の状況を語ったため移民に対する村民の意識が高まったとされる。その後、「共修学舎」が開塾し、那賀地方の米国移民に大きな影響を与えた。本多熊太郎（小村寿太郎とともにポーツマス会議に同行、イギリスなどの欧州公使を歴任）、堂本誉之進・吉之進兄弟（貿易商、ミカンの輸出）などが移民して活躍し、多くの名士が生まれた。



たばこ乾燥小屋外観



たばこ乾燥小屋内部のヨコノサン



靖軒中尾純翁碑



本多和一郎君之碑

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
2	2	0	6	41	2	19	23	15	75	0

岩 出 市

【代表的な近代の文化遺産】

・岩出鉄橋（岩出市清水・船戸）

岩出市の南部に位置する船戸地区は、紀ノ川による水運が盛んな土地柄で、古くから水陸交通の要衝として栄えてきた。

その船戸地区には、明治 31 年（1898）に近代交通の柱といえる鉄道の駅（船戸駅）が開設され、紀和鉄道の和歌山駅（現紀和駅）～船戸駅間が開業する。2 年後には船戸駅から粉河駅間が開業し、紀和鉄道が全線開通（五条駅から和歌山駅間）となる。

船戸と岩出間に架けられた岩出鉄橋は、明治 33 年（1900）10 月 10 日に竣工し、上り方からプレートガーダー 3 連＋曲弦ワーレントラス 3 連で構成されている。この橋梁は、30 年間使用され、その後、昭和 5 年（1930）3 月に先代の橋の下部工を再利用し、今の橋梁に架け替えられている。第 2 橋脚から第 5 橋脚は煉瓦で構築され、イギリス積みを用いており、明治 33 年 11 月に竣工した。第 2 橋脚の形状は尖頭形で、第 3 から第 5 橋脚は小判形となる。第 1 橋脚のみコンクリート製で、昭和 10 年 3 月に竣工した。



岩出鉄橋



岩出鉄橋橋脚部

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	2	30	0	9	1	4	43	0

橋 本 市

【代表的な近代の文化遺産】

・旧高野口尋常高等小学校校舎（橋本市高野口町名倉）

昭和 12 年（1937）に建設された木造、平屋建の校舎で、今日でも現役校舎として使用されている。校舎は低い石垣と生垣で囲まれ、門柱の向こうに見える重厚な正面玄関や、瓦葺きの校舎は、江戸時代の藩校のような品格を備えている。しかし一歩内部に踏み込むと、天井は高く、長さ 80m にも及ぶ長大な校舎は大きなガラス窓によって照らされ、翼廊と渡り廊下に囲まれた中庭には生徒達が育てた花が咲き、明るく開放的な空間である。

建物は主に桧材を用い、柱を一間毎に建てる堅牢な造りで、柱の総数は 500 本にもなる。小屋組みにも一間毎にトラスを配し、筋交いや火打ちで繋いでいる。壁には筋交いを入れ、基礎は教室毎に布基礎を回すなど、構造的にも大変堅牢な造りとなっている。また、木造小学校校舎として規模が大きく、耐震・耐風構造や平面配置など、当時の最高水準の技術で建築されているのが特徴である。設計者は、地元出身で同校の卒業生でもある藪本芳一とされている。

重要文化財指定されている現役校舎は、この校舎と愛媛県の日土小学校だけである。



高野口小学校正門前



高野口小学校廊下

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	1	0	8	39	2	10	8	19	6	0

九 度 山 町

【代表的な近代の文化遺産】

・高野山森林鉄道跡（伊都郡九度山町入郷～高野町）

九度山町域は、近世末まではほぼ一環して高野山金剛峯寺の寺領であり続け、紀の川の舟運により高野山を支えてきた。高野山周辺は、優れた森林施業施策を続け良質な森林を維持しており、明治6年（1873）にはそのほとんどが国有林に編入され、明治19年には高野山に旧営林署が置かれた。

明治38年（1905）に九度山貯木場と椎出間（丹生川左岸）に敷設された高野山森林鉄道は、国有林として日本初の森林鉄道であった。昭和33年（1958）から自動車による木材搬出が始められ、昭和34年には全面的に切り替えられ森林鉄道は廃止された。廃線後はレールを撤去し、町道に移管している。一部は散策道になっており、鉄筋コンクリート造の橋脚・橋桁・隧道・石垣等が残存している。

令和4年（2022）に「高野山森林軌道の遺構群」として土木学会選奨土木遺産に認定された。

・九度山発電所（九度山町九度山）

明治44年（1911）に竣工し、取水は赤瀬の上流、導水路石垣積み・水路橋はレンガ造・斜めアーチの「ねじりまんぼ」構造である。電気は大阪にも送電されていた。発電所は九度山幼稚園下の丹生川畔に設置されたが、昭和28年（1953）の大水害により流出した。

・南海電鉄高野線（九度山町九度山ほか）

大正14年（1925）に南海高野線が橋本から九度山を経て高野下駅まで開通した。

高野下駅は高野森林鉄道を跨ぎ交差（鉄筋コンクリート造の隧道構造。駅舎の半分はこの隧道の上に建築）し、高野参詣道より数m高く、広く長い階段が設置された。明治34年（1901）の紀和鉄道高野口駅の開設により、ここを経由し旧槇尾道を通る高野山不動口への参詣者が激増している。しかし、昭和5年（1930）に高野山駅まで延伸されたことにより高野下駅の利用者は激減した。

南海電鉄高野線には、古くから利用されている橋梁や隧道が現役で活躍している。なかでも、昭和2年（1927）に竣工した中古沢橋梁は、隧道と隧道間の深い複雑な谷にトラス構造とトレスル橋脚とを組み合わせた希少な形式の鉄道用鋼橋である。



森林鉄道隧道



森林鉄道丹生川橋梁・隧道



九度山発電所



高野線中古沢橋梁

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
2	2	0	0	34	2	4	4	3	0	0

高 野 町

【代表的な近代の文化遺産】

・旧南海鉄道 鋼索線（高野町高野山）

南海高野線の終点である極楽橋駅と高野山上の高野山駅の2駅間を結ぶ鋼索鉄道（ケーブルカー路線）。全長0.8km、高低差328mの路線をケーブルカー車両が行き来し、高野山への参拝者等を輸送している。

鋼索線は、南海高野線からの乗継駅である極楽橋駅プラットホーム、ケーブルカー路線、高野山駅プラットホーム、高野山駅舎、駅舎地下室の巻上機によって構成される。

昭和4年（1929）に極楽橋駅、昭和5年に高野山駅とケーブルカー路線が建設され、昭和5年6月29日に開通した。大量輸送への対応のため、昭和39年にケーブルカー車両が1両から2両編成に変更され、それに伴いプラットホームが延伸されるなど、時代に合わせた改変はみられるが、多くの部分で開通当初の姿をよく残す。

国内有数の歴史を持つ鋼索鉄道で、第二次世界大戦末期の戦局悪化により、国内のほとんどの鋼索鉄道が不要不急線に指定され、休止・廃止に追い込まれるなか、休止を免れ運行を続けた数少ない鋼索鉄道である。



ケーブルカー路線



極楽橋駅プラットホーム

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
1	1	0	0	28	6	7	15	50	36	0

かつらぎ町

【代表的な近代の文化遺産】

・旧大谷村組合農業倉庫（かつらぎ町大字大谷）

大谷村（昭和 30 年に旧伊都町と合併）が存在していた時代から続く農業倉庫で、現在でも選果場として使用されている。地元では大正末期から昭和初期の建築と伝わる。

木造平屋建瓦葺の近代和風建築で、地域の農業の発展を知る上でも貴重である。

・旧伊都銀行本店（かつらぎ町大字妙寺）

伊都銀行は、伊都郡内に当時存在した橋本銀行・四十三銀行橋本支店と合わせた 3 行のなかで預金残高が最多であった。

木造二階建瓦葺漆喰塗の近代和風建築で、地方経済史を知るうえでも貴重である。

・初桜酒造主屋・囲蔵・仕込蔵（かつらぎ町大字中飯降）

川上酒造酒家の建物群であり、木造二階建瓦葺。江戸時代から続く地酒とともに近代和風建築を今に伝える貴重な文化遺産である。

・小田井灌漑用水路龍之渡井（紀の川市西野山～かつらぎ町大字高田）

かつらぎ町の西端から紀の川市にまたがる渡井で、かつては木造であったが、大正 8 年（1919）に煉瓦・石造のアーチ橋に改築。農業・水利・土木技術史上重要である。



大谷村組合農業倉庫
（昭和初期撮影）



旧伊都銀行本店



初桜酒造主屋



小田井灌漑用水路
龍野渡井

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
3	0	0	1	43	1	7	24	22	275	0



紀中地域の代表的な近代の文化遺産 位置図

有 田 市

【代表的な近代の文化遺産】

・紀州柑橘祖之碑（有田市糸我中番）

みかん栽培の起源については諸説あるが、その一説に登場する伊藤孫右衛門に関するものが有田市内に遺されている。孫右衛門が肥後八代から持ち帰った小蜜柑の苗木を植えた「紀州みかん」最初の地や、江戸時代末～明治に建てられた代々続くみかん農家の伊藤家住宅、孫右衛門の功績を称えた顕彰碑が建立された有田公園などである。

豊かな自然に恵まれ、幾多の先人の努力によって育まれてきた有田みかんは、江戸期から受け継がれ、昭和に入ると有田郡内で２番目にモノラックを架設し、灌漑施設を整備し全国初の急傾斜地柑橘園スプリンクラー施設を完成させるなど、有田地方の主要産業として発展の道をたどってきた。有田公園にある「^{きしゅうかんきつしよそのひ}紀州柑橘祖之碑」は、伊藤孫右衛門の没後 300 年に、その功績を称えるため、大正 4 年（1915）に有志が建立したものである。

・円筒分水（有田市星尾・有田市古江見）

円筒分水は農業用水などを一定の割合で正確に分配するために用いられる利水施設である。和歌山県内では４ヶ所確認されており、そのうちの２つが有田市の星尾と古江見にある。



紀州柑橘祖之碑（有田公園内）



保田円筒分水

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
1	0	4	14	49	0	43	77	32	57	0

湯 浅 町

【代表的な近代の文化遺産】

・菊池海荘碑（湯浅町栖原）

菊池海荘（1799～1881）は、栖原に本宅を置き、江戸で砂糖・薬種商を営む家に生まれ、主に漢詩を中心とした文化活動を行い、多くの人物と交流を持つ傍ら、海防の必要性を紀州藩や朝廷に訴え、自らは有田・日高の青年の鍛錬や農兵隊の組織化などを行った人物である。また、天保の飢饉の際に窮民救済のための土木事業を起こし、明治維新後の有田郡民政局副知局事を勤める等、地域にも大きな貢献をした。この石碑は、彼の功績を讃え、昭和5年（1930）の50回忌に際して施無畏寺境内に建てられた。

・大仙堀（湯浅町湯浅）

醤油醸造業で栄えた湯浅の市街地の北西、山田川河口に築かれた内港で、醤油の原材料や製品の積降に使われたと言われ、「しょうゆ堀」という呼び名も伝わっている。明治初頭の地図にあらわれることから少なくともその時期には存在していたとみられ、往時は東にもう少し広がっていた。現役の醤油蔵が並ぶ景観は、湯浅の代表的な景観のひとつでもある。



菊池海荘碑



大仙堀

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	6	12	4	6	8	4	2	0

広 川 町

【代表的な近代の文化遺産】

・ 広村堤防（広川町広）

安政元年（1854）の津波後に、濱口梧陵らにより築造された堤防。長さ約 600m、根幅約 20m、高さ約 5 mの堤防で、国の史跡に指定されている。安政 2 年(1855) 2 月に着工し、安政 5 年(1858)12 月に完成。濱口梧陵は 1,572 両もの私財を投じ、のべ 56,736 もの村人を日払いで雇用することで、津波の被害で荒廃した村から人々の離散を食い止めた。

また、昭和 21 年（1946）の昭和南海地震では、市街地への津波の流入を防いでいる。

・ 東濱口家住宅（広川町広）

濱口梧陵とともに広村堤防の築造を支えた濱口吉右衛門家の本宅で、国の重要文化財に指定されている。広大な敷地には江戸時代に遡る主屋、本座敷のほか、明治中期に建てられた土蔵群、明治 41 年(1908)頃に造られた御風楼が残存。ひととき高くそびえる御風楼は 9 代目吉右衛門によって建てられた迎賓施設で、特に 3 階の華やかな座敷は、三方の雨戸をすべて開け放つと 270 度のパノラマが広がる。安政の津波が達した高さを記した柱も残っており、災害の記憶を後世に物語っている。



広村堤防



東濱口家住宅

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	1	5	2	8	11	4	3	0

有 田 川 町

【代表的な近代の文化遺産】

・有田鉄道（有田川町徳田ほか）

有田鉄道は、湯浅と金屋の地を結ぶ軽便鉄道として大正4年（1915）に開業した。地域の主要産業である有田みかんの運搬にも大きな役割を果たし、最盛期の昭和40年前後における旅客は年間160万人、貨物は3万トンを超えた。しかし、輸送手段の自動車への移行によって利用者は減少の一途をたどり、平成14年（2002）に廃線となった。有田鉄道関連の文化遺産は、旧金屋口駅舎周辺が鉄道公園として整備され、車両保管庫や駅舎の保存が図られている。線路跡は遊歩道として整備されており、当時の橋梁などが残る。

また、車両は動態保存され、展示走行や乗車体験に利用されている。和歌山県の交通の歴史を知る上で意義深い遺産である。

・紀州大水害の関連遺産（有田川町徳田ほか）

昭和28年の紀州大水害（7.18水害）は、死者615人、行方不明者431人、重軽傷者6600人以上、家屋の全壊流出8600棟余り、被害者総数約25万人という県下史上最悪の気象被害である。最も被害の大きかった有田郡では、総人口の約6割が被災者となった。被災地では、供養碑や復興記念碑、当時の水害到達点を刻んだ水位記録の石標などが残る。先人が過去の災害の記憶を後世に伝えるために残した災害教訓となる遺産である。



有田鉄道 垣倉橋梁



紀州大水害 徳田の水害供養碑

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	6	0	2	40	0	13	18	29	14	0

御 坊 市

【代表的な近代の文化遺産】

・御坊臨港鉄道（御坊市湯川町・菌・名屋）

国鉄御坊駅が、旧御坊町から少し離れた湯川町小松原につくられることになり、まちの有志が資金を出し合って御坊臨港鉄道（現在の紀州鉄道）を設立した（昭和3年設立、昭和6年営業開始）。御坊臨港鉄道は国鉄御坊駅から市街地を通り、日高川河口の港まで敷設され、旅客と貨物を輸送した。

・日の出紡織（御坊市名屋）

御坊市で最初の近代的工場は、大正2年(1913)に操業を始めた日の出紡織で、御坊市の産業発展の先がけとなった。日の出紡織の発起人には、実業家渋沢栄一も名を連ねている。その後、日の出紡織は軍需工場となっている。

昭和19年末以降、大都市だけでなく、地方都市もB29などによる空襲を受けるようになり、御坊市も昭和20年6月7日・22日の日高地方大空襲により大きな被害が出た。日の出紡織工場の赤レンガ塀にも空襲の傷跡が残っている。



西御坊駅舎



日の出紡織のレンガ塀

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	4	19	6	11	17	22	31	0

美 浜 町

【代表的な近代の文化遺産】

・旧野田家住宅（美浜町三尾）

昭和 9 年（1934）頃、カナダ・バンクーバーより帰国した中津家によって建設された洋風住宅である。その後、野田家の住まいとなった。主棟部は木造二階建、寄棟造、瓦葺で、その他は木造平屋建て、瓦葺である。

外観は南京下見板を張り、水色のペンキを塗った洋風住宅で、屋根は緑色のセメント洋瓦で葺かれている。主棟部の正面側には玄関ポーチを張り出す。玄関に入ると、正面に二階に上がる階段が設けられ、東に洋室の応接室を設け、西には和室がある。洋室の床はフローリング張り、壁はニス塗りの腰壁に漆喰塗りとした本格的な造りである。

門及び塀は鉄筋コンクリート造の塀で、南東隅に東門して門を構える。全体に洗い出し仕上げとした上質な塀である。

平成 29 年に改修が行われ、平成 31 年には国登録有形文化財となっている。



旧野田家住宅 外観



旧野田家住宅 玄関ポーチ

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	1	9	0	8	22	15	25	0

日 高 町

【代表的な近代の文化遺産】

・クヌッセン機関長救命艇（日高町阿尾）

昭和 32 年（1957） 2 月 10 日午後 9 時 40 分頃、デンマーク国マースクライン会社所属エレン・マースク号が、和歌山県日高郡美浜町日ノ御崎灯台の北北西の海上で、機帆船「高砂丸」が火災を起こしているのを発見した。ただちに接近して救命艇をおろし、ただ一人の生存者を救助したが極度の疲労のため、縄梯子で本船に移るさいに力つきて舷側から転落した。これを見た機関長のヨハネス・クヌッセン氏（39 才）は身の危険をかえりみず暗夜の激流の中に飛び込んだ。クヌッセン氏の尊い犠牲的な行為も闇夜しかも凍てつく激浪の中如何ともしがたく、船員と運命をともにしたのである。

クヌッセン氏は、翌 11 日早朝に日高郡日高町田杭海岸で水死体となって発見され、この救命艇も氏の遺体からほど遠くない場所に漂着した。クヌッセン氏の国境を超えた深い人類愛に燃え身命を賭して救助に立ち向かった勇猛果敢な行為を広く顕彰するため、この救命艇を保存し遺徳を後世に伝えている。

この悲しい事故は日本とデンマーク両国の友好の象徴となり、平成 14 年（2002）のサッカー日韓ワールドカップの際にはデンマークチームが和歌山をキャンプ地を選んでい



クヌッセン機関長救命艇



クヌッセン機関長救命艇

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	0	8	0	4	3	7	8	0

由良町

【代表的な近代の文化遺産】

・紀伊防備隊跡（由良町大字阿戸）

由良町は、入り組んだ湾口で海が深く、天然の良港として江戸時代から栄えていた。そのような立地条件も相まって、昭和 14 年（1939）に、大日本帝國海軍紀伊防備隊が発足し、現在の由良町役場周辺一帯が基地として整備された。周辺には弾薬庫や防空壕、武器倉庫なども設置された。紀伊防備隊の主な任務は、紀伊水道の海面防備で、小松原海軍航空隊より水上偵察機 16 機が常時配備されていた。

基地が在所した由良町は、空襲の被害を受け、糸谷湾では海防艦第 30 号が攻撃され海底に沈没し多くの犠牲者が出た。戦死した艦長以下 66 名を慰霊するために、昭和 32 年（1957）に地域の人々によって慰霊碑が建立されている。これらの戦争遺跡は由良町の歴史を語るうえでも重要な遺産といえる。



紀伊防備隊基地跡の石碑



阿戸の防空壕跡

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	0	7	0	5	8	22	8	0

日 高 川 町

【代表的な近代の文化遺産】

・旧高津尾発電所（日高川町高津尾）

日高川水系の水路式水力発電所として和歌山水力電気株式会社により大正5年（1916）に着工され、大正7年に発電所1期工事、大正8年に2期工事、昭和2年（1927）に3期工事、昭和25年に4期工事が竣工した。その後の再編を経て昭和26年に関西電力株式会社に引き継がれた。

この発電所はイギリスから輸入されたレンガを使って建築され、建物の設計はイギリス人技師によるものといわれている。外壁はレンガの長い面（長手）だけの段と短い面（小口）だけの段を一段おきに積んでいくイギリス積みで構成されている。転開始当時の出力は1,500kwであったが、発電出力の増強を重ね、昭和戦前までは県内水力発電で最大発電量を誇り、昭和50年には5,800kwの出力に至っている。その後、平成9年には79年間にわたる発電所としての役目を終え、平成27年までは事務所として活用された。

和歌山県内において、このような発電所が残存している例はなく、また大規模なレンガ造りの建造物は数少なく、貴重な近代の文化遺産である。旧高津尾発電所は大正時代から地域の電力需要にこたえ、商工業の発展に長年寄与しただけでなく、現在も地域のシンボルとして親しまれている。



旧高津尾発電所 建屋全景



和歌山水力電気(株)の社章（南東面）

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
3	3	0	1	11	0	29	17	15	31	0

印 南 町

【代表的な近代の文化遺産】

・印南音頭作者之墓（印南町印南）

印南音頭の作者である丸田大雅の墓で、東光寺参道に地元有志の手によって昭和 47 年（1972）に建てられた。

丸田大雅は、明治 30 年（1897）に印南町印南に生まれ、中学校卒業後、東京に遊学した際に音楽の才能を有しヴァイオリンの名手として楽団に所属した。作詞・作曲にも手を広げ、主として民謡調のものを多く作っている。郷土を題材にした歌も多く、幾多の作品は郷土の民情を温め、よくその心を歌い、愛郷の情があふれている。

・叶王子跡の碑（印南町印南）

建仁元年（1201）の「御幸記」に「ツイ王子」とあり、叶王子社は津井王子社が室町時代に現在地に移転し、叶王子と呼ばれたとされる説が有力である。

明治 41 年（1908）に山口八幡神社に合祀された後、大正 2 年（1913） 1 月に石碑が建てられている。合祀後も地元の信仰は厚く、出産・結婚・合格・就職等でお参りされる方が多く、10 月第 3 日曜日には子ども達の無病息災、家内安全を祈り「叶王子祭り」が行われている。



印南音頭作者之墓



叶王子跡の碑

【中分類別件数】

鉱山	エネルギー産業	重工業	軽工業	交通・運輸・通信業	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	1	8	0	9	1	9	14	0

みなべ町

【代表的な近代の文化遺産】

・穂手見用水トンネル（みなべ町島之瀬）

嶋之瀬村（現みなべ町島之瀬）の勘解由寺・向平・橋詰地区と、神野川村（現みなべ町東神野川）の池野地区は平坦な土地でありながら、用水路を作るのが困難で、水田が少なく畑地の比率が極めて高かった。島之瀬村の人々は、数百年間どうしたら南部川から水を引くことが出来るか協議を重ねてきた結果、江戸時代末になって、高城と清川の境界附近に穂手見井関を築き、山麓に溝をつけ南部川の水を引き、元島之瀬小学校背後の松の峠の地底にトンネルを抜いて水を流す計画をたてた。

トンネル工事に着手した時期や工事期間・工費等は定かでないが、島之瀬村の森権蔵と谷口文が責任者となって、島之瀬側と神野川側の両方から掘削を開始した。トンネル工事は難工事の連続であったが、延長 43m、幅 0.5m、高さ平均 1.5m のトンネルが明治 17 年（1884）に完成した。これにより、上流の井関からトンネル北側まで約 3km、下流約 2km の計 5km となった穂手見用水は約 9ha の田を潤し、待望の稲作ができるようになった。

平成 8 年に南紀用水島之瀬ダムが完成し、井関と上流約 2km の用水路は水没したが、現在ではダムから水を引き込み用水路へ水を流し、今も田畑を潤している。



穂手見用水トンネル（島之瀬側から）



穂手見用水トンネル（東神野川側から）

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	0	30	0	12	9	9	21	0



紀南地域の代表的な近代の文化遺産 位置図

田 辺 市

【代表的な近代の文化遺産】

・中嶋山採石場（田辺市神子浜）

田辺市の神子浜・文里地域は、砥石をはじめとした石材を産出する採石業（石山の仕事）が盛んに行われた。その歴史は古く、寛永15年（1638）『毛吹草』「諸国物産名収録」に「神子浜砥」、『和漢三才図会』の砥石の項に礪石の産地として紀州神子浜が登場する。最盛期には採石場（石山）の数が十数カ所を数え地場産業として栄えた。

中嶋山採石場は、高さ20m、延長250mにわたる広大な石山である。当地では最も規模が大きく、上質の砥石や各種石材を大量に産出した。採石場で切り出された石はその質により様々な製品が造られた。「砥石」はその代表で、不純物が混じらない上質な石で造られた貴重な品であった。次に「建築用石材」として間石、玉石、束石、「土木工事用石材」として積み石（かた石）、捨て石が造られた。ほかに、板石、灯籠などの石製品が造られている。



中嶋山採石場遠景



採石場近くに残る手水鉢

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	6	0	7	38	0	20	78	56	33	13

白 浜 町

【代表的な近代の文化遺産】

・白浜町の近代鉱山跡（白浜町湯崎、久木）

湯崎鉛山鉱山は、戦国～江戸時代前半代に盛況を博したが一時期衰退した後、大正～昭和前半代に再び活況を取り戻している。その後、採掘量の著しい低下により操業が停止してしまっただが、一部の施設が現存している。ただし、詳細な現地調査がなされていない点、今後の課題である。地元では、山に入ると間歩穴に落ちるので注意しないといけないと今でも言い聞かされている。

近代の鉛山鉱山においては、採鉱したのち、原石のまま梶原谷の浜から帆船に積み込み、九州の大牟田の製錬工場へと運ばれた。帆船は4隻あり、第1～第4「運鉱丸」と名付けられている。搬出港の一部と付近の海岸は、銅山の影響か、現在も赤銅色の特異な景観を呈している。温泉とともに、白浜の歴史にとって欠かすべからざる遺産である。

また、日置川流域（久木）においても、近世由来の銅鉱山の遺構（焼窯跡）や坑道跡が再発見されたことにより、口熊野（西牟婁郡）における近代鉱山の様相の一端に触れることができる。



焼窯跡（久木）



坑道跡（久木）

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
5	0	0	4	17	0	9	22	21	31	0

上 富 田 町

【代表的な近代の文化遺産】

・上溝水路（上富田町市ノ瀬）

天保2年（1831）から天候不順が起き始め、天保3年の大干ばつで河岸段丘の谷をせき止めて作った溜池も水が不足し、飢饉が発生した。これは興禅寺の過去帳でも確認でき、天保3、6～8年は平年に比べ多くの死者が出ていることから、餓死者が出たものと思われる。

この危機的な水不足を解消するため、天保3～4年（1832～1833）にかけて、清水谷から下ノ岡への険悪な山腹約6kmを難工事の末に灌漑用水路を完成させた。

天保5年には庄屋高垣が建碑を企画し、取水口に「清水溪記」碑と共に祈念像「嚙嚙拏天王」を、興禅寺内上溝水路終点近くの水天像を建立した。

また、先人の事績を後世に伝えるため、万延元年（1860）に三栖五郎太夫、同助左衛門が建碑を企画し、興禅寺内上溝水路終点近くの水天像の右手に文久元年（1861）秋に「水源略記」碑を建立した。



上溝水路



水路開設水天像



水天像と水源略記

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	0	5	0	12	7	6	1	0

す さ み 町

【代表的な近代の文化遺産】

・谷三郎左衛門顕彰碑（すさみ町周参見）

宝永大地震による津波の被害を受け、周参見の庄屋谷三郎左衛門は藩へ納める米を転売して、享保3年（1718）に下地海岸に延長455m（現在360m現存）、高さ1.8m、幅3.6mの浪避堤を築造した。完成後、公金横領の嫌疑で藩への出頭を命じられたが、高野山に出家入山し、村人はこの日を谷三郎左衛門の命日として、後世にわたり供養した。

昭和2年（1927）に地元有志が万福寺裏山に顕彰碑を建立し、昭和40年に浪避堤南東端の国道42号脇に移設した。

・城桂谷の碑（すさみ町江住）

城桂谷は県会議員在職中の明治15年（1882）10月、江住の私邸に熊野私学校を創立した。これは紀南地方最初の中高等学校であった。学校は城の私財と近隣各村の有志の賛助金で運営された。門下生は大辺路、古座川筋の村々から53人集まった。城は学校の県立移管運動を試みたが実現しなかった。

明治17年に城は学校運営資金調達のため行脚に出たが、思うに任せず遂に里野海岸へ投身し、37才の若さで亡くなった。城の死によって学校は閉校したが、門下生の多くは郷土の発展に大いに貢献している。大正10年（1921）門下生辻恒民等の発起で城桂谷先生之碑が潮音寺裏の丘に建立された。現在は江住小学校へ移設されている。碑文は熊野私学校の教師であった深見確、書は田辺市の書家戸田三綱によるものである。



谷三郎左衛門顕彰碑



城桂谷の碑

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業	交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	0	1	0	0	0	8	1	1	0

新 宮 市

【代表的な近代の文化遺産】

・貯木場開掘碑／貯木場跡（新宮市あけぼの）

石碑の表に「貯木場開掘碑」、両側面に「西明治二十四年四月竣工」「南明治四十年四月竣工」、背面に「新宮木材業組合建之」と刻まれている。明治40年（1907）に新宮第二貯木場（新堀）の完成を記念し、第一貯木場（旧堀）の南西隅に建てられたもので、いまは新宮木材会館前に移設されている。

新宮はかつて全国屈指の木材集散地であった。伐り出された木材は熊野川本流の十津川と支流の北山川を熟練の筏師によって下流の新宮へ運ばれ、熊野川河口の貯木場に収容された。

明治22年（1889）新宮の木材問屋らが計画した水面貯木場は官有地の借用や民有地の買収で土地を確保し、明治24年に1万余坪の第一貯木場（通称、旧堀）として完成した。明治44年には旧堀の南に7千余坪の第二貯木場（新堀）が開かれ、新旧あわせた両貯木場の規模は東洋一と言われたともいう。

貯木場から引き揚げられた木材は製材して出荷するため、貯木場の周辺には製材工場が続々と建設され、さらに、製材屑を原料とする製紙工場も進出し、木材産業は近代における新宮の発展の基盤となった。



貯木場開掘碑



貯木場の一部（絵はがき）明治末頃

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
4	20	1	6	141	13	37	93	20	46	0

那 智 勝 浦 町

【代表的な近代の文化遺産】

・日本基督教団 紀南教会（那智勝浦町下里）

文化学院の創立者で、大正デモクラシー期に活躍した文化人の一人、西村伊作（1884～1963）が設計した教会堂である。彼はキリスト教に理解が深く、紀南各地区を伝道した宣教師らと親しく交流していた。

建物の平面は単純な長方形の会堂正面に、ポーチを付加している。内部壁は講壇部も含めて、レリーフなどの装飾を廃した平滑な漆喰壁であり、これらの壁と小屋組や野地板などの対比が魅力的である。小屋組は変形したトラスで、水平梁は束を挟んだ合わせ梁としている。外観は、正面中央のポーチに急傾斜の屋根を架け、この部分を強調している。上空から全体を見ると十字架に見えるよう屋根が作られている。屋根は天然スレートで葺いていたが、現在は銅板葺きである。外壁はポーチこそ人研やモルタル吹付で若干凝っているが、他は小砂利混じりの漆喰で塗られていた。現在はモルタルペイント塗りである。

本会堂は、外部材料等改変されているが、内外ともおおむね完成時の姿をよく遺している。西村の建築作品で残存するものは少なく、教会堂は現在把握されているものは倉敷基督教会と本会堂のみである。



紀南教会 正面



紀南教会 側面

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
7	2	0	0	13	1	3	7	5	0	0

太 地 町

【代表的な近代の文化遺産】

・太地水産共同組合事務所（太地町太地）

太地漁港の通りに西面して建ち、桁行 11m、梁間 9.5m の木造入母屋造棧瓦葺で、外部木部は建具を含め淡いピンク色のペンキの特異な外観である。外部資本家が経営していた大型定置網を住民の手に取り戻すため、戸主が一株ずつ出資して大正 5 年（1916）に太地水産共同組合を設立した。太地水産共同組合事務所は国登録文化財となっている。

・漂流人記念碑（太地町平見の坂）

太地の古式捕鯨に終止符を打った未曾有の海難「脊美流れ」の遭難者の霊を弔い、教訓を後世に伝えるため、大正 8 年に亡くなった倉田績が揮毫し建てられた石碑である。

「脊美流れ」は、明治 11 年（1878）12 月 24 日、三輪崎組の網を破って太地漁場に現れた子連れのセミクジラを太地鯨組が追い、二日目には捕獲に成功したが、遠くへ流されたため帰還に手間取り、やがて北西風が強まり百名以上が行方不明となった海難事件である。



水産共同組合



漂流人記念碑

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	0	0	0	0	6	1	1	0	0

古 座 川 町

【代表的な近代の文化遺産】

・池田鉱山跡・蔵土鉱山跡（古座川町明神・蔵土）

古座川町内には 21 か所の鉱山跡が知られており、銅が主体で、他に硫化鉄、亜鉛、鉛、コバルトなどを採掘したといわれている。古座川町には江戸時代～終戦頃まで小規模鉱山跡が多く確認されている。これは、古座川弧状岩脈に鉱脈型熱水性鉱床があるためである。古座川弧状岩脈とは、熊野カルデラの南の縁に沿ってできた弧状の火成岩脈であり、熱水性鉱床とは、高温の熱水が岩石の割れ目を通過する際に様々な元素が沈殿してできたものである。

多くの鉱床は品位が低く、試掘で終わった鉱山も多いが、池田鉱山や蔵土鉱山は精錬まで行われていた。しかしながら、文献資料がほとんどなく、産出量や搬出先といった詳しいことは分かっていない。



池田鉱山跡



蔵土鉱山跡

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
21	0	1	0	20	0	15	0	3	1	0

北 山 村

【代表的な近代の文化遺産】

・七色ダム（北山村七色）

三重県熊野市神川町神上と和歌山県東牟婁郡北山村大字七色にまたがり、昭和 40 年（1965）に完成した重力式アーチダムである。堤高 61.0m、堤頂長 200.8m、堤体積 157,000 m³の規模であり、電源開発株式会社により建設された水力発電用のダムである。七色ダムの堰堤に国道 169 号線が通っており、北山村の玄関口となっている。

・北山六橋（北山村七色ほか）

村内にある七色堰堤、奥瀬橋、新大沼橋、上瀬橋、小松橋、中洲橋の総称である。村内の道路は、昭和 40 年（1965）に竣工した七色ダムと小森ダムの完成前後に資材運搬用やダム補償による村道の延長改修により急速に整備された。それまで三重県側に渡るには、渡し船しか手段がなかったが、北山六橋の建設により従来の閉鎖状況を脱し、自動車での交通が可能になった。のちにバスの運行も行われ、村民生活の向上、村の近代化に大きく寄与し、現在も当時の橋を利用し、住民生活が成り立っている。



七色ダム



奥瀬橋

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	1	0	0	8	0	1	0	1	0	0

串 本 町

【代表的な近代の文化遺産】

・ 檜野埼灯台及びエルトゥールル号遭難事件遺跡（串本町檜野）

エルトゥールル号遭難事件遺跡は、明治 23 年（1890） 9 月 16 日に大島村（現：串本町檜野）沖で、オスマン帝国のフリゲート艦エルトゥールル号が台風により遭難し、約 500 人の乗組員が死亡した大規模な海難事故に関わる遺跡である。

本事件に関わる遺跡は、エルトゥールル号が遭難するきっかけとなった岩礁である「船甲羅」、生存者がたどり着いた場所である「遭難者上陸地」、生存者が灯台の灯りを頼りに岸へとたどり着き、生存者が助けを求めた場所であるとともに手当での場所となった官舎がある「檜野埼灯台」、及び犠牲者を葬った場所である「遭難者墓地」からなる。

檜野埼灯台は、明治 3 年に初点灯した日本最初期の洋式灯台で、現在も現役灯台であり海上保安庁第五管区によって維持管理されている。昭和 29 年（1954）に嵩上げされ、高さが 4.5m から 10.2m に変更されているが、石造部分と灯塔は当時のものが残されている。

なお、海上保安庁により保存灯台 B に選定されており、現在の姿を残していくこととなっている。この海難事件は日本とトルコの友好の原点として広く知られている。



檜野埼灯台



遭難者墓地

【中分類別件数】

鉱山	産業 エネルギー	重工業	軽工業	通信業 交通・運輸・	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他
0	0	2	2	169	1	24	36	29	5	1

分類表

大分類	経済							社会	政治	文化	その他
中分類	01 鉱山	02 エネルギー産業	03 重工業	04 軽工業	05 交通・運輸・通信業	06 商業・金融業	07 農林水産業	08 社会	09 政治	10 文化	11 その他
小分類	01 鉄山	01 炭鉱	01 製鉄	01 紡績	01 鉄道	01 会所	01 農業	01 水道施設	01 行政	01 学校	01 その他
	02 銅山	02 油田	02 冶金	02 製糸	02 道路	02 商館	02 牧畜	02 都市開発	02 立法	02 研究施設	
	03 金銀山	03 発電所	03 機械	03 その他繊維産業	03 橋梁	03 商店・百貨店	03 開拓	03 集合住宅	03 司法	03 文化施設	
	04 その他各種鉱山	04 ダム	04 造船	04 食品	04 隧道	04 市場	04 林業	04 公衆浴場	04 政治活動	04 出版・報道	
		05 その他	05 自動車	05 化学	05 港湾	05 会社	05 漁業	05 公園	05 外交	05 スポーツ施設	
			06 石油コンビナート	06 窯業	06 倉庫	06 金融機関	06 養蚕業	06 保健医療施設	06 軍事	06 宗教施設	
			07 その他	07 セメント	07 灯台	07 その他	07 製塩業	07 社会福祉施設	07 その他	07 その他	
				08 地場産業	08 運河		08 その他	08 娯楽・観光施設	08 その他（皇室関係）		
				09 その他	09 河川・堤防			09 災害			
					10 飛行場			10 社会運動			
					11 郵便			11 個人住宅			
					12 電信			12 その他			
					13 電話			13 その他（個人関係）			
					14 その他			14 その他（歴史的事件）			

和歌山県 近代の文化遺産一覧表

【和歌山市】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
02	03	和歌山水力電気 手平火力発電所	和歌山市手平	大正元年	—	和歌山水力電気が和歌山沿いに設けた火力発電所。レンガ造。昭和13年まで稼働。現関西電力手平倉庫。	1
04	01	紀北紡績前レンガ塀	和歌山市新生町		—	現イミズヤ前のレンガ塀。	1
04	01	某紡績工場（現岡部染工工）	和歌山市東釘貫丁	大正？	—	当初は染色または綿布工場か。戦災後にレンガ造の壁体を岡浦商店が起毛工場として再利用。昭和50年から岡部染工の染色工場。	1
04	01	旧和歌山紡績紀ノ川工場	和歌山市東布経丁	大正8年	—	レンガ造。昭和20年和歌山空襲で被災。大半は和歌山競輪場となるが一部現存（現紀ノ川倉庫）。	1
04	01	旧紀陽繊維株式会社本社工場	和歌山市手平	明治43年	—	レンガ造の旧変電所・旧ボイラー室・第8工場・レンガ塀。綿糸・綿布・更紗・綿ネル生地での製造目的で建設。現三菱電機冷熱システム製作所。	1
04	01	宮本翁顕徳碑	和歌山市道場町（浄専寺）	昭和29年	—	紀州綿ネル創始者の一人、宮本政右衛門の碑。	
04	01	吊魂碑	和歌山市男野芝丁（吹上寺）	明治35年	—	和歌山繊維株式会社が建てた社員殉職者の慰霊碑。	
04	03	旧市川捺染工場	和歌山市西布経丁	大正4年	—	レンガ造の工場。大正期に捺染ネルと捺染縮を製造。現和歌山織物加工共同組合のネル加工工場。	1
04	04	旧丸治醤油工場	和歌山市加太	大正11年	—	平屋建レンガ造、切妻造棧瓦葺き。かつての醤油醸造蔵。現在倉庫。	1
04	05	旧南海晒粉 青岸工場	和歌山市湊	大正12年	—	レンガ造の休息室・電気室。綿ネル製造の捺染前の漂白に不可欠な晒粉を製造。現南海化学工業。	1
04	05	旧南海晒粉 小雑賀工場	和歌山市小雑賀	大正7年	—	レンガ造の分析室・電気室。晒粉の原料となる苛性ソーダ及び塩化物を製造した工場。現南海化学工業和歌山工場。	1
04	05	旧キング化学和歌山工場	和歌山市小雑賀		—	現白元アース和歌山工場。	1
04	05	旧由良精工ベンゾール製造装置・工場事務所・図書館・塀	和歌山市小雑賀	大正	—	大正期に純ベンゾール精製に成功し、由良精工創業。染料生産し、昭和30年より本州化学工業（和歌山工場）が引き継ぐ。レンガ造の図書館・塀。木造平屋の工場事務所は昭和16年。	1
04	05	竈山神社灯籠	和歌山市和田（竈山神社）	昭和14年	—	昭和14年3月に由良精工合資会社（現本州化学工業株式会社）が建立した石製灯籠1対。奉納者の一覧に由良浅次郎の名前。	
04	08	坂口徳次郎君顕徳碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	明治36年	—	明治36年11月に和歌山傘業組合によって建てられた坂口徳次郎の顕徳碑。	
04	09	製筆開業三十三碑	和歌山市関戸（矢宮神社境内）	大正8年	—	文字が不鮮明。大正8年に宇治田何某がこれを建てたか。	
05	01	加太軽便鉄道 加太駅	和歌山市加太	大正元年	—	木造平屋建。大正元年に加太～和歌山口（後の北島）間開業。現南海電鉄加太線。	1
05	01	旧和歌山駅（紀和駅）	和歌山市中之島	大正8年	—	明治31年開業当初は和歌山駅。現JR紀勢本線紀和駅。	1
05	01	紀伊小倉駅	和歌山市新庄	昭和13年	—	現JR和歌山線。	1
05	01	布施屋駅	和歌山市布施屋	昭和9年	—	上りプラットフォーム基礎はレンガ造。現JR和歌山線。	1
05	01	千旦駅	和歌山市井ノ口	昭和27年	—	現JR和歌山線。	1
05	01	田井ノ瀬駅	和歌山市岩橋	明治31年	—	現JR和歌山線。	1
05	01	中之島駅（紀伊中之島駅）	和歌山市中之島	昭和7年	—	現JR阪和線紀伊中之島駅。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	紀伊駅	和歌山市北野	昭和5年	—	現JR阪和線。	1
05	01	六十谷駅	和歌山市北野	昭和5年	—	現JR阪和線。	1
05	01	紀ノ川駅（旧南海鉄道）	和歌山市小路	明治31年	—	現南海本線。	1
05	01	山東軽便鉄道 大池第1橋梁	和歌山市永山（大池遊園内）	昭和8年	—	昭和8年に山東を伊太祁曽に改称して伊太祁曽～貴志駅開通した際に完成。現和歌山電鉄貴志川線。	1
05	01	山東軽便鉄道 大池第2橋梁	和歌山市永山（大池遊園内）	昭和8年	—	昭和8年に山東を伊太祁曽に改称して伊太祁曽～貴志駅開通した際に完成。現和歌山電鉄貴志川線。	1
05	01	加太軽便鉄道 紀ノ川橋梁	和歌山市西蔵前町	大正3年	—	現河西橋として歩行者・2輪専用橋。老朽化に伴い平成26年度より架け替え工事を開始し、令和5年度完成予定。	1
05	01	土入川橋梁（旧加太軽便鉄道）	和歌山市松江東～狐島	大正元年	—	橋台はレンガ造で構築。現南海電鉄加太線。	1
05	01	小倉用水開渠橋（旧紀和鉄道）	和歌山市上三毛	明治31年	—	橋台はレンガで構築。現JR和歌山線。	1
05	01	真田川橋梁（旧紀和鉄道）	和歌山市嘉家作丁	明治36年	—	橋台はレンガで構築。現JR紀勢本線紀和駅西方。	1
05	01	和歌山線跨線橋	和歌山市中之島		—	和歌山線を跨ぐために阪和線開業時に架設された。現JR阪和線。	1
05	01	中之島陸橋	和歌山市中之島	昭和4年	—	道路を跨ぐために阪和線開業時に架設された。現JR阪和線。	1
05	01	紀勢西線跨線橋	和歌山市		—	紀勢本線を跨ぐために阪和線開業時に架設された。現JR阪和線。	1
05	01	南海鉄道紀ノ川橋梁	和歌山市栗～宇治鉄砲場（紀ノ川）	明治36年	—	大阪行き上りは明治36年、和歌山行き下りは大正11年完成。上下線で橋脚やトラスの形状が異なる。現南海電鉄本線紀ノ川橋梁。	1
05	01	第2栄谷開渠橋（旧南海鉄道）	和歌山市栄谷	明治31年	—	大阪行き上りは明治31年、和歌山行き下りは大正4年完成。橋台はレンガ造。現南海本線。	1
05	01	第3栄谷開渠橋（旧南海鉄道）	和歌山市栄谷	明治31年	—	大阪行き上りは明治31年、和歌山行き下りは大正4年完成。橋台はレンガ造。現南海本線。	1
05	01	第6栄谷開渠橋（旧南海鉄道）	和歌山市栄谷	明治31年	—	大阪行き上りは明治31年、和歌山行き下りは大正4年完成。橋台はレンガ造。現南海本線。	1
05	01	第1楠見開渠橋（旧南海鉄道）	和歌山市小路	明治31年	—	第1楠見橋梁と並列する。橋台はレンガ造。現南海本線。	1
05	01	第1楠見橋梁（旧南海鉄道）	和歌山市小路	大正11年	—	第1楠見開渠橋と並列して下り方に増設されたもの。橋台はレンガ造。現南海本線。	1
05	01	第7楠見開渠橋（旧南海鉄道）	和歌山市栗	明治31年	—	大阪行き上りは明治31年、和歌山行き下りは大正11年完成。橋台はレンガ造。現南海本線。	1
05	01	第8楠見架道橋（旧南海鉄道）	和歌山市栗	明治31年	—	大阪行き上りは明治31年、和歌山行き下りは大正11年完成。橋台はレンガ造。現南海本線。	1
05	01	不詳暗渠（旧南海鉄道）	和歌山市栗		—	紀ノ川橋梁の北約50mに存在するレンガ造の暗渠。	1
05	01	宇治拱渠（旧南海鉄道）	和歌山市源蔵馬場	明治31年	—	大阪行き上りは明治31年、和歌山行き下りは大正11年完成。暗渠タイプのレンガ造のアーチ橋。現南海本線。	1
05	01	宇治架道橋（旧南海鉄道）	和歌山市東布経丁	明治36年	—	大阪行き上りは明治36年、和歌山行き下りは大正11年完成。橋台はレンガ造。桁はコンクリート製に架け替えられる。現南海本線。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	第一孝子トンネル (旧南海鉄道)	和歌山市中～大阪府岬町	明治31年	—	大阪行き上りは明治31年、和歌山行き下りは大正10年完成。レンガ造。現南海本線。	1
05	01	第二貴志トンネル (旧南海鉄道)	和歌山市中	明治31年	—	大阪行き上りは明治31年、和歌山行き下りは大正11年完成。レンガ造。現南海本線。	1
05	01	第三貴志トンネル (旧南海鉄道)	和歌山市中	明治31年	—	大阪行き上りは明治31年、和歌山行き下りは大正11年完成。レンガ造。現南海本線。	1
05	01	南海鉄道車両	和歌山市西字淀	昭和12年	—	和歌山交通公園内。	1
05	01	南海電鉄和歌山軌道線車両	和歌山市岡山丁 (岡公園内)	昭和38年	—	321形321号車両。昭和46年移設。	1
05	01	C57-119蒸気機関車	和歌山市岡山丁 (岡公園内)	昭和14年	—	昭和48年移設。	1
05	01	市電敷石	和歌山市一番丁 (和歌山城公園)	昭和46年	—	下の丸・蔵の丸・岡口門枳形にかけて園路として敷かれている市電敷石。昭和46年に市電が廃止された後、転用された。	
05	02	道路新設記念碑	和歌山市秋葉町 (南港山東線沿い)	昭和14年	—	昭和14年7月に町総代等により建てられた道路開削記念石碑。題字は和歌山市長田口易之の書。	
05	02	道路記念碑	和歌山市日野 (光福寺に至るまでの道沿い)	昭和3年	—	昭和3年に区長山田兼吉が建てた道路記念碑。	
05	02	道路改修記念碑	和歌山市栗栖 (高倉寺)	昭和5年	—	栗栖振興のため耕作道路の改修を行ったことを記念。	
05	02	政助坂記念碑	和歌山市山口西	昭和35年	—	当地地主今井正夫氏の協力で新道 (政助坂) が完成した記念の石碑。坂の名前の由来は今井氏の父の名から。	
05	02	政助坂石柱	和歌山市山口西		—	当地地主今井正夫氏の協力で新道 (政助坂) を完成。坂の名前の由来は今井氏の父の名から。	
05	02	道標	和歌山市和歌浦中2-1-40	大正10年	—	大正10年2月11日 (紀元節) の道標。本来は現位置から約8m南東。和歌浦港から大阪商船の航路があり、市電和歌浦口で降りた人に汽船乗場や名所を案内。	
05	02	加太道標	和歌山市加太 (和歌山市北消防署加太出張所前)	嘉永2年	—	嘉永2年に井田半助が建てた道標。「左あわしま道」「右和か山道」と刻字。	
05	02	加太道標	和歌山市加太1340	嘉永2年	—	嘉永2年に井田半助が建てた道標。「左あわしま道」と刻字。矢穴列がみられる。	
05	02	道標	和歌山市中筋日延 (墓地内)	昭和8年	—	「左和歌山及び紀三井寺道、右加太淡嶋神社道」とある。	
05	02	山口王子石碑	和歌山市湯屋谷 (山口王子跡)		—	山口王子と書かれた石碑。	
05	02	中山王子石碑	和歌山市滝畑 (中山王子跡)		—	中山王子と書かれた石碑。	
05	02	〇〇〇〇〇〇之碑	和歌山市田野 (海岸通り沿い)	明治	—	明治30年代に建てられた石碑。詳細不明。道路開削記念碑の可能性あり。	
05	03	北島橋 (現県道15号)	和歌山市北島	昭和11年	—	明治7年木橋として紀ノ川に架橋。大阪に通じる国道16号 (後の国道26号、現在県道15号) が改良された際に竣工。5連トラス橋。	1
05	03	京橋	和歌山市十一番丁・十二番丁・本町1丁目	昭和4年	—	市堀川 (和歌山城の旧外堀) 架橋。全長35.7m、鉄筋コンクリート製。花崗岩の燈柱などが残る。	1
05	03	中橋	和歌山市十二番丁・福町	昭和28年	—	元は東海道線向日町駅～西大路駅間の桂川に明治31年に架けられた橋を道路橋として転用。市堀川架橋。全長30.5m。	1
05	03	寄合橋	和歌山市寄合町・湊本町	昭和16年	—	市堀川架橋。鉄筋コンクリート製。全長33m。東西詰に灯火の親柱が残る。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	03	大陸橋	和歌山市和歌浦中	昭和8年	—	和歌公園整備の一環として奠供山と雲蓋院山を結ぶ観光目的で建設。鉄筋コンクリート製アーチ橋。橋脚台は青石。	1
05	03	花王橋	和歌山市湊・西ノ坪		—	本石造アーチ橋。装飾的は勾欄をもつ。長さ14.7m・径間9.6m・橋幅4.2m。国名勝。	1
05	03	不老橋	和歌山市和歌浦中	嘉永4年	国名勝		1
05	03	和歌浦橋	和歌山市和歌浦中2-1-40	昭和11年	—	明光通り北端にある昭和11年11月に架け替えられた橋。	
05	03	こはし	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治18年	—	親柱に「こはし」と刻字のある石橋。明治18年11月作と考えられるが、当初からこの場所か不明。明治30年代に吹屋町近くからの移築との言い伝えあり。	69
05	03	嘉永橋	和歌山市大川	嘉永7年	—		
05	04	毛見トンネル（旧和歌山水力電気）	和歌山市毛見	明治44年	—	和歌山水力電気（市内電車）は明治42年に県庁前～和歌浦口間開業、明治44年に琴の浦まで延伸し毛見トンネル完成。現緑道（歩行者道）紀三井寺トンネル。鵬雲洞。	1
05	04	毛見隧道（旧国道42号）	和歌山市毛見	大正14年	—	長さ142m。平成6年に新毛見トンネルが供用されたが現在も通行可能。石積みポータル。「乾坤純和」の銘盤。	1
05	04	新和歌浦第一隧道	和歌山市新和歌の浦	明治44年	—	新和歌浦開発の周遊道路として森田庄兵衛が私財で建設。レンガ・石積みと素掘り。全長約55m。扁額「新和歌浦」。	1、27
05	04	新和歌浦第二隧道	和歌山市新和歌の浦	明治44年以降	—	第1トンネルの西側。森田庄兵衛計画。レンガ・石積みと素掘り。全長約35m。現在も遊歩道として通行。	1、27
05	07	雑賀崎灯台	和歌山市雑賀崎	昭和35年	—	昭和35年新設の灯台。同年3月31日に和歌山市が観光用展望施設を整備し、上部に海上保安庁が灯台を新設。	
05	07	友ヶ島灯台	和歌山市友ヶ島	明治23年	国登録	ブラントンによる初期の洋式灯台（石造）。明治5年開設。明治23年に友ヶ島第1砲台のため20m移動・改築。	1
05	07	友ヶ島灯台旧官舎	和歌山市友ヶ島	明治20年代	—	石造平屋。昭和54年に海上保安庁による大幅な保存改修工事。	1
05	09	紀ノ川改修堤防	和歌山市～岩出市	大正末	—	大正末までに築堤されていた旧堤防を昭和元年～24年に大改修工事。	1
05	09	湊水門	和歌山市湊	昭和11年	—	紀ノ川改修工事の一環で建設。紀ノ川と市堀川の間の背割堤中央部に内外水路連絡のため設置。	1
05	10	山田猪三郎顕彰碑	和歌山市新和歌浦（高津子山登山道）	昭和4年	—	日本での飛行船の先駆者、山田猪三郎の顕彰碑。昭和4年4月8日有志が建立。枢密顧問官鎌田栄吉撰文、二宮壮太郎書。	
05	11	和歌山小倉郵便局	和歌山市新庄	昭和15年	—	木造平屋建。昭和49年まで局舎として使用。現在は住居の一部。	1
05	14	日本通連東和歌山支店	和歌山市中之島	昭和	—		1
05	14	笹本勝之助之碑	和歌山市道場町（善能寺）	大正11年	—	和歌山市駅人力車組合若中が建てた碑。	
06	03	駿河屋主人岡本善太郎父逝去記念花壇	和歌山市一番丁（和歌山城公園表坂）		—	駿河屋の主岡本善太郎が父逝去に際し花壇を寄贈。経緯を記した石碑がある。	
06	05	西本用助碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	明治35年	—	明治35年7月に建てられた西本用助（和歌山の土木建築会社西本組社長）の石碑。	
06	05	旧西本組本社ビル（西本ビル）	和歌山市小野町	昭和2年	国登録	西本組が本社として建設。鉄筋コンクリート造3階建ビル。1階窓下まで花崗岩粗石積風、2階窓下まで切石布積風。	1
06	05	和綿ビル	和歌山市畑屋敷		—		1
06	06	紀陽銀行本店	和歌山市本町	昭和29年	—	昭和29年建設。日建設計による設計。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
06	06	旧和歌山無尽	和歌山市新通	大正14年	—	大正10年に設立した和歌山無尽（庶民金融の営利会社組織）のビル。昭和42年まで和歌山銀行本店として営業。平成27年に解体。	昭和1
06	07	旧焼肉の牛太アロチ店	和歌山市畑屋敷		—	レンガ造。	昭和1
07	01	甘藷殖産記念碑（倉田續書）	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	明治40年	—	明治40年9月建立の甘藷殖産記念碑。松本徳之助撰文、倉田續書。湊村の保田三兵衛が甘藷苗代蒸蔓之法を広めたという。裏面に発起人名簿。	
07	01	若宮池改修工事竣成記念碑	和歌山市（若宮池）	昭和36年	—	若宮土地改良区建立。	
07	01	農業改良事業実施記念碑	和歌山市下和佐（下和佐自治会館付近）	昭和42年	—	宇治田省三書。	
07	01	六箇井 千手川暗渠	和歌山市直川・六十谷	昭和12年	—	灌漑用水路（高1.2×幅1.0m）。現存。鉄筋コンクリート造。千手川を横断するための暗渠。紀ノ川改修工事時に暗渠化。	昭和1
07	04	土屋製材所	和歌山市小松原		—	レンガ壁塼。	昭和1
07	04	湯川製材所	和歌山市新堀東	大正11年	—	大正11年創立、主に北洋材を建築材に製材。西棟倉庫は土蔵造り、東棟倉庫はレンガ造り（屋根木造）。	昭和1
07	04	小谷製材所	和歌山市手平		—	レンガ造。	昭和1
07	05	幸前音吉頌徳碑	和歌山市加太（戎丁会館西側）	昭和7年	—	昭和7年7月に加太漁業組合が建てた加太漁業組合長幸前音吉の石碑。表面に「功績を記念するため」とある。	
07	05	宮崎善吉氏之像	和歌山市加太（戎丁会館西側）	昭和44年	—	昭和44年4月に加太漁業協同組合が建てた元組合長宮崎善吉氏の銅像。	
07	05	魚類供養塔	和歌山市大川（岬町？）	昭和40年	—	昭和40年代に大阪漁業生産組合の田中忠政により建てられた魚類供養塔。	
07	05	塩釜神社灯籠	和歌山市和歌浦中（塩釜神社境内）	昭和16年	—	昭和16年に和歌浦海苔業組合改組記念として奉納された石製灯籠。	
07	05	和歌浦蛭子神社玉垣	和歌山市新和歌浦（和歌浦蛭子神社）	明治44年	—	明治44年3月に和歌浦漁業組合が奉納した玉垣。	
07	05	衣美須神社玉垣	和歌山市雑賀崎（衣美須神社）		—	社殿を取り囲む玉垣。「奉獻東丸」「水産丸」等と書かれている。	
07	05	衣美須神社鳥居	和歌山市雑賀崎（衣美須神社）	昭和45年	—	昭和45年12月に雑賀崎漁業協同組合が建てた石製灯籠。	
07	05	孝栄丸錨	和歌山市本協（射箭頭八幡神社）	昭和37年	—	船主中村信孝奉納。	
08	01	有本水源池	和歌山市有本	大正14年	—	紀ノ川新六箇井堰下流から取水し、左岸の集合井（有本）から真砂浄水場へポンプ導水する。	昭和1
08	01	真砂浄水場	和歌山市吹上	大正14年	—	集合井（有本）から導水し、濾過した浄水を城跡配水池に揚水。量水井・集合井・北送ポンプ室現存。発電機室は昭和11年、南送ポンプ室は昭和29年。	昭和1
08	01	和歌山城本丸跡給水場	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	大正14年	—	和歌山城本丸跡に建設された配水場。RC造配水池と引出井を設け、真砂浄水場から配水池に送水し、引出井から市内へ配水する。配水池上に通風筒現存。	昭和1
08	05	和歌山城公園	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	明治34年	国史跡	明治34年県の和歌山公園として開園。明治45年から市の公園。昭和6年国史跡指定。平成31年から和歌山城公園改称。「明治43年10月調公園地台帳附公園調書」（和歌山県都政策課蔵）	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	05	濠跡石碑	和歌山市一番丁（和歌山城公園南堀跡）	大正14年	—	大正14年に南堀を埋め立てた後に建てられた「濠跡」と書かれた石碑。	
08	05	岡公園	和歌山市岡山丁	明治28年	—	明治28年から県の公園開設。大正8年3月31日和歌山市に無償譲渡。岡公園の名称は玉津島へ聖武天皇行幸時、「岡東」に離宮を造ったことに由来。「明治43年10月調公園地台帳附公園調書」（和歌山県都市政策課蔵）	
08	05	天妃山階段登り口灯籠	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治29年	—	明治29年12月に和歌山蚕桑株式会社株主中により建てられた灯籠2基。天妃山山頂へとあがる階段下に設置。	
08	05	天妃山中腹灯籠	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治23年	—	明治23年1月に和歌山県書記官高津慎が建てた灯籠1基。天妃山山頂へ続く道の途中にある。	
08	05	天妃山中腹灯籠	和歌山市岡山丁（岡公園）		—	建立年、建立者とも不明。刻字が読めなくなり、残る字から付近のもう1基の灯籠とは別の年・人物が建立と思われる。	
08	05	御手洗石	和歌山市岡山丁（岡公園）		—	設置年不明。上部の皿に水が溜まるようになる。天妃山中腹藤棚近くにあり。かつて岡公園内には店舗が多数ありその関連か。	
08	05	岡公園記	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治29年	—	明治29年5月に建てられた岡公園の沿革が記された石碑。現在は当初の位置から移動。沖守固撰、日下部東作書並び篆額、井亀和泉刻。	54
08	05	和歌公園	和歌山市和歌浦	明治29年	—	明治29年4月1日から県の公園として開設。「明治43年10月調公園地台帳附公園調書」（和歌山県都市政策課蔵）	
08	05	御手洗池公園	和歌山市和歌浦西	昭和46年	—	東照宮の所有地であったが、池の汚れが問題となり、昭和46年に和歌山市立公園として整備。	
08	05	御手洗池公園名盤	和歌山市和歌浦西	昭和	—	御手洗池公園入口にある石製の名盤「和歌山市立御手洗池公園」。宇治田省三書。	
08	05	秋葉山公園石柱	和歌山市和歌浦東（秋葉山麓）		—	秋葉山公園と書かれた石柱。	
08	05	紀伊風土記の丘ロータリー並木石碑	和歌山市岩橋（紀伊風土記の丘）	昭和46年	—		
08	05	紀伊風土記の丘石碑	和歌山市岩橋（紀伊風土記の丘）	昭和46年	—	史跡公園紀伊風土記の丘の名称と由来を示した石碑。題字は大橋正雄。	
08	05	「新吉野」石碑	和歌山市新和歌浦（高津子山麓）		—	高津子山の登り口付近にたつ新吉野と書かれた石碑。	
08	05	サイレン鉄塔	和歌山市一番丁（和歌山城公園本丸給水場）	大正15年	—	大正15年5月から正午を知らせるために設置した上部にサイレンが付いた鉄塔。昭和13年6月からは空襲を知らせるサイレンとなる。	54
08	05	がんこ六三園（庭園）	和歌山市堀止西	昭和3年頃	—	相場師松井伊助の別邸として大正後期～昭和初めに建築。回遊式の庭園を造成。昭和30年～平成初めは料亭六三園、現在はがんこ六三園として営業。	2
08	05	和歌山城天守閣	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	昭和	国史跡	昭和20年（1945）7月の和歌山大空襲により焼失してしまった。敗戦後しばらくすると、市民らから再建を求める声があがり、構造は鉄筋コンクリート造であるが、外観は非常に忠実に再現する形で昭和33年10月に再建された。	
08	06	滋野医院	和歌山市真砂町	大正10年	—	鉄筋コンクリート造2階建。洗出し仕上げの外壁と茶色のタイルが縦に貼られた外観。	1
08	06	旧郭百甫医院（郭家住宅）	和歌山市今福	明治10年	国登録	待合室兼投薬室の洋館（木造2階建一部平屋、寄棟造、棧瓦葺）と診療・治療室である後方の和風家屋。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	08	吾妻屋旧本館	和歌山市加太	昭和8年	—	淡島神社参道入口にあった老舗旅館。平成19年に国登録有形文化財となるが、老朽化のため平成27年に解体。	2
08	08	旧楽長ホテル（浜病院）	和歌山市吹上	昭和26年	—	1階鉄筋コンクリート造、2階木造。昭和26年にホテル開業、昭和28年から浜病院。	1
08	08	旧仙集館水族館	和歌山市新和歌浦	大正10年頃	—	森田庄兵衛が新和歌浦で経営した旅館仙集館の附属施設として建設。緑泥片岩基礎・レンガ造壁。	1
08	08	和歌浦蛭子神社灯籠	和歌山市新和歌浦（和歌浦蛭子神社）	昭和34年	—	昭和34年に新和歌浦の観光旅館協会により建てられた石製灯籠。	
08	09	八魂歌碑	和歌山市和歌浦中（片男波公園内）	昭和16年	—	昭和16年和歌山中学校校友会建立。昭和15年3月16日和歌山中学校ボート部員8名の遭難事故犠牲者を慰霊。練習で現片男波公園入口付近の艇庫から紀の川へ回漕中、沖合約2kmで遭難。題字野村吉三郎。	
08	09	西永昭一郎先生追悼之碑	和歌山市二里ヶ浜	昭和40年	—	水泳指導中に遭難殉職した先生の碑。	
08	11	島村邸	和歌山市堀止	大正15年	国登録	アメリカに長年住んだ写真家が建築した住宅。昭和4年に酒造業を営む島村氏が購入。木造瓦葺き2階建。	1
08	11	由良山荘	和歌山市和歌浦東	明治43年	—		1
08	11	旧中原嘉吉邸	和歌山市和歌浦東	昭和3年	—	染糸業を創業した中原嘉吉が建築した洋風住宅。レンガ造。塀は御影石基礎・レンガ積下地・緑泥片岩の玉石壁面。	1
08	12	井戸杵	和歌山市加太（軽食ゑびすや付近）	嘉永5年	—	和歌山市加太にある石製の井戸杵。	
08	13	松下幸之助君生誕の地	和歌山市禰宜	昭和39年	—	昭和39年5月に大阪音無会により建てられた松下生誕の地を示す石碑。字は湯川秀樹によるもの。	
08	13	松下公園（松下幸之助生誕地）	和歌山市禰宜	昭和48年	—	昭和46年12月15日松下幸之助から寄付を受け、昭和48年5月28日開設。生誕地にちなみこの名がつけられた。	
08	13	紀伊風土記の丘 松下記念資料館	和歌山市岩瀬	昭和45年	国登録	松下幸之助の寄付で岩橋千塚古墳群など県内の遺跡・古墳等からの出土品の保存・研究・活用のため建てられた施設。	
08	13	松下会館	和歌山市西高松	昭和36年	—	松下幸之助の寄付で昭和36年に建てられた。和歌山大学の施設。	
08	13	松下体育館	和歌山市西浜	昭和45年	—	昭和45年8月、松下電器産業株式会社の寄付により竣工した体育館。	
08	13	「和歌山市立松下体育館」石碑	和歌山市西浜	昭和45年	—	「和歌山市立松下体育館」と記された石碑。	
08	13	紅松庵	和歌山市一番丁（和歌山城内）	昭和49年	—	和歌山城西之丸庭園復元整備工事の完了記念で西之丸庭園内に松下幸之助の銅像建立発起人会が市に寄付。明治百年記念事業。木造銅板葺平屋建数寄屋造り。	68
08	13	陸奥宗光先生乃像	和歌山市岡山丁（岡公園）	昭和46年	—	宗光の銅像。明治46年8月24日陸奥宗光伯銅像建立発起人会が市に寄付。明治百年記念事業。保田龍門のエスキースをもとに子保田春彦制作。銅像台座裏面田中敬忠撰文。銅像西側宇治田省三市長文。	
08	13	陸奥宗光生誕の地	和歌山市吹上	天保	—	陸奥宗光（1844-1897）生誕の地。石碑・看板が建てられている。	
08	13	南方熊楠生誕の地	和歌山市橋丁	慶応	—	南方熊楠（1867-1941）生誕の地。現在は駐車場となっており、平成6年建立の銅像がある。	
08	13	南方熊楠菩提寺 延命院	和歌山市鷹匠町（延命院）		—	延命院は南方熊楠の菩提寺。それを示す石碑が境内に建っている。	
08	13	垂井清右衛門氏像	和歌山市西江丁36（和歌山商工会議所内）	昭和6年	—	和歌山商工会議所初代会頭のブロンズ像。保田龍門作。	61

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	13	松下夫妻寿像	和歌山市一番丁（わかやま歴史館内）	昭和39年	—	松下幸之助と妻むめの像。保田龍門作。もともとは和歌山市立児童女性会館で展示されていたが、現在はわかやま歴史館2階歴史展示室で展示中。	61
08	13	岡崎晩香翁之像	和歌山市南材木丁3丁目	昭和3年	—	和歌山市出身の政治家・実業家、岡崎邦輔のブロンズ像。保田龍門作。	61
08	13	丹生都比賣命レリーフ	和歌山市小松原通1丁目1（和歌山県庁本館内）	昭和14年	—	県庁本館内にあるレリーフ。セメント製。	61
08	13	高倉下命レリーフ	和歌山市小松原通1丁目1（和歌山県庁本館内）	昭和14年	—	県庁本館内にあるレリーフ。セメント製。	61
08	13	和田静海先生像	和歌山市江南（安原小学校）	昭和27年	—	安原小学校初代校長のブロンズ像。保田龍門作。	61
09	01	和歌山県庁 本館	和歌山市小松原通	昭和13年	国登録	戦前の県内最大の近代洋風建築。議場は鉄骨鉄筋コンクリート造、他は鉄筋コンクリート造。	1
09	01	旧加太警察署	和歌山市加太	大正11年頃	国登録	下見板張ベンキ塗り、の木造2階建洋館。昭和39年個人に売却されるまで庁舎として使用。	1
09	01	市村合併記念碑	和歌山市関戸（矢宮神社境内）	昭和	—	大正15年12月17日決議、昭和2年4月1日の和歌山市と雑賀村の合併記念碑。県知事長谷川久一書。裏面に雑賀村村長・村会議員が列挙。	
09	01	市村合併記念碑	和歌山市宇須（宇須井原神社）	昭和	—	昭和2年の和歌山市と雑賀村合併を記念した石碑。県知事長谷川久一書。	
09	01	和歌山市民憲章碑	和歌山市美園町（JR和歌山駅前）	昭和46年	—	昭和40年制定の市民憲章が書かれた石板。市民生活課によると昭和46年度設置。宇治田省三の名前。	
09	01	和歌山市民憲章碑	和歌山市西浜（松下体育館前）	昭和46年	—	昭和40年制定の市民憲章が書かれた石板。市民生活課によると昭和46年5月設置。宇治田省三の名前。	
09	01	和歌山市民憲章碑	和歌山市秋葉町（秋葉山山頂）	昭和47年	—	昭和40年制定の市民憲章が書かれた石板。市民生活課によると昭和47年7月設置。宇治田省三の名前。	
09	01	和歌山市民憲章碑	和歌山市土入（和歌山市民体育館前）	昭和54年	—	昭和40年制定の市民憲章が書かれた石板。市民生活課によると昭和54年3月設置。宇治田省三の名前。	
09	01	和歌山市民憲章碑	和歌山市伝法橋南ノ丁（和歌山市民会館前）	昭和54年	—	昭和40年制定の市民憲章が書かれた石板。市民生活課によると昭和54年7月設置。宇治田省三の名前。	
09	01	和歌山市民憲章碑	和歌山市七番丁（和歌山市役所前）	昭和56年	—	昭和40年制定の市民憲章が書かれた石板。市民生活課によると昭和56年設置。宇治田省三の名前。	
09	01	和歌山市民憲章碑	和歌山市（河南総合体育館前）	昭和61年	—	昭和40年制定の市民憲章が書かれた石板。市民生活課によると昭和61年11月設置。宇治田省三の名前。	
09	02	憲法発布三十周年記念樹石碑	和歌山市一番丁（和歌山公園園岡口門前）	大正8年	—	大正8年2月、大日本帝国憲法発布30周年記念で楠木が植樹された際の石碑。	70
09	04	紀泉入会林野整理解消記念碑	和歌山市西庄	昭和5年	—	昭和5年7月建立。大阪府泉南郡多奈川村及び和歌山県海草郡木本村、西脇野村の入会林野整理解消を記念。裏面に関係者名列挙。篆額・撰文農林大臣町田忠治。	
09	04	今出川安吉之碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	明治33年	—	明治33年8月に和歌山市消防組中により建てられた今出川安吉の石碑。	
09	04	藤巖安藤君遺愛碑	和歌山市岩橋（紀伊風土記の丘）	明治17年	—	紀州藩付家老で田辺城主であった安藤直次の顕彰碑。台座も残る。	
09	04	徳川吉宗公誕生地	和歌山市吹上	昭和14年	—	和歌山市が建立。側面に歴史的経緯を刻んだ文章あり。	
09	04	勝海舟寓居地石碑	和歌山市橋丁	昭和15年	—	和歌山市が建立。側面に歴史的経緯を刻んだ文章あり。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	04	小出泉の墓	和歌山市男野芝丁（吹上寺）		—	小出元明とも。津田出とともに明治初期の藩政改革に従事。『和歌山県史』人物。	
09	04	従五位津田正臣之墓	和歌山市秋葉町（円珠院墓地）	明治	—	初代和歌山県知事津田正臣の墓。明治29年11月28日逝去。近年の墓地整理により原位置を保っていない。	13
09	04	正六位勲五等長屋氏碑（倉田續書）	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治32年	—	明治32年6月に建てられた初代和歌山市長長屋喜弥太の石碑。徳川茂承篆額、川口武定撰、倉田續書。	
09	04	島本豊楠石碑	和歌山市狐島（覚円寺）	大正7年	—	大正7年11月に建てられた元狐島区長島本豊楠に関する石碑。表に「釋堅正信士」と記す。	
09	04	小野真次レリーフ	和歌山市加太（淡嶋神社前）	昭和42年	—	昭和42年2月に加太・西脇・木本地区小野真次顕彰委員会が建てた小野真次元和歌山県知事を顕彰するレリーフ。	
09	04	田中善蔵先生尽忠之碑	和歌山市一番丁（和歌山城公園追廻門前）	昭和44年	—	慶応3年11月に追廻門外で刺殺された藩政改革を推進した奥祐筆田中善蔵の顕彰碑。もと明治18年旧友や門人らが秋葉山に建立。昭和44年明治百年記念にゆかりのある同地に移設。	
09	04	北島道龍の墓	和歌山市和歌浦中（法福寺）	明治	—	幕末～明治に活躍した僧北島道龍の墓。幕末には僧侶や町人からなる法福寺隊を組織して幕長戦争等で活躍。	
09	06	雑賀崎台場跡	和歌山市	嘉永7年	県史跡		18
09	06	由良要塞跡	和歌山市友ヶ島、深山、加太	明治～昭和	—	紀淡海峡に設置された大阪湾防衛の総称。友ヶ島、深山、加太の軍事拠点（『由良要塞Ⅰ～Ⅲ』2009年～2012年 近代築城遺跡研究会）。	1
09	06	旧加太砲台	和歌山市加太	明治37年	—	現和歌山市少年自然の家。	1
09	06	旧田倉崎堡壘	和歌山市加太	明治37年	—	現和歌山市少年自然の家。	1
09	06	旧深山第1砲台・第2砲台	和歌山市深山	明治30年・26年	—	深山第1砲台は瀬戸内海国立公園となっている。深山第2砲台は休暇村紀州加太建設で大半が消滅。	1
09	06	旧男良谷砲台	和歌山市深山	明治37年	—	瀬戸内海国立公園となっている。	1
09	06	旧友ヶ島第1～5砲台	和歌山市友ヶ島	明治23～37年	—	紀淡海峡に造られた沿岸要塞。友ヶ島に造られた砲台で由良要塞跡の一部。	1
09	06	旧虎島堡壘	和歌山市友ヶ島	明治30年	—		1
09	06	旧佐瀬川堡壘	和歌山市大川～大阪府岬町	明治37年	—		1
09	06	旧西ノ庄堡壘	和歌山市西庄	明治37年	—	現和歌山県立和歌山北高校。高校建設で消滅。	1
09	06	旧大川堡壘	和歌山市大川	明治30年	—		1
09	06	旧高森山交通路（高森山堡壘）	和歌山市大川	明治37年	—		1
09	06	旧城ヶ崎電気燈	和歌山市加太	明治32年	—		1
09	06	旧軍將校宿舍	和歌山市友ヶ島		—		1
09	06	旧陸軍友ヶ島発電所	和歌山市友ヶ島		—	レンガ造。	1
09	06	旧陸軍深山病院跡	和歌山市深山		—	現オートキャンプ場。	1
09	06	歩兵第六一聯隊酒保円卓・椅子	和歌山市一番丁（和歌山城公園内護国神社境内）		—	和歌山市砂山南を衛成地とした歩兵第六一聯隊兵営内酒保にあったとされる石製の円卓と椅子。戦後、この地に移設。	
09	06	陸軍省石柱	和歌山市一番丁（和歌山城公園内西外堀及び東堀）	明治	—	和歌山城は陸軍省の土地で明治9年以降の陸軍省の石製標示杭が現在2つ残る（元位置から移動、当初5ヶ所設置。）。当初は陸軍省の三文字と考えられるが、今は一部剥離。	26
09	06	防空壕（秋葉山）	和歌山市和歌浦東	昭和	—		1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	防空壕跡（和歌山城虎伏山）	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	昭和	—	構築時期不明。現在入口は石で埋め戻される。伏虎像裏側にも入口があったとする証言があるが真偽不明。	
09	06	あゝ予科練石碑	和歌山市一番丁（和歌山城公園内護国神社境内）	昭和44年	—	昭和44年2月3日に予科練和歌山県人会が建立。	
09	06	満蒙開拓青少年義勇軍顕彰碑	和歌山市一番丁（和歌山城公園内護国神社境内）	昭和38年	—	昭和38年10月12日に和歌山県拓友会が建立。昭和54年3月30日改修。県知事小野真次謹書。	
09	06	「空」陸軍少年飛行兵石碑	和歌山市一番丁（和歌山城公園内護国神社境内）	昭和43年	—	昭和43年5月に和歌山少飛会が建立。	
09	06	明治三十有七八年戦役記念碑	和歌山市和歌浦中1-5	明治39年	—	明治39年4月●日建立の日露戦争の記念碑。題字は陸軍中将茨木惟昭書。裏面に陸海軍従軍者の氏名。	
09	06	忠魂碑	和歌山市和歌浦中1-5		—	敷地に入ることができず、詳細不明。題字は有馬良橘書。前面に石製灯籠1対や砲弾型石柱2基等がある。	
09	06	四役戦亡記念碑	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治12年	—	明治12年9月24日建立の四役（佐賀の乱、台湾出兵、神風連の乱、西南戦争）の戦死者を慰霊・顕彰する石碑。「記念碑」の字は西南戦争の征討総督有栖川宮熾仁親王書。	
09	06	四役戦亡記念碑側記	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治16年	—	明治16年9月に和歌山県令神山郡廉により建てられた四役戦亡記念碑建立の経緯を記した石碑。	
09	06	征清記念標	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治28年	—	明治28年12月天妃江山山頂に建立した日清戦争勝利記念のモニュメント。銅製の楕形部分は大砲砲兵工廠製で、題字は日清戦争の征清総督小松宮彰仁親王。	
09	06	征清記念標碑	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治31年	—	明治31年3月18日建立の征清記念標の建立経緯を記した石碑。沖守固が撰文及び書。『紀伊毎日新聞』明治31年3月20日付。	
09	06	和歌山県忠霊塔	和歌山市西高松（平和祈念資料館）	昭和16年	—	昭和16年5月に歩兵第六一聯隊の将兵等を慰霊する忠霊塔竣工。県出身戦没者英霊3万7千5百余柱を合祀。	
09	06	ビルマ慰霊碑	和歌山市西高松（平和祈念資料館）	昭和16年	—	忠霊塔横に建立。ビルマ戦戦没者を慰霊。弥陀三尊像のレリーフ。	
09	06	合奏碑	和歌山市西高松（平和祈念資料館）	昭和16年	—	忠霊塔横に昭和16年11月30日建立。	
09	06	万性寺内陸軍軍人墓地	和歌山市堀止西	昭和	—	和歌山県忠霊塔建設に伴い、忠霊塔建設予定地の陸軍墓地は整理され、墓碑が一部万性寺境内に移設され現存。	
09	06	満洲支那両事変忠魂安置之霊跡石碑	和歌山市堀止西（万性寺）	昭和15年	—	昭和15年4月25日森田部隊が建立した石碑。当時の住職が満洲事変や日中戦争の兵士の霊を安置したことになむ。裏面に森田部隊隊長森田千代松による説明文。	
09	06	深山重砲兵聯隊墓地	和歌山市深山	明治	—	深山重砲兵聯隊の死没した将兵のための墓地。合葬碑、将校・下士卒の個人墓碑が数十基現存。	
09	06	深山重砲兵連隊跡石碑	和歌山市深山	昭和40年	—	昭和40年5月深山重砲兵連隊遺跡保存会が建立した重砲兵連隊跡地であることを示す石碑。	
09	06	陸軍歩兵上等兵島本武○墓	和歌山市狐島（覚円寺）	昭和15年	—	昭和15年5月に建てられた島本武●の石碑。昭和13年10月8日、中国山西省にて戦死。父島本鉄之助が建てたもの。	
09	06	春日神社 忠魂碑	和歌山市松江中（春日神社）	昭和13年	—	昭和13年5月に松江村が建てた忠魂碑。有馬良橘書。	
09	06	陸軍歩兵少佐伊庭三郎墓	和歌山市鳴神（玄妙寺）	大正9年	—	大正9年12月に鳴神村が建てた伊庭三郎の墓。裏面に13代住職根来素道撰文の文章が刻字。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	陸軍輜重兵二等卒岡本善之助墓	和歌山市鳴神（玄妙寺）		—	建立年は不明だが、日露戦争で戦病死した日中戦争で戦死した軍馬の碑が刻字。	
09	06	忠馬上重号之碑	和歌山市和歌浦中（宗善寺）	昭和17年	—	昭和17年10月に津本佐太郎が建てた日中戦争で戦死した軍馬の碑。	
09	06	海軍水兵中谷伊之助紀念碑	和歌山市田野（潮騒の小径入り口付近）	明治37年	—	明治37年8月15日に遺族により建てられた日露戦争で戦死した海軍水兵の石碑。	
09	06	極楽寺 忠魂碑	和歌山市雑賀崎（極楽寺）	昭和21年	—	昭和21年に建てられた忠魂碑。	
09	06	故陸軍兵長木野滋次之碑	和歌山市雑賀崎（潮騒の小径脇）	昭和	—	昭和17年にフィリピンコレヒドール島で戦死した木野滋次の碑。	
09	06	故海軍志願二等水兵木野龍之輔碑	和歌山市雑賀崎（潮騒の小径脇）	明治か	—	海軍志願兵木野龍之輔の石碑。建立年等は未確認。	
09	06	故海軍水兵木戸勘次郎紀念碑	和歌山市雑賀崎（潮騒の小径脇）	明治37年	—	明治37年8月に木戸熊吉により建てられた海軍水兵木戸勘次郎の石碑。軍艦吉野沈没の際に戦死。	
09	06	故海軍水兵寺井甚蔵碑	和歌山市雑賀崎（潮騒の小径脇）	明治	—	明治37年に旅順港閉塞作戦にて戦死した海軍水兵寺井甚蔵の石碑。	
09	06	故陸軍補充兵岩本善之助之碑	和歌山市雑賀崎（潮騒の小径脇）	明治	—	日露戦争で戦死した陸軍軍人の石碑。	
09	06	故陸軍歩兵伍長勲八等功七級東出菊松之碑	和歌山市雑賀崎（潮騒の小径脇）	昭和	—	昭和16年9月23日に日中戦争で戦死した陸軍軍人東出菊松の石碑。	
09	06	釋 善勇靈石碑	和歌山市雑賀崎（潮騒の小径脇）	明治28年	—	明治28年12月21日に建てられた海軍二等水兵東山楠吉の石碑。日清戦争で戦死か？	
09	06	満願寺 忠魂碑	和歌山市寺内（満願寺）	大正7年	—	大正7年に建てられた忠魂碑。	
09	06	故陸軍歩兵中佐從五位勲四等功三級宮脇巖之墓	和歌山市吉礼（淨徳寺）	昭和	—	昭和14年に武寧において戦死した歩兵中佐宮脇巖の石碑。陸軍大將畑俊六の書。	
09	06	淨徳寺 征露役忠死者之碑	和歌山市吉礼（淨徳寺）		—	日露戦争の戦死者の記念碑。	
09	06	郡麻津姫神社 殉国忠魂之碑	和歌山市吉礼（都麻津姫神社）	昭和28年	—	昭和28年に建てられた戦死者の石碑。裏面に氏名が列挙。片岩製。	
09	06	海軍二等機関兵曹長勲八等山本八十助碑（倉田續書）	和歌山市吉礼（吉礼地区墓地）	明治	—	吉礼地区の墓地入口に建つ。明治43年4月15日戦死。倉田續書。片岩製。	
09	06	川永小学校 忠魂碑	和歌山市楠本（川永小学校）	大正15年	—	大正15年1月に建てられた川永小学校にある忠魂碑。	
09	06	湊神社 殉国之碑	和歌山市湊（湊神社）	昭和42年	—	昭和42年4月に建てられた殉国之碑。宇治田省三書。	
09	06	若宮八幡神社 忠魂碑	和歌山市紀三井寺（若宮八幡神社）	大正6年	—	大正6年10月に建てられた忠魂碑。陸軍中將山田保永書。	
09	06	淡嶋神社 針塚	和歌山市加太（淡嶋神社）		—	表面は針塚と書かれた石碑。裏面に戦死者を含めた従軍者の氏名が列挙。	
09	06	万福寺 釋 義頭の石碑	和歌山市松江（万福寺）	昭和14年	—	昭和14年8月27日に父森下佐市が建てた日中戦争戦死者の石碑。	
09	06	中橋地藏尊	和歌山市福町	昭和45年	—	昭和20年7月9日 和歌山大空襲で市堀川水中で亡くなった方を吊うため、昭和45年7月5日に建てられた地藏。	
09	06	妙慶寺 忠魂碑	和歌山市道場町（妙慶寺）	昭和13年	—	昭和13年10月に建てられた忠魂碑。海軍大將野村吉三郎謹書。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	陸軍歩兵曹北島石松之碑（倉田績書）	和歌山市北島（浄源寺）	明治37年	—	明治37年10月に建てられた日露戦争戦死者北島石松の石碑。上部欠損。倉田績撰文ならび書。	倉
09	06	戦災殉難者供養塔石柱	和歌山市西汀丁（汀公園）	昭和28年	—	昭和28年7月9日に小畠正幸によって建てられた石柱。	
09	06	戦災殉難者供養塔	和歌山市西汀丁（汀公園）	昭和28年	—	昭和28年5月に、昭和20年7月9日和歌山上空襲で亡くなった方の慰霊の供養塔。台座の文章は高垣善一謹書。	倉
09	06	陸軍歩兵上等兵中原奈良之助碑（倉田績書）	和歌山市西庄（医徳寺）	明治40年	—	明治40年7月に西庄有志が建立した陸軍歩兵上等兵中原奈良之助の石碑。倉田績の撰文ならび書。	倉
09	06	故陸軍歩兵准尉勲七等功六級西脇雄一郎碑	和歌山市西庄（正円寺）	昭和13年	—	昭和13年6月20日に建てられた陸軍軍人の碑。陸軍歩兵大佐乾忠夫書。	
09	06	故陸軍上等兵勲八等功七級出口長市之碑	和歌山市西庄（正円寺）	昭和17年	—	昭和17年に建てられた陸軍軍人の石碑。道尻虎楠敬書。	
09	06	磯脇八幡神社 忠魂碑	和歌山市磯の浦（磯脇八幡神社）	昭和14年	—	昭和14年10月に建てられた忠魂碑。陸軍少将垣内豊楠書。	
09	06	大年神社 忠魂碑	和歌山市梅原（大年神社）	昭和3年	—	昭和3年4月に貴志村分会により建てられた忠魂碑。陸軍中将貴志弥次郎謹書。	
09	06	小畑繁之助碑（倉田績書）	和歌山市福島（光源寺）	明治	—	日露戦争で戦死した小畑繁之助の石碑。倉田績撰文ならび書。	
09	06	総持寺 忠魂碑	和歌山市梶取（総持寺）	大正6年	—	大正6年4月に野崎村が建てた忠魂碑。陸軍少将伊豆凡夫謹書。	
09	06	福井重幸君頌徳碑	和歌山市吹上（大恩寺）	昭和14年	—	昭和14年に建てられた日中戦争で戦死した福井重幸の石碑。	
09	06	日露戦役記念石碑	和歌山市（葛城霊場三之宿行所）	明治39年	—	明治39年12月に建てられた日露戦争を記念する石碑。裏面に従軍者の氏名。陸軍中将茨木惟昭書。	
09	06	日露戦役凱旋記念灯籠	和歌山市（葛城霊場三之宿行所）	明治39年	—	明治39年3月に建てられた日露戦争凱旋記念灯籠1対。	
09	06	故陸軍歩兵上等兵勲八等功七級畑秀和之碑	和歌山市榎原（安養寺）	昭和	—	日中戦争で戦死した陸軍軍人の石碑。左右に陸軍軍人の個人墓碑が並ぶ。	
09	06	高積神社 忠魂碑	和歌山市禰宜（高積神社北側）	大正8年	—	大正8年4月に建てられた忠魂碑。第四師団長陸軍中将立花小一郎書。片岩製。	片岩
09	06	故陸軍歩兵曹長勲七等功七級栗栖音次郎之碑	和歌山市栗栖（浄土寺）	明治	—	日露戦争で戦死した栗栖音次郎の石碑。倉田績撰文ならび書。	
09	06	故陸軍伍長勲八等功七級栗栖幸雄之碑	和歌山市栗栖（浄土寺）	昭和	—	昭和18年2月5日にニューギニアにて戦死した栗栖幸雄の石碑。父喬が建てたもの。	
09	06	故陸軍兵長勲八等功七級小谷倭夫之碑	和歌山市栗栖（浄土寺）	昭和19年	—	昭和19年に中国大陸で戦死した小谷倭夫の石碑。	
09	06	勲八等功七級陸軍歩兵上等兵大元菊太郎臺（倉田績書）	和歌山市岩橋（法照寺）	明治	—	日露戦争で戦死した大元菊太郎の墓。倉田績撰文ならびに書。	
09	06	正願寺墓地 忠霊之碑	和歌山市鳴神（正願寺墓地）	平成13年	—	もと戦没者慰霊のため昭和38年正願寺境内に建てられていたが、風化したため新たに墓地に建立。	
09	06	三光寺 日支事変戦病歿死者英霊供養塔	和歌山市吹上（三光寺）	昭和15年	—	昭和15年3月15日に日中戦争の戦病死者の供養塔。軍馬、軍犬、伝書鳩も供養。	
09	06	卅七聯隊第一中隊〇〇寅樟碑	和歌山市吹上（窓誉寺）	明治	—	日露戦争で戦死した軍人の石碑。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	報恩寺 南無妙法蓮華經萬霊塔	和歌山市吹上（報恩寺）	昭和16年	—	日中戦争で亡くなった万霊（中国側含め）の供養塔。	
09	06	本光寺 英霊供養碑	和歌山市吹上（本光寺）	昭和4年	—	昭和4年に檜六〇九七部隊第一中隊生存者一同により建立された供養塔。	
09	06	了法寺 忠魂碑	和歌山市坂田（了法寺）		—	了法寺境内にある忠魂碑。安正書。	
09	06	中言神社 雄魂石碑	和歌山市吉原（中言神社）	昭和43年	—	昭和43年10月13日明治百年記念で自治会長等が建立した石碑。日清・日露戦争以来の吉原地区の戦死者30名余の英霊の慰霊・顕彰。裏面文章は泉教育長荒木修三。	
09	06	安原小学校 軍人忠魂碑	和歌山市江南（安原小学校）	明治45年	—	明治45年4月に安原村有志者により建設された忠魂碑。題字は三浦悟楼謹書。	
09	06	仏法寺 忠魂碑	和歌山市伊太祁曽（伊太祁曽神社付近仏法寺）	明治45年	—	明治45年1月に建てられた忠魂碑。寺内正毅謹書。片岩製。	
09	06	東山東児童遊園 忠魂碑	和歌山市山東（東山東児童遊園）	明治	—	東山東村中により建てられた忠魂碑。紀年銘なし。砂岩製角柱三角錐頭形。	
09	06	伊久比売神社 忠魂碑	和歌山市市小路（伊久比売神社）	大正12年	—	大正12年3月に建てられた忠魂碑。	
09	06	故陸軍歩兵上等兵勲八等功七級小林時夫之碑	和歌山市鷹匠町（延命院）	昭和12年	—	昭和12年10月14日に建てられた日中戦争で戦死した小林時夫の石碑。	
09	06	陸軍歩兵伍長勲七等功七級虎谷利三郎之碑	和歌山市鷹匠町（延命院）	明治	—	明治37年に日露戦争で戦死した虎谷利三郎の石碑。倉田績の書。	
09	06	高田曹長之碑	和歌山市直川（さんさんセンタ一の川東側）	昭和10年	—	昭和10年5月建立の陸軍曹長高田傳十郎の石碑。平成10年再整備され、その経緯を記した石碑も側に建つ。	
09	06	神前 本土決戦陣地	和歌山市神前（法紹寺付近）	昭和	—	太平洋戦争末期に陸軍が本土決戦用に作ったトーチカ。要現地調査。郷土史家森崎順臣氏より聞き取り。	
09	06	秋葉山 本土決戦陣地	和歌山市秋葉町（秋葉山秋葉交番付近）	昭和	—	太平洋戦争末期に陸軍が本土決戦用に作った陣地。要現地調査。郷土史家森崎順臣氏より聞き取り。	
09	06	天神山・高津子山本土決戦陣地	和歌山市（天神山、高津子山）	昭和	—	太平洋戦争末期に陸軍が本土決戦用に作った陣地。天神山・高津子山に数ヶ所。要現地調査。郷土史家森崎順臣氏より聞き取り。	
09	06	冬野 本土決戦陣地	和歌山市冬野（若葉団地西側奥）	昭和	—	太平洋戦争末期に陸軍が本土決戦用に作った陣地。要現地調査。郷土史家森崎順臣氏より聞き取り。	
09	06	梅原 本土決戦陣地	和歌山市梅原（大年神社裏）	昭和	—	太平洋戦争末期に陸軍が本土決戦用に作った陣地。要現地調査。郷土史家森崎順臣氏より聞き取り。	
09	06	大日山 本土決戦陣地	和歌山市井辺（大日山）	昭和	—	太平洋戦争末期に陸軍が本土決戦用に作った陣地。大日山に数ヶ所。要現地調査。郷土史家森崎順臣氏より聞き取り。	
09	06	栗栖 本土決戦陣地	和歌山市栗栖（和歌山東警察署東側の山）	昭和	—	太平洋戦争末期に陸軍が本土決戦用に作った陣地数ヶ所あり。要現地調査。郷土史家森崎順臣氏より聞き取り。紀伊風土記の丘にも塹壕跡あり？	
09	06	住吉神社 日露戦役記念碑	和歌山市西浜（住吉神社）	明治39年	—	日露戦争の記念として水軒有志者が建てた記念碑。出征者の氏名等が記されている。	
09	06	西脇小学校 殉国忠霊之碑	和歌山市西庄（西脇小学校）	昭和29年	—	昭和29年に西脇町が建てた忠魂碑。題字は和歌山県知事小野真次の書。	
09	06	歩兵第六一聯隊跡	和歌山市砂山南	明治42年	—	明治42年に湊村・雑賀村の一部を衛戍地とした歩兵第六一聯隊の跡地。当時の門柱と歩哨が残り、同所に聯隊跡であることを示す石碑。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	歩兵大尉正七位勲四等 松村春智之墓	和歌山市男野芝丁（吹上寺）		—	軍人の墓。倉田績の撰文。	
09	06	松平實之進招魂碑	和歌山市新堀東（久昌寺）	明治	—	西南戦争戦死者の石碑。倉田績撰文及び書	
09	06	故陸軍會計式等副監督 従六位遠藤衛君碑	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治	—	和歌山出身の陸軍軍人遠藤衛の石碑。詳細な建立年不明。岡本兵四郎撰文、成瀬温（大城）書丹。	
09	06	紀州東照宮 奉納砲弾	和歌山市和歌浦西（本殿前）	明治	—	日露戦争の戦利品で奉納と伝わる砲弾8つ。それぞれ大きさが異なる。宮司の話で日露戦争以外に和歌浦に寄港した日本艦隊乗組員奉納品が混ざる可能性。	
09	06	米軍機雷・内火艇の 錨・掃海艇の錨鎖	和歌山市西高松（平和祈念資料館）	昭和16年	—	昭和40年に大阪湾で引き揚げられた機雷を露出展示。	
09	06	友ヶ島 砲弾	和歌山市 友ヶ島		—	第3砲台・第4砲台に配備されていた大砲（8インチ砲）の砲弾を設置。	
09	08	神武天皇聖蹟男水門頭 彰碑	和歌山市小野町（水門吹上神社内）	昭和15年	—	昭和15年11月、紀元二千六百年奉祝会が建てた石碑。神武天皇東征時、兄彦五瀬命が崩御した「男水門」がこの地とされていることから建立。	
09	08	神武天皇聖蹟名草邑頭 彰碑	和歌山市広原	昭和15年	—	神武天皇東征時、神武天皇が名草戸畔の討伐がこの地とされることから建立した石碑。山上に建つが現地確認困難。	
09	08	応神天皇頓宮古蹟	和歌山市木ノ本（木本八幡宮公園内）	明治32年	—	応神天皇の頓宮（仮宮）が造られた伝承から建てられた頓宮跡を示す石碑。明治32年8月12日再建と刻字。川口武定謹書。	
09	08	徳勒津宮旧趾之碑	和歌山市新在家（線路付近）	明治20年	—	明治20年に建てられた石碑。仲哀天皇が熊襲討伐に向かう前に滞在していた場所とされている。	
09	08	鳥羽法皇八百年御遠忌 石柱	和歌山市寺内（満願寺）	昭和19年	—	昭和19年7月7日に建てられた鳥羽法皇八百年遠忌であることを記した石柱。	
09	08	後鳥羽院陵御石槨古跡	和歌山市六十谷（大同寺霊園）		—	後鳥羽上皇関連の史跡か。	
09	08	鶴駕飛降○	和歌山市和歌浦中（妹背山）	明治38年	—	明治36年10月嘉仁皇太子行啓（御召艦によるものか）記念の石碑。明治38年7月和歌浦町の敷誠一郎が建立。果知事清棲家教豪額、倉田績撰・書。	
09	08	久邇宮殿下御手植楓石 碑	和歌山市園部（鳴滝不動尊）	明治43年	—	明治43年8月に建てられた久邇宮殿下手植の楓を記念した石碑。	
09	08	閑院宮殿下御手植之松 石碑	和歌山市加太（加太小学校内）	大正2年	—	閑院宮が特命検閲使で加太に来て松の植樹記念に大正2年7月5日に建てられた石碑。題字倉田績書、裏面説明文は校長前田雅橘勤記。松も現存。	
09	08	御大札記念奉頒碑	和歌山市岡山丁（岡公園）	大正4年	—	大正4年11月建立の昭和天皇御大札記念の奉頒碑。倉田績書。碑の横や裏面に発起人及び料理業組合の名簿が刻字。	
09	08	摂政宮殿下御野立所石 碑	和歌山市加太（和歌山市立青年国際交流センター奥）	大正11年	—	大正11年12月1日摂政宮（のちの昭和天皇）がここで休憩したことを示す石碑。石工は中村岩太郎。	
09	08	皇太子殿下御結婚奉祝 絵馬奉納記念碑	和歌山市片岡町（刺田比古神社）	大正13年	—		
09	08	皇太子殿下御手播樟	和歌山市谷（山口神社）	大正13年	—	樟も付近で現生か。	
09	08	御大典記念之石	和歌山市和歌浦東（五右衛門寺境内）	昭和3年	—	昭和天皇の御大典記念として昭和3年11月に当山十三代○光が建てた石。	
09	08	御大典記念日○問屋組 合碑	和歌山市津秦（津秦天満宮）	昭和3年	—	昭和天皇の御大典を記念して何らかの組合が建てた記念碑。天満宮社掌古川新五郎謹識。	
09	08	春日神社石柱（御大典 記念）	和歌山市松江中（春日神社）	昭和3年	—	昭和3年11月10日に御大典記念として建てられた春日神社と記された石柱。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	08	春日神社灯籠（御大典記念）	和歌山市加太（春日神社）	昭和3年	—	昭和3年に御大典記念として建てられた石製灯籠1基。	
09	08	大年神社標柱（御大典記念）	和歌山市梅原（大年神社）	昭和3年	—	御大典記念。	
09	08	宇治神社標柱（御大典記念）	和歌山市新魚町（宇治神社）	昭和3年	—	御大典記念。	
09	08	志摩神社狛犬（御大典記念）	和歌山市中之島（志摩神社境内）	昭和3年	—	昭和3年10月に建てられた石製の狛犬1対。御大典記念として奉献された。	
09	08	宝作万来石柱（御大典記念）	和歌山市片岡町（刺田比古神社）	昭和3年	—	御大典奉祝記念。	
09	08	刺田比古神社標柱（御大典記念）	和歌山市片岡町（刺田比古神社）	昭和3年	—	御大典記念。	
09	08	山口神社社名石碑（御大典記念）	和歌山市谷（山口神社）	昭和3年	—	御大典記念。	
09	08	高橋神社標柱（御大典記念）	和歌山市岩橋（高橋神社）	昭和3年	—	御大典記念。	
09	08	御即位大典記念石碑	和歌山市砂山南（砂山小学校前）	昭和3年	—	○野中将謹書。	
09	08	紀州東照宮 御大典奉祝記念灯籠	和歌山市和歌浦西（駐車場入口付近）	昭和？	—	御大典奉祝記念で建てられた木製灯籠1対。建造年は不明だが、上皇の御大典記念か。	
09	08	東伏見宮大妃殿下御登臨記念石碑	和歌山市新和歌浦（高津子山山頂）	昭和3年	—	昭和3年3月に望海楼の中尾文三が建てた東伏見宮同妃が高津子山に登ったことを記念する石碑。	
09	08	皇太子殿下御降誕記念石柱	和歌山市一番丁（和歌山城公園追廻門前）	昭和9年	—	昭和9年3月25日建立の皇太子（明仁皇太子）降誕記念の石柱。もとは他に構造物があっただけと思われるがすでに撤去。	
09	08	皇太子殿下御成婚記念石柱	和歌山市一番丁（和歌山城公園西外堀付近石垣上）	昭和34年	—	昭和34年4月建立の皇太子（明仁皇太子）成婚記念の石柱。和歌山県経営者協会が建立。	
09	08	皇太子殿下行啓記念碑	和歌山市栗栖（西和佐幼稚園・小学校内）	昭和13年	—	大正11年裕仁皇太子行啓の記念石碑。横に皇太子行啓・昭和46年の天皇皇后行幸等の履歴を書いた石碑。	
09	08	紀元二千六百年記念石柱	和歌山市（桐蔭高校）		—	吹上第二十区町内会。	
09	08	皇紀二千六百年記念灯籠献納石柱	和歌山市宇田森（大屋都姫神社）	昭和15年	—	皇紀二千六百年記念で灯籠を献納したことを記した石柱。隣に「金壹百円」等と書かれた石柱。	
09	08	紀元二千六百年記念鳥居奉納記念碑	和歌山市片岡町（刺田比古神社）	昭和15年	—	人名が列挙されている。	
09	08	皇紀二千六百年記念石柱	和歌山市片岡町（刺田比古神社）	昭和15年	—	川戸寅太郎建立。	
09	08	高積神社標柱（紀元2600年記念）	和歌山市禰宜（高積神社）	昭和15年	—	皇紀二千六百年奉献。	
09	08	和歌山県護国神社石柱（紀元2600年記念）	和歌山市一番丁（和歌山城公園内砂ノ丸門跡）	昭和15年	—	紀元2600年記念に川瀬竹松・道が奉献。	
09	08	浄土寺国旗掲揚石柱（紀元2600年記念）	和歌山市栗栖（浄土寺）	昭和17年	—	皇紀二千六百年記念に字北青年団員一同により建てられた国旗掲揚のための石柱。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	08	昭和天皇・皇后植樹の松	和歌山市栗栖（西和佐幼稚園・小学校内）	昭和46年	—	昭和46年10月25日昭和天皇・皇后行幸の際、自ら植えた松。西和佐幼稚園敷地内に現存。	
10	01	旧制和歌山中学校図書館	和歌山市吹上	昭和4年	国登録	旧図書館は父兄会の寄付により建設。RC造平屋建。現在和歌山県立桐蔭高校同窓会館に用途変更。	1
10	01	旧制和歌山中学校運動場スタンド	和歌山市吹上	昭和4年	国登録	現在和歌山県立桐蔭高校の運動場スタンドとして現存。	1
10	01	旧和歌山師範学校正門	和歌山市吹上	明治45年頃	—	レンガ造の門柱と堀。現和歌山大学教育学部附属小中学校校門。	1
10	01	和歌山中学校明治二十九年卒業生記念樹石碑	和歌山市一番丁（和歌山城公園西の丸広場）	明治29年	—	和歌山中学校の明治29年卒業生が樟樹を記念植樹した際の石碑。その時植樹されたと思われる樹のそばに建つ。	
10	01	伊藤義成先生碑	和歌山市吉礼（吉礼墓地内）	昭和4年	—	吉礼地区の墓地入口に建つ。「昭和四年二月十一日書 元吉礼小学校生徒一同」。片岩製。	
10	01	二宮尊徳先生幼時之像	和歌山市里（山口小学校内）	大正～昭和	—	コンクリート製二宮金次郎像。名盤の字は齋藤実。設置年不明だが、齋藤実が子爵のため大正14年～昭和11年に設置された。	
10	01	名草小学校二宮金次郎像	和歌山市紀三井寺（名草小学校）	昭和12年	—	昭和12年5月に岡本信三が寄贈したコンクリート製二宮金次郎像。「報徳」の文字プレートが張られている。	
10	01	二宮尊徳先生幼時之像	和歌山市伝法橋南ノ丁（水天宮付近）	昭和14年	—	卒業記念謝恩として長四が寄贈したコンクリート製の像。	
10	01	二宮金次郎像	和歌山市砂山南（砂山小学校）		—		
10	01	二宮金次郎像	和歌山市（四箇郷小学校）		—		
10	01	二宮尊徳先生幼時之像	和歌山市栗栖（西和佐小学校及び幼稚園内）	昭和14年	—	出島熊太郎寄贈。	
10	01	川本新之助君寄附記念標	和歌山市山東中（小倉小学校）	昭和2年	—	川本新之助が奉安庫、図書館、貯水池、奨学資を寄附したことを示す石柱。現存するのかは不明。	
10	01	加太小学校創立百周年記念碑	和歌山市加太（加太小学校）	昭和51年	—	明治9年に創立された加太小学校創立100周年記念の石碑。	
10	01	加太小学校創立百周年記念寄贈放送施設一式記念碑	和歌山市加太（加太小学校）	昭和51年	—	加太小学校創立百周年記念に加太農業協同組合が放送施設一式を寄贈したことを示す石碑。	
10	01	和歌山高等商業学校創立記念碑	和歌山市西高松（放送大学和歌山学習センター付近）		—	大正11年の和歌山高等商業学校創立記念碑。表「創立記念」、裏面は創立関係者の名前が列挙された銘板。	41
10	01	岡本一郎先生銅像	和歌山市西高松（放送大学和歌山学習センター付近）	昭和8年	—	和歌山高等商業学校初代校長の岡本一郎の銅像。保田龍門作。	41
10	01	寮監野村越三銅像	和歌山市西高松（放送大学和歌山学習センター付近）	大正15年	—	片岡角太郎作の学生寮「励行寮」寮監野村越三の銅像。	
10	01	和歌山高等商業学校跡地	和歌山市西高松（県立図書館）		—	県立図書館近くに「和歌山大学経済学部発祥の地」の石碑（平成10年）がある。	
10	01	和歌山中学校旧正門跡地	和歌山市（桐蔭高校）		—	現在は、袖門柱が元位置に復元されている。	
10	01	「強いからだ」と明るいこころ」石碑	和歌山市栗栖（西和佐小学校）	昭和48年	—	百周年記念石碑。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	01	野村吉三郎和歌山中学校生徒メッセージ石碑	和歌山市吹上（和歌山県立桐蔭高校）	昭和8年	—	昭和8年7月に建てられた野村吉三郎の和歌山中学校生徒に向けた言葉を記した石碑。	
10	02	農学博士高橋克己顕徳碑	和歌山市岡山丁（岡公園）	昭和44年	—	世界で初めてビタミンA抽出に成功した高橋克己の顕彰碑。昭和44年11月23日高橋克己博士顕彰会が建立。石碑裏面文書は宇治田省三市長。	
10	02	高橋克己生誕の地	和歌山市木ノ本	明治	—	高橋克己（1892-1925）生誕の地。石柱が建てられている。	
10	03	和歌山天文館	和歌山市鷹匠町	昭和34年	—	昭和34年、私設プラネタリウムとして自宅内に開設。木造平屋建、亜鉛鉄板瓦葺き。プラネタリウム本機は平成17年にこども科学館に移設。	1
10	03	地球モニュメント	和歌山市新和歌浦（高津子山山頂）	昭和35年	—	産経新聞社の提唱で昭和35年11月3日に建てられ地球のモニュメント。	
10	03	銅像「翔」	和歌山市西浜（松下体育館）	昭和	—	第66回二科展で文部大臣賞を受賞した作品。	
10	03	立像「群像」	和歌山市山東中（小倉小学校）	昭和38年	—	昭和38年1月10日寺田鬼久磨寄贈の立像。台座部分はもと紀元二千六百年記念で作られた楠木正成銅像だったが、銅像は金属供出でなくなる。	
10	03	和歌山城公園動物園	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	大正	—	大正4～8年度に本多静六による和歌山公園の整備で南の丸跡に作られた。昭和45年リニューアル、大正期からの施設は残っていない。	
10	03	和歌山城西之丸庭園土橋	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	昭和47年	—	昭和45～48年に庭園文化研究所所長森蔵による和歌山城西之丸庭園復元整備工事で江戸時代の絵図等をもとに復元。	68
10	03	和歌山城西之丸庭園茅門	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	昭和47年	—	昭和45～48年に庭園文化研究所所長森蔵による和歌山城西之丸庭園復元整備工事で江戸時代の絵図等をもとに復元。	68
10	03	和歌山城西之丸庭園築地塀	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	昭和47年	—	昭和45～48年に庭園文化研究所所長森蔵による和歌山城西之丸庭園復元整備工事で江戸時代の絵図等をもとに復元。	68
10	03	和歌山城西之丸庭園腰掛	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	昭和48年	—	昭和45～48年に庭園文化研究所所長森蔵による和歌山城西之丸庭園復元整備工事で江戸時代の絵図等をもとに復元。	68
10	03	和歌山城西之丸庭園鳶魚閣	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	昭和48年	—	昭和45～48年庭園文化研究所所長森蔵による和歌山城西之丸庭園復元整備工事で江戸時代の絵図等をもとに復元。東京工業大学名誉教授藤岡通夫設計。	68
10	03	観海閣	和歌山市和歌浦中（妹背山）	昭和38年	—	もとは徳川頼宣が建造した木造建物。昭和36年第二室戸台風で倒壊。昭和38年に鉄筋コンクリート造で再建。木造再建に向けて令和3年に解体。	
10	03	旧和歌山県立図書館門柱	和歌山市西高松（県立図書館）	昭和13年	—	開館100周年を迎えたことを記念して、記念碑として再利用されている。	
10	05	岡公園室内体育館（武徳館）	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治38年	—	明治38年大日本武徳会和歌山支部が建築。当初は真砂町で警察官の武道場として使用し、昭和36年岡公園に移築。木造平屋建・屋根は二重。	2
10	06	和歌山県護国神社石柱	和歌山市一番丁（和歌山城公園内吹上口跡）	昭和15年	—	大峰登山三十三度記念に、大先達上野山利助が奉獻。公爵一條實孝等謹書。	
10	06	和歌山県護国神社鳥居	和歌山市一番丁（和歌山城公園内勘定門跡）	昭和17年	—	石製の鳥居。「望海楼 中尾文三」「昭和17年3月」「東京青山石勝刻」の銘がある。	
10	06	和歌山県護国神社定書	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	昭和33年	—	境内の禁止事項を書いた石製定書。鈴木証券株式会社取締役社長鈴木元善が昭和14年4月亡父金之助が制札屋形1棟を奉獻したが戦災により焼失し、昭和33年1月再建。	
10	06	和歌山県護国神社灯籠	和歌山市一番丁（和歌山城公園内護国神社砂の丸南鳥居付近）	昭和16年	—	昭和16年10月竹中源助の奉獻で建立した石製灯籠1対。「禎祥有應」「盛徳奕奕」の文字は陸軍大将男爵荒木貞夫謹書。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	和歌山県護国神社鳥居	和歌山市一番丁（和歌山城公園内砂の丸南）	昭和13年	—	昭和13年9月富国徴兵保険相互会社取締役社長根津嘉一郎の奉獻で建立した石製鳥居。紀元2600年記念。	
10	06	和歌山県護国神社灯籠	和歌山市一番丁（和歌山城公園内砂の丸南鳥居付近）	昭和15年	—	昭和15年11月に和歌山市役所本庁各庁所員一同の奉獻により建てられた石製灯籠1対。	
10	06	和歌山県護国神社灯籠	和歌山市一番丁（和歌山城公園内護国神社参道途中）	昭和15年	—	昭和15年5月に日露戦役和歌山市従軍会の奉獻で建てられた石製灯籠1対。「弘善社彫刻」とある。	
10	06	和歌山県護国神社灯籠	和歌山市一番丁（和歌山城公園内護国神社参道途中）	昭和15年	—	昭和15年5月に三毛きく（和歌山市湊本町）の奉獻で建てられた石製灯籠1対。「弘善社彫刻」とある。	
10	06	和歌山県護国神社灯籠	和歌山市一番丁（和歌山城公園内護国神社参道途中）	昭和15年	—	昭和15年5月に芦原はる（和歌山市本町）の奉獻で建てられた石製灯籠1対。「弘善社彫刻」とある。	
10	06	和歌山県護国神社灯籠	和歌山市一番丁（和歌山城公園内護国神社境内）	昭和14年	—	昭和14年1月に織田昇次郎（和歌山市湊本町）の奉獻で建てられた石製灯籠1対。海軍大將有馬良橘敬書。	
10	06	和歌山県護国神社狛犬	和歌山市一番丁（和歌山城公園内護国神社境内）	昭和14年	—	昭和14年5月に土族津田清一郎の奉獻で建てられた石製狛犬1対。	
10	06	植樹記念碑	和歌山市一番丁（和歌山城公園内護国神社境内）	昭和44年	—	昭和44年11月16日の植樹記念に和歌山市中之島地区遺族会が建てた石碑。	
10	06	和歌山県護国神社玉垣	和歌山市一番丁（和歌山城公園内護国神社境内）	昭和16年	—	昭和16年4月に和歌山県紡績聯合会の奉獻で作られた境内を囲う石柵。	
10	06	和歌浦天満宮鳥居	和歌山市和歌浦西（境内入口）	大正13年	—	大正13年7月23日に大橋甚之助・〇子の奉納で建てられた石製鳥居。「彫刻池宮敬五郎」の銘あり。	
10	06	和歌浦天満宮灯籠	和歌山市和歌浦西（境内）	明治3年	—	明治3年3月25日に和歌浦町出嶋庚申講黒田勇次郎により建てられた石製灯籠1対。「天満宮」の銘。	
10	06	和歌浦天満宮灯籠	和歌山市和歌浦西（境内）		—	銘なし。詳細不明。ワイヤーにて固定。	
10	06	天満神社石柱	和歌山市和歌浦西（境内）	昭和33年	—	昭和33年1月吉日に古座谷ミ子により建てられた石柱。	
10	06	用水桶	和歌山市和歌浦西（境内）		—	石製の「用水」の銘が入った石製の桶。	
10	06	和歌浦天満宮境内社白鳥大明神鳥居	和歌山市和歌浦西（境内）	昭和32年	—	昭和32年11月吉日講者一同の奉納で建てられた石製鳥居。	
10	06	和歌浦天満宮境内社白鳥大明神狛犬	和歌山市和歌浦西（境内）		—	津本新三郎らの奉納で建てられた狛犬1対。	
10	06	奉納石柱	和歌山市和歌浦西（境内）		—	寄付金額と氏名を記した石柱7基。「一金式百圓也」等の銘。	
10	06	手水鉢	和歌山市和歌浦西（境内）	昭和11年	—	昭和11年7月25日に正遷宮記念に奉納された石製の手水鉢。	
10	06	灯籠	和歌山市和歌浦西（境内）		—	石製灯籠1基。平武明が建立か。「〇繁両基」「泰于紀州和歌」等の銘。	
10	06	和歌浦天満宮境内社白藤龍王白高大神鎮座石柱	和歌山市和歌浦西（境内）	昭和16年	—	昭和16年8月吉日に建てられた石柱。「教師 喜多先生」の銘。	
10	06	和歌浦天満宮境内社白藤龍大神鳥居	和歌山市和歌浦西（境内）	昭和18年	—	昭和18年11月に奉納で建てられた石製鳥居。	
10	06	和歌浦天満宮境内社住吉神社灯籠	和歌山市和歌浦西（境内）		—	和泉辰之助により奉納された石製灯籠1対。	
10	06	和歌浦天満宮境内社白藤龍大神狛犬	和歌山市和歌浦西（境内）		—	石製狛犬1対。金谷治郎吉の奉納か。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	和歌浦天満宮境内社白藤龍大神灯籠	和歌山市和歌浦西（境内）		—	石製灯籠 1 基。「山本元帥に続く」の銘あり。大坂 黒澤裏らの奉納か。	
10	06	和歌浦天満宮境内社白藤龍大神石柱	和歌山市和歌浦西（境内）		—	松田真一郎・楠條甚の奉納による石柱。	
10	06	和歌浦天満宮境内社灯籠	和歌山市和歌浦西（境内）	昭和43年	—	昭和43年7月吉日に和泉辰之助の奉納で建てられた石製灯籠 1 対。	
10	06	縣社東照宮石柱	和歌山市和歌浦西（境内入口）	大正9年	—	大正9年2月に建てられた石柱。「縣社」の文字は塗りつぶされている。	
10	06	紀州東照宮灯籠	和歌山市和歌浦西（参道西側）	元治2年	—	元治2年4月に朝比奈総左衛門藤原泰達により建てられた石製灯籠1基。	64
10	06	紀州東照宮灯籠	和歌山市和歌浦西（参道西側）	元治2年	—	元治2年4月に有本左門源信任により建てられた石製灯籠1基。	64
10	06	紀州東照宮灯籠	和歌山市和歌浦西（参道西側）		—	昭和11年7月2日に蔭山弘次郎により再建された石製灯籠 1 基。	64
10	06	紀州東照宮境内弁財天社灯籠	和歌山市和歌浦西（参道階段下右）	昭和9年	—	昭和9年3月に和中ナツエにより建てられた灯籠1対。	
10	06	紀州東照宮境内弁財天社手水鉢	和歌山市和歌浦西（参道階段下右）	昭和8年	—	昭和8年10月に西川桂が奉納した手水鉢。	
10	06	紀州東照宮境内弁財天社灯籠	和歌山市和歌浦西（参道階段下右）	昭和8年	—	昭和8年12月に西川氏により建てられた石製灯籠 1 基。	
10	06	紀州東照宮灯籠	和歌山市和歌浦西（本殿前）	大正8年	—	大正8年10月に建てられた石製灯籠1対。石工は中野。保存会役員等の名前が彫られている。	
10	06	紀州東照宮手水鉢（井戸？）	和歌山市和歌浦西（本殿前）	明治8年	—	明治8年4月に士族根来義方により置かれた手水鉢（蓋がされており、井戸の可能性あり？）。	
10	06	建南龍神社記	和歌山市和歌浦西（紀州東照宮山麓）	明治9年	—	明治9年5月徳川茂承撰文、三条実美篆額、一等編修官従五位長茂書、廣羣鶴（広瀬群鶴）刻字の石碑。明治8年南龍神社創建に伴い建立。南龍神社創建経緯や尽力した旧家臣の名等が記す。 http://kenpakunews.blog120.fc2.com/blog-entry-656.html	
10	06	西正寺灯籠	和歌山市和歌浦中（西正寺境内）	大正12年	—	大正12年3月に藤村栄蔵が施主となり建てられた石製灯籠 1 対。「先祖代々」「米栄」の銘。	
10	06	弁財天堂奉納石柱	和歌山市和歌浦中（津屋公園内）		—	建立年不明。「一金貳百円也」の銘。	
10	06	弁財天堂鳥居	和歌山市和歌浦中（津屋公園内）	昭和16年	—	昭和16年12月に津村安太郎が奉納した石製鳥居。	
10	06	妙見堂灯籠	和歌山市和歌浦中（津屋公園内）	大正15年	—	大正15年に建てられた石製灯籠 1 対。	
10	06	養珠寺石柱	和歌山市和歌浦中（境内入口前）		—	妹背山養珠寺の名が書かれた石柱。「南無妙法蓮華經」と大きく書かれている。建立年不明。	
10	06	養珠寺境内頌徳碑	和歌山市和歌浦中（境内）	昭和11年	—	昭和11年8月に建てられた妙智軒日潤慶婆墓、通称橋中要造の石製頌彰碑。	
10	06	玉津島神社前稲荷社灯籠	和歌山市和歌浦中	大正13年	—	大正13年3月に建てられた石製灯籠 1 対。「和光灯」の銘。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	玉津島神社前稲荷社狐像	和歌山市和歌浦中		—	石製の狐像 1 対。楠井理三など奉納者の氏名あり。建立年不明。	
10	06	玉津島神社狢犬	和歌山市和歌浦中	慶応4年	—	慶応4年9月に建てられた石製狢犬 1 対。奉納者の氏名あり。	
10	06	日本一社玉津島神社石柱	和歌山市和歌浦中		—	原正〇が寄附した石柱。「左 東照宮」等の銘あり。	
10	06	玉津島神社灯籠	和歌山市和歌浦中	嘉永3年	—	嘉永3年3月に坂田屋宇兵衛?が奉納した石製灯籠 1 対。	
10	06	貧供山登道石柱	和歌山市和歌浦中 (玉津島神社境内)		—	貧供山登道と書かれた石柱。建立年不明。	
10	06	玉津社石碑	和歌山市和歌浦中 (塩釜神社付近)		—	玉津社と書かれた石碑。建造年不明。	
10	06	奉書写妙法蓮華経石碑	和歌山市和歌浦中 (妹背山)	万延元年	—	万延元年五月十一日に建てたと思われる「奉書写妙法蓮華経」と書かれた石碑。	
10	06	東照宮所有地石柱	和歌山市和歌浦南3丁目8-2		—	空き地端の歩道際に建っている石碑。詳細不明。	
10	06	矢宮神社石柱	和歌山市関戸 (境内)	昭和4年	—	昭和4年7月建立の矢宮神社と書かれた石柱。和歌山県知事野手耐書。彫刻は和歌浦町の池宮。	
10	06	矢宮神社鳥居	和歌山市関戸 (境内)	昭和35年	—	昭和35年2月に建てられた石製鳥居。久保武士石材店 (車庫前) 謹作。	
10	06	矢宮神社奉納石柱	和歌山市関戸 (境内)		—	境内に建てられた「基本財産一金参百圓也」等と書かれた石柱。11基あり。	
10	06	矢宮神社百度石	和歌山市関戸 (境内)		—	建立年等不鮮明につき不明。	
10	06	矢宮神社石柱「紀伊国雑賀庄総社」「紀伊国大社矢宮」	和歌山市関戸 (境内)	昭和47年	—	1 対の石柱。昭和47年1月に西浜の田中清子が建てた。	
10	06	矢宮神社鳥居	和歌山市関戸 (境内)	昭和47年	—	昭和47年4月1日に宮司矢田部弘孝により建てられた石製鳥居。	
10	06	矢宮神社狢犬	和歌山市関戸 (境内)	昭和47年	—	昭和47年1月に建てられた石製狢犬 1 対。久保武士石材店製。	
10	06	矢宮神社手水鉢	和歌山市関戸 (境内)	昭和47年	—	昭和47年6月に奉納された石製手水鉢。	
10	06	矢宮神社狢犬	和歌山市関戸 (境内)	安政6年	—	安政6年に建てられた狢犬 1 対。	
10	06	五百羅漢漢禅寺石柱	和歌山市和歌浦東 (道路沿い)	明治33年	—	明治33年7月に呉服商水野政七により建てられた石柱。	
10	06	鶴立島石碑	和歌山市和歌浦東 (道路沿い)		—	鶴立島と書かれた石碑。五百羅漢漢禅寺石柱のそばにある。	
10	06	南無阿弥陀仏碑	和歌山市和歌浦東 (五百羅漢寺境内)	大正15年	—	蓮光院妙光書の南無阿弥陀仏と書かれた石碑。大正15年10月建立。裏面碑文は三宝院門跡醍醐流管長大僧正亮禪書。石碑前に奉納された小さな灯籠等。	
10	06	奉納石柱	和歌山市和歌浦東 (秋葉大権現堂境内)	昭和	—	「一金壹百圓 中橋筋秋葉講」等と書かれた奉納石柱 2 基。	
10	06	歌姫大神石碑	和歌山市和歌浦東 (秋葉大権現堂境内)	昭和31年	—	昭和31年11月3日に建てられた歌姫大神と書かれた石碑。	
10	06	岩富大神石碑	和歌山市和歌浦東 (秋葉大権現堂境内)	昭和45年	—	昭和45年9月1日に小田富男が建てた石碑。	
10	06	本願寺所有地石柱	和歌山市秋葉町 (秋葉山登り口)		—	秋葉山の登り口に建つ石柱。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	顕如上人桌錫所	和歌山市秋葉町（秋葉山山頂）	明治24年	—	顕如300回忌の明治24年に門徒たちが建立した石碑。この地に顕如が足跡を記したことを意味するものか。石碑付近の看板参照。	
10	06	手水鉢	和歌山市秋葉町（円珠院境内）	嘉永6年	—	「清浄水」と書かれた手水鉢。嘉永6年6月に設置されたもの。	
10	06	志磨神社灯籠	和歌山市中之島（志磨神社境内）	昭和3年	—	昭和3年11月に建てられた石灯籠1対。	
10	06	志磨神社灯籠	和歌山市中之島（志磨神社境内）	大正4年	—	大正4年7月に寄進された石灯籠1対。施主は渡邊綱五郎、福島嘉六郎。	
10	06	村社力侍神社石柱	和歌山市川辺（力侍神社）	昭和3年	—	昭和3年11月に川辺の石田藤次郎により建てられた「村社力侍神社」と書かれた石柱。	
10	06	力侍神社灯籠	和歌山市川辺（力侍神社）	明治	—	明治期に建てられた石製灯籠。	
10	06	力侍神社灯籠	和歌山市川辺（力侍神社）	昭和9年	—	昭和9年に建てられた石製灯籠1対。	
10	06	「大鳥居」奉納石柱	和歌山市川辺（力侍神社）	大正14年	—	大正14年に宮田松太（もう1字あり？）が大鳥居を奉納したことを示す石柱。	
10	06	狐島稲荷神社狛犬	和歌山市狐島北川原（狐島稲荷神社）	昭和17年	—	昭和17年10月に島本牧治によって建てられた石製狛犬1対。	
10	06	石柱	和歌山市狐島北川原（狐島稲荷神社）	昭和7年	—	昭和7年に建てられた石柱。詳細不明。	
10	06	狐島稲荷神社灯籠	和歌山市狐島北川原（狐島稲荷神社）	昭和7年	—	昭和7年に建てられた石製灯籠1対。	
10	06	覚円寺灯籠	和歌山市狐島（覚円寺）	大正5年	—	大正5年12月に建設された石製灯籠1対。	
10	06	極楽寺沿革石碑	和歌山市松江中（極楽寺）	昭和40年	—	昭和40年8月に建てられた寺の沿革を記した石碑。21世瑞晋の記。	
10	06	本堂参道整備石柱	和歌山市松江中（極楽寺）	昭和35年	—	昭和35年2月5日に建てられた本堂参道の整備を行ったことを示す石柱。	
10	06	寂光院灯籠	和歌山市松江中（寂光院）	昭和7年	—	昭和7年8月に寺下惣左衛門の寄付により建設された石製灯籠。	
10	06	一字一石塔	和歌山市松江中（寂光院北側）	嘉永6年	—	嘉永6年に建てられた大乘經典阿弥陀經一字一石塔。	
10	06	春日神社灯籠	和歌山市松江中（春日神社）	明治36年	—	明治36年に在米有志者により建てられた石製灯籠。	
10	06	春日神社注連柱	和歌山市松江中（春日神社）	昭和9年	—	昭和9年11月に正木幸四郎の奉納で建てられた注連柱1対。	
10	06	本遇寺手水鉢	和歌山市土入（本遇寺）	明治38年	—	明治38年2月に新調された手水鉢。石工は松木茂三郎。	
10	06	宇須井原神社灯籠	和歌山市宇須（宇須井原神社）	昭和11年	—	昭和11年1月に豊原町の石井繁・善八によって建てられた石製灯籠1対。	
10	06	宇須井原神社百度石	和歌山市宇須（宇須井原神社）	昭和8年	—	昭和8年12月に建てられた百度石。「諸願成就」と記されている。	
10	06	神明神社玉垣	和歌山市堀止西（神明神社）		—	神明神社玉垣。有本大三郎らの奉納か。	
10	06	神明神社玉垣	和歌山市堀止西（神明神社）	昭和7年	—	昭和7年に改築されたと思われる石垣。昭和7年10月と寄付者氏名が入った名盤が埋め込まれる。	
10	06	神明神社灯籠	和歌山市堀止西（神明神社）	大正14年	—	大正14年5月に今福公道会が建てた石製灯籠。	
10	06	万性寺手水鉢	和歌山市堀止西（万性寺）		—	「洗心」と書かれた手水鉢。「為至誠院菩提 施主 石井智恵子」と刻字あり。	
10	06	幡随意上人終焉之地石碑	和歌山市堀止西（万性寺）	昭和2年	—	昭和2年晩秋に有地久次郎が建立した江戸時代初期の浄土宗の僧幡随意終焉の地であることを示す石碑。	
10	06	阿弥陀寺本堂石柱	和歌山市鳴神（阿弥陀寺）	昭和14年	—	昭和14年3月に建てられた阿弥陀寺本堂と刻字された石柱。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	元大智寺観世音菩薩石柱	和歌山市津秦（津秦天満宮から北西交差点）	明治38年	—	明治38年9月に建てられた元大智寺観世音菩薩と刻字された石柱。	
10	06	南無阿弥陀仏石柱	和歌山市鳴神（地藏庵）	明治44年	—	明治44年3月に建てられた「南無阿弥陀仏」と書かれた石柱。	
10	06	中言神社跡記念碑	和歌山市	大正12年	—	明治41年10月に日前宮境内に合祀前、中言神社がここにあったことを示す石碑。その経緯等が書かれている。	
10	06	〇〇満25年奉祝記念碑	和歌山市津秦（津秦天満宮）	大正14年	—	大正14年5月に建てられた何らかの奉祝記念で建てられた石碑。上部に牛の石像が載っている。	
10	06	津秦天満宮修繕記念碑？	和歌山市津秦（津秦天満宮）		—	津秦天満宮の修繕に関わる記念碑か。	
10	06	津秦天満宮千年祭記念碑	和歌山市津秦（津秦天満宮）	明治29年	—	津秦天満宮の創建千年祭を記念する石碑か。明治29年4月16日に建てられた。裏面に世話人等の記名。	
10	06	同信会員記念碑	和歌山市津秦（津秦天満宮）	大正13年	—	大阪同信会員が津秦天満宮の修築に寄付したことを示す記念碑。社掌古川新五郎謹識。	
10	06	津秦天満宮石柱	和歌山市津秦（津秦天満宮）	大正14年	—	大正14年10月31日に建てられた「津秦天満宮」と書かれた石柱。	
10	06	津秦天満宮鳥居	和歌山市津秦（津秦天満宮、線路近く）	昭和4年	—	昭和4年7月に建てられた津秦天満宮の石製鳥居。金井金市が建てたもの。	
10	06	津秦天満宮鳥居	和歌山市津秦（津秦天満宮）	昭和9年	—	昭和9年2月25日に建てられた津秦天満宮の石製鳥居。	
10	06	鳴神社狛犬	和歌山市鳴神（鳴神社）	昭和4年	—	昭和4年11月に島新次郎が奉納した石製狛犬1対。	
10	06	鳴神社石柱	和歌山市鳴神（鳴神社）	昭和12年	—	昭和12年3月に島新次郎が建てた「式内鳴神社」と書かれた石柱。	
10	06	鳴神社百度石	和歌山市鳴神（鳴神社）	明治9年	—	明治9年に建てられた百度石。	
10	06	鳴神社玉垣	和歌山市鳴神（鳴神社）	大正4年	—	大正4年12月に建てられた石製の玉垣。島新次郎、岡本熊吉が奉納。	
10	06	鳴武神社玉垣	和歌山市鳴神（鳴武神社）	昭和4年	—	昭和4年に建てられた鳴神社境外社鳴武神社の玉垣。	
10	06	法福寺奉納石柱	和歌山市和歌浦中（法福寺）	昭和	—	「金苞百圓」などと書かれた石柱5本。	
10	06	法福寺天水桶	和歌山市和歌浦中（法福寺）		—	詳細不明。施主等の情報が刻字されている。	
10	06	和歌浦蛭子神社鳥居	和歌山市新和歌浦（和歌浦蛭子神社）	昭和3年	—	昭和3年に建てられた石製の鳥居。	
10	06	和歌浦蛭子神社灯籠	和歌山市新和歌浦（和歌浦蛭子神社）	昭和12年	—	昭和12年8月に建てられた石製灯籠1対。和歌浦の高石和太郎等により奉納された。	
10	06	衣美須神社石柱	和歌山市田野（衣美須神社）	昭和34年	—	昭和34年3月に建てられた「衣美須神社」と刻字された石柱。	
10	06	衣美須神社手水鉢	和歌山市田野（衣美須神社）	昭和34年	—	昭和34年3月に奉納された手水鉢。	
10	06	衣美須神社狛犬	和歌山市田野（衣美須神社）	昭和13年	—	昭和13年に建てられた石製狛犬1対。	
10	06	衣美須神社灯籠	和歌山市田野（衣美須神社）	大正2年	—	大正2年に建てられた石製灯籠1対。	
10	06	衣美須神社奉獻石柱	和歌山市田野（衣美須神社）	昭和34年	—	昭和34年の本殿改築等に際し、奉獻したことを示す石柱。	
10	06	衣美須神社狛犬	和歌山市田野（衣美須神社）	昭和34年	—	昭和34年に奉納された石製狛犬1対。	
10	06	衣美須神社本殿修復工事記念石柱	和歌山市田野（衣美須神社）	昭和47年	—	昭和47年5月に宮総代土山良雄等により建てられた石柱。	
10	06	衣美須神社内龍石碑	和歌山市田野（衣美須神社）	昭和34年	—	昭和34年5月に建てられた石碑。龍が彫られている。	
10	06	勸学晃曉院智量和尚	和歌山市雑賀崎（極楽寺）	明治44年	—	明治44年3月26日に建てられた晃曉院智量という僧侶の石碑。極楽寺門徒中が建立。	
10	06	極楽寺井戸	和歌山市雑賀崎（極楽寺）	昭和3年	—	昭和3年10月に作られた井戸。鷹巣山と刻字されている。	
10	06	極楽寺手水鉢	和歌山市雑賀崎（極楽寺）	明治20年	—	明治20年9月に設置された手水鉢。橋本巳之助の寄付。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	衣美須神社献灯	和歌山市雑賀崎（衣美須神社）	昭和36年	—	昭和36年12月に建てられた献灯1対。岩橋栄一奉納。	
10	06	教明寺石段施主の碑	和歌山市寺内（教明寺）	大正7年	—	大正7年8月に建てられた石段の施主を記した石碑。	
10	06	西熊野神社鳥居	和歌山市西（西熊野神社）	明治28年	—	西熊野神社の石製鳥居。	
10	06	「不可入葦酒肉○」石碑	和歌山市寺内（満願寺）		—	「不可入葦酒肉○」と書かれた石碑。	
10	06	浄徳寺天水桶	和歌山市吉礼（浄徳寺）	昭和9年	—	昭和9年5月に施主木村敏雄・妻みねにより設置された天水桶。	
10	06	先祖代々之碑	和歌山市吉礼（日限寺）	大正9年	—	大正9年に建てられた先祖代々の石碑。	
10	06	大峰登山石碑	和歌山市吉礼（日限寺）	昭和24年	—	昭和24年に行者講中により建てられた大峰登山を記念する石碑。	
10	06	都麻津姫神社鳥居	和歌山市吉礼（都麻津姫神社）	昭和14年	—	昭和14年10月に建てられた都麻津姫神社の石製鳥居。奉献者は木村敏雄など。	
10	06	都麻津姫神社灯籠	和歌山市吉礼（都麻津姫神社）	昭和8年	—	昭和8年に木村敏雄により建てられた石製灯籠1対。	
10	06	都麻津姫神社百度石	和歌山市吉礼（都麻津姫神社）	明治～	—	明治に建てられた百度石。	
10	06	蓮如上人御旧跡石碑	和歌山市永徳（永正寺）		—	「紀国真宗最初門 蓮如上人御舊跡 永正寺」と書かれた石碑。	
10	06	正福寺天水桶	和歌山市西田井（正福寺）	大正9年	—	大正9年3月6日に施主佐々木紀綱により設置された天水桶。	
10	06	大屋都姫神社石柱	和歌山市宇田森（大屋都姫神社）	昭和12年	—	大屋都姫神社と書かれた石柱。昭和12年8月に建てられた石柱。	
10	06	大屋都姫神社灯籠	和歌山市宇田森（大屋都姫神社）	明治23年	—	明治23年8月に建てられた石製灯籠1対。	
10	06	大屋都姫神社灯籠	和歌山市宇田森（大屋都姫神社）	大正9年	—	大正9年3月6日に施主佐々木紀綱により建てられた石製灯籠。	
10	06	永善寺本堂庫裏竣成記念碑	和歌山市湊（永善寺）	昭和46年	—	昭和46年3月に法然上人浄土開宗八百年、上圓下通禅師角虎開山三百年記念に本堂・庫裏竣成の記念碑。	
10	06	利益院井桁	和歌山市湊（利益院）	明治39年	—	明治39年正月24日に津田普吉らから奉納された井桁。	
10	06	利益院八大龍王・王宮龍王石碑	和歌山市湊（利益院）		—		
10	06	利益院百度石	和歌山市湊（利益院）	明治39年	—	明治39年9月に建てられた百度石。	
10	06	湊神社石柱	和歌山市湊（湊神社）	昭和12年	—	昭和12年1月に建てられた湊神社と書かれた石柱。	
10	06	若宮八幡神社手水鉢	和歌山市紀三井寺（若宮八幡神社）	明治12年	—	明治12年に設置された手水鉢。洗信と書かれている。	
10	06	報恩講寺南無阿弥陀仏石柱	和歌山市大川（報恩講寺）	大正7年	—	大正7年9月15日に山崎庄平謹書により建てられた石柱。	
10	06	圓光大師御遠○石柱	和歌山市大川（報恩講寺）	安政4年	—	安政4年10月に建てられた石柱。	
10	06	報恩講寺奉納石柱	和歌山市大川（報恩講寺）	昭和	—	「金式百圓也」等と書かれた石柱6本。	
10	06	報恩講寺南無阿弥陀仏石柱	和歌山市大川（報恩講寺）	安政2年	—	安政2年10月にたてられた南無阿弥陀仏と書かれた石柱。	
10	06	報恩講寺石台	和歌山市大川（報恩講寺）	昭和4年	—	昭和4年3月25日に施主小寺留吉等が設置した石台。上部に文化の銘のある銅製の置物がある。	
10	06	大川八幡神社奉納石柱	和歌山市大川（大川八幡神社）	大正	—	「金壹百円也」等と書かれた石柱4本。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	大川八幡神社狛犬	和歌山市大川（大川八幡神社）	嘉永5年	—	嘉永5年に建てられた石製狛犬1対。	
10	06	日吉神社手水鉢	和歌山市深山（日吉神社）	明治12年	—	明治12年に設置された日吉神社手水鉢。	
10	06	日吉神社狛犬	和歌山市深山（日吉神社）	嘉永6年	—	嘉永6年に建てられた石製狛犬1対。	
10	06	日吉神社灯籠	和歌山市深山（日吉神社）	明治31年	—	明治31年に建てられた石製灯籠1対。	
10	06	日吉神社本殿前石柱	和歌山市深山（日吉神社）	大正4年	—	大正4年11月10日に建てられた石柱1対。	
10	06	武内神社標柱	和歌山市松原（武内神社）	昭和42年	—	昭和42年12月に建てられた武内神社と書かれた石柱。	
10	06	武内宿禰誕生所石碑	和歌山市松原（武内神社）		—	「武内宿禰誕生所」と記した石碑。	
10	06	武内宿禰誕生の井戸	和歌山市松原（武内神社）		—	武内宿禰が誕生したとされる井戸。	
10	06	金光教教徒信徒祖神霊塚	和歌山市今福（今福共同墓地）	大正8年	—	大正8年3月に建てられた金光教の神霊塚。倉田績の書。	
10	06	「南無阿弥陀仏」石碑	和歌山市加太1761付近（岬加太港縁沿い）	嘉永2年	—	嘉永2年5月建立の「南無阿弥陀仏」と刻字された石碑。側に昭和50年代の三代目畔仁右衛門碑がある。	
10	06	常行寺奉納石柱	和歌山市加太（常行寺）	昭和	—	「金参百圓」等と書かれた石柱3本。	
10	06	常行寺手水鉢	和歌山市加太（常行寺）	明治35年	—	明治35年2月に坂口庄治郎から奉納された手水鉢。	
10	06	春日神社標柱	和歌山市加太（春日神社）	昭和8年	—	昭和8年11月に名古屋の湊○栄太郎が建立した「社殿国寶 春日神社」と書かれた石柱。	
10	06	春日神社鳥居	和歌山市加太（春日神社）	昭和9年	—	昭和9年3月に津村源十郎・妻むらにより建てられた石製鳥居。	
10	06	春日神社参道敷石奉獻石碑	和歌山市加太（春日神社）		—	富美安之助が参道敷石を奉獻したことを示す石碑。	
10	06	春日神社注連柱	和歌山市加太（春日神社）	大正4年	—	大正4年4月に利光小三郎により建てられた注連柱1対。	
10	06	春日神社狛犬	和歌山市加太（春日神社）	嘉永6年	—	嘉永6年に建てられた石製の狛犬1対。	
10	06	春日神社玉垣	和歌山市加太（春日神社）		—	大正3年創建の石製玉垣。現在は平成御大典記念で改修されている。	
10	06	稱念寺天水桶	和歌山市加太（稱念寺）	明治41年	—	明治41年6月に施主原庄次郎により設置された天水桶。	
10	06	阿弥陀寺奉納石柱	和歌山市加太（阿弥陀寺）	大正	—	「一金壹百円也」等と書かれた石柱3本。	
10	06	阿弥陀寺手水鉢	和歌山市加太（阿弥陀寺）	文久3年	—	文久3年に設置された手水鉢。「清水」と刻字されている。	
10	06	役行者堂石碑	和歌山市加太（役行者堂寄り口）		—	建立年不明。「神変大菩薩御修行古跡 役行者堂 大本山聖護院門跡大僧正運暲」の刻字。裏面に発起人。加太山上講中による建立。	
10	06	阿字ヶ峰 眺望絶勝之地石柱	和歌山市加太（役行者堂登道）		—	「阿字ヶ峰眺望絶勝之地」と書かれた石柱。	
10	06	役行者堂手水鉢	和歌山市加太（役行者堂登道）	慶応元年	—	慶応元年5月に設置された手水鉢。	
10	06	加太淡嶋神社標柱	和歌山市加太（淡嶋神社）	明治42年	—	明治42年1月に建てられた淡嶋神社の標柱。場所や境内地の広さ等も書かれている。	
10	06	「国の鎮」石柱	和歌山市加太（淡嶋神社）	大正14年	—	大正14年秋に建てられた「国の鎮」と刻字された石柱。	
10	06	淡嶋神社灯籠	和歌山市加太（淡嶋神社）	大正6年	—	大正6年4月に建てられた石製灯籠1基。	
10	06	淡嶋神社蛙銅像	和歌山市加太（淡嶋神社）	昭和25年	—	昭和25年3月に設置の蛙の銅像。口から水が出る仕組み。木村種松が奉納したもの。	
10	06	紀文稲荷社石碑	和歌山市加太（淡嶋神社）		—	淡嶋神社境内にある、紀文稲荷社と書かれた石碑。	
10	06	淡嶋神社灯籠	和歌山市加太（淡嶋神社）	明治36年	—	明治36年5月に建てられた石製灯籠1基。	
10	06	淡嶋神社灯籠	和歌山市加太（淡嶋神社）	明治38年	—	明治38年7月に建てられた石製灯籠1基。	
10	06	淡嶋神社灯籠	和歌山市加太（淡嶋神社）		—	備前国生まれ○○○○が建てた石製灯籠1基。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	淡嶋神社灯籠	和歌山市加太（淡嶋神社）	大正元年	—	大正元年に建てられた石製灯籠1基。	
10	06	南無阿弥陀仏石碑	和歌山市西庄（紀泉入会林野整理解消記念碑付近）		—	紀泉入会林野整理解消記念碑付近に倒れている石碑。「南無阿」まで読み取れるが、他は欠損か。	
10	06	不動明王像	和歌山市十三番丁	昭和34年	—	昭和34年に交通安全祈願のために建てられた不動明王像。2020年10月に和歌山市元寺町の高野寺に移設。	
10	06	若宮神社手水鉢	和歌山市古屋（若宮神社）	明治39年	—	明治39年1月に設置された手水鉢。奉納者の氏名が刻まれている。	
10	06	若宮神社灯籠	和歌山市古屋（若宮神社）	明治4年	—	明治4年3月に建てられた石製灯籠。	
10	06	正立寺天水桶	和歌山市古屋（正立寺）	大正5年	—	大正5年10月に設置された天水桶。寶來山と刻まれている。	
10	06	石材寄附石碑	和歌山市古屋（正立寺）	明治23年	—	明治23年3月に建てられた石材を寄附したことを示す石碑。寄附者の氏名等が示されている。	
10	06	石類寄附石碑	和歌山市古屋（正立寺）		—	石類を周旋人中村音楠が寄附したことを示す石碑。	
10	06	万福寺天水桶	和歌山市古屋（松江西）	明治32年	—	明治32年4月に設置された天水桶1基。「松江山」と書かれている。	
10	06	万福寺灯籠	和歌山市古屋（松江西）	明治32年	—	石灯籠1基。	
10	06	朝棕神社標柱	和歌山市鷺ノ森明神丁（朝棕神社）	昭和32年	—		
10	06	朝棕神社鳥居	和歌山市鷺ノ森明神丁（朝棕神社）	昭和31年	—	昭和3年に建てられたものを昭和31年に再建。	
10	06	朝棕神社灯籠	和歌山市鷺ノ森明神丁（朝棕神社）	昭和4年	—	石製灯籠1基。	
10	06	朝棕神社狛犬	和歌山市鷺ノ森明神丁（朝棕神社）	昭和36年	—	石製狛犬一対。創業500年記念で駿河屋が奉納したもの。	
10	06	朝棕神社百度石	和歌山市鷺ノ森明神丁（朝棕神社）	昭和34年	—	昭和34年7月設置。	
10	06	称名寺奉納石柱	和歌山市鷺森（称名寺）		—	「一金六百圓也」等と書かれた石柱13本。	
10	06	鷺森別院庭園	和歌山市鷺森（鷺森別院）		—	和歌山空襲で焼失した本堂の礎石を用いて造園。平成6年完成の本堂建築工事の際に出土した石。	
10	06	正壽院手水鉢	和歌山市東鍛冶屋町（正壽院）		—	側面に坂井庄次郎等の名前あり。	
10	06	安養寺標柱	和歌山市道場町（安養寺）		—		
10	06	安養寺鳥居	和歌山市道場町（安養寺）	明治13年	—		
10	06	安養寺狛犬	和歌山市道場町（安養寺）	明治20年	—	石製狛犬1対。	
10	06	大日本神社仏閣巡拝記念碑	和歌山市道場町（安養寺）	大正15年	—	植民地も含めた神社仏閣を土岐熊吉が巡拝した記念で建設された碑。	
10	06	正清院殿御火葬之跡	和歌山市男野芝丁（吹上寺）		—	徳川家康の娘で、浅野長晟の正室である正清院がここで火葬されたことを示す石碑。	
10	06	善能寺奉納石柱	和歌山市道場町（善能寺）		—	「一金壹百圓也」と書かれた石柱数本。	
10	06	水門吹上神社百度石	和歌山市小野町（水門吹上神社内）	昭和9年	—		
10	06	水門吹上神社奉納石碑	和歌山市小野町（水門吹上神社内）		—	百度石や錦旗等を石川政吉が奉納したことを示す石碑。	
10	06	水門吹上神社狛犬	和歌山市小野町（水門吹上神社内）	昭和10年	—	狛犬1対。津田清一郎の奉納か。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	浄源寺奉納石柱	和歌山市北島 (浄源寺)		—	「金壹百圓也」等と書かれた石柱。	
10	06	浄源寺泉浄水	和歌山市北島 (浄源寺)	昭和41年	—	「一紀〇人記念」でつくられた手洗い場。	
10	06	住吉神社百度石	和歌山市北島 (住吉神社)	昭和39年	—		
10	06	住吉神社奉納石柱	和歌山市北島 (住吉神社)		—	「金壹百圓也」等と書かれた石柱10本以上。	
10	06	住吉神社鳥居	和歌山市北島 (住吉神社)	大正元年	—		
10	06	住吉神社狛犬	和歌山市北島 (住吉神社)	昭和39年	—	狛犬1対。	
10	06	永禪寺本堂裏竣成記念碑	和歌山市湊 (永禪寺)	昭和46年	—		
10	06	釋 濤後居士之碑	和歌山市湊 (永禪寺)	大正3年	—	「十代佐平行歳九十歳」とあり。	
10	06	郷社伊達神社石碑	和歌山市園部 (伊達神社)		—	神社名を記した石碑。	
10	06	伊達神社鳥居	和歌山市園部 (伊達神社)	大正7年	—		
10	06	伊達神社鳥居	和歌山市園部 (伊達神社)	大正7年	—	石製灯籠1基。	
10	06	射矢止神社標柱	和歌山市六十谷 (射矢止神社)	大正4年	—		
10	06	丹生神社標柱	和歌山市直川 (丹生神社)	大正6年	—		
10	06	宗祖法然上人七百五十年大遠忌記念石碑	和歌山市六十谷 (法然寺)	昭和36年	—		
10	06	法然寺尾崎庚申堂	和歌山市六十谷 (法然寺)	昭和41年	—		
10	06	正円寺標柱	和歌山市西庄 (正円寺)	昭和45年	—		
10	06	正円寺門前敷石奉納石柱	和歌山市西庄 (正円寺)	昭和8年	—	門前の敷石を奉納したことを示す石柱。	
10	06	正円寺手水鉢	和歌山市西庄 (正円寺)	大正10年	—	花王が奉納した手水鉢。「清浄水」と刻字あり。	
10	06	正円寺天水桶	和歌山市西庄 (正円寺)	大正15年	—	天水桶 1 対。施主岩橋家。	
10	06	西念寺奉納石柱	和歌山市西庄 (西念寺)		—	「一金壹百圓也」等と書かれた石柱。	
10	06	西念寺天水桶	和歌山市西庄 (西念寺)	昭和40年	—	天水桶 1 対。施主西本古雄。	
10	06	西念寺花入	和歌山市西庄 (西念寺)	昭和18年	—		
10	06	西念寺用水	和歌山市西庄 (西念寺)		—		
10	06	射箭頭八幡神社狛犬	和歌山市本脇 (射箭頭八幡神社)		—	石製狛犬 1 対。	
10	06	射箭頭八幡神社灯籠	和歌山市本脇 (射箭頭八幡神社)	昭和4年	—	石製灯籠 1 対。	
10	06	射箭頭八幡神社標柱	和歌山市本脇 (射箭頭八幡神社)	昭和3年	—		
10	06	八幡神社手水鉢奉納石柱	和歌山市本脇 (射箭頭八幡神社)	昭和44年	—	手水鉢を奉納したことを示す石柱か。	
10	06	磯脇八幡神社灯籠	和歌山市磯の浦 (磯脇八幡神社)	明治44年	—	灯籠 1 対。	
10	06	磯脇八幡神社狛犬	和歌山市磯の浦 (磯脇八幡神社)	昭和2年	—		
10	06	木本八幡宮灯籠	和歌山市西庄 (木本八幡宮)	明治33年	—	灯籠 1 対。	
10	06	墓地整理記念標	和歌山市木ノ本西三か寺共同墓地	昭和12年	—		

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	大年神社狛犬	和歌山市梅原 (大年神社)	明治	—	狛犬 1 対。	
10	06	大年神社灯籠	和歌山市梅原 (大年神社)	明治?	—	灯籠 1 対	
10	06	大年神社灯籠	和歌山市梅原 (大年神社)	明治35年	—	灯籠 1 基。宮本政之助奉納。ねじれている。	
10	06	大年神社寄贈石柱	和歌山市梅原 (大年神社)		—	寄贈湯川公二と書かれた石柱。	
10	06	大年神社手水鉢	和歌山市梅原 (大年神社)	明治32年	—		
10	06	大年神社標柱	和歌山市梅原 (大年神社)		—		
10	06	明信房宗慶師碑	和歌山市木ノ本 (墓地)	明治36年	—	裏面に在米寄附人名が載っている。	
10	06	姫神社鳥居	和歌山市榎原 (姫神社)	明治39年	—		
10	06	光笑院泰円碑	和歌山市榎原 (西往寺)	明治41年	—		
10	06	妙見宮石造物	和歌山市藤田 (妙見宮)	明治3年	—		
10	06	力侍神社奉納石柱	和歌山市川辺 (力侍神社)	大正14年	—	大鳥居を奉納したことを示す石柱。	
10	06	力侍神社狛犬	和歌山市川辺 (力侍神社)	明治44年	—	狛犬 1 対。	
10	06	力侍神社標柱	和歌山市川辺 (力侍神社)	昭和13年	—		
10	06	大峰登山五十度供養碑	和歌山市六十谷 (本恵寺)	昭和10年	—		
10	06	八幡神社鳥居	和歌山市野崎 (八幡神社)	昭和12年	—		
10	06	八幡神社〇〇大神	和歌山市野崎 (八幡神社)	昭和3年	—		
10	06	八幡神社百度石	和歌山市野崎 (八幡神社)	昭和48年	—		
10	06	光源寺標柱	和歌山市福島 (光源寺)	昭和48年	—		
10	06	光源寺奉納石柱	和歌山市福島 (光源寺)		—	「一金壹百圓也」等と書かれた石柱 3 本。	
10	06	光源寺井戸枠	和歌山市福島 (光源寺)		—	施主嶋村専〇〇	
10	06	南無阿弥陀仏石碑	和歌山市福島 (光源寺)	明治33年	—		
10	06	九頭神社鳥居	和歌山市福島 (九頭神社)	昭和31年	—	金属製の鳥居。	
10	06	九頭神社百度石	和歌山市福島 (九頭神社)	昭和48年	—		
10	06	九頭神社手水鉢	和歌山市福島 (九頭神社)	明治2年	—		
10	06	善導寺奉納石柱	和歌山市福島 (善導寺)		—	「一金壹百圓也」等と書かれた石柱 5 本。	
10	06	後奈良天皇・正親町天皇勅願所石柱	和歌山市梶取 (総持寺)	大正元年	—		
10	06	総持寺歌碑	和歌山市梶取 (総持寺)	昭和28年	—		
10	06	総持寺灯籠	和歌山市梶取 (総持寺)	安政6年	—	石灯籠 1 対。	
10	06	梶取住吉神社手水鉢	和歌山市梶取		—	梶取村と刻字。	
10	06	梶取住吉神社灯籠	和歌山市梶取		—	灯籠 1 対。	
10	06	〇〇寺移転記念碑	和歌山市梶取 (深崇寺)		—		
10	06	常福寺奉納石柱	和歌山市梶取 (常福寺)		—	「一金壹百圓也」等と書かれた石柱 1 本。	
10	06	圓藏院標柱	和歌山市南相生 (圓藏院)	昭和38年	—	施主岩橋嘉一郎。	
10	06	宇治神社禁殺生石碑	和歌山市新魚町 (宇治神社)		—	石碑の経緯として宇治神社境内にあった照光院が別当寺としてあり、神仏分離令までとにもあったことを示す。	
10	06	若宮八幡神社營繕竣工記念碑	和歌山市有本	大正15年	—	表面には神社の由来等が記されている。	
10	06	若宮八幡宮標柱	和歌山市有本	昭和34年	—	和歌山市長高垣善一が奉納。	
10	06	若宮八幡宮猿石造物	和歌山市有本	昭和	—		
10	06	若宮八幡宮鳥居	和歌山市有本	昭和34年	—	高垣良一奉納。	
10	06	真光寺灯籠	和歌山市打越町 (真光寺)	昭和10年	—	石製灯籠 1 対。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	真光寺灯籠	和歌山市打越町（真光寺）	昭和12年	—	石製灯籠1対。	
10	06	南無阿弥陀仏石柱	和歌山市寺町（恵運寺）	大正6年	—	山崎庄平謹書及び建立。	
10	06	和歌山西国第十番恵運寺石柱	和歌山市寺町（恵運寺）	昭和3年	—		
10	06	和歌山西国如意輪観音三光寺石柱	和歌山市寺町（三光寺）	昭和3年	—		
10	06	刺田比古神社灯籠	和歌山市片岡町	安政3年	—	石製灯籠1基。	
10	06	刺田比古神社灯籠	和歌山市片岡町	昭和3年	—	石製灯籠1基。	
10	06	刺田比古神社鳥居	和歌山市片岡町	昭和34年	—		
10	06	刺田比古神社鳥居	和歌山市片岡町	昭和9年	—		
10	06	刺田比古神社玉垣	和歌山市片岡町	昭和4年	—		
10	06	国宝古堂保存金寄附各家記念石	和歌山市片岡町（松生院）	大正3年	—		
10	06	松生院灯籠	和歌山市片岡町（松生院）	明治37年	—	石灯籠1対。	
10	06	松生院狛犬	和歌山市片岡町（松生院）	大正4年	—	1基。	
10	06	松生院石製暹羅塔	和歌山市片岡町（松生院）	大正2年	—		
10	06	松生院七言絶句石碑	和歌山市片岡町（松生院）		—	「題古堂 七十翁石雨」とあり。	
10	06	和歌山西国第五番禅林寺石柱	和歌山市鷹匠町（禅林寺）	昭和3年	—		
10	06	浦上キリシタシ合葬墓	和歌山市鷹匠町（禅林寺）	昭和2年	—		
10	06	花道岡田松雲院先生ノ墓 石柱	和歌山市吹上（窓誉寺）	昭和6年	—	境内にあることを示す石柱。	
10	06	和歌山西国第九番窓誉寺石柱	和歌山市吹上（窓誉寺）	昭和3年	—		
10	06	大阪妙勇講之内道路寄附者石碑	和歌山市吹上（報恩寺）	大正8年	—		
10	06	宗祖大靈五十遠忌記念碑	和歌山市吹上（本光寺）	昭和6年	—		
10	06	南無妙法蓮華経石柱	和歌山市吹上（本光寺）	昭和46年	—		
10	06	当山本堂山門改築記念碑	和歌山市鷹匠町（延命院）	昭和15年	—		
10	06	導者大野房之助碑	和歌山市鷹匠町（延命院）	昭和4年	—		
10	06	南無妙法蓮華経石碑	和歌山市宇須（淨心寺）		—		
10	06	和歌山西国第七番大泉寺石柱	和歌山市吹上（大泉寺）		—		
10	06	地蔵寺手水鉢	和歌山市園部（地藏寺）		—	側面に施主の名が刻まれている。	
10	06	青石石碑	和歌山市（鳴滝不動尊）		—	表面碑文刻まれているが、詳細不明。	
10	06	彰徳碑	和歌山市（鳴滝不動尊）	昭和15年	—	詳細不明。末廣講建立か。	
10	06	報恩記念 長谷栄蔵之碑	和歌山市（鳴滝不動尊）	大正15年	—	和歌山商業会議所長の碑。	
10	06	鳴滝不動尊奉納石柱	和歌山市（鳴滝不動尊）		—	「一金巻百圓也」等と書かれた石柱11本。御滝階段修繕壹拾芳名。	
10	06	鳴滝不動尊奉納石柱	和歌山市（鳴滝不動尊）		—	不動弁天両堂修繕寄附芳名。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	鳴滝不動尊牌	和歌山市 (鳴滝不動尊)	安政5年	—		
10	06	鳴滝不動尊灯籠	和歌山市 (鳴滝不動尊)		—	灯籠 1 対。古金店中奉納。	
10	06	鳴滝不動尊石製台	和歌山市 (鳴滝不動尊)	昭和27年	—	〇〇親交会設置。	
10	06	白瀧大神石碑	和歌山市 (鳴滝不動尊)	昭和36年	—	米田伝吉奉納。	
10	06	乗力大神・栗一大明神・瀧姫大明神石碑	和歌山市 (鳴滝不動尊)		—		
10	06	正一位白金稻荷大明神石柱	和歌山市 (鳴滝不動尊)	昭和11年	—		
10	06	御瀧階段修繕記念碑	和歌山市 (鳴滝不動尊)	大正13年	—		
10	06	鳴滝不動尊石碑	和歌山市 (鳴滝不動尊)		—	藤田機械工作所藤田宗一の奉納か。	
10	06	黒身大神石碑	和歌山市 (鳴滝不動尊)		—		
10	06	高橋稲荷大明神・白良大神石碑	和歌山市 (鳴滝不動尊)		—		
10	06	豊敬稲荷大明神・豊姫稲荷大明神等石碑	和歌山市 (鳴滝不動尊)	昭和7年	—	藤田宗一建立。	
10	06	弘法大師御生誕千二百年記念祭石碑	和歌山市直川 (出世不動明王)	昭和48年	—	神変大教会信徒一同設置。	
10	06	初代役員各石柱	和歌山市直川 (出世不動明王)	昭和33年	—	初代役員名が刻字された石柱。	
10	06	八幡神社灯籠	和歌山市府中 (八幡神社)	明治	—	石製灯籠 1 対。	
10	06	感通寺奉納石柱	和歌山市弘西 (感通寺)		—	「一金壹百圓也」等と書かれた石柱2本。	
10	06	音〇〇〇童子石碑	和歌山市 (府中・今滝付近?)	明治13年	—		
10	06	当院祖先累代之墓	和歌山市山口西 (覚善寺)	昭和10年	—	覚善寺住職の累代の墓か。	
10	06	西方寺手水鉢	和歌山市山口西 (西方寺)	大正5年	—		
10	06	村社八王子白山神社跡地石碑	和歌山市北別所	昭和42年	—		
10	06	祇園寺鳥居	和歌山市上黒谷 (祇園寺)	明治13年	—		
10	06	祇園寺石碑	和歌山市上黒谷 (祇園寺)	大正	—	詳細不明。発起人名が書かれている。	
10	06	祇園寺花入	和歌山市上黒谷 (祇園寺)	明治	—	本堂前にある石製の花入。	
10	06	妙見堂灯籠	和歌山市上黒谷 (妙見堂)	明治	—	石製灯籠 1 対。	
10	06	山口神社灯籠	和歌山市谷 (山口神社)	昭和8年	—		
10	06	山口神社百度石	和歌山市谷 (山口神社)	大正11年	—		
10	06	山口神社手水鉢	和歌山市谷 (山口神社)	明治39年	—		
10	06	山口神社増築記念石碑	和歌山市谷 (山口神社)	大正3年	—		
10	06	山口神社狛犬	和歌山市谷 (山口神社)	明治39年	—	狛犬 1 対。	
10	06	山口神社大鳥居再建石碑	和歌山市谷 (山口神社)		—	大鳥居再建寄附者氏名等を記した石碑 2 基。	
10	06	葛城霊場三之宿行所玉垣	和歌山市 (葛城霊場三之宿行所)	昭和11年	—	大鳥居と書かれている。	
10	06	葛城霊場三之宿行所灯籠	和歌山市 (葛城霊場三之宿行所)	明治	—	石製灯籠 1 対	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	葛城霊場三之宿行所灯籠	和歌山市 (葛城霊場三之宿行所)	明治34年	—	石製灯籠 1 基	
10	06	圓連社戒誓上人○○石碑	和歌山市 (葛城霊場三之宿行所)	大正8年	—		
10	06	安養寺奉納石柱	和歌山市福宜		—	「一金壹百圓也」等と書かれた石柱3本。	
10	06	歡喜寺奉納石柱	和歌山市福宜		—	「一金壹百圓也」等と書かれた石柱1本。	
10	06	高積神社社殿改築寄附芳名石碑	和歌山市福宜	昭和40年	—		
10	06	高積神社改修記念石碑	和歌山市福宜	昭和40年	—		
10	06	高積神社百度石	和歌山市福宜	昭和	—		
10	06	高積神社鳥居奉納石柱	和歌山市福宜	昭和49年	—	鳥居を奉納したことを示す石柱。	
10	06	高積神社奉納石柱	和歌山市福宜		—	「一金壹百圓也」等と書かれた石柱複数本。松下幸之助が20万円寄附したことを示す石碑もある。	
10	06	高積神社灯籠	和歌山市福宜	明治	—	灯籠 1 対。	
10	06	高橋神社御営繕記念石柱	和歌山市福宜	昭和8年	—	神社の営繕を行った際の寄付金額及び名前を示した石柱数本。	
10	06	高橋神社灯籠	和歌山市岩橋		—	石製灯籠 1 対。	
10	06	高橋神社灯籠	和歌山市岩橋	明治41年	—	石製灯籠 1 基。	
10	06	丹生神社灯籠	和歌山市栗栖	明治24年	—	石製灯籠 1 基。丹生大明神と書かれている。	
10	06	丹生神社百度石	和歌山市栗栖	明治24年	—	「一金壹百圓也」等と書かれた石柱 4 本。	
10	06	丹生神社奉納石柱	和歌山市栗栖		—		
10	06	浄土寺灯籠	和歌山市栗栖	明治13年	—	石製灯籠 1 基。	
10	06	浄土寺奉納石柱	和歌山市栗栖		—	「一金壹百圓也」等と書かれた石柱複数本。	
10	06	南無阿弥陀仏石碑	和歌山市栗栖 (西栗栖会館付近)	明治24年	—		
10	06	高倉寺灯籠	和歌山市栗栖 (高倉寺)	昭和5年	—	石製灯籠 1 基。	
10	06	高倉寺奉納石柱	和歌山市栗栖 (高倉寺)		—	「一金貳百圓也」等と書かれた石柱 1 本。	
10	06	光供養塔	和歌山市栗栖 (教蓮寺南)		—		
10	06	光供養塔関連灯籠	和歌山市栗栖 (教蓮寺南)	明治	—		
10	06	石碑	和歌山市栗栖 (教蓮寺)	明治44年	—	緑泥片岩。修復跡があり、碑の詳細不明。	
10	06	神秀山灯籠	和歌山市岩橋 (金龍大神、神秀山)	昭和38年	—	石製灯籠 1 対。	
10	06	神秀山鳥居	和歌山市岩橋 (金龍大神、神秀山)	昭和38年	—		
10	06	神秀山狛犬	和歌山市岩橋 (金龍大神、神秀山)		—		
10	06	神秀山祠	和歌山市岩橋 (金龍大神、神秀山)	昭和39年	—		
10	06	神秀山地蔵祠	和歌山市岩橋 (金龍大神、神秀山)	昭和38年	—		
10	06	神秀山灯籠	和歌山市岩橋 (金龍大神、神秀山)	昭和38年	—	林慶子奉納。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	神秀山六地蔵標柱	和歌山市岩橋（金龍大神、神秀山）	昭和38年	—		
10	06	奉納石柱	和歌山市下和佐（元享寺付近神社）		—	「一金式五拾圓也」等と書かれた石柱1本。	
10	06	石製灯籠	和歌山市下和佐（元享寺付近神社）	明治38年	—		
10	06	大日山標柱	和歌山市井辺（大日堂）	昭和4年	—		
10	06	大日堂記念台座	和歌山市井辺（大日堂）	明治	—	何の記念か不明だが、人名が列挙され、大先達維賀仙二郎の名が刻まれている。	
10	06	不動尊寄進石碑	和歌山市井辺（大日堂）	大正12年	—		
10	06	西国三十三度満就記念碑	和歌山市井辺（大日堂）	明治22年	—		
10	06	正願寺墓地建設記念碑	和歌山市鳴神（正願寺墓地）	昭和48年	—	阪和高速道路開通に伴い花山墓地を移転し、新たに正願寺墓地を建設。	
10	06	正願寺敷石施主石碑	和歌山市鳴神（正願寺）		—	敷石施主若中の名が刻まれている。	
10	06	正願寺天水桶	和歌山市鳴神（正願寺）	明治43年	—	天水桶1対。	
10	06	正願寺奉納石柱	和歌山市鳴神（正願寺）	昭和14年	—	「一金式百圓也」等と書かれた石柱1本。	
10	07	史蹟鳴神貝塚石柱	和歌山市	昭和6年	—	昭和6年の史跡指定に伴い設置された石柱。	
10	07	史蹟和歌山城石柱	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	昭和6年	—	昭和6年3月30日の史跡指定を示す石碑。勘定門跡・大手門・岡口門・不明門跡・追廻門付近に計5基。昭和6年12月建設。	
10	07	和歌山城沿革石碑	和歌山市一番丁（和歌山城公園天守二の門下）	昭和33年	—	昭和33年10月建立の和歌山城の沿革が記された石碑。戦後の天守再建前の沿革を記す。天守再建を施工した奥村組が寄贈。	
10	07	伏虎像	和歌山市一番丁（和歌山城公園内）	昭和34年	—	和歌山城別名「虎伏山竹垣城」にちなむ像。檀守神社信者一同寄贈（公園台帳）。昭和34年と和歌山市長高垣善一の名の名盤。戦前の虎の立姿銅像は昭和17年金属供出でなくなる。	
10	07	望海楼遺址碑	和歌山市和歌浦中（奠供山山上）	文化10年	—	石碑は文化10年3月徳川治宝の命で望海楼の所在地を考証させた上で建立。明治33年4月明治天皇が連合艦隊を率いて和歌浦湾来泊時にお召艦から望見できるよう現在地に移転。	
10	07	「鷹ノ巣」石柱	和歌山市雑賀崎（雑賀崎灯台）	昭和14年	—	昭和14年和歌山市が建てた「鷹ノ巣」と刻字された石柱。一面に鷹ノ巣の説明文が刻字。	
10	07	妙見山内和歌山県石柱	和歌山市和歌浦中（津屋公園内）		—	詳細不明。「和歌山縣」の銘あり。	
10	07	古屋共同墓地内石柱	和歌山市（古屋共同墓地）	大正11年	—	大正11年12月設置。	
10	07	灰跡石碑	和歌山市湊（山川寺）		—		
10	07	石碑	和歌山市吹上（密峯寺）	明治44年	—		
10	07	電柱？	和歌山市（木本八幡宮付近公園）	昭和37年	—	電柱？昭和37年に建てたことを記す石柱あり。	
10	07	仁井田好古二行書磨崖碑	和歌山市岡山丁（岡公園）		—	儒学者仁井田好古の二行書「山寿仁人徳 水清廉士風」の磨崖碑。年代不明。田中敬忠の岡公園の文章で元治元年紀州藩土堀内信が庭園縦覧時、磨崖碑と伊藤蘭嶠の磨崖碑があったとされる。	29
10	07	川合小梅筆塚	和歌山市吉田（法輪寺）		—	江戸後期から明治前期まで、長期にわたる日記が残されていることが知られる川合小梅の筆塚。	
10	07	畔田先生之碑	和歌山市吹上（大泉寺）	昭和4年	—	吉田彦一篆額、多紀仁撰文。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	07	畔田翠山先生墓石柱	和歌山市吹上（大泉寺）	昭和4年	—	墓があることを示す石碑。	
10	07	伊藤周峰先生之碑	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治38年	—	明治38年12月に門生により建てられた儒学者伊藤周峰の石碑。儒学者伊藤蘭嶋の第5世。	
10	07	磨崖碑「昇仙」	和歌山市岡山丁（岡公園）	大正3年	—	倉田績が書いた「昇仙」の文字の磨崖碑。「何庵八十八翁績書」とあり倉田績が米寿88歳の時（大正3年）のもの。	
10	07	登龍齋岡田松雲謹詠石碑	和歌山市和歌浦中（塩釜神社付近）	大正4年	—	大正4年10月に建てられた岡田松雲に関する石碑。倉田績書。	
10	07	岸新作記念之碑	和歌山市和歌浦中（塩釜神社付近）		—	建立年不明の岸新作の碑。明治26年に亡くなっているためそれ以降に建立。徳川茂承篆額、三浦権五郎撰文、倉田績書。	
10	07	柳下先生之碑	和歌山市和歌浦中（塩釜神社付近）		—	柳下先生の碑。明治15年に亡くなっているためそれ以降に建立。神山郡廉篆額、五斗信吉撰文、倉田績書、石工小林次助政之。	
10	07	松本喜八郎碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	明治42年	—	明治42年7月に門人中が建てた松本喜八郎の石碑。倉田績撰並び書。	
10	07	小野定吉之碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	大正	—	奈良県生まれ和歌山育ち、仏教を専修して大正2年病没の小野定吉の碑。建立年は欠損で不明。8月建立。倉田績撰並び書。	
10	07	鈴木翁紀恩碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	明治31年	—	明治31年3月建立の鈴木翁の碑。和歌山の建具商組合に関わる人物か。倉田績撰並び書。裏面に発起人名簿。	
10	07	故鳥居君源三郎之碑	和歌山市岡山丁（岡公園）	明治25年	—	明治25年9月建立の和歌山出身の軍人鳥居源三郎の顕彰碑。岡本兵四郎撰、倉田績書、雕刻工大平竹次郎。題字「素忱之碑」。	
10	07	石井徳次郎石碑	和歌山市紀三井寺（紀三井寺）	明治20年	—	明治20年3月31日に建てられた石井徳次郎の碑。三浦権五郎題額、倉田績撰文ならびに書。	
10	07	橋本自助君之碑	和歌山市雑賀崎（衣美須神社）	明治45年	—	明治45年5月21日に建てられた雑賀崎村出身の橋本自助の顕彰碑。題字は倉田績の書。	
10	07	鳥羽君之碑	和歌山市尾崎丁（西要寺）	大正3年	—	大正3年1月15日に建てられた鳥羽彦以の石碑。大新小学校長萩野徳種撰文、倉田績書。	
10	07	調平炭記念碑	和歌山市栗栖（高倉寺）	大正7年	—	大正7年に建てられた調平炭の記念碑。倉田績撰文ならび書。	
10	07	佃又吉之碑	和歌山市相坂（応供寺）	明治37年	—	明治37年に建てられた佃又吉の石碑。倉田績の書。	
10	07	湯川君頌徳碑	和歌山市山東中（小倉小学校）		—	湯川義房の石碑。倉田績の撰文ならびに書。	
10	07	尾上仁蔵君之碑	和歌山市雑賀崎（潮騒の小径脇）	大正5年	—	大正5年5月に雑賀崎村大字雑賀崎有志により建てられた尾上仁蔵の石碑。倉田績の書。	
10	07	田中弥四郎の碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）		—	倒れており、上部・下部欠損。○年9月建立。倉田績撰並び書。生け花関係の人物か。	
10	07	一級陰陽師湯川辰之進碑	和歌山市男野芝丁（吹上寺）	明治40年	—	明治40年7月に建てられた碑。倉田績書。表に「金神除」と書かれている。	
10	07	華道法印高木光榮先生顕彰碑	和歌山市和歌浦中（津屋公園内）	昭和29年	—	昭和29年10月10日高木光榮先生顕彰会発起人一同が建立した石碑。題字は旧嵯峨御所大覚寺華道総裁門跡 草繁全宜書、裏面碑文は田中敬忠撰文。	
10	07	烈女島野之碑	和歌山市和歌浦中（塩釜神社付近）	明治25年	—	明治25年6月に建てられた烈女島野の碑。	
10	07	谷井君表功碑	和歌山市関戸（矢宮神社前）	大正8年	—	大正8年6月に建てられた谷井君の功績を称える石碑。森懸撰ならび書。	
10	07	五月山之碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	大正6年	—	大正6年4月に五月山組仲間により建てられた石碑。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	07	観自在院殿前黄門三品大真尊儀 石柱	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	昭和3年	—	当山十五代喚應道○が昭和3年6月に建てたものか。	
10	07	南捨松君記念碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	大正3年	—	大正3年6月に建てられた南捨松の碑。裏面に発起人の名簿あり。	
10	07	省堂牧村武卿碑銘	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	明治27年	—	明治27年11月上旬建立の牧村武卿正信の石碑。通称桓一郎、号省堂。嘉永2年生まれ、士族で徳義学校等に関わる人物か。東京府知事三浦安顯額。	
10	07	南無阿弥陀仏 洲崎重蔵碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	昭和3年～	—	昭和3年10月に建てられた洲崎重蔵の石碑。	
10	07	山名新九郎碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）		—	山名新九郎と書かれた石碑。建立年不明。裏面に発起人の名簿あり。下部が地面に埋まる。	
10	07	谷井蘆岳之碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	明治42年	—	明治42年3月門人らが建てた谷井芦岳の石碑。谷井芦岳は円山派画人。「古今博識一覽」（1891年、東文研明治大正期書画家番付データベース閲覧可能）。	
10	07	松尾織之助先生之碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	明治40年	—	明治40年10月に発起人児玉榮之助によって建てられた松尾織之助の石碑。	
10	07	西村均之碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	明治24年	—	和歌山市各地に駐在した警官、西村均の石碑。明治24年10月18日建立。裏面文章は市川利常謹撰。	
10	07	翠雲先生碑銘	和歌山市和歌浦東（秋葉山麓中央通り沿い）	大正8年	—	大正8年5月に門人が建てた筑紫翠雲の碑。天保8年生まれの和歌山市の日本画家。伊賀磯野惟秋撰文並び書。	65
10	07	津田藤麿君之碑	和歌山市秋葉町（円珠院境内）	大正6年	—	大正6年秋に友人によって建てられた津田藤麿の石碑。	13
10	07	春水筆塚	和歌山市秋葉町（円珠院境内）		—	和歌山市生まれの日本画家水嶋春水の筆塚の石碑。没後、門人友人らが遺愛の筆硯を埋めて碑を建てた。	65
10	07	端莊居士之碑	和歌山市秋葉町（円珠院境内）	明治21年	—	明治21年10月2日に建てられた端莊居士（根来氏）の石碑。	13
10	07	林山水野君碑	和歌山市秋葉町（円珠院境内）	明治18年	—	明治18年8月建立の水野孟義の石碑。号は林山。題字は本人の文字。碑面の一部が剥離で読めなくなっている。	
10	07	尾高城之介君之碑	和歌山市紀三井寺（紀三井寺）		—	尾高城之介の石碑。茨木惟昭書。	
10	07	史山之碑	和歌山市紀三井寺（紀三井寺）	明治22年	—	史山○君の碑。明治22年2月に建てられた。神山郡廉篆額。	
10	07	藤本九左衛門碑	和歌山市狐島（覚円寺）		—	藤本九左衛門の石碑。詳細不明。	
10	07	○佛厚○泰然碑	和歌山市狐島（覚円寺）	明治35年	—	明治35年1月に建てられた島本泰然の碑。本願寺派執行武田篤初撰文。	
10	07	太田家累代之碑	和歌山市松江中（極楽寺）	昭和39年	—	昭和39年2月に建てられた太田家累代の石碑。裏面に沿革が記されている。	
10	07	故今城義史之墓	和歌山市手平（正善寺）	昭和15年	—	昭和15年11月に今城こつゑが建てた今城義史の墓。	
10	07	貴志純一石碑	和歌山市土入（西教寺）	明治35年	—	明治35年1月に建てられた貴志純一の石碑。弟の貴志吉郎が建てた。	
10	07	松井善助石碑	和歌山市堀止西	昭和17年	—	昭和17年11月建立の松井善助に関する石碑。椎尾辨匠の書。上部に「歎喜」と刻字。	
10	07	西脇何某石碑	和歌山市田野（妙楽寺墓地）	大正	—	詳細不明。	
10	07	故今井慎吾功労記念石碑	和歌山市雑賀崎（衣美須神社）	大正9年	—	大正9年6月に建設された今井慎吾の石碑。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	07	勲六等山東良造之碑	和歌山市寺内 (教明寺)	明治42年	—	明治42年12月6日に建てられた山東良造の石碑。	
10	07	釋 涛後居士之碑	和歌山市湊 (永善寺)	大正～	—	十代佐平行平九十歳の碑。大正3年7月28日の日付が刻字されている、	
10	07	南無阿弥陀仏石碑	和歌山市湊 (山川寺)		—		
10	07	故岩崎房乃之碑	和歌山市紀三井寺	大正6年	—	大正6年12月に建てられた岩崎房乃の石碑。	
10	07	櫻谷根跡地石碑	和歌山市大川 (報恩講寺)	明治36年	—	明治36年に建てられた桜谷根跡地と書かれた石碑。	
10	07	北島藤半碑	和歌山市道場町 (妙慶寺)	明治25年	—		
10	07	園部雄次郎頌徳碑	和歌山市園部 (伊達神社)	昭和4年	—	逾高逾長 多紀仁撰文並び書。	
10	07	園部肇村長頌徳碑	和歌山市園部 (伊達神社)	昭和33年	—	有功村が建立。	
10	07	藤原源四郎頌徳碑	和歌山市六十谷 (射矢止神社)	昭和38年	—	有功地区民有志が建立。有功村元村長。	
10	07	木村正夫氏頌徳碑	和歌山市西庄 (木本八幡宮)		—	40年氏子総代をとめた人物の碑。	
10	07	新田先生之碑	和歌山市六十谷 (本恵寺)		—		
10	07	宇治田幸次郎記念碑	和歌山市野崎 (八幡神社)	明治35年	—		
10	07	野澤吉造之碑	和歌山市片岡町 (松生院)	大正8年	—		
10	07	齋藤利光之墓	和歌山市新堀東 (久昌寺)	明治	—	裏面に経歴あり。倉田績撰文並び書。	
10	07	乾義雄頌徳碑	和歌山市和佐中 (極楽寺)	昭和6年	—	和歌山県知事蔵原敏捷撰文。	
10	07	本田伊三郎君頌徳碑	和歌山市岩橋 (花山団地付近)	大正15年	—		
10	07	従六位判事栗本延太郎碑	和歌山市栗栖 (教蓮寺南)	明治38年	—		
10	07	一心講元通称戸楠中谷大次郎碑	和歌山市和歌浦東 (五百羅漢寺境内)	大正11年	—	大正11年11月に一心講が建てた中谷大次郎の石碑。裏面下部に講中の連名がある。	
10	07	市川三次郎之碑	和歌山市和歌浦東 (五百羅漢寺境内)	昭和11年	—	昭和11年10月に建てられた三宝講二代講元市川三次郎の石碑。裏面に発起人及び世話人名簿。	
10	07	正大先達政院川嶋政之助之碑	和歌山市和歌浦東 (五百羅漢寺境内)	明治43年	—	明治43年3月に山一講議員が建てた川嶋政之助の石碑。大峰登山三十三度供養とある。裏面下部に発起人名簿。	
10	07	西協何某石碑	和歌山市田野 (妙楽寺墓地)	大正～	—	詳細不明。	
10	07	遊谷先生壽碑	和歌山市 (鳴滝不動尊)	大正3年	—	藤本貫一、号遊谷管学の石碑。	
10	07	恭頌土屋大人碑	和歌山市直川	昭和14年	—		
10	07	今井政助記念碑	和歌山市山口西 (覚善寺)		—	覚善寺檀中一同。	
10	07	井上千代子之碑	和歌山市井辺 (大日堂)	昭和6年	—	陸軍歩兵中佐宮城太郎謹書。	
10	07	まりと殿様石碑	和歌山市一番丁 (和歌山城公園天守前広場)	昭和38年	—	紀州藩の殿様が登場する西条八十作詞のまりと殿様の記念石碑。昭和38年10月1日山口シゲカ氏寄付で建立。	
10	07	玉津島神社境内外歌碑	和歌山市和歌浦中		—	『万葉集』巻七一一二二、作者未詳の「玉津島 見れども飽かず いか になて 包み持ち行む 見ぬ人のため」を刻んだ石碑。	
10	07	玉津島神社境内山部赤人歌碑	和歌山市和歌浦中 (玉津島神社境内)		—	神亀元年に山部赤人が作歌した一首と短歌を記した石碑。建立年不明。孝書とあり。	
10	07	山部赤人歌碑	和歌山市和歌浦中 (塩釜神社付近)		—	山部赤人歌碑。建立年不明。「若の浦に潮満ち来れば潟を無み葦辺をさして鶴鳴き渡る」の刻文。	
10	07	玉津島神社境内外歌碑	和歌山市和歌浦中	昭和42年	—	昭和42年11月3日 (文化の日) に中村具嗣君友人一同竹垣詩社が建立した石碑。表面に中村具嗣 (知秋) の歌。	
10	07	淡嶋神社歌碑	和歌山市加太 (淡嶋神社)		—	淡嶋神社境内に絶つ歌碑。「神○○○」云々と書かれている。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	07	朝棕神社歌碑	和歌山市鷺ノ森明神丁		—	詳細不明。	
10	07	松生院歌碑	和歌山市片岡町（松生院）	大正5年	—		
10	07	松生院歌碑	和歌山市片岡町（松生院）	大正4年	—		
10	07	鳴滝不動尊歌碑	和歌山市（鳴滝不動尊）	安政4年	—	「耳洗ふこちや瀧に茗の亭」？と書かれている。	
10	07	鳴滝不動尊歌碑	和歌山市（鳴滝不動尊）		—	水や雪仏の文字が入った歌碑。	
10	07	山日王子跡歌碑	和歌山市湯屋谷		—		
10	07	歌碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）	明治10年	—	明治10年？に建てられた歌碑か。春保という人物が81歳の時の歌と思われる。	
10	07	歌碑	和歌山市和歌浦中（塩釜神社付近）		—	建立年不明。「八十五翁○○○」「浜松○ 汐く○りして はるの月」などの銘あり。	
10	07	日比野道男歌碑	和歌山市雑賀崎（雑賀崎灯台）	昭和36年	—	昭和36年4月、日比野道男歌碑建立委員会が建てた歌碑。	
10	07	追春庵逸水歌碑	和歌山市和歌浦中（三段橋付近）	昭和9年	—	昭和9年に追春庵門人が建てた歌碑。「うららかや うららかや 蘆辺に鶴の高歩み」の刻文。	
10	07	反歌二首歌碑	和歌山市和歌浦中（玉津島神社境内）		—	反歌二首を記した石碑。孝書とあり。建立年不明。	
10	07	芭蕉翁碑	和歌山市和歌浦東（五百羅漢寺境内）		—	芭蕉の石碑。裏面に刻字あるが詳細不明。	

【海南市】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
03	01	海南港第二地区埋立	海南市船尾	昭和41年	—	和歌山県北部臨海工業地帯の指定（昭和33年）を受け、県事業で海南港に臨海工業地造成と港湾整備。昭和36年起工、第二地区昭和41年完成。面積121万5001㎡。	
03	06	東燃棧橋	海南市下津町下津	昭和	—	東燃は下津港に面し工場は有していないが、下津港は大型タンカーが接岸できるため、下津港にバース設置、送油パイプで有田市の工場へ送油。	
03	06	海南港第三地区埋立	海南市藤白	昭和38年	—	和歌山県北部臨海工業地帯の指定（昭和33年）を受け、県事業で海南港に臨海工業地造成と港湾整備。昭和36年起工、第三地区昭和38年完成。面積20万0413㎡。	
03	06	方地先埋立	海南市下津町方	昭和12年	—	昭和12年～昭和14年頃に丸善石油により約26,000㎡を埋立。	
03	06	方地先埋立	海南市下津町方	昭和16年	—	昭和16年に丸善石油により約24,600㎡を埋立。	
04	04	海南港第一地区埋立	海南市日方	昭和38年	—	和歌山県北部臨海工業地帯の指定（昭和33年）を受け、県事業で海南港に臨海工業地造成と港湾整備。昭和36年起工、第一地区昭和38年完成。面積19万9751㎡。	
04	04	名手酒造	海南市黒江	大正5年	—	黒江地区で「黒牛」等の酒造業を営む。醸造蔵、米蔵、精米所、瓶詰場、主屋、座敷棟などが立ち並ぶ。	2
04	08	山本勝之助翁之像	海南市阪井	昭和33年	—	棕櫚製品生産と販路拡大、菓種・果樹の無料配布による栽培奨励、植林、神社仏閣・学校へ寄付など地域産業に貢献した氏の胸像。昭和33年に巽公民館敷地内建立後、旧野上電鉄阪井駅跡へ移転。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
04	08	山本勝之助頌徳碑	海南市阪井	昭和	—	西念寺境内に設置。氏の格言「手廻しせねば雨が降る」(普段から手廻しよく仕事を進め雨などで客に迷惑をかけて信用を無くさないよう心掛けること)を刻んだ碑。	
04	08	山本勝之助商店事務所	海南市阪井	大正中期	国登録	棕櫚産業の発展と社会事業に貢献した山本勝之助により明治後期以降に棕櫚皮商の店舗として建てられた木造2階建て建物。	
04	08	山本家住宅主屋・門・石塀・赤蔵・隠居所・住宅内蔵一・住宅内蔵二	海南市阪井	明治39年	国登録	棕櫚産業の発展と社会事業に貢献した山本勝之助関連。主屋は木造3階建ての座敷を明治39年に増築。増築時に門・石塀も建てられる。	
04	08	山本勝之助商店店蔵	海南市阪井	大正中期	国登録	棕櫚産業の発展と社会事業に貢献した山本勝之助関連。土蔵造り2階建ての蔵。店蔵一は大正中期、二は大正8年、三は大正11年。	2
04	08	頌徳尾崎好一翁之碑	海南市野上中(国道42号線沿い)	昭和36年	—	棕櫚製品改良、機械普及、棕櫚代用のパーム輸入など棕櫚産業と野上谷地域発展に尽力した功績を称え棕櫚類工業協同組合が野上橋西詰に建立。その後現在地移転。野上電気鉄道の社長等も務めた。	
04	08	池庄漆器店主屋	海南市黒江	江戸後期	国登録	江戸後期から続く漆器問屋で往時の街並み景観を伝える。2階建て切妻造で建物高が全体的に低い。	
04	08	尾崎林太郎家住宅主屋・座敷・三階蔵・前蔵	海南市黒江	大正中期	国登録	江戸時代到大庄屋を務め、明治より漆器問屋を営んだ旧家の住宅。漆器問屋の店舗と居室部から構成される木造2階建ての建物。座敷は大正中期、三階蔵・前蔵は大正13年。	2
04	08	畑田家住宅主屋・門及び塀	海南市船尾	昭和4年	国登録	昭和4年頃、漆器問屋木下重兵衛家の別邸として建築。入母屋造2階建て住宅。門及び塀は主屋と同時期で敷地内の庭の周囲を囲むコンクリート造。	
04	08	田島漆店旧工場玄關棟・食堂・商品蔵・新蔵・詰場	海南市船尾	大正11年	国登録	田島漆店は明治初期創業、漆生産では県内随一を誇り、この工場で精製調合された漆が黒江漆器生産を支えた。玄關棟・商品蔵は昭和28年、食堂は昭和前期、新蔵は昭和9年、詰場は昭和33年。現在工場跡をカフェや古本屋として活用。	1
04	08	漆器組合創立五十周年記念碑	海南市船尾	昭和10年	—	昭和10年建立。現在は伝統産業会館前に設置されている。	
04	08	漆器組合創立七十周年記念碑	海南市船尾	昭和30年	—	昭和30年建立。現在は伝統産業会館前に設置されている。	
04	08	傘東京積同業組合の石碑	海南市島居(浄土寺境内)	明治以降	—	伝統産業であった和傘の生産と流通を行っていた組合があったことを示す石碑。浄土寺境内に建立(海南市史第1巻742頁に写真)。	
04	08	岡幾左衛門頌徳碑	海南市沖野々	大正9年	—	養蚕を広め、村会議員等も務め、地域教育・文化・経済・交通機関・地域産業開発に尽力した功績を称えた頌徳碑。大正9年に内務大臣の揮毫により建立。	
04	08	森脇光三郎翁之碑	海南市野上中	昭和40年	—	県道改修や林道新設、家畜市場設立など地域の交通事情改善と棕櫚産業などの発展に尽力した氏の功績を称えて昭和40年建立。	
04	08	佐藤漆工場	海南市黒江	大正13年	—	佐藤漆店の漆精製場として建築。洋風レンガ造、鋸屋根、棧瓦葺き。	1
04	08	倉橋漆器問屋	海南市船尾		—	現和歌山トムソン海南工場。	1
05	01	旧野上軽便鉄道(旧野上電気鉄道)跡地	海南市名高・大野中・幡川・重根・阪井	大正5年	—	大正5年営業開始、平成6年廃線。野上鉄道線路跡は健康ロード(歩行者専用道路)として残され、各駅は駅前広場として残される。棕櫚製品輸送に大きな役割を果たした。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	黒江駅	海南市岡田	昭和41年	—	昭和41年開業。現JR紀勢本線。	
05	01	冷水駅	海南市冷水	昭和28年	—	昭和28年開業。現JR紀勢本線。	
05	01	加茂郷駅	海南市下津町丸田・黒田	大正13年	—	大正13年開業。現JR紀勢本線。	1
05	01	下津駅	海南市下津町下津	昭和14年	—	昭和14年開業。現JR紀勢本線。	
05	02	黒江町道路元標	海南市黒江	大正	—	海南市誕生前の旧黒江町時代に設置された道路元標。	1
05	02	国道42号バイパス	海南市船尾・日方・築地・名高・鳥居・藤白	昭和45年	—	昭和42年着工、昭和45年完成。海南郵便局から藤白インターチェンジまでの1.9km、幅員20mの道路。	
05	02	冷水地先埋立	海南市冷水	昭和	—	国道42号線改修工事用地として近畿地方整備局により埋立がおこなわれた。面積は3589㎡。	
05	02	船津地先埋立	海南市鳥居	昭和	—	国道42号線バイパス敷設用地として埋立。面積1万7811㎡。	
05	02	山内由兵衛翁之碑	海南市且来	大正9年	—	馬や荷車が川に落ちることも多く危険な道を私財を投入して整備した山内由兵衛氏の功績を称えて建てられた碑。大正9年建立。	
05	02	山路王子神社道路改修記念碑	海南市下津町市坪	昭和8年	—	山路王子神社境内に昭和8年建立。一帯王子跡として国史跡の範囲内に位置するが、その他の要素要素に位置付けられる。	
05	02	加茂川小学校通学路「愛之道」の石碑	海南市下津町小松原	昭和2年	—	材木商として成功した吉川時松氏が母校の通学路を改修した際に建てられた。「昭和貳年五月建之」とある。	
05	03	紺屋橋	海南市且来	昭和	—	亀ノ川に架かる橋。橋の名は和歌山市安原以北の人々が且来の紺屋に糸を染めるために橋を通って往来したことから来たとされる。	
05	03	かねいち橋	海南市日方	昭和8年	—	棕櫚を商い産業の発展に尽くした山本勝之助商店の屋号であるカネイチの名がついた橋。昭和8年架橋。	
05	03	大橋	海南市日方	昭和12年	—	日方川に架かる橋。昭和12年架橋。	
05	03	海南橋	海南市大野中	昭和11年	—	日方川に架かる橋。海南市内で最初に架けられた鉄筋コンクリート製で昭和11年に架橋。	
05	03	新町橋	海南市日方	昭和35年	—	日方川に架かる橋。昭和35年架橋。	
05	03	神田橋	海南市日方	昭和10年	—	日方川に架かる橋。昭和10年架橋。	
05	03	日方74号線1号橋	海南市日方	昭和11年	—	日方地内の水路上に架かる橋。昭和11年架橋。	
05	03	御訪路線入道橋	海南市冷水	昭和42年	—	J R 紀勢線上に架かる歩道橋。昭和42年架橋。	
05	03	海南橋	海南市黒江	昭和39年	—	大坪川に架かる橋。昭和39年架橋。	
05	03	六ヶ橋	海南市且来	昭和29年	—	亀の川に架かる橋。昭和29年架橋。	
05	03	矢口橋	海南市且来	昭和4年	—	亀の川に架かる橋。昭和4年架橋。	
05	03	宮橋	海南市重根	昭和27年	—	日方川に架かる橋。昭和27年架橋。	
05	03	平尾橋	海南市重根	大正13年	—	旧野上鉄道線路上に架かる橋。大正13年架橋。	
05	03	昭和橋	海南市九品寺	昭和29年	—	貴志川に架かる橋。昭和28年の水害で被災後、昭和29年に架橋。	
05	03	山橋	海南市野上新	昭和29年	—	貴志川に架かる橋。昭和28年の水害で被災後、昭和29年に架橋。	
05	03	白岩橋	海南市野上新	昭和29年	—	貴志川に架かる橋。昭和28年の水害で被災後、昭和29年に架橋。	
05	03	北野上橋	海南市原野	昭和29年	—	貴志川に架かる橋。昭和28年の水害で被災後、昭和29年に架橋。	
05	03	加伊多橋	海南市七山	昭和29年	—	高野街道にあり貴志川に架かる橋。昭和28年の水害で被災後、昭和29年に架橋。	
05	03	琴の浦橋	海南市船尾	昭和40年	—	温山荘の南東側の埋立地に架かる橋。昭和40年架橋。	
05	03	田津原橋	海南市重根	昭和40年	—	日方川に架かる橋。昭和40年架橋。	
05	03	小松原橋	海南市下津町小松原	昭和34年	—	加茂川に架かる橋。昭和34年架橋。	
05	03	小南橋	海南市下津町小南	昭和5年	—	加茂川に架かる橋。昭和5年架橋。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	03	中川橋	海南市下津町橋本	昭和29年	—	加茂川に架かる橋。昭和29年架橋。	
05	03	橋本上橋	海南市下津町橋本	昭和31年	—	熊野参詣道上で市坪川に架かる橋。昭和31年架橋。	
05	03	市坪中橋	海南市下津町市坪	昭和23年	—	熊野参詣道上で市坪川に架かる橋。昭和23年架橋。	
05	03	小原川橋	海南市下津町下津	昭和5年	—	小原川に架かる橋。昭和5年架橋。	
05	03	東出橋	海南市下津町曾根田	昭和33年	—	加茂川に架かる橋。昭和33年架橋。	
05	03	青年橋	海南市下津町上	昭和37年	—	宮川に架かる橋。昭和37年架橋。	
05	03	大石橋	海南市下津町鯉川	昭和28年	—	鯉川地内の小河川に架かる橋。昭和28年架橋。	
05	03	どのわき橋	海南市下津町市坪	昭和37年	—	市坪川に架かる橋。昭和37年架橋。	
05	03	新みなと橋	海南市船尾・日方	昭和43年	—	昭和43年、国道42号バイパス上に架橋。	
05	03	海南橋	海南市築地・名高	昭和43年	—	昭和43年、国道42号バイパス上に架橋。	
05	03	矢口橋の由来の銅板	海南市且来	昭和4年	—	元は板橋だが架換の際、板橋をかけた人物の子孫等からの寄付があったことが刻まれる。昭和4年に設置。	
05	04	鯉川隧道（旧県道）	海南市下津町	大正8年	—	大正8年、旧県道に設けられたレンガ造りの隧道。長さ16m、幅5.5m。	1
05	04	城山洞トンネル（県道）	海南市日方	昭和27年	—	石造りのトンネルだったが、平成27年にコンクリートトンネルに改修工事された。	1
05	04	冷水第三トンネル（国道42号線）	海南市冷水	昭和20～30年代	—	国道42号線に造られたトンネル。昭和20年代～30年代に造られたと考えられる。	
05	04	冷水第二トンネル（国道42号線）	海南市冷水	昭和20～30年代	—	国道42号線に造られたトンネル。昭和20年代～30年代に造られたと考えられる。	
05	04	冷水第一トンネル（国道42号線）	海南市冷水	昭和20～30年代	—	国道42号線に造られたトンネル。昭和20年代～30年代に造られたと考えられる。	
05	04	観音崎トンネル（国道42号線）	海南市下津町塩津	昭和20～30年代	—	国道42号線に造られたトンネル。昭和20年代～30年代に造られたと考えられる。	
05	04	塩津第二トンネル（国道42号線）	海南市下津町塩津	昭和20～30年代	—	国道42号線に造られたトンネル。昭和20年代～30年代に造られたと考えられる。	
05	04	塩津第一トンネル（国道42号線）	海南市下津町塩津・下・梅田	昭和20～30年代	—	国道42号線に造られたトンネル。昭和20年代～30年代に造られたと考えられる。	
05	04	鯉川トンネル（国道42号線）	下津町鯉川	昭和20～30年代	—	国道42号線に造られたトンネル。昭和20年代～30年代に造られたと考えられる。	
05	04	日方トンネル（JR紀勢本線）	海南市日方・岡田	大正13年	—	紀勢線に造られたトンネル。大正13年和歌山―箕島開通時に造られたと考えられる。	
05	04	白神トンネル（JR紀勢本線）	海南市藤白・冷水	大正13年	—	紀勢線に造られたトンネル。大正13年和歌山―箕島開通時に造られたと考えられる。	
05	04	焼尾トンネル（JR紀勢本線）	海南市冷水	大正13年	—	紀勢線に造られたトンネル。大正13年和歌山―箕島開通時に造られたと考えられる。	
05	04	下り松トンネル（JR紀勢本線）	海南市冷水	大正13年	—	紀勢線に造られたトンネル。大正13年和歌山―箕島開通時に造られたと考えられる。	
05	04	六本松トンネル（JR紀勢本線）	海南市冷水	大正13年	—	紀勢線に造られたトンネル。大正13年和歌山―箕島開通時に造られたと考えられる。	
05	04	三昧トンネル（JR紀勢本線）	海南市冷水	大正13年	—	紀勢線に造られたトンネル。大正13年和歌山―箕島開通時に造られたと考えられる。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	04	観音崎トンネル（JR紀勢本線）	海南市下津町塩津	大正13年	—	紀勢線に造られたトンネル。大正13年和歌山－箕島開通時に造られたと考えられる。	
05	04	塩津トンネル（JR紀勢本線）	海南市下津町塩津	大正13年	—	紀勢線に造られたトンネル。大正13年和歌山－箕島開通時に造られたと考えられる。	
05	04	中崎トンネル（JR紀勢本線）	海南市下津町塩津	大正13年	—	紀勢線に造られたトンネル。大正13年和歌山－箕島開通時に造られたと考えられる。	
05	04	天神トンネル（JR紀勢本線）	海南市下津町下津	大正13年	—	紀勢線に造られたトンネル。大正13年和歌山－箕島開通時に造られたと考えられる。	
05	09	黒江町石積防波堤	海南市黒江	大正7年	—	大正5年1月起工、大正7年12月完成。漆器積み出しの行われた黒江港に緑泥片岩によって築堤された石積防波堤。約270mが残る。	
05	12	民放UHF海南中継局	海南市冷水・下津町橋本	昭和43年	—	昭和43年、藤白山山頂に難視聴解消のため完成。	
06	06	旧内海信用金庫名高支店	海南市名高	昭和29年	—	現きのくに信仰金庫内海支店。	1
07	01	井沢弥惣兵衛翁之碑	海南市阪井	大正3年	—	江戸時代に亀ノ川改修・亀池築造・佐々井用水改修などをした弥惣兵衛翁の功績を称えて大正3年に水利組合が亀池堤に建立した碑。	
07	01	紀伊国屋文左衛門顕彰碑	海南市下津町方	昭和32年	—	紀伊国屋文左衛門が船出した地と伝わることから建てられた顕彰碑。下津観光協会により昭和32年建立。	
07	01	大池随取替工事記念碑	海南市大野中	昭和8年	—	昭和8年に大池堤付近に建立。昭和6年から昭和8年にかけて樋の取替工事をとおこなった。	
07	01	農道完成記念碑	海南市下津町橋本	昭和40年	—	昭和40年に地蔵峰寺境内に建立。	
07	04	中西進重郎顕徳碑	海南市下津町方	昭和9年	—	下津港開港20周年に下津港の発展に寄与した氏の業績を称え、昭和9年に建立。大正7年に下津町に当時東洋一と呼ばれた龍王木材工業株式会社の製材工場が中西進重郎によって建設。	
07	05	西山清七碑	海南市下津町方	昭和29年	—	方浦漁業協同組合建立。旧大崎町方生まれ、明治35年に漁業組合創立に尽力。	
07	07	河内浜塩田跡石碑	海南市船尾（黒江小学校内）	明治以降	—	江戸時代に開発、明治時代に塩田整理対象になるまで製塩を続けた塩田があったことを示す石碑（海南市史第1巻749頁に写真）。現在は黒江小学校内に設置。	
07	08	井戸浜の埋立	海南市船尾	幕末頃～	—	黒江の妹背次郎四朗による埋立。築立年代は不明だが幕末頃と推定されている。	
07	08	船津の埋立	海南市鳥居	幕末頃～	—	文政4年(1821)に鳥居の又右衛門が開発許可を受けたが、中絶したため、親類にあたる鳥居の医師田中了敬、了以父子が引き継ぎ、天保13年(1842)完成。	
07	08	「二万坪」の埋立	海南市船尾	昭和10年	—	旧海南第一中学校南側。北浦由五郎が昭和8年出願。和歌山市の坂東栄吉が引き継ぎ昭和10年完成。	
07	08	紫浜の埋立	海南市藤白	昭和2年	—	藤白の有田屋浜地先。木村平右衛門により出願し、大正4年11月起工、昭和2年12月完成。通称「五万坪」（4万9016坪）。	
07	08	大須賀・中須賀の埋立	海南市名高	大正3年	—	海南駅南側一番街付近。地元有志12名により出願。大正2年11月起工。大正3年10月完成。面積2005坪。	
07	08	赤倉地先の埋立	海南市名高	大正3～5年	—	大正3年～5年にかけて地元有志により3回にわたり埋立を行った。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	08	温山荘の埋立	海南市船尾	大正5年	—	温山荘の用地（運動場など）として新田長次郎により約6000坪を埋立。大正5年完成。	
07	08	築港の埋立	海南市船尾	大正7年	—	黒江町による埋立。大正5年に起工し大正7年完成。面積8300坪。	
07	08	築地の埋立	海南市名高	大正8年	—	玉置吉之丞による埋立。大正8年に起工し大正13年完成。面積2万3985坪。	
07	08	赤倉・里中地先(宮ノ浜)の埋立	海南市名高	大正12年	—	地元有志等15名による埋立。大正9年起工、大正12年完成。面積7603坪。	
07	08	築地の埋立	海南市内海	大正	—	内海町により埋立られ、南海水力電気内海発電所が設置された。面積5407坪。	
07	08	大須賀・中須賀の埋立	海南市内海	昭和5年	—	世界恐慌のあおりによる不景気で失業者が増加し、その救済対策事業として内海町により埋立られた。昭和5年完成。	
07	08	茶屋浜の埋立	海南市日方	昭和13年	—	日方港の廃止にともない、港と船舶の進入路を海南市により埋立。昭和13年起工、同年完成。面積3317坪。	
07	08	北浦由五郎之碑	海南市船尾	昭和12年	—	黒江湾2万坪の埋立事業に尽力した氏の功績を称えて建てられた顕彰碑。	
07	08	木村平右衛門頌徳碑	海南市鳥居（浄土寺境内）	昭和	—	浄土寺境内に設置。廣村の7代目濱口吉右衛門7男。実業家で昭和2年通称5万坪の埋立造成。	
08	01	室山浄水場	海南市黒江	昭和34年	—	昭和34年、紀の川より取水した水の浄水施設。	
08	01	上水道完成記念碑	海南市下津町大崎	昭和33年	—	昭和33年に大崎区により建立。	
08	01	道路舗装・上下水道完成記念碑	海南市下津町梅田	昭和37年	—	昭和37年に建立。	
08	04	新町湯	海南市日方	昭和2年頃	—	鉄筋コンクリート造、2階建。平成19年廃業。解体される。	1
08	05	琴ノ浦温山荘庭園	海南市船尾	大正	国名勝	新田革帯製造所（現ニッタ株式会社）の創業者新田長治郎氏の別荘の庭園で、潮入式の池が2つあり、青石やコンクリートを用いて作られた擬石・擬木を多用する特徴的な近代庭園。	1、2
08	05	中野B C庭園	海南市藤白	昭和27年	—	昭和27年に焼酎の冷却水貯水用として造られた約3,000㎡の池を中心とした、面積約10,000㎡の池泉回遊式庭園。	
09	04	日疋信亮翁頌徳碑	海南市船尾（国道42号線沿い）	昭和22年	—	黒江町・日方町・内海町・大野村の合併運動に邁進し海南市誕生に尽力した氏の功績を称えて建てられた碑。	
09	04	榑原信之助碑	海南市重根（称名寺境内）	明治31年	—	重根の称名寺に明治31年建立。異村に努めたが若くして病没した。	
09	06	温山荘公園内 忠魂碑／平和の塔	海南市船尾（温山荘公園内）	昭和35年	—	温山荘公園内に昭和35年に海南市が建立。隣に忠魂碑建立趣旨碑が建つ。平和の党は昭和57年に建立。	
09	06	招魂山 日露戦役記念碑	海南市船尾（招魂山中腹）	明治	—	招魂山中腹に複数の石碑が建つ。	
09	06	春日山 戦役記念碑	海南市大野中（春日山）	大正元年	—	大正元年に春日山に建立。倉田續書。台座に明治27・28・37・38年の戦没者名を刻む。	
09	06	春日山 故先生生徒之霊	海南市大野中（春日山）	昭和3年～	—	昭和3年に春日山に建立。	
09	06	柿本神社 忠魂記念碑	海南市日方（柿本神社境内）	明治以降	—	柿本神社境内に建立。	
09	06	海南市日方 海南の空襲・慰霊碑	海南市日方	平成14年	—	昭和20年7月2日の日方地区空襲の慰霊碑。「平成十四年七月、戦災者慰霊碑再建世話人会」。	
09	06	福勝寺 日清戦役記念碑	海南市下津町橋本（福勝寺）	明治39年	—	明治39年加茂村有志のより建立。加茂村出身兵士3名の氏名。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	福勝寺 日露戦没記念碑	海南市下津町橋本（福勝寺）	明治39年	—	明治39年加茂村有志のより建立。加茂村出身兵士4名の氏名。	
09	06	須佐神社祇園社 忠魂碑	海南市下津町引尾（祇園社境内）	明治39年	—	仁義の祇園社境内に明治39年建立。	
09	06	須佐神社祇園社 仁義村出征軍人招魂塔	海南市下津町引尾（祇園社境内）	昭和15年	—	仁義の祇園社境内に紀元2600年建立。	
09	06	大崎観音堂 忠魂碑	海南市下津町大崎	明治45年	—	大崎観音堂境内に明治45年に建立。倉田績軍毫。	
09	06	栗島神社 忠魂碑	海南市下津町方（栗島神社境内）	明治以降	—	栗島神社参道に建立。建立年不詳。脇に西南戦争から太平洋戦争までの大東地区の戦没者銘板をはめ込む（昭和60年）。	
09	06	塩津忠魂碑	海南市下津町塩津（塩津港塩津コミュニティセンター裏）	大正15年	—	大正15年に建立。東郷平八郎の揮毫。塩津村在郷軍人分会建立。隣に昭和の顕徳碑（193名の氏名を刻む）。	
09	06	加茂神社 忠魂碑	海南市下津町下（加茂神社境内）	明治以降	—	加茂神社境内に建立。中村・小松原村・椒里村・方村・丸太村・引尾村・下津浦・椒浦・小畑村の戦没者・病死者10名の尉霊碑。	
09	06	長保寺 戦災死者慰霊地蔵尊	海南市下津町上（長保寺境内）	昭和33年	—	昭和33年9月、下津町戦災死者遺族会により建立。昭和20年下津町の戦災死者52名を慰霊。	
09	06	加茂小学校 忠魂碑	海南市下津町小松原		—	表面「忠魂碑 陸軍大將男爵荒木貞夫謹書」。	
09	07	双青閣（紀伊藩主徳川頼倫別邸）	海南市阪井	大正9年	国登録	紀伊徳川家15代頼倫が邸宅の一部として和歌浦に創建。昭和43年亀池公園の中島に移築。木造2階建，入母屋造，棧瓦葺で1階に庇。2階10畳を主座敷とする。	2
09	08	有間皇子歌碑	海南市藤白（藤白神社境内）	昭和27年	—	昭和27年に海南市教育委員会により設置。筆は佐佐木信綱博士による。	
09	08	「有間皇子之墓」石碑	海南市藤白	明治42年	—	明治42年、内海保光会により建立。	
09	08	一条天皇勅願所石碑	海南市下津町下津	大正14年	—	下津駅前到大正14年に建立。	
10	01	旧浜中尋常高等小学校講堂	海南市下津町下津	昭和12年	—	現下津小学校講堂。鉄骨造、平屋建。玄関ポーチ部分は三連アーチ風。	1
10	01	久世正當歌碑	海南市船尾（琴ノ浦温山荘公園内）	昭和40年	—	久世氏は海南高校等で教員を務め、郷土研究にも尽力。昭和40年に久世正當氏同窓有志が下津町塩津の南和歌浦園に設置。平成24年に琴ノ浦温山荘公園内に移設。	
10	06	藤白神社 鳥居	海南市藤白	明治	国史跡	境内北側にある鳥居。国史跡範囲に位置するが、本質的価値を構成する諸要素以外の要素に位置付けられる。	
10	06	「藤白皇大神社」石碑	海南市藤白	幕末	国史跡	元は戒戸神社付近にあったが明治42年合祀後に藤白神社境内東側の鳥居横へ移設。国史跡範囲に位置するが本質的価値を構成する諸要素以外の要素に位置付けられる。	
10	06	「大鳥居遺跡」石碑	海南市鳥居	明治42年	—	大鳥居のあった場所に建つ。大鳥居は天文18年に損失したと伝わる。明治42年、内海保光会により建立。	
10	06	名号碑（御所の芝）	海南市下津町橋本	明治8年	国史跡	地藏峰寺境内で藤代塔下王子跡内の御所の芝に明治8年建立。国史跡範囲内に位置するが本質的価値を構成する諸要素以外の要素に位置付けられる。	
10	06	手水鉢（御所の芝）	海南市下津町橋本	明治9年	国史跡	地藏峰寺境内で藤代塔下王子跡内の御所の芝に明治9年設置。国史跡範囲に位置するが本質的価値を構成する諸要素以外の要素に位置付けられる。	
10	06	山路王子神社石階段	海南市下津町市坪	大正7年	国史跡	山路王子神社境内の本殿へ上る石階段。大正7年建設。一壺王子跡として国史跡範囲に位置するが本質的価値を構成する諸要素以外の要素に位置付けられる。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	山路王子神社石鳥居	海南市下津町市坪	明治38年	国史跡	山路王子神社境内の参道中央の鳥居。明治38年建立。一壺王子跡として国史跡範囲に位置するが本質的価値を構成する諸要素以外の要素に位置付けられる。	
10	06	山路王子神社狛犬	海南市下津町市坪	昭和12年	国史跡	山路王子神社境内の鳥居横の狛犬。昭和12年建立。一壺王子跡として国史跡範囲に位置するが本質的価値を構成する諸要素以外の要素に位置付けられる。	
10	06	山路王子神社社標	海南市下津町市坪	昭和7年	国史跡	山路王子神社境内の鳥居横にある社標。昭和7年建立。一壺王子跡として国史跡範囲に位置するが本質的価値を構成する諸要素以外の要素に位置付けられる。	
10	06	山路王子神社手水鉢	海南市下津町市坪	大正	国史跡	山路王子神社境内にある手水鉢。大正時代建立。一壺王子跡として国史跡範囲に位置するが本質的価値を構成する諸要素以外の要素に位置付けられる。	
10	06	山路王子神社手水舎	海南市下津町市坪	大正	国史跡	山路王子神社境内にある手水舎。大正時代建立。一壺王子跡として国史跡範囲に位置するが本質的価値を構成する諸要素以外の要素に位置付けられる。	
10	06	春日神社鳥居	海南市大野中	昭和10年	—	春日神社境内（参道階段下）に位置する。	
10	06	伊勢部柿本神社社標	海南市日方	昭和3年	—	伊勢部柿本神社境内に位置する。	
10	06	伊勢部柿本神社狛犬	海南市日方	昭和9年	—	伊勢部柿本神社境内に位置する。	
10	06	伊勢部柿本神社狛犬	海南市日方	昭和15年	—	伊勢部柿本神社境内入口付近に位置する。	
10	06	伊勢部柿本神社百度石	海南市日方	昭和15年	—	伊勢部柿本神社本殿前に位置する。皇紀2600年記念として建立。	
10	06	「橋本神社」社標	海南市下津町橋本	昭和30年	県史跡	橋本神社境内にあり、昭和30年建立。和歌山県指定文化財「所阪王子跡」内と考えられるが指定範囲が不明確のため詳細不明。	
10	06	立神社鳥居	海南市下津町引尾	昭和5年	—	立神社境内前にあり。	
10	06	三郷八幡神社 鳥居	海南市下津町黒田	昭和13年	—	三郷八幡神社参道途中にある鳥居。	
10	06	三郷八幡神社 社標	海南市下津町丁	昭和13年	—	三郷八幡神社参道途中にある鳥居。	
10	06	稲荷神社 社標	海南市下津町大崎	大正11年	—	旧大崎小学校隣接地に位置する大崎稲荷神社の社標。	
10	06	「祓戸神社址」石碑	海南市鳥居（祓戸王子跡）	明治	—	祓戸王子跡に建つ。祓戸神社は明治42年に藤白神社に合祀されている。揮毫は木村見山による。	
10	06	糺神社址碑	海南市名高（糺神社跡）	明治以降	—	糺神社跡に建つ。揮毫は木村見山による。	
10	07	木村大譲翁胸像	海南市鳥居（内海小学校内）	昭和23年	—	6代目木村平右衛門は土地を鳥居村に寄付したり、子供たちに学用品を与えるなど育英事業に尽力。そのことを称えて建てられた胸像。	
10	07	山ノ井崑崙墓標	海南市下津町梅田	昭和16年	—	昭和16年に墓のある善福院の境内に建立。海南市生まれの江戸時代の儒学者。	
10	07	竹本七五三之碑	海南市下津町橋本	大正12年	—	明治時代に文楽の太夫として活躍。	
10	07	小野田種次郎歌碑	海南市小野田（小賀部神社境内）	昭和39年	—	県議を務めるかたわら、俳誌「けいてき」を主宰し県内外の俳人の指導にあたった。昭和39年宇賀部神社境内に門下生などにより建立。	
10	07	木下美代子歌碑	海南市藤白（藤白神社境内）	昭和43年	—	藤白神社境内に歌友、教子などにより昭和43年建立。	
10	07	山口誓子句碑	海南市下津町上	昭和45年	—	昭和45年に本寺前住職である今川凍光により東光寺境内に建立。	
10	07	「偉成田道績」石碑	海南市下津町橋本	昭和27年	—	田道間守の遺功を称え、昭和27年に橋本神社境内に建立。	
10	07	田道間守遺功之碑	海南市下津町橋本	明治42年	—	明治42年に福勝寺境内に設置。倉田績の撰文。	
10	07	「六本樹の丘」石碑	海南市下津町橋本	大正5年	—	田道間守の遺功を称え、大正5年に福勝寺境内下に建立。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	07	「六本樹橋創植之地」石碑	海南市下津町橋本	昭和27年	—	田道間守の遺功を称え、昭和27年に福勝寺境内下に建立。	
10	07	「筆捨松」石碑	海南市冷水	明治42年	—	明治42年、内海保光会により建立。	
10	07	大野城址石碑	海南市大野中	昭和3年	—	昭和3年に昭和天皇御大典事業で大野城に建立。	
10	07	「大神宮遺跡」石碑	海南市日方	明治42年	—	明治42年、内海保光会により設置。	

【紀美野町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	旧野上軽便鉄道（旧野上電気鉄道）跡地	紀美野町動木～下佐々	大正5年	—	大正5年に日方駅（海南市）～紀伊野上（紀美野町）間開業。昭和3年紀伊野上駅～生石口（登山口）駅延伸。平成6年廃線。跡地はほぼ国道バイパスで消滅。	1
05	01	旧野上軽便鉄道（旧野上電気鉄道）登山口駅跡	紀美野町下佐々	昭和3年	—	昭和3年に生石口駅として開業。当初は高野山までの延伸も計画。昭和33年に登山口駅に改称。現在跡地は大十バス本社・車庫となる。	1
05	01	旧野上電鉄車両	紀美野町下佐々	昭和7年	—	紀美野町下佐々の田伏医院横に保存。モハ20型27号（もと阪神電鉄700型707号）。	1
05	01	旧野上電鉄車両	紀美野町下佐々	昭和9年	—	紀美野町下佐々のくすのき公園内に保存。モハ30型31号（もと阪神電鉄1121型1130号）。	1
05	02	海南高野線（現国道370号）	紀美野町毛原中他	大正9年	—	村長黒田恵一郎は海南高野線を明治34年着手、財力をつぎ込み村内の工事を完了。その後長男儀助が資金を下流の村へ寄付し継続。親子2代の大事業は20年目の大正9年完成（現国道370号）。	15、60
05	02	道路改修偉勲者 故黒田恵一郎翁 彰徳碑	紀美野町毛原中（cafeやまもの木近く、国道370号線沿い）	大正12年	—	親子2代にわたる大事業で、現在の道路（現国道370号）の基礎を築いた黒田恵一郎、儀助親子の徳を讃えた記念碑。砂岩製剣形。	15、60
05	02	故 黒田恵一郎翁 頌徳碑	紀美野町中（国道370号線沿い 藤の森バス停）	大正14年	—	現国道370号の基礎を築いた黒田恵一郎親子を讃えた記念碑。「道路改修功労者 故黒田恵一郎翁頌徳碑 猿川村」。砂岩自然石製。	15、60
05	02	故黒田恵一郎君 頌徳記念碑	紀美野町大角（平岡商店南側国道沿い）	大正11年	—	現国道370号の基礎を築いた黒田恵一郎親子を讃えた記念碑。「道路界之勲功者故黒田恵一郎君 頌徳記念碑 大正十一年建設 上神野村」。片岩製。	15、60
05	03	神野橋	紀美野町樋下	昭和12年	—		1
05	03	貴志川の使われていないピンヤ（橋脚）	紀美野町下佐々	昭和	—	棕櫚、木材、薪炭等を輸送するため大正5年～昭和に海南市日方～登山口間の鉄道敷設。大正15年登山口～神野市場間の延長工事開始後、反対対運動で工事中止。今も貴志川にピンヤ（橋脚）数箇所残る。	
05	03	山本亀松顕彰碑	紀美野町国木原	昭和11年	—	国木原橋架設にあたり金1000円を寄付した功績を讃える。国木原区民一同建設。花崗岩製。	74
07	01	貝尻用水（トンネル）	紀美野町三尾川～大角～樋下～神野市場	大正4年	—	農業を営み資産家の貝尻兼蔵が完成させた全長4kmの農業用水路。天拝峠の全長50mのトンネル貫通は難航したが工事3年目に貫通し水路完成。現在も機能。	15、55
07	01	竣工記念碑（貝尻用水）	紀美野町神野市場	大正15年	—	貝尻兼蔵の功績を顕彰する記念碑。この用水路は「貝尻用水」と呼ばれ、神野橋のもとに大正15年に記念碑建立。	15、55

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	唐戸瀬井堰頌成碑	紀美野町下佐々	昭和36年	—	昭和33年着工、延長6393m、工費2030万円の工事。海南野上土地改良区建立。片岩製。	74
07	01	西田正次翁頌徳碑	紀美野町動木（JA構内）	昭和23年	—	東野上町の産業組合創始者の碑。県及び全国農業界の要職に就く。東野上町住民一同建立。砂岩製。	74
07	08	鶏魂之碑	紀美野町長谷宮（泉福寺）	昭和44年	—	泉福寺参道に建つ。「鶏魂之碑」、「長谷毛原ブローライー生産者」。	
08	06	谷口米之助翁頌徳碑	紀美野町小畑（厚生病院前）		—	野上厚生総合病院設立に際しその敷地を無償貸与した功績を讃える碑。紅簾片岩製。	74
08	09	十三神社の被害の石碑 （昭和28年大水害関係）	紀美野町野中（十三神社境内）	昭和	—	昭和28年7月の大雨で貴志川が氾濫、大災害発生。十三神社の境内脇に水位を表す石碑がある。	
08	09	玉泉寺 供養碑	紀美野町三尾川（玉泉寺境内）	昭和23年	—	玉泉寺本堂裏に建つ。正面「供養碑」、裏面「昭和廿三年九月廿三日建設上神野村」。片岩製。	
08	12	山田父子表功碑	紀美野町動木	大正2年	—	山田新之助が父と弟の供養のため金500円を動木の山畑地区に寄附し、その利子で地区の祭典費に充てるよう約束したものの。花崗岩製。	74
09	01	小川村記念碑	紀美野町福井（小川八幡神社境内）	昭和49年	—	小川八幡神社石段下に建つ。小川村の来歴（明治22年～昭和30年）を記す記念碑を役場跡地に建立。	74
09	01	新設記念碑	紀美野町赤木（メロディエロー下手前消防団前）	昭和8年	—	「新設記念」、「昭和八年七月 上神野村消防組」、「寄附者 満州新京新宅啓三殿 内海紡績株式会社殿 上神野村信用組合殿」。	
09	01	曲里亀樟翁頌徳碑	紀美野町長谷	昭和34年	—	明治40年～昭和9年に至るまで東野上村助役・村長歴任。長谷区民一同建立。砂岩製。	74
09	04	向林久太郎翁頌徳碑	紀美野町田（熊野神社参道）	昭和45年	—	昭和22年旧猿川村長、昭和30年合併後に旧美里町長に就任。国吉熊野神社参道に建つ。	
09	06	野上八幡神社 忠魂碑	紀美野町小畑（野上八幡神社境内）	明治	—	野上八幡神社本殿西側に建つ。正面「忠魂碑 海軍主計総監正四位功〇等男爵川口武定書」。片岩製。	74
09	06	小川八幡神社 忠魂碑	紀美野町福井（小川八幡神社境内）	明治39年	—	小川八幡神社本殿脇に建つ。正面「忠魂碑 正六位倉田績書」、側面「明治三十九年四月建設」。片岩製。	74
09	06	十三神社 頌徳神社	紀美野町野中（十三神社隣接）	昭和29年	—	十三神社南西隣接地に建立。前面の石製華瓶は昭和十九年十二月十一日銘。	
09	06	国吉熊野神社 忠魂碑	紀美野町田（熊野神社境内）	昭和45年	—	熊野神社宝篋印塔裏に建つ。日露戦争以降の国吉地区戦没者を祀る。正面「忠魂碑 和歌山県知事大橋正雄書」、裏面「昭和四十五年再建 国吉地区民」。片岩製。	
09	06	丹生狩場神社 忠魂碑	紀美野町長谷宮	大正6年?	—	丹生狩場神社本殿脇に建つ。陸軍中将田中義一書。	
09	06	泉福寺 忠魂碑	紀美野町長谷宮（泉福寺）	昭和9年	—	昭和9年3月、戦前大阪でロープ製造で財をなした実業家が泉福寺境内に建立。陸軍大将鈴木壯六書。	
09	06	泉福寺 日清日露大戦無名戦士忠魂碑	紀美野町長谷宮（泉福寺）	昭和38年	—	昭和38年8月15日、実業家が泉福寺境内に建立。	
09	06	泉福寺 護国之英霊追悼歌碑	紀美野町長谷宮（泉福寺）	昭和35年	—	昭和35年吉日、実業家が泉福寺境内に建立。	
09	06	泉福寺 嗚呼世界大戦無名戦死者忠魂碑	紀美野町長谷宮（泉福寺）	昭和37年	—	昭和37年7月、実業家が泉福寺境内に建立。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	泉福寺 戦没陸海軍将官追善供養慰霊碑・護国神社	紀美野町長谷宮（泉福寺）	昭和40年	—	昭和40年8月15日、実業家が泉福寺境内に建立。	
09	06	泉福寺 マッカーサー元帥顕彰之碑	紀美野町長谷宮（泉福寺）	昭和42年	—	昭和42年8月15日、実業家が泉福寺境内に建立。	
09	06	樫河池北端 忠霊碑	紀美野町小畑	昭和33年	—	日清戦争以降の東野上村戦没者の慰霊碑。元は動木地区にあったが昭和48年移転。東野上地区民建立。砂岩製。	74
09	06	医王寺 慰霊碑	紀美野町吉野（医王寺境内）		—	第二次世界大戦による医王寺檀家の戦没者9名の慰霊碑。砂岩製。	74
09	06	志賀野丹生神社 忠魂碑	紀美野町西野（志賀野丹生神社境内）		—	日露戦役以降の旧志賀野村戦没者慰霊碑。花崗岩製。	74
09	06	西方寺 忠魂碑	紀美野町柴目（西方寺境内）	昭和23年	—	柴目西方寺門徒の戦没者慰霊碑。西方寺門徒・戦没者遺族一同建立。砂岩製。	74
10	01	旧小川小学校校跡地碑	紀美野町福井（小川八幡神社境内）	昭和50年	—	小川八幡神社石段下に建つ。「旧小川小学校跡地」、「昭和五十年三月建之」、「創立百周年記念事業」。	74
10	01	東峰吉・西山市楠・東角之助頌徳碑	紀美野町西野（志賀野丹生神社境内）	昭和6年	—	志賀野小学校運動場拡張工事費として金1450円を3名により寄附された功績を讃える。志賀野村建立。自然石。	74
10	07	故井村利助之碑	紀美野町小畑（観音寺境内）		—	馬関係者により建立。建立者は日方、紀三井寺、東、中、北、南の四野上と小川の21名。	74

【紀の川市】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
01	01	飯盛鉾山	紀の川市麻生津	明治11年～	—	明治11年発見。含銅硫化鉄鉱の鉾山。昭和31年の粗鉾量は年産60,000t、精鉾量は年産4,500t（銅・硫黄）。精鉾は運搬架空索道で国鉄名手駅に運ばれる。昭和45年閉山。	1、38
01	02	貴志鉾山	紀の川市貴志川町西山	幕末～	—	江戸時代末期に既に銅の採掘が行われていた。丹生神社脇の1・2坑が始まりで第8坑で掘り出した（第4坑は無し）。大正頃まで稼働。	14
02	04	山田ダムの堰堤	紀の川市貴志川町井ノ口他	昭和32年	—	貴志川町は盆地で干ばつ時は水不足。工事着手昭和28年、工事完了昭和32年。サイフォンにより各地域に水が送られた。	14
02	04	武本馬太郎頌徳碑	紀の川市貴志川町井ノ口	昭和	—	井ノ口山田ダムの堰堤脇にある。馬太郎は、中貴志村助・村長で、山田川ダム（昭和25年国事業承認32年竣工）建設に尽力する。	14、28
04	02	竜門風穴	紀の川市杉原	明治	—	猿種製造関連。	17
04	02	道本良蔵遺功の碑	紀の川市貴志川町丸栖（小学校）	明治40年	—	丸栖小学校に明治40年丸栖村長山本嘉一郎他有志が建立。篤農家で柑橘の苗を移入、伊都那賀郡同志とアメリカ、シベリア等輸出。明治25年製糸工場・養蚕業・凍豆腐業など。丸栖小学校政策で土地寄付。	14、28
04	08	たばこ乾燥小屋	紀の川市西三谷	昭和10年代	—	旧打田町では近代以降たばこ農家急増。木造・切妻屋根・棧瓦葺・内壁は土壁の真壁造り。	1
04	08	たばこ乾燥小屋	紀の川市池田新		—	旧打田町では近代以降たばこ農家急増。木造・切妻屋根・棧瓦葺・内壁は土壁の真壁造り。	1
04	08	たばこ乾燥小屋	紀の川市東三谷	昭和11年	—	西川家たばこ乾燥小屋。旧打田町では近代以降たばこ農家急増。東三谷では約50軒。木造・切妻屋根・棧瓦葺・内壁は土壁の真壁造り。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
04	08	たばこ乾燥小屋	紀の川市池田新		—	旧打田町では近代以降たばこ農家急増。木造・切妻屋根・棧瓦葺・内壁は土壁の真壁造り。	1
05	01	打田駅（旧紀和鉄道）	紀の川市打田1242-4	明治33年	—	明治33年開業。現JR和歌山線。	1
05	01	名手駅（旧紀和鉄道）	紀の川市名手市場	明治34年	—	明治34年開業。現JR和歌山線。下りプラットホームはレンガで構築。	1
05	01	粉河駅（旧紀和鉄道）	紀の川市粉河	明治33年	—	明治33年開業。現JR和歌山線。下りプラットホームはレンガで構築。跨線橋に下路プラットホーム採用。	1
05	01	紀伊長田駅（旧紀和鉄道）	紀の川市深田	明治36年	—	明治36年長田臨時停車場として開設。昭和13年紀伊長田駅に改称し、駅として開業。現JR和歌山線。	1
05	01	下井阪駅（旧紀和鉄道）	紀の川市下井阪	昭和13年	—	昭和13年開業。現JR和歌山線。	1
05	01	名手谷川橋梁（旧紀和鉄道）	紀の川市名手市場	明治33年	—	橋台はレンガ造。	1
05	01	貴志駅（旧和歌山鉄道）	紀の川市貴志川町神戸	昭和8年	—	昭和8年伊太祁曽～貴志駅開業。昭和32年和歌山電気軌道、昭和36年南海電気鉄道。現和歌山電鐵貴志川線。	1
05	01	大池第二橋梁（旧和歌山鉄道）	紀の川市貴志川町長山～和歌山市永山	昭和8年	—	昭和8年伊太祁曽～貴志駅開業。大池に架かる橋梁。	1
05	02	道路改修記念碑	紀の川市荒見	昭和38年	—	上林勤氏頌徳、道路改修記念。蛇紋岩製。	17
05	02	川原粉河線大改修變成 記念碑	紀の川市上丹生谷	昭和22年	—	「昭和二十二年五月建立」。八塚良三撰文。	17
05	02	道路改修記念碑	紀の川市杉原	昭和2年	—	表「道路改修記念碑」、裏「昭和二年一月」、東「發起人年長順 宮城次郎吉 蓬台豊太郎 森本知之助 柑本政太郎 蓬台雅一 山本泰治 谷口泰蔵 蓬台太□」。	17
05	02	荒見本線竣工記念碑	紀の川市荒見	昭和38年	—	荒見本線竣工記念。昭和38年。	17
05	02	舞田道完成記念碑	紀の川市中ノ才	昭和9年	—	舞田道完成記念碑。昭和9年5月11日建立。	17
05	02	改修記念碑	紀の川市粉河	昭和5年	—	薬師橋及び中門の下道路の改修記念。「昭和五年十一月三日 發起人 中太一郎 広橋吉松 堀内文一 森下元之助 北田久太郎 寺川栄吉」。	17
05	02	角氏顕徳碑	紀の川市東大井	昭和40年	—	昭和40年1月、明治32年に渡米して成功した角寅一が東大井へ多額の寄付し、道路整備ができたことを感謝し東大井区民が建立。	
05	02	道標	紀の川市東野	幕末	—	地蔵石仏。道標銘「右いせ・まきのをみち 安政二年」。砂岩製。	28
05	02	道標	紀の川市粉河	幕末	—	道標銘、右「左 いせかうやまきのう道」、正面「右 粉河寺根来大坂道」、左「慶応元乙丑年十一月建立往来安全」、裏「右 若山紀三井寺新四国道」。花崗岩。	28
05	02	道標	紀の川市粉河	明治9年	—	道標銘「右 粉河寺 大門迄是より九丁 明治九年」。花崗岩製。	28
05	02	道標（灯籠）	紀の川市深田	幕末	—	灯籠。銘「いせかうや 粉河町江十三丁」。砂岩製。	28
05	02	道標	紀の川市杉原	明治41年	—	棟型角柱。右「施主荒見岩垣九左エ門」。正面「左いせ かうや道」、左「明治四十一年三月」。花崗岩。	17
05	02	道標	紀の川市粉河	明治9年	—	道標銘、右「力谷万五郎」、正面「粉河寺」、左「明治九年八月」。	17
05	02	道標	紀の川市桃山町段	幕末	—	国道424号線と町道段法示線（新田一段―遠地）の交差点。正面「すぐ和歌山道」、裏「すぐ八十八ヶ所」。	
05	02	道標	紀の川市桃山町市場	昭和	—	場遠地線と遠地水路の交差点にあり、遠地線道路および水路改修工事の竣工を記念して建てられたもの。	59
05	02	道標	紀の川市中三谷	大正6年	—	「北 春日神社道、大正六年七月、樹谷医院建之」。	28

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	02	道標	紀の川市中三谷	大正8年	—	「北 春日神社道 同温泉」、「西 根来山 三十丁 大正八年八月」。	28
05	02	道標	紀の川市東三谷	大正7年	—	「左 春日神社道、大正七月 滝本石材店」。	28
05	02	径路改修記念碑	紀の川市西川原	昭和14年	—	昭和14年建立。藪上昌美撰文、藪田俊二郎書。	17
05	03	竜門橋	紀の川市荒見	昭和30年	—	昭和30年（1955）完成。	17
05	03	妹背橋	紀の川市穴伏～かつらぎ町	昭和9年	—	昭和9年8月竣工（銘板）。鉄筋コンクリート造。穴伏川をまたぎ、国道24号線・480号線の交差点地点。現在隣接して新妹背橋あり。	1
05	03	小島橋	紀の川市名手市場	大正13年	—	大正13年8月架換。	
05	03	井阪橋	紀の川市桃山町段	昭和44年	—	昭和35年に木橋が竣工。最後まで残っていた井阪の渡し舟や帆掛け舟が完全に姿を消した。昭和44年井阪橋（鉄道橋）竣工。	58
05	03	高島橋	紀の川市貴志川町丸栖、桃山町調月	昭和39年	—	大正15年に貴志川全長182mの高島橋（鉄橋）完成。昭和39年4月コンクリーの新高島橋竣工。	58
05	03	小海川橋	紀の川市西三谷	昭和11年	—	昭和11年3月刻年。	
05	03	佐川橋	紀の川市南勢田	昭和10年	—	昭和10年7月刻年。	
05	03	海神大橋	紀の川市北大井		—		1
05	04	トンネル工事完成記念碑	紀の川市東川原	明治35年	—	明治35年建立。牛滝往来のうち、馬宿・野上を経て東川原に至る道路の隘道。砂岩製。	17
05	04	旧池田隧道（トンネル）	紀の川市重行～神通	明治19年	市史跡	明治17年起工、19年竣工。旧大阪街道の便を図る県内最古のレンガ造トンネル（長80×幅2×高2.3m）。扁額「池田隧道」。設計監督の打田町池田村北中の高橋市右門は明治初年に紀伊藩の留学生として濱口梧陵とともに渡米。技術を持ち帰る。	1、10
05	04	山田万三郎君頌徳碑	紀の川市豊田（福琳寺）	明治33年	—	旧池田トンネル開通に尽力した山田氏の功績を称える碑、撰文は兄玉仲児。福琳寺に建立。万三郎も猛山学校メンバーで、のち北大井大庄屋、明治維新後郷長。	28
05	09	紀の川堤防築堤記念碑	紀の川市桃山町段新田	昭和33年	—	昭和28～29年の度重なる大水害は紀の川堤防を決壊、田畑流失、埋没、家屋流失など被害額も数十億。昭和28年から5年間の復旧工事完成。	59
05	11	旧名手郵便局	紀の川市名手市場	昭和3年	—	明治5年開局。現建物は昭和3年新築、平成9年閉局。木造2階建洋館。1階窓口・応接室。2階電信電話室・宿直室。	1
05	11	旧池田郵便局	紀の川市南中	昭和14年	—	明治25年開局。現建物は昭和14年建設、昭和55年閉局。木造2階建、外壁タイル貼。現在は現存せず。	1
06	05	稲垣光二翁頌徳碑	紀の川市貴志川町尼寺	昭和42年	—	大阪へ出て実業界に活躍。印刷会社をつくる。	28
06	06	旧伊那合同銀行池田支店	紀の川市南中	大正13年	—	前身の那賀銀行は明治29年設立。大正13年に合併して伊那合同銀行。昭和初期倒産。昭和22～31年池田村公民館。現在個人倉庫。木造平屋建。	1
07	01	トンネル池と隧道水路	紀の川市桃山町調月	大正6年	—	増田池の水不足を解消するために山田川に注ぐ横谷を堰き止めて、トンネル池から水を導くために約100mトンネルを掘った。大正6年悲願の工事完成。	1、58
07	01	増田池竣工功績碑	紀の川市桃山町調月	大正12年	—	坂本文三郎（当時の村長）功徳碑。トンネル池の水を約100m・高さ130cm・幅83cmの岩盤下をトンネルを掘り水田に水を引いた。明治45年工事着手し、大正7年開通。	28、58
07	01	小田井用水 木積川渡井	紀の川市西三谷	大正3年	国登録	宝永4年に完成した小田井用水の樋の1つ。明治後期以降改修。題額に大正3年3月刻年。木積川に架かるレンガ造の単アーチ水路橋。	1
07	01	小田井用水 龍之渡井	紀の川市西野山～かつらぎ町高田	大正8年	国登録	宝永4年に完成した小田井用水の樋の1つ。明治後期以降改修。題額に「龍之渡井」。穴伏川に架かるレンガ造の単アーチ水路橋。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	旧那賀町果実農業協同組合連合会（果実連）	紀の川市名手市場	昭和27年	—	県内産みかんの内地販売・輸出版売の組織。木造2階建・外壁下見板張り・寄棟セメントスレート瓦葺。建築面積150㎡。現寺本紀北店。現在は現存せず。	1
07	01	中谷彦次郎翁頌徳碑	紀の川市北志野（北志野祇園社）	昭和12年	—	砂防工事三十周年記念に桜池普通水利組合が昭和12年3月建立。	17、28
07	01	桜池改修記念碑	紀の川市北志野	昭和42年	—	昭和42年3月建立。	17
07	01	桜池記念碑	紀の川市北志野	大正8年	—	桜池築堤紀州藩主南竜公頼宣の偉業を顕彰して大正8年に建てられた。倉田績撰并書。橄欖岩。	17
07	01	大畑才蔵翁彰功之碑	紀の川市粉河	大正14年	—	大正14年12月建立。小田井・藤崎井を造る。和歌山県知事長谷川久一、那賀郡長西本四郎撰并書。粘板岩。	17
07	01	兒玉君遺徳碑	紀の川市粉河	明治33年	—	明治33年9月建立。倉田績撰并書。兒玉庄右衛門は南志野の窮状打開や桜池の改築、山論の仲介などを行う。兒玉仲児の父。	17
07	01	蓬台雅一頌徳碑	紀の川市杉原	昭和31年	—	昭和31年10月建立。紀の川柑橘の振興、県会議員16年、竜門橋麻生津橋架橋に尽力。和歌山県知事小野真次題字書、民生部長藤範昱誠撰。蛇紋岩製。	17
07	01	戸口（致隆）君遺蹟之碑	紀の川市粉河	明治15年	—	明治15年2月建立。碑文は兒玉仲児撰文。倉田績書。通称戸口重郎右衛門は郷長・区長を務め、那賀郡の興業殖産に従事。	17
07	01	林猛夫翁頌徳碑	紀の川市東野	昭和12年	—	王子村産業組合が昭和12年9月建立。題字揮毫農林大臣伯爵有馬頼寧。	17
07	01	藤田君頌徳碑	紀の川市西川原	大正15年	—	倉田績撰文並び書。藤田繁之助の存生中に建立。戸長、村長を勤め地租改正に労苦を重ね、柑橘栽培に努力。	17
07	04	東助太郎記念碑	紀の川市中鞆渚	大正5年	—	大正5年8月建立。發起人今西幸左エ門、梅北雪平、下久田用市、佐古亀市。東助太郎は村の林業普及に努め、小学校新築や高野街道改修に尽力。	17
07	04	雨山共有山植林頌徳碑	紀の川市桃山町神田（三船神社）	昭和17年	—	雨山の共有山は明治初年までは雑木林。当時の村長 津田正朔、奥史朗、山下亀次らは松を植林、治山、治水に大きな貢献を果たした。	28、58
07	06	羽端鹿助君頌徳碑	紀の川市竹房	昭和5年	—	殖産・蚕糸業に努力した紀北蚕糸会社社長・小田井組合長。竹房橋架橋を果す。昭和5年に建立。	28
07	08	橋本清三郎頌徳碑	紀の川市打田	昭和8年	—	田中、安楽川共有山組合が昭和8年田中小学校に建立。	28
07	08	東吉右エ門頌徳碑	紀の川市麻生津中	昭和	—	東吉右エ門は明治41年に麻生津郵便局長を務めて以来、村の殖産振興に尽力。昭和10年麻生津橋架橋を果たした。	
08	06	佐野齒科医院	紀の川市打田	明治33年以前	—	木造平屋建。アーチ窓が並んだ洋館。内部は土間・待合室・中待合・診察室・手術室。病棟へつながる。	1
08	08	ふみや旅館	紀の川市貴志川町井ノ口	昭和8年	—	現在は現存せず。	1
08	09	貴志川大水害復興記念碑（昭和28年大水害関係）	紀の川市桃山町調月（大年神社）	昭和31年	—	昭和28年7月18日未曾有の大水害で耕地は流され、家は浸水し、大きな被害を蒙った。3年間の歳月をかけて完全に復興。	28、58
08	09	遭難女学生乃碑（大正4年豪雨）	紀の川市桃山町百合（竹房橋南詰）	昭和55年	—	大正4年9月8日前夜からの豪雨による濁流に渡し舟が転覆。女学生8名と小学生1名が水の犠牲となった。現在の碑は昭和55年4月建立。	28、58
08	09	餓死人塚の碑	紀の川市竹房	幕末	市史跡	天明・天保の大飢饉で、藩の救済がなされたが多く餓死者を出している。餓死者の冥福を祈りこの碑を建立。	
08	09	阪上楠治郎頌徳碑	紀の川市中畑	大正8年	—	明治12年、戸長・村会議員で洪水被害の村を救う。大正8年建立。	28
08	12	辻仁甚兵卫巡査墓	紀の川市窪（医王寺）	明治44年～	—	明治43年12月2日、兇賊に殺されて殉職。有志石をたててその霊を弔う。明治44年、医王寺に建立。	28

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	13	陸奥宗光伯爵頌徳碑	紀の川市藤崎	大正15年	—	風光明媚な地である藤崎は、明治18年に池田垣内から陸奥宗光にゆづられ、大正年間に再び王子村へ寄付された。	28
08	13	森田節斎墓	紀の川市荒見	明治元年	県史跡	幕末の学者・勤王の森田節斎の墓。大和五條生、明治元年逝去、北家墓地に葬る。元々、愚中庵のあった場所。向かって左から森田節斎、妻無絃、息子司馬太郎の墓。	38
08	13	森田節斎先生顕彰碑	紀の川市荒見（九頭神社）	大正14年	—	森田節斎の輝かしい業績を誌す。稲井石（仙台石）製で高さ4.5・幅1.5m。台石は龍門石。大正14年銘、土屋弘撰、篆額は牧野伸顕、碑文は宮内省内大臣秘書官工藤壮平の揮毫	67
08	13	森田節斎先生墓道標	紀の川市東荒見		—	森田節斎の墓地を示す道標。砂岩製の角柱。高さ73cm、幅30cm、厚さ28cm。	
08	13	森田節斎無絃女史頌徳碑	紀の川市桃山町市場（神明社）	昭和12年	—	森田無限女史は江戸時代の漢学者節斎と結婚。死別後に子司馬太郎と安楽川市場村来村で私塾を13年間営む。昭和12年に開塾60周年門人が建立。	58・59
08	13	愚中庵（善通寺）（森田節斎関係）	紀の川市荒見	江戸～	—	北家の自庵として建てられ、後に森田節斎に居所として譲られた。現在は廃寺となり、北家の墓所のみ残る。	
08	13	北家（森田節斎関係）	紀の川市荒見	鎌倉～	—	慶応元年森田節斎を寄寓、翌年自庵の愚中庵を節斎の居所に提供。慶応4年年九頭神社社務所へ移らせる。北家は近世の地主で庄屋も務め、幕末は医業を営み、私塾を開く。現在は現存せず。	66
08	13	九頭神社（森田節斎関係）	紀の川市荒見	江戸～	—	天正15年（1587）現在の地に移り、本殿と二社が祀られる。北家の手配で慶応4年森田節斎は妻無絃、子司馬太郎とともに社務所へ移り住んだ。	
08	13	華岡家発祥之碑	紀の川市西野山	昭和14年	—	銘文「華岡家発祥之地 題額青洲玄孫医学博士華岡雄太郎書」。玉川石。中山村の戸長宅。未調査で年代不明、古い長屋門残る。粉河騒動で児玉庄右衛門は県と交渉した中心人物。後に懲役刑。騒動の始まりは長男仲児作成の県宛の意見書。	28
08	14	児玉庄右衛門・仲児宅（粉河騒動関係）	紀の川市粉河	明治5年	—	曾和家は地主の家柄で副戸長。建物は未調査で年代不明、主屋、蔵等が残る。粉河騒動で県と交渉した中心人物、後に懲役刑。	
08	14	曾和震十郎宅（粉河騒動関係）	紀の川市深田	明治5年	—	代々庄屋を勤めた家で当時は副戸長。主屋は市指定文化財（建造物）、蔵・長屋門は近代。県と交渉した中心人物で、後に懲役刑。	
08	14	千田軍之助宅（粉河騒動関係）	紀の川市南志野	明治5年	市建造物	延喜年間、念仏上人開創。慶長年間浅野幸長が再建。明治5年（1873）5月6日粉河騒動で戸長らの解放を求めるため、長田観音に2～300人の村人が集まった。	
08	14	長田観音（粉河騒動関係）	紀の川市長田	明治5年	—	粉河寺本堂の東側にある鐘堂。明治5年（1873）5月6日粉河騒動の戸長らの解放を求めて粉河寺の釣鐘の音を合図に400人余りの村人が集まった。	
08	14	粉河寺 鐘堂（粉河騒動関係）	紀の川市粉河	明治5年	—	寛永12年の擬宝珠が残る。粉河騒動の明治5年（1873）5月7日には、1000人以上の集団になって、一旦後続を羊の宮で待った。	
08	14	西田中神社（粉河騒動関係）	紀の川市中井阪	明治5年	—	享和元年祖母清信院の遺志を継いで徳川治宝が創建。粉河騒動後、県から地価合計帳の差出を厳しく催促されたが、その際の県令の宿泊所となった場所。	
08	14	十禅律院（粉河騒動関係）	紀の川市粉河	明治5年	県建造物	粉河騒動・志野池田村山論解決に代議士として尽力した軍之助氏の生涯の功績により墓地に建碑。	28
08	14	千田軍之助墓（粉河騒動関係）	紀の川市南志野（志野墓地）		—	中貴志村収入役、県庁職員、県会議員。昭和28年貴志川大水害復興の貴志川大改修工事、耕地改良を実行。	28
09	01	中西正規先生頌徳碑	紀の川市貴志川町前田（地藏寺）	昭和49年	—		

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	04	前田謙佑墓碑	紀の川市貴志川町前田	明治25年	—	前田家の西南100mにある。一本木を屋号とする豪農、明治3年郷長、戸長、村長、貴族院議員。倉田績撰並書、長男廣吉の建立。	14、28
09	04	池田豊三郎頌徳碑	紀の川市重行（東勝寺）	昭和28年	—	明治22年初代村長となり、大阪往來の道を開設。昭和28年、東勝寺に建立。	28
09	04	山口喜久一郎先生頌徳碑	紀の川市貴志川町神戸（諸井橋西詰）	昭和43年	—	昭和5年県会議員、昭和17年衆議院議員。昭和28年貴志川大水害の復旧工事に尽力。	28
09	04	内田馬之丞恩徳碑	紀の川市打田（法恩寺）	明治43年	—	内田馬之丞の恩徳碑。馬之丞は慶安元年（1648）年貢で苦しむ村人を代表して直訴を行った。明治43年法音寺に建立。	9、28
09	06	塩谷伊勢守戦死跡碑	紀の川市桃山町最上	昭和6年	—	南北朝時代・正平15年（1360）最初が峯、龍門山合戦時、南北朝軍の將塩谷伊勢の守は紀伊官軍3千余騎を率いて合戦中、北朝軍を深追しすぎこの地で討死。	58
09	06	甘露寺 日露戦役忠魂碑	紀の川市貴志川町長原（甘露寺境内）		—	甘露寺内にある日露戦争の記念碑。裏面「長原中」。	14、28
09	06	甘露寺 殉国之碑	紀の川市貴志川町長原（甘露寺境内）	昭和51年	—	甘露寺内にある殉国碑。表面「殉国之碑 和歌山県知事坂谷志良謹書」。裏面「長原中」と68名の氏名。	
09	06	甘露寺 征清忠魂碑	紀の川市貴志川町長原（甘露寺境内）	明治か	—	甘露寺内にある忠魂碑。表面「征清忠魂碑」。裏面「長原中」と2名の戦没者名。紀年銘読めず。	
09	06	大國主神社 忠魂碑	紀の川市（大國主神社境内）		—		
09	06	岩田美輝大尉之碑	紀の川市中三谷（春日神社前山）	明治40年	—	東三谷陸軍砲兵大尉、日露戦後に従軍。	28
09	06	殉国之碑	紀の川市野上	昭和23年	—	第二次世界大戦殉国者大字内22名の碑。昭和23年12月21日建立。	17
09	06	忠魂碑	紀の川市藤崎	大正	—	昭和22年（1947）藤崎へ移転。	38
09	07	本多楠三郎之碑	紀の川市北大井	明治	—	本多和一郎の父。実学社社員。クリスチャンのキリスト教墓	
09	07	湯浅義夫翁頌徳碑	紀の川市東国分（地藏寺）	昭和14年	—	村に寄進多し、大阪市にて活動する。県知事清水重夫書、昭和14年地藏寺に建立。	28
10	01	旧名手小学校	紀の川市名手市場	昭和	—	レンガ積みのみが残る小学校。	38
10	01	神戸小学校跡	紀の川市貴志川町神戸	明治	—	薬王寺に開設された小学校跡地。	14
10	01	前田小学校跡	紀の川市貴志川町前田	明治	—	前田の地藏寺に開設された小学校跡地。	14
10	01	猛山学校跡及び寄宿寮跡	紀の川市粉河	明治6年	—	明治6年、粉河寺境内に慶應義塾で学び福沢諭吉の影響を受けた児玉伸児らが設立した私塾跡。欧米の進んだ技術や学問を教え移民を勧めた。	16
10	01	児玉家宅	紀の川市粉河	明治	—	移民を促進した児玉伸児宅。建物建築年代は未調査。明治6年、慶應義塾で学んだ伸児は猛山学校創設、弟誓吉は明治17年にへール牧師の感化を受け渡米。現在は現存せず。	
10	01	共修学舎跡	紀の川市北大井	明治	—	慶應義塾で学んだ本多和一郎が創設した私塾。洋学、歴史、漢学を教えた。米国移民相談所を併設。	11
10	01	本多和一郎君之碑	紀の川市北大井	明治33年	—	本多家北側阿弥陀寺境内の石碑。共修学舎の門人たちが建立。和一郎は福沢諭吉に学び帰郷後、共修学舎開設。舎内に渡米相談所を設け、渡米を勧めた。	
10	01	奚疑塾跡	紀の川市西井阪	昭和	—	中尾靖軒は森田節斎に学び、明治16年に「奚疑塾」を開設。漢籍を教え	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	01	靖軒中尾純翁碑	紀の川市西井阪	昭和	—	天保7年紀伊国田中村で生。18歳で京都遊学、漢学者梁川星巖等に師事。自宅で私塾を開き多くの門人輩出。森田節斎に師事し、門人の中で一番優秀と評され、郷土の文化向上に貢献。	37
10	01	吉村源之助頌徳碑	紀の川市粉河（粉河中学校）	昭和11年	—	和歌山県立粉河中学校初代校長の顕彰碑。南方熊楠と同級生で胸像は戦時中に供出して今はなく、台石が残る。多紀仁撰天野景福書。青石。	17、28
10	01	並松亀吉君頌徳碑	紀の川市長田中	大正11年	—	碑文「並松亀吉君頌徳碑 田村賢道 八十三才書」、裏面「大正十一年二月東垣内建之」、西面「臨時公債 額面金二百円寄附」。	17
10	01	島本進五郎翁頌徳碑	紀の川市名手市場（名手八幡神社）	昭和10年	—	島本進五郎は明治5年名手に移り名手八幡神社に奉仕、明治9年から小学校勤務し40年余り教化につとめたことを顕彰して門下生が建立。	28
10	01	坂口富之助先生頌徳碑	紀の川市貴志川町国主（大国主神社参道）	明治29年	—	大國主神社の参道脇にある。明治29年10月門弟米田孫右衛門他3名が建立。明治5年神戸小学校教員・慈父の如くを教育。	14、28
10	01	鈴木猪之助先生頌徳碑	紀の川市貴志川町井ノ口（東貴志小学校）	昭和27年～	—	東貴志小学校玄関前に昭和27年建立。鈴木猪之助は明治20年東貴志小学校長30年余年勤務。東貴志村長となり尽力。	14、28
10	01	大森覚之燕先生頌徳碑	紀の川市貴志川町前田	昭和9年	—	昭和9年塾生が建立。元文部大臣鎌田栄吉書。丸栖、西貴志、和歌山中学校勤務。	14、28
10	01	小山照子先生殉職之碑	紀の川市貴志川町国主（大國主神社参道）	昭和23年	—	大國主神社参道脇に昭和23年和歌山県教職員組合、中貴志小学校PTA建立。昭和8年中貴志小学校訓導。昭和19年8月2日貴志川で水泳中、子供を水中から助け殉職。	14、28
10	01	田村安之右衛門先生頌徳碑	紀の川市貴志川町丸栖（小学校）	明治30年	—	丸栖小学校校庭に明治30年道本賢之助他15名が発起人で設立。倉田績撰並書。嘉永3年父の塾を継ぎ読み書きそろばんを教え、その後丸栖小学校で教員を勤めた。	14、28
10	01	田村吉郎先生頌徳碑	紀の川市貴志川町丸栖（小学校）	昭和17年	—	丸栖小学校初代校長。安之右衛門の子。昭和17年門弟たちが丸栖小学校玄関前に建立。教育者30余年育英にあたる。発起人は西嘉三郎他29名、撰文・書は前田雄治、篆額花田大五郎。	14、28
10	01	岡本英孝先生顕彰碑	紀の川市西大井（薬師寺）	明治17年～	—	明治12年西大井の私塾で教え、田中馬場、西大井の青陽小学校で教えた。明治17年、薬師寺に建立。	28
10	01	川口武貞先生頌徳碑	紀の川市打田（若宮神社跡地）	明治38年	—	和歌山藩士となり明治7年田中小学校訓導15年勤務。山中寿男撰並書。明治38年、若宮神社跡地に建立。	28
10	01	千田稔先生頌徳碑	紀の川市打田（田中小学校）	大正9年	—	明治21年打田小学校、24年田中小学校訓導・校長として勤務。大正9年、田中小学校建立。	28
10	01	春日先生頌徳碑	紀の川市中三谷（春日神社）	大正6年～	—	明治13年三谷小学校に奉職し39年間阪上文先生。大正6年、春日神社に建立。	28
10	01	島本玄誠頌徳碑	紀の川市貴志川町長原（甘露寺）	昭和21年	—	甘露寺山門前にある。甘露寺住職、慈教学舎をつくり子弟を教える。戦争に献金する。	14、28
10	01	丹羽勝義頌徳碑	紀の川市貴志川町神田（正福寺）	明治以降	—	明治9年加和小学校が市場小学校に合併後、神田正福寺に神田小学校設立時に教員となり子女の教育に尽力。	28
10	06	弘法大師碑	紀の川市桃山町段新田	幕末	—	最初ヶ峯の裾野、百合山に八十八ヶ所の堂宇が創建。「新四国八十八ヶ所」と名付けられ、一大霊場となる。道路改修等で薬師寺境内に移転。	59
10	06	記念碑	紀の川市名手市場	昭和9年	—	弘法大師1100年御遠忌記念。昭和9年8月13日。	
10	06	粉河寺創建光明池記念碑	紀の川市粉河	大正14年	—	「踞木地 大正十四年五月建之 石工 光月」。緑泥片岩製。	28

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	据木地之碑	紀の川市粉河	明治35年	—	「明治三十五年十月八日 前天台座主 村田寂順撰文、勅選議員金井之恭書、石匠 大阪 平清」、「大正十四年五月」。粘板岩製。	17
10	06	賀茂神社鳥居	紀の川市西川原	明治45年	—	明治45年6月建立。	17
10	06	本堂（善来寺）改築記念碑	紀の川市嶋	昭和11年	—	善来寺の本堂前に建つ。昭和11年9月30日建立。	17
10	06	合塋記念碑	紀の川市北志野	昭和26年	—	昭和26年、字にあった二か所の墓地を一か所に整備したことを記念して建てられた。	
10	06	合塋記念碑	紀の川市南志野	大正15年	—	大正15年、逸木盛照撰。字にあった三か所の墓地を一か所に整備したこと	17
10	06	記念碑	紀の川市北志野	昭和26年	—	を記念して建てられた。	
10	06	乗蔵院建立之記	紀の川市粉河	明治	—	昭和26年、墓地整備を記念して建立された。	17
10	06	阿弥陀如来坐像	紀の川市粉河	幕末	—	弟子竜照代拝書。	17
10	06	大門中門釣灯笼献納記念碑	紀の川市粉河	昭和8年	—	清心院、霧慧妙覚大尼公建立。粉川住人増井盛信セン字、維時文久二壬戌正月十五日。	17
10	06	名手八幡神社記念碑	紀の川市名手市場	昭和13年	—	碑文、表「大門中門 釣灯笼献納記念碑」、裏「昭和八年五月吉祥日建之」。	17
10	06	粉河寺山主大行満願海筆	紀の川市粉河	幕末	—	梵字の多くの石仏を作る。出現池付近の堂々を作る。三角堂・童男堂天井梵字 安政五年五月粉河寺へ来り、文久三年去る。冷泉為恭寿喝建立す。	17
10	06	秋葉山神社	紀の川市中鞆渕	大正10年	—	梵字の大字偈。緑泥片岩製。	
10	06	今宮神宮	紀の川市下鞆渕	大正10年	—	一間社・春日造・銅板葺。大正10年4月24日鎮座。	17
10	06	山神社	紀の川市下鞆渕	昭和25年	—	二間社・流造。明治39年鞆渕八幡神社に合祀。大正十10年1月13日に元の場所である現在地に分霊を遷座。	17
10	06	社日神	紀の川市北長田	明治4年	—	昭和25年11月7日現在地にまつる。	17
10	06	社日神	紀の川市長田中	明治18年	—	篠深谷寺内に明治4年建立。	17
10	06	帯釈寺	紀の川市別所	昭和39年	—	石碑刻銘「明治十八年〇月七日」。	17
10	06	社日神	紀の川市猪垣	明治18年	—	もと深田にあり。昭和39年、長田観音寺の西の台の上に建立。	17
10	06	土公神	紀の川市藤井	明治9年	—	明治18年12月建立。	17
10	06	土公神守護	紀の川市東毛	明治2年	—	銘文「土広神守護 明治九年丙子年二月吉日立之」。砂岩製。	17
10	06	板碑	紀の川市粉河	明治3年	—	銘文「明治三己巳歳〇月吉日立之」。	17
10	06	灯籠	紀の川市粉河	大正11年	—	南面「明治三庚辛十一月吉日」。砂岩製。	17
10	06	狛犬	紀の川市遠方	大正4年	—	銘文、南「左 秋葉大権現 大正十四年十月」、北「右 秋葉大権現 施主 王子村片山熊一 熊太郎」。	17
10	06	狛犬	紀の川市西川原	明治	—	楠神社、石造、大正4年銘。	17
10	06	狛犬	紀の川市上丹生谷	大正	—	賀茂神社。石造、明治四十三年銘。	17
10	06	奉誦光明真言一百萬遍塔	紀の川市名手上	明治21年	—	丹生神社。石造、大正十三年銘。	17
10	06	十一面観音立像	紀の川市粉河	幕末	—	「村中安全 供養塔 明治21年旧2月吉日」。砂岩製。	28
10	06	読誦塔	紀の川市北長田	明治	—	六石台座、池田北大井山田万三郎。砂岩製。	28
10	06	読誦塔	紀の川市北長田	明治	—	板碑。奉誦誦法華普門品一万部信心講中。緑泥片岩製。	28
10	06	読誦塔	紀の川市北長田	昭和	—	板碑。奉誦誦法華普門品一万部信心講中。緑泥片岩製。	28
10	06	読誦塔	紀の川市北長田	昭和	—	奉誦観音経巻万遍供養塔大師講。花崗岩製。	28
10	06	読誦塔	紀の川市麻生津中	幕末	—	板碑、銘文「観音経一万巻」。緑泥片岩製。	28

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	読誦塔	紀の川市名手西野	明治	—	板碑、銘文「般若心経 十万遍」。	28
10	06	一字一石塔	紀の川市穴伏	幕末	—	板碑、銘文「法華経一字一石塔」。緑泥片岩製。	28
10	06	一字一石塔	紀の川市北涌	明治	—	板碑、銘文「法華経一字一石」。緑泥片岩製。	28
10	07	河野タツ刀自之像	紀の川市粉河（粉河寺）	昭和11年	—	碑文表「頌徳 残されし よき行ひの数々を とはに伝へむ 粉河の寺に昭和丙子歳十一月 山主盛照詠」、裏「昭和十一年十一月 建立大阪河野卯兵衛 協賛 大阪粉河講」。	17、28
10	07	松山棟庵の墓碑	紀の川市桃山町神田	大正	—	安政元年京都でオランダ医学を学ぶ。慶応義塾で学び、同塾医学所校長を務める。濱口梧陵と共立学舎開設。恩師福沢諭吉の最期をみとる。	58
10	07	古岳幽真墓	紀の川市藤崎	明治	—	文化9年海草郡加茂村（現海南市）生。高野山で仏門、天保10年頃下山、藤崎に居を構え。諸国を旅し、森田節斎の他、緒方洪庵や陸奥宗光等、多くの歌人、国学者、維新の志士達と親交。	
10	07	藤崎弁天	紀の川市藤崎	江戸～	県名勝	奇岩が立ち並ぶ風光明媚な地。江戸後期の歌人で琴の名手の僧古岳幽真は、この地を庵を結び、弁天堂を復興。森田節斎は妻無絃の師の大坂泊園書院藤沢東岐と琴を学び、息子司馬太郎と宿泊。	
10	07	林南溪先生墓碣銘	紀の川市切畑		—	南溪の門人が功績を称え建立。親交のあった森田節斎が銘文を起草、巖谷修が書く。隣の西野山村で開業した華岡青洲とも親交、「外科の青洲、内科の南溪」と称えられた。	51
10	07	林家（南溪）	紀の川市切畑	江戸～	—	林家13代南溪は林家初代専業医師として開業。儒学者、頼山陽からも学び、森田節斎は皮膚疾患治療で訪れた。	51
10	07	豊竹邑太夫の碑	紀の川市貴志川町丸栖（公民館）	明治42年	—	安養寺境内にある。地方文化の中心であった浄瑠璃の師の墓、明治42年門弟により建立されたもの。	14、28
10	07	曾和縫之助頌徳碑	紀の川市別所（長田観音寺）	明治37年	—	養子曾和震十郎が知友の協力を得て明治37年3月建立。堀百千撰文、胡友虎書。縫之助は庄屋、戸長歴任、天誅組誅伐参加。植林や養蚕業の普及に努めた。花崗岩製。	17
10	07	急須塚	紀の川市粉河	昭和3年	—	煎茶の盛んな文化伝統の町小京都粉河で某人等がこの急須のわれたものを埋めて塚とした。日本でも珍しい塚。昭和3年11月建立。蛇紋岩製。	17
10	07	松尾芭蕉句碑	紀の川市粉河（粉河寺丈六堂）	昭和14年	—	昭和14年建立。碑文「ひとつぬきて うしろにおひぬ ころもかへせを」。作者松尾芭蕉。	17、28
10	07	三宅一鳴句碑	紀の川市粉河（粉河寺産土神社）	昭和38年	—	昭和38年建立。碑文「心はれ嶺の風花にかかわりなし」。作者三宅一鳴。	17、28
10	07	故恩賀廣吉君頌徳碑	紀の川市中ノ才	大正7年	—	大正7年9月建立。田村貫道書。	
10	07	児玉政太郎翁頌徳碑	紀の川市猪垣	大正15年	—	表、東面「児玉政太郎翁頌徳碑 沙門貫道撰」、裏、西面「大正十五年七月十八日 大字藤井ヨリ建之」。	17
10	07	迫間房太郎頌徳碑	紀の川市中三谷（春日神社）	明治36年	—	春日神社境内・山林等を奉納、倉田績撰並書 明治36年春日神社に建立。	28

【岩出市】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
04	02	吉村製糸株式会社	岩出市宮	明治37年	—	製糸業。廃業。『岩出町誌』。	
04	04	吉村秀雄商店	岩出市畑毛	大正4年	—	酒造業。清酒「日本城」の酒蔵。木造2階建。現存。『岩出町誌』。	2

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	船戸駅（旧紀和鉄道、現JR和歌山線）	岩出市船戸	明治31年	—	明治31年紀和駅（当時和歌山駅）～船戸駅間開業。相対式2面2線のホーム、行違い可能な地上駅。上りプラットフォーム基礎はレンガ造。上りホームに木造駅舎。下りホームへは無蓋跨線橋で連絡。	1
05	01	岩出駅（旧紀和鉄道、現JR和歌山線）	岩出市高塚	明治34年	—	船戸～岩出間は鉄橋架設に手間取り明治34年大宮駅（翌年岩出駅と改名）ができて開通。相対式2面2線のホーム、行違い可能な地上駅。基礎はレンガ。上りホームに木造駅舎、無蓋跨線橋で連絡。	1
05	01	岩出鉄橋（旧紀和鉄道、JR和歌山線紀の川橋梁）	岩出市清水～船戸	明治33年	—	現存。紀ノ川橋梁完成で紀和駅～五条駅まで全線開通。左岸から3連の下路曲弦ワーレントラス橋、3連の上路曲弦プレートガーダー橋、橋脚はレンガ積み、礎段はコンクリート製。	1
05	01	蒸気機関車 D51930号機	岩出市根来	昭和18年	—	1943年11月30日に誕生以来、東海道本線、北陸本線、中央本線で活躍し、紀勢本線で任務を終えた蒸気機関車。公開・展示場所は岩出市立根来SL公園（静態保存）。	1
05	02	大阪街道（県道）	岩出市	明治28年	—	県道。『岩出町誌』。	
05	02	大和街道（県道）	岩出市	明治28年	—	県道。『岩出町誌』。	
05	02	淡路街道（県道）	岩出市	明治28年	—	県道。『岩出町誌』。	
05	02	根来街道（県道）	岩出市	明治28年	—	県道。『岩出町誌』。	
05	02	川辺通り池田往来（県道）	岩出市	明治28年	—	県道。『岩出町誌』。	
05	02	根来往来（県道）	岩出市	明治28年	—	県道。『岩出町誌』。	
05	02	河内大和往来（県道）	岩出市	明治28年	—	県道。『岩出町誌』。	
05	02	東野上岩出線	岩出市		—	『岩出町誌』。	
05	02	岩出宮線	岩出市		—	『岩出町誌』。	
05	02	岩出長谷毛原線他	岩出市		—	那賀郡道（他15）。『岩出町誌』。	
05	02	国道24号線	岩出市	昭和	—	国道。『岩出町誌』。	
05	02	荊本の道標	岩出市荊本	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
05	02	南大池の道標	岩出市南大池	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
05	02	山の道標	岩出市山	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
05	02	東坂本の道標	岩出市東坂本	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
05	02	高塚の道標	岩出市高塚	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
05	02	宮五差路道標	岩出市宮	明治16年	—	現存。『岩出町誌』。	
05	03	岩出橋	岩出市宮～船戸	昭和30年	—	消滅。	
05	04	風吹隧道	岩出市押川	昭和	—	現存。『岩出町誌』。	
05	09	紀ノ川改修堤防	岩出市船戸～和歌山市	昭和元～24年	—	旧堤防は大正時代に築堤され、大正6年大洪水後に改修を計画。昭和24年に岩出市～和歌山市間完了。	1
05	09	紀ノ川築堤の碑	岩出市清水（岩出小学校堤防）	昭和31年	—	昭和28年に1400mを大改修した記念碑。和歌山県知事小野真次書。	28
05	09	中嶋雅三居頌徳碑	岩出市高塚（正覚寺）	昭和12年	—	現存。『岩出町誌』。大正5年に蚕種製造をなし、20年尽力し、粉河に永庫を造り、蚕種貯蔵を完璧にした。	28
05	13	岩出電報電話局	岩出市清水		—	現存。	
05	14	船戸渡場燈籠	岩出市船戸	江戸	—	現存。	
05	14	新田広芝の燈籠	岩出市新田広芝	江戸	—	現存。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	14	観音寺参道にある石燈籠	岩出市東坂本	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
07	01	小田井用水	岩出市根来～橋本市小田	宝永4年	—	橋本市小田で取水し、岩出市まで総延長32.5 k mに及ぶ用水路。宝永4年大畑才蔵により開削。紀州藩の新田開発に貢献。世界かんがい施設遺産。	
07	01	藤崎井用水	紀の川市藤崎～和歌山市山口	元禄13年	—	紀の川市藤崎で取水し、和歌山市山口まで24 k mに及ぶ用水路。元禄13年大畑才蔵により開削。	
07	01	岩出頭首工	岩出市清水	昭和	—	昭和28年大水害で流失した宮・小倉井・四箇井・六箇井を国営災害復旧事業により統合。旧井堰は木工沈床主体。新井堰はケーソン基礎。操作橋延長258m。	
07	01	紀の川用水	橋本市～和歌山市	昭和	—	紀の川用水土地改良事業として整備された用水路。溜池がかり地帯を干ばつから解放。	
07	01	六箇井用水	岩出市清水～和歌山市松江	江戸～	—	岩出市清水で取水し、和歌山市松江まで及ぶ用水路。文政5年に完成。	1
07	01	六箇井用水 岩出暗渠	岩出市清水	昭和12年	—	灌漑用水路（長334m）。現存。鉄筋コンクリート造。江戸時代の築造し、紀ノ川改修工事に暗渠化。『岩出町誌』。	1
07	01	六箇井用水 根来暗渠	岩出市西野・畑毛	昭和12年	—	灌漑用水路（高1.8×幅2.7m）。現存。鉄筋コンクリート造。紀ノ川改修時に暗渠化。根来川を横断するための暗渠。『岩出町誌』。	1
07	01	六箇井堰の碑	岩出市清水	昭和14年	—	『岩出町誌』。	
07	01	林良太郎翁頌徳碑	岩出市根来（根来寺不動堂前）	昭和32年	—	現存。『岩出町誌』。岩出町長、太地町長、産業組合役員、レンゲ種子・養蚕・煙草・玉ねぎの組合指導。	28
08	04	境谷湯治場	岩出市境谷		—	石組井戸。確認。	
09	01	二分口役所跡	岩出市船戸	江戸	—	確認。	
09	01	旧和歌山県会議事堂（一条閣）	岩出市根来	明治31年	国重文	明治31年に和歌山市一番丁に建設。昭和16年和歌山市美園に移築。昭和37年岩出市の根来寺境内に移築し一乗閣を呼称。平成24～27年移築・保存修理。現存する唯一の和風意匠の府県会議事堂。	1、2
09	01	岩出町庁舎	岩出市西野	昭和	—	現存。	
09	01	小野真次先生頌徳碑	岩出市根来（根来寺大門南）	昭和44年	—	現存。『岩出町誌』。県道泉佐野岩出線、粉河加太線改修に尽力した前県知事の記念碑。	28
10	01	境谷分教場跡	岩出市境谷	明治	—	記念碑。『山崎小学校分校』。確認。	
10	01	旧県立紀北農業学校校玄関ポーチ	岩出市高塚	大正13年	—	現県立那賀高校旧校舎玄関。鉄筋コンクリート造。昭和63年保存のため移築。	1
10	01	岩出中学校の校門	岩出市西野	昭和	—	現存。	
10	01	岩出小学校	岩出市清水	明治	—	現存。	
10	01	山崎小学校	岩出市中黒	明治	—	現存。	
10	01	根来小学校	岩出市根来	明治	—	現存。	
10	01	上岩出小学校	岩出市南大池	明治	—	現存。	
10	03	岩出町体育館	岩出市西野	昭和	—	現存。	
10	03	岩出町中央公民館	岩出市西野	昭和	—	現存。	
10	06	関伽井寺 勤操塚	岩出市清水	大正2年	—	現存。『岩出町誌』。大徳のもとで空海は学び僧となった。また、ごんどう川（春日川）を改修した。	28
10	06	清水の堤の大師堂	岩出市清水	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	荒田神社の石燈籠	岩出市森	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	山崎神社の石燈籠	岩出市赤垣内	江戸	—	確認。『岩出町誌』。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	栄福寺境内の石地藏	岩出市湯窪	江戸	—	滅失。『岩出町誌』。	
10	06	境谷秘地藏	岩出市境谷	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	根来寺不動堂前百度回石	岩出市根来	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	西方寺門前にある標石	岩出市今中	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	観音寺参道にある地藏菩薩	岩出市東坂本	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	観音院 標石	岩出市宮		—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	地藏寺の石碑	岩出市境谷	江戸	—	確認。『岩出町誌』。	
10	06	五智房堂	岩出市尾ヶ辻		—	確認。『広報』。	
10	06	荒田神社の狛犬台座	岩出市森	江戸	—	不明。『荒田神社本殿修理報告書』。	
10	06	大日寺石造宝塔	岩出市水栖	江戸～	市建造物	市指定文化財。	
10	06	大宮神社	岩出市宮	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	船津八幡神社	岩出市岡田	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	山崎神社	岩出市赤垣内	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	坂本神社	岩出市根来	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	日吉神社	岩出市境谷	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	日吉神社	岩出市押川	江戸	—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	船戸牟財天社	岩出市船戸		—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	風吹山弁財天院	岩出市根来		—	現存。『岩出町誌』。	
10	06	根来寺他	岩出市	江戸	—	現存（ほか49ヶ寺）。『岩出町誌』。	
10	06	イエスの御霊教会	岩出市高塚（のち清水）	昭和	—	プロテスタント。『岩出町誌』。	
10	06	紀ノ崎分教会（天理教）	岩出市境谷	明治28年頃	—	『岩出町誌』。	
10	06	金光教山崎教会	岩出市中島	明治33年	—	『岩出町誌』。	
10	07	中嶋氏の碑	岩出市高塚	昭和12年	—	現存。『岩出町誌』。	
10	07	築堤の碑	岩出市清水	昭和33年	—	現存。『岩出町誌』。	
10	01	吉村秀雄翁顕彰碑	岩出市西野（岩出中学校）	昭和31年	—	現存。『岩出町誌』。昭和22年四ヶ村立岩出中学校建設に尽力。	28
10	01	外山彦章先生顕徳碑	岩出市根来（根来小学校）	昭和9年	—	現存。『岩出町誌』。明治25年根来小学校校長となり、40年退職。	28
10	07	玉塚	岩出市宮		—	現存。『岩出町誌』。	
10	07	田村将軍塚	岩出市山		—	現存。『岩出町誌』。	
10	07	重盛塚	岩出市今中		—	確認。『岩出町誌』。	
10	07	甚五郎井戸	岩出市東坂本	江戸	—	確認。『岩出町誌』。	

【橋本市】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
02	03	旧橋本電気（樫山製材所倉庫）	橋本市古佐田	明治44年	—	発電所跡。レンガ造。現樫山製材所倉庫。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
04	02	平井元右衛門翁碑	橋本市 二軒茶屋堤	昭和6年	—	蚕糸業の先駆者である平井元右衛門をたたえる碑。学文路前村長水落己貴人氏らが建立。	49
04	03	前田安助顕彰碑	橋本市高野口町名倉 庚申山	明治29年	—	明治10年にパイル織物のルーツとなる「再織（さいおり）」を考案した前田安助を顕彰する碑。	
04	03	西山定吉顕彰碑	橋本市高野口町名倉 庚申山	昭和17年	—	大正時代に綿ネル（シール織物（パイル織物））を考案した西山定吉を顕彰する碑。	
04	03	織物功労者之碑	橋本市高野口町名倉 庚申山	昭和37年	—	紀州繊維工業協同組合建立。	
04	08	凍豆腐製造小屋跡（南葛城山）	橋本市高野口町九重	文化4年～昭和24年	—	阿弥陀山の周囲の谷筋に高野豆腐小屋の名残（水槽・石臼等）点在。葛城凍豆腐作り発祥の地で、中心地。	
04	08	凍豆腐製造小屋跡（山田・吉原・九重地区）	橋本市山田・吉原・九重	文化4年～昭和24年	—	凍豆腐作りを行っていた家に記録資料・道具・商標ラベル等が残る。農閑期の副業として始める。	
04	08	三石山（凍豆腐作り関連）	橋本市山田	文化4年～昭和24年	—	山田地区から三石山、南葛城山へのルートが残る。凍豆腐の材料の大豆は製造者宅より山頂へ牛を使って運搬。	
04	08	紀和索道（凍豆腐作り関連）	橋本市妻～野迫川村	大正11年～昭和25年	—	凍豆腐の原材料の大豆を上りで運搬し、下りで商品を運んだ。索道駅の脇にあった紀の川口駅（大阪高野鉄道株式会社）のプラットホームが残る。	
05	01	橋本駅（旧紀和鉄道）	橋本市古佐田	明治31年	—	現JR和歌山線。主に上りに使用されているプラットフォーム基礎がレンガで構築されている。	1
05	01	隅田駅（旧紀和鉄道）	橋本市隅田町	明治31年	—	現JR和歌山線。明治31年4月11日五條～橋本間開通により開業。和歌山県下の初の駅舎。建設当初の木造建物。令和4年度解体予定。	1
05	01	紀伊山田駅（旧紀和鉄道）	橋本市神野々	昭和27年	—	現JR和歌山線。	1
05	01	高野口駅（旧名倉駅・旧紀和鉄道）	橋本市高野口町名倉	明治33年	—	現JR和歌山線。明治33年に五條～和歌山間全線開通。高野参詣の利用者で賑わい明治36年に高野口駅に名称変更。建設当初の木造建物。	1
05	01	紀見峠駅（旧大阪高野鉄道）	橋本市紀見峠	大正4年	—	現南海高野線。大正4年に汐見橋～橋本間開通。建設当初の木造建物。	
05	01	紀伊清水駅（旧大阪高野鉄道）	橋本市清水	大正13年	—	現南海高野線。大正14年に高野下まで開通。建設当初の木造建物。	1
05	01	学文路駅（旧大阪高野鉄道）	橋本市学文路	大正13年	—	現南海高野線。大正14年に高野下まで開通。建設当初の木造建物。	1
05	01	橋本駅（旧大阪高野鉄道）	橋本市古佐田	昭和34年	—	現南海高野線。大正4年汐見橋～橋本間開通。紀和鉄道へ乗換の参詣者で賑わう。現駅舎は昭和34年建替え、平成23年大規模改修。	
05	01	JR和歌山線麓線区間（旧紀和鉄道）	橋本市隅田町芋生		—	線路跡は現存していないが、廃止されたトンネルは現存。廃止時期は昭和50年代と考えられる。	
05	01	山田川橋梁（旧紀和鉄道）	橋本市野	明治33年	—	現JR和歌山線。山田川にかかる2連の鉄橋。橋台・橋脚は石材で構築されている。	1
05	01	大野第1号架道橋（旧紀和鉄道）	橋本市高野口町大野	明治33年	—	現JR和歌山線。暗渠タイプのアーチ橋。大野区民の要望で建設。築堤下にレンガ造トンネル。大野両トンネル工費17,200円。建設当時の形を残す。	1
05	01	大野第2号架道橋（旧紀和鉄道）	橋本市高野口町大野	明治33年	—	現JR和歌山線。暗渠タイプのアーチ橋。大野区民の要望で建設。築堤下にレンガ造トンネル。大野両トンネル工費17,200円。建設当時の形を残す。	1
05	01	JR橋本駅跨線橋（旧紀和鉄道）	橋本市古佐田		—	現JR和歌山線。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	南海橋本駅跨線橋（旧大阪高野鉄道）	橋本市古佐田	大正10年	—	現南海高野線。駅構内の跨線橋。ホーム極楽橋側には古レールが使用される架線柱が建つ。	1
05	01	南海高野線跨線橋（旧大阪高野鉄道）	橋本市南馬場	大正13年～昭和23年	—	現南海高野線。美しいアーチを描く跨橋。	
05	01	南海高野線紀の川鉄橋（旧大阪高野鉄道）	橋本市妻・向副	大正13年	—	現南海高野線。全長約630mの橋梁。コンクリート造。	1
05	01	東谷川第一開渠（旧紀和鉄道）	橋本市高野口町大野	明治33年	—	現JR和歌山線。橋台はレンガで構築される。桁は昭和29年架構。	1
05	01	河瀬用水架道橋（旧紀和鉄道）	橋本市妻	明治31年	—	現JR和歌山線。橋台は石材で構築され、小口積み風の布積み。	1
05	01	八幡陸橋架道橋（旧紀和鉄道）	橋本市市脇	明治33年	—	現JR和歌山線。両橋台はレンガで構築されている。	1
05	01	旨川架道橋（旧紀和鉄道）	橋本市高野口町名倉	明治33年	—	現JR和歌山線。橋台はレンガで構築されている。桁は昭和28年に架け替えられた。	1
05	01	JR 南海鉄道交叉橋（旧紀和鉄道）	橋本市妻	明治31年	—	現JR和歌山線。南海高野線をまたぐ橋梁で、両橋台はレンガ造。	1
05	01	妻川拱渠（旧紀和鉄道）	橋本市妻	明治31年	—	現JR和歌山線。妻川をまたぐ拱渠で、アーチはレンガの4枚巻。	1
05	01	橋谷川拱渠（旧大阪高野鉄道）	橋本市橋谷	大正4年	—	現南海高野線。上り線下部が暗渠タイプのアーチでレンガ造。下り線下部は昭和39年複線化でコンクリートアーチに延長。	1
05	01	旧菖蒲谷川拱渠（旧大阪高野鉄道）	橋本市小原田	大正4年	—	現南海高野線。平成7年複線化で、その前年に廃止された旧線下にアーチ拱渠が残る。	1
05	01	大師第10号拱渠（旧大阪高野鉄道）	橋本市学文路	大正13年	—	現南海高野線。暗渠タイプのアーチ橋。アーチとその上部がレンガ造。側壁部はコンクリート造。	1
05	01	高野鉄道建設予定地	橋本市胡麻生	明治43年	—		
05	01	紀の川口駅跡（旧大阪高野鉄道）	橋本市妻	大正4年～昭和34年	—	紀の川口駅（大阪高野鉄道株式会社）のプラットホームが残る。	
05	01	紀見トンネル（旧大阪高野鉄道）	橋本市矢倉脇～河内長野市天見	大正3年	—	現南海高野線。大正3年に高野登山鉄道により竣工。昭和54年複線化でトンネル拡張され扁額が切り取られ上り線橋本側に残されている。	1
05	01	山陽線遭難者供養塔	橋本市古佐田（丸山公園）	昭和14年	—	昭和13年橋本尋常小学校高等科2学年児童18名・引率先生3名が修学旅行帰路に列車転覆事故による供養塔。	75
05	02	道標	橋本市高野口町名倉	明治	—	垣花大師近くの三差路に「みぎこうや ひだりすてんしよ」の道標（すてんしよはステーションのなまり）。この通りは高野口駅から九度山方面への参詣者で賑わった。	
05	02	郵便局への道しるべ	橋本市本町通（火伏医院前）	明治	—	明治時代の橋本市での最初の郵便局への案内石。上面「→」、四方「通地・米」。花崗岩製角柱。	49
05	02	旧橋本町道路元標	橋本市橋本一丁目（紀陽銀行橋本支店前）	大正	市指定	北面「橋本町道路元標」、南面「和歌山縣」。花崗岩製、高約86cm。開発により元の場所から移動。	49
05	03	報徳橋	橋本市御幸辻	昭和12年	—		1
05	03	見返橋	橋本市高野口町名倉	昭和10年	—		1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	04	細川・柱本隧道	橋本市細川	明治16年 か	—	石造。大阪往来。	1
05	11	旧橋本郵便局 倉	橋本市橋本	明治6年	—	木造2階建。美容院として利用後に解体。	1
05	11	旧橋本郵便局 倉	橋本市橋本	明治27年	—	明治27年に局長宅に移転。木造2階建。住宅として利用後に解体。	1
05	11	旧橋本郵便局 倉	橋本市橋本	大正～昭和	—	大正～昭和にかけて局長宅に移転。木造平屋建。住宅として利用後に解体。	1
05	11	旧橋本郵便局 倉	橋本市東家	昭和33年	—	昭和33年に移転後、昭和53年まで業務。木造2階建。道路整備で現敷地に曳家。現建材店倉庫。	1
06	03	みそや別館	橋本市橋本	明治17年	国登録	大和街道沿いに建つ町家。みそやは呉服店の屋号で主屋は大正期まで店舗として使用。一時は倉庫として使用するも、現在は店舗として使用。	2
06	06	南都銀行名倉支店	橋本市高野口町名倉	昭和13年	—	現清水金物店。	1
07	01	小田頭首工（小田井堰）	橋本市高野口町小田	昭和31年	—	昭和28年大洪水で流失した小田井堰を昭和31年に復旧。隣接地に記念碑3基（大正15年、昭和8年、昭和33年）。	
07	01	小田井用水	橋本市高野口町小田	明治39年	—	小田井用水。	
07	01	小田井用水	橋本市高野口町大野	明治41年	—	小田井用水。	
07	01	小田井用水	橋本市高野口町名倉	大正2年	—	小田井用水。	
07	01	小田井用水	橋本市高野口町大野	大正5年	—	小田井用水。	
07	01	小田井用水	橋本市高野口町大野	大正8・9年	—	小田井用水。	
07	01	引ノ池改修	橋本市高野口町名倉	大正3年	—	応其上人が改修。	
07	01	新田池	橋本市矢倉脇新田	明治期	—		1
07	06	養蚕記念碑	橋本市菖蒲谷	明治32年	—		
07	06	養蚕記念碑	橋本市貫堂	—	—		
08	05	高野口公園	橋本市高野口町名倉	昭和5年	—		
08	05	久保与左衛門氏之碑	橋本市高野口町名倉（高野口公園内）	昭和35年	—	高野口公園設立に尽力。内閣総理大臣岸信介書。	
08	05	杉村林之助翁頌徳碑	橋本市御幸辻（杉村公園内）	昭和46年	—	明治35年高野口町名倉生まれ。大阪において商業で成功し、昭和45年土地を市に寄付して杉村公園を開設。	
08	06	戸川榮夫翁頌徳碑	橋本市山田（一言主神社）	昭和4年	—	山田村生まれ。小学校の校医、郡会議長、県会議員郡医師会会長等を歴任。	
08	06	火伏医院	橋本市橋本	大正期	国登録	主屋は享保6年、木造2階建・瓦葺の病院棟は大正期建設。大正6年に病院開業。「火伏の洋館」として親しまれる。	1
08	09	船越喜右衛門之碑	橋本市南馬場（成就寺）		—	嘉永5年（1852）紀ノ川大洪水で孤立した大師堂に逃れた村民を濁流に單身船を出して救い出した功を賞した記念碑。	47
08	08	旧葛城館	橋本市名倉	明治38年	国登録	高野口駅南側所在。木造三階建和風旅館建築。高野口駅周辺は数十件の旅館が立ち並び高野参詣者で賑わった。	2
09	01	岡文一郎頌徳碑	橋本市古佐田（丸山公園）	大正4年	—	紀見村長、伊都郡長、県会議員等歴任。県治安裁判所出張所を橋本村に設置、伊都郡役所を橋本村に移設。岡家の祖父。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	一言主神社 日清日露 戦役記念碑	橋本市山田（一言主神社）	明治39年	—	一言主神社境内に建つ日清日露戦役記念碑。	48
09	06	日露戦争碑	橋本市橋谷		—	所在未確認。	48
09	06	利生護国寺 戦役英霊 供養塔	橋本市隅田町下兵庫（利生護 国寺）	昭和33 年？	—	第二次世界大戦戦役者慰霊碑。下兵庫遺族会建立。	48
09	06	橋本駅米軍艦載機銃撃 犠牲者追悼碑	橋本市古佐田（丸山公園）	平成24年	—	昭和20年7月24日に米軍艦載機による銃撃の犠牲者6名を追悼。平成26年に は脇に犠牲者追悼の碑を設置。	48
09	06	橋本駅米軍艦載機銃撃 駅舎板壁弾痕（移築）	橋本市古佐田（丸山公園）	昭和20年	—	昭和20年7月24日に米軍艦載機による銃撃の弾痕が残る駅舎板壁を移築。	
09	06	陸軍中将航空本部長寺 本熊市之碑	橋本市隅田町		—	隅田町平野生まれ。「故陸軍中将正四位勲一等功三級航空本部長寺本熊市 之碑」。	48
09	06	樽谷政之助記念碑	橋本市向副（滝見山観音寺）		—	日露戦争で戦死した樽谷政之助の功をたたえ向副、賢堂、横座の三地区が 出資して建立。	47
09	06	河瀬墓地 戦没英霊供 養塔	橋本市河瀬（河瀬交差点北西 側）	昭和27年	—	河瀬区建立。20名の戦没者氏名を刻む。	
09	06	隅田八幡神社の忠勇遺 範碑	橋本市隅田町（隅田八幡神社 境内）	大正2年	—	陸軍中将茨木惟昭書。発起人隅田村長・村分会長。	
09	06	山田地区の忠魂碑	橋本市出塔（栗師寺境内）	昭和30年	—	山田地区遺族後援会建立。	
09	06	紀見の英霊供養塔	橋本市紀見（不動寺境内）	昭和40年	—	城山台脇の不動寺境内に建つ。隣に日露戦争戦没者3名を刻む慰霊碑あり （明治38年）。	
09	06	岸上墓地の戦没者慰霊 碑	橋本市岸上（岸上墓地内）	平成19年	—	岸上墓地内に建つ（紀北工業高校前）。隣に岸上村遺族会建立の軍人墓碑 建立紀年碑（昭和24年）。	
09	06	学文路村の忠魂碑	橋本市学文路（学文路天満神 社境内）	大正2年	—	帝国在郷軍人会学文路村分会建立。陸軍中将茨木惟昭書。	
09	06	高野口公園の忠魂碑	橋本市高野口町名倉 庚申山 （高野口公園内）	明治46年	—	高野口公園内に建つ。隣に戦没者名碑（昭和30年）。	
09	06	肉弾三勇士之碑	橋本市高野口町名倉 庚申山 （高野口公園内）	昭和7年	—	高野口公園内に建つ。三勇士の由緒を刻む。	
09	06	清涼寺の忠魂碑	橋本市高野口町小田（清涼寺 境内）	明治？	—	清涼寺境内に建つ。陸軍中将大迫尚道書。隣に西南戦争～大東亜戦争の戦 没者を刻む報国殉忠之顕彰碑（昭和33年）。	
09	06	陸軍歩兵上等兵児島○ 之碑	橋本市古佐田（丸山公園）	明治30年	—	清国で戦死した歩兵上等兵の慰霊碑。	
09	06	従軍記念碑	橋本市古佐田（丸山公園北側 旧護国神社境内）	明治39年	—	日清・日露戦争、北支事変・大東亜戦争、大正三年戦役の戦没者氏名を刻 む。	
10	01	高野口尋常高等小学校 （高野口小学校）	橋本市高野口町名倉	昭和12年	国重文	木造平屋、棧瓦葺。建築面積3500㎡の和風意匠を採用した大規模校舎。	1
10	01	上野中先生芦川市五郎 先生の碑	橋本市学文路上	明治32年	—	学文路小学校の先生を記念した碑。昔、小学校が建っていたそばに建つ。	47
10	06	日本聖公会橋本基督教 会旧礼拝堂	橋本市古佐田	明治初期	国登録	明治初期建設。明治33年移築。	
10	07	冒険飛行士 故原田龍 治氏記念碑	橋本市古佐田（丸山公園）	昭和2年	—	丸山公園内に建立。橋本町役場建立。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	07	和田安一郎先生頌徳之碑	橋本市古佐田（丸山公園）	大正9年	—	知人及び門下生建立。	
10	07	石井源次郎翁碑	橋本市古佐田（丸山公園）	昭和？	—	表面「公園開拓 石井源次郎翁碑」。	

【九度山町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
01	02	久保鉦山跡	九度山町久保	大正3年	—	大正3年、銅鉦山として開設。河根まで鉦石運搬索道を設置。大正末期閉鎖。坑道1箇所確認。	
01	02	笠木鉦山跡	九度山町笠木	明治24年	—	葛和鉦山。銅関連。昭和30年代まで操業。	
02	03	九度山発電所	九度山町九度山他	明治43年	—	取水は赤瀬橋、水路、レンガ造隧道。発電所は九度山幼稚園下、和泉水力電気kk。明治44年竣工。昭和28年発電所本体は台風で流失。	
02	03	九度山発電所 水路橋	九度山町九度山	明治44年	—	大師第16号拱渠の東方に隣接し、南海高野線に沿ってレンガ造の水路橋が存在。九度山発電所へ丹生川から水を導く。「岸和田煉瓦」の刻印あり。	1
05	01	旧南海鉄道高野線 鋼索線（南海高野線）	九度山町九度山	大正13年	—	大正14年九度山駅～高野下駅開業により難波駅～高野下駅開通。	1
05	01	九度山駅（南海高野線）	九度山町九度山	大正13年	—	大正14年九度山駅～高野下駅（椎出）開業。レンガ積基礎、木造平屋建。	1
05	01	高野下駅（南海高野線）	九度山町椎出	大正14年	—	大正14年九度山駅～高野下駅（椎出）開業。森林鉄道を避けるように駅舎建設。レンガ積基礎、木造平屋建。	1
05	01	上古沢駅（南海高野線）	九度山町上古沢	昭和3年	—	大正14年九度山駅～高野下駅（椎出）開業。木造平屋建。	1
05	01	下古沢駅（南海高野線）	九度山町下古沢	昭和4年	—	大正14年九度山駅～高野下駅（椎出）開業。木造平屋建。	1
05	01	九度山駅（南海高野線）	九度山町九度山	大正13年	—	大正14年九度山駅～高野下駅（椎出）開業。	1
05	01	大師第13号拱渠（南海高野線）	九度山町九度山	大正13年	—	レンガ造。アーチはレンガ3枚巻。	1
05	01	大師第16号拱渠（南海高野線）	九度山町九度山	大正14年	—	レンガ造。暗渠タイプのアーチ橋。	1
05	01	丹生川橋梁（南海高野線）	九度山町九度山	大正14年	—	橋長72.52mを測る3径間の橋梁。橋台・橋脚はレンガで構築。	1
05	01	古沢川橋梁（南海高野線）	九度山町椎出	昭和2年	—	橋台面間長27.43m。	1
05	01	中古沢橋梁（南海高野線）	九度山町中古沢	昭和2年	—	橋台面間長67.6m。	1
05	01	笠木橋梁（南海高野線）	九度山町笠木	昭和3年	—	橋台面間長66.9m。	1
05	01	椎出架道橋（南海高野線）	九度山町椎出	昭和34年	—	橋台面間長8.57m。国道とは斜交する。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	椎出トンネル (南海高野線)	九度山町九度山～椎出	大正14年	—	延長399.59m。レンガ造。アーチはレンガの3枚巻。	1
05	01	猪子山トンネル (南海高野線)	九度山町椎出～下古沢	昭和2年	—	延長102.59m。コンクリート造。	1
05	01	下古沢トンネル (南海高野線)	九度山町下古沢	昭和2年	—	延長42.25m。コンクリート造。	1
05	01	辨天山トンネル (南海高野線)	九度山町下古沢～中古沢	昭和2年	—	延長90.52m。コンクリート造。	1
05	01	大福山トンネル (南海高野線)	九度山町中古沢	昭和2年	—	延長117.68m。コンクリート造。	1
05	01	馬場山トンネル (南海高野線)	九度山町上古沢	昭和2年	—	延長147.86m。コンクリート造。	1
05	01	上古沢トンネル (南海高野線)	九度山町上古沢	昭和2年	—	延長160.93m。コンクリート造。	1
05	01	瀬戸トンネル (南海高野線)	九度山町上古沢～笠木	昭和2年	—	延長51.3m。コンクリート造。	1
05	01	蛇ノ窪トンネル (南海高野線)	九度山町笠木	昭和2年	—	延長21.12m。コンクリート造。	1
05	01	笠木トンネル (南海高野線)	九度山町笠木	昭和2年	—	延長118.69m。コンクリート造。	1
05	01	大下トンネル (南海高野線)	九度山町笠木	昭和2年	—	延長113.66m。コンクリート造。	1
05	02	慈尊院・九度山の渡し	九度山町慈尊院他	江戸～昭和	—	慈尊院側は昭和30年代まで舟と綱索が残っていた。近現代に至るまで一部の機能が残されてきた。	
05	02	横尾道・不動坂道 (近世・近代の参詣道)	九度山町九度山・椎出他	江戸～昭和	—	横尾道は高野山から横尾寺へ至るルート。不動坂道は高野山から橋本へ至るルート。近世～近代に盛んに利用される。	
05	02	横尾道・不動坂道の道標群	九度山町椎出他	大正13年	—	参詣道には近世～近代の道標も残され、大正13年製の200m毎の里程標が21基のうち11基が残存。	
05	02	県道高野口高野山 (横尾道)	九度山町九度山・椎出	明治38年	—	明治34年紀和鉄道名倉駅開設後高野山への最も利用された参詣道で、大正2年県道に編入。大正13年の標識多数残存	
05	02	椎出乗り合いバス車庫	九度山町椎出	大正頃	—	横尾道が県道編入後、大正14年高野鉄道高野下駅開設。県道の高野口駅と高野下駅間を繋ぐ乗合バスの大規模な木造車庫が現存。	
05	03	旧九度山橋	九度山町九度山	大正11年	—	紀和鉄道開通で名倉駅から九度山・椎出ルートの参詣者激増、県道編入。紀の川の橋梁が木製から鉄骨橋へ。昭和34年新橋梁、現在はその橋脚基礎のみ残存。	
05	03	千石橋	九度山町河根	昭和9年	—	昭和53年新装。	1
05	03	九度山駅東方アーチ跨線橋	九度山町九度山		—	南海高野線をまたぐレンガ造のアーチ橋。「六稜」の刻印が認められる。	1
05	03	九度山駅西方隣接跨線橋	九度山町九度山		—	南海高野線をまたぐ九度山駅の西方に隣接する道路橋。レンガ造の橋台。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	14	高野索道（跡）	九度山町椎出～高野山大門	明治42年	—	椎出～高野山大門6.4kmを繋ぐ貨物専用索道。紀和鉄道高野口駅開設で高野山への物資輸送手段として設置。鉄柱43基、搬器100個、各150kg積載、イタリヤ製設備、国内初複線循環方式。	
06	03	陶製金太郎像（通称米金）	九度山町九度山	大正5年	—	陶製金太郎像（通称米金）。大正5年旧河原米穀店（現在医院）の装飾として井端莊平の製作。	
06	06	旧南都銀行九度山支店	九度山町九度山	昭和中期	—	旧南都銀行九度山支店、鉄筋コンクリート造、2階建。現在空屋。	
07	01	安田島徹水洞	九度山町九度山・安田島	明治6年	—	丹生川から安田島地区への灌漑用水路（隧造）。明治8年完成。RC造堰堤、延長127m。記念碑あり。	
07	04	高野山森林鉄道敷地（九度山町区間）	九度山町九度山・椎出・古沢	明治42年～	—	明治42年高野山～九度山貯木場間約26kmの森林鉄道完成。鉄筋コンクリート造の橋脚・桁、隧造等多数あり。線路は撤去、町内の鉄道敷約10kmは町道となり一部散策道。	1
07	04	旧高野営林署施設跡	九度山町入郷	明治30年代～	—	森林鉄道完成に伴い高野山から入郷へ移転。当施設の施設は全く残されていないが、敷地は分割払い下げ、道の駅、広場等に活用。	
07	04	旧高野営林署事務棟	九度山町九度山	昭和29年？	—	桁行19.1×梁間5.5mの入母屋造、棧瓦葺、様式は大正～昭和前期頃。明治期の建物は全て無く、戦後新築の付属事務棟は移築後町有、現在倉庫として利用。	
08	13	陸奥屋敷跡（陸奥宗光関係）	九度山町入郷	嘉永6年～	—	和歌山藩士伊達宗広（宗光の父）は嘉永5年勢力争いから翌年改易となり城下追放後に一家が九度山町旧入郷村庄屋玉置左五兵衛方の借家を借り、寓居した屋敷跡。	
08	13	旧庄屋玉置家（陸奥宗光関係）	九度山町入郷	幕末	—	九度山町旧入郷村庄屋玉置左五兵衛は借家の持ち主で、不遇であった陸奥家を支え、宗光らの生活道具を与える。	
08	13	旧四所庄官家岡家（陸奥宗光関係）	九度山町入郷	幕末	国登録	中世から河南執行、住宅5棟は国登録。岡左仲らが不遇であった陸奥家を支援。左仲は明治4年現主屋等建築。宗光の書状等を伝える。	
08	13	旧政所中橋家（陸奥宗光関係）	九度山町慈尊院	幕末	—	金剛峯寺の出先であった慈尊院政所の責任者を継いだ。不遇であった陸奥家を支えた。	
09	04	松山常次郎旧宅	九度山町九度山	幕末～明治前期	—	松山常次郎は土木技術者、中国・朝鮮でも工事監督、実業家、衆議院議員7期。常次郎の生家はツシ2階、入母屋造、棧瓦葺、煙出付、大型の町屋、付属屋あり。江戸末期～明治前期建築。	
09	06	九度山町忠魂碑	九度山町九度山	大正15年	—	九度山中学校横の横尾山明神社境内に九度山町在郷軍人会建立。隣に明治39年の凱旋記念碑、平成25年の戦役英霊碑（九度山町遺族会建立）が建つ。	
09	06	入郷区墓地 忠霊之碑	九度山町入郷	昭和29年	—	入郷区27名の氏名。「昭和二十九年三月 入郷区中建之 世話人一同 当時区長」。	

【高野町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
01	02	昭和鉱山跡（銅山）	高野町大字細川	明治～昭和	—	明治中頃、銅の採鉱から精錬まで行われたが廃坑。戦後復活し昭和30年代まで続く。古川鉱業の試掘で昭和39年新鉱床発見、飯盛鉱山に属し鉱石を月60 t 産出。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
02	03	細川変電所 (南海電気鉄道関係)	高野町細川	昭和7年	—	南海電気鉄道株式会社の管理による変電所。鉄道への電力供給のため、電圧変更を行う。コンクリート造。	1
05	01	旧南海鉄道 鋼索線 (南海電気鋼索線)	高野町大字高野山	昭和5年	—	南海高野線の終点極楽橋駅から高野山玄関口の高野山駅を結ぶ鋼索線 (ケーブルカー路線)。0.8km、高低差330mの2駅間を運行。	1
05	01	高野山駅 (南海電気鉄道鋼索線)	高野町高野山 (国有林第九林班ノは)	昭和3年	国登録	昭和3年完成、昭和5年開業の鋼索線 (ケーブル線) 駅舎。1、2階はおおむねモダンな様式という折衷式構成で、現在も維持活用。	1、2
05	01	紀伊神谷駅 (南海電気鉄道)	高野町大字西郷字神谷	昭和3年	—	昭和4年路線延長時の終着駅。駅務室も広く設けられ、切妻屋根をT字型に合わせた駅舎。現在も維持活用。木造平屋建50.9㎡。	1
05	01	極楽橋駅 (南海電気鉄道)	高野町大字高野山 (国有林第八林班)	昭和4年	—	高野線終着駅で、鋼索線 (ケーブルカー) への乗継駅として昭和4年開設。寺院風の和風・アールデコ風モダンな飾り窓など。木造2階建73.0㎡。列車区を含む全体213.5㎡。	1
05	01	紀伊細川駅 (南海電気鉄道)	高野町大字細川	昭和3年	—	駅正面改札前に切妻屋根、プラットホーム側に庇を付けて通路・待合とした駅舎の形、方形の改札室の空間など現在も変わらない。木造平屋建39.6㎡。	1
05	01	四寸岩橋梁 (南海電気鉄道)	高野町大字高野山	昭和4年	—	紀伊神谷駅と極楽橋駅間の鉄道橋梁。橋台面間長3.66m。I ビーム。	1
05	01	入谷トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字細川	昭和2年	—	上古沢駅と紀伊細川駅間の鉄道トンネル。延長94.55m、コンクリート造。	1
05	01	細川トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字細川	昭和2年	—	紀伊細川駅と紀伊神谷駅間の鉄道トンネル。延長152.89m。コンクリート造。	1
05	01	城谷トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字細川	昭和2年	—	紀伊細川駅と紀伊神谷駅間の鉄道トンネル。延長63.37m。コンクリート造。	1
05	01	前迫トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字細川	昭和2年	—	紀伊細川駅と紀伊神谷駅間の鉄道トンネル。延長128.75m。コンクリート造。	1
05	01	羽根山トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字細川	昭和2年	—	紀伊細川駅と紀伊神谷駅間の鉄道トンネル。延長63.37m。コンクリート造。	1
05	01	浦神谷トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字細川	昭和2年	—	紀伊細川駅と紀伊神谷駅間の鉄道トンネル。延長32.19m。コンクリート造。	1
05	01	王寺山トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字細川	昭和3年	—	紀伊細川駅と紀伊神谷駅間の鉄道トンネル。延長160.93m。コンクリート造。	1
05	01	神谷トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字細川	昭和3年	—	紀伊細川駅と紀伊神谷駅間の鉄道トンネル。延長244.42m。コンクリート造。	1
05	01	大迫トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字細川～大字高野山	昭和3年	—	紀伊神谷駅と極楽橋駅間の鉄道トンネル。延長63.43m。コンクリート造。	1
05	01	指尾トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字高野山	昭和3年	—	紀伊神谷駅と極楽橋駅間の鉄道トンネル。延長120.70m。コンクリート造。	1
05	01	不動トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字高野山	昭和3年	—	紀伊神谷駅と極楽橋駅間の鉄道トンネル。延長63.43m。コンクリート造。	1
05	01	西郷トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字高野山	昭和3年	—	紀伊神谷駅と極楽橋駅間の鉄道トンネル。南海電気鉄道のトンネル。延長24.14m。コンクリート造。	1
05	01	四寸岩トンネル (南海電気鉄道)	高野町大字高野山	昭和3年	—	紀伊神谷駅と極楽橋駅間の鉄道トンネル。延長100.58m。コンクリート造。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	02	専用連絡道路（南海りんかんバス）	高野町大字高野山	昭和5年	—	鋼索線高野山駅と高野山内女人堂を結ぶバス専用道路。女人堂に近いカーブにはアーチを設置（菱形透かしのコンクリート製欄干）。	1
05	02	玉川林道（現国道371号）・玉川林道改修記念碑	橋本市向副～高野町高野山	昭和6年	—	玉川林道は橋本市向副～高野山53番地（高野トンネル）の延長21200m。昭和6～9年に建設。開通で自動車の物資運搬。林道中間点に碑建立（昭和25年）。	
05	02	高野参詣道 京大坂道不動坂	高野町大字高野山	幕末	—	近世から高野登山の主要街道の高野参詣道京大坂道不動坂は石葺丸が茹萱道心に会ったための参詣道。旧道は世界遺産追加登録。新道は舗装道。	
05	02	京大坂道の道標	高野町大字高野山	大正	—	昭和天皇御成婚記念で大正年間に建てられた道標群	
05	02	町石道の再建町石	高野町大字高野山	大正	—	奥院側に8基、慈尊院側に6基の大正時代再建の町石	
05	14	大和索道（跡）	高野町大字富貴	明治45年	—	自動車道開発前の木材や日用品・食料品など物資輸送用の索道。昭和34年廃止。五條市二見～富貴～五條市坂本～野迫川村金屋淵。	
05	14	高野索道（跡）	高野町大字高野山～九度山町椎出	明治45年	—	物資輸送用の索道。昭和34年トラック輸送が主となり廃止。九度山町椎出～高野山大門。	
05	14	紀和索道（跡）	高野町大字杖ヶ藪	大正9年	—	物資輸送用の索道。紀和索道は昭和27年頃取り外された。橋本市妻～南宿～杖ヶ藪～野迫川村作原。	
05	14	十津川索道（跡）	高野町大字高野山～大字大滝	大正6年	—	物資輸送用の索道。野迫川の高野どうふや炭などを運搬。昭和初めに取り外された。高野山愛宕谷～大滝～野迫川村上垣内。	
06	03	小堀商店（小堀南岳堂）	高野町大字高野山	昭和6年	—	文化年間創業。屋号「木綿文」。元々は僧侶の法衣・衣料店。現在は書籍等を販売。接続して建てられる主屋と土蔵が通りに面する。	2
06	03	珠数屋四郎兵衛店舗	高野町大字高野山771	昭和8年	国登録	木造2階建の入母屋造銅板葺の平入りの大型の店舗。外壁は大壁造りで縦長のガラスを窓に並べた近代的な意匠。	2
06	03	和泉伊商店	高野町大字高野山	昭和6年	—	切妻造銅板葺、2階建。現在酒屋。	
06	03	こつま屋（勝間屋）	高野町大字高野山	昭和6年	—	現勝間屋。現在食品販売店。	
06	03	西利商店	高野町大字高野山	昭和6年	—	切妻造瓦型銅板葺、2階建。付属屋は入母屋造鉄板葺、2階建。現在土産物店。	
06	03	虎屋薬局	高野町大字高野山	明治24年	町景観	土蔵は切妻造鉄板葺。屋号の「虎善」とは虎屋善八のこと。表の入口の左の所に、大きな虎の置物が1頭座る。平成21年に町の景観重要建造物第1号に指定。	2
07	04	高野山森林鉄道（跡） 幹線	高野町、九度山町	明治37年	—	木材供給のため明治38年九度山～推出間開通。大正2年頃九度山～高野山上36林班（円通律寺付近）開通。幹線は軌道、九度山貯木場～高野山36林班、26,011m。	1
07	04	高野山森林鉄道（跡） 8林班線	高野町、九度山町	昭和3年	—	昭和3年ホイットコム製ガソリン機関車の使用開始。8林班線は索道、幹線8林班入口～8林班山元、744m。	1
07	04	高野山森林鉄道（跡） 極楽橋線	高野町、九度山町	昭和5年	—	九度山からの線路は高野町細川で極楽橋線と花坂線に分岐。極楽橋線は軌道、神谷インクライン～極楽橋、2,544m。	1
07	04	高野山森林鉄道（跡） 花坂線	高野町、九度山町	昭和7年	—	昭和7年頃、細川と花坂トンネル線、鳴子谷線などが開通し全盛期。花坂線は軌道、細川出合～40林班、12,195m。	1
07	04	高野山森林鉄道（跡） 大門支線	高野町、九度山町	昭和4・5年	—	昭和34年軌道廃止、トラック輸送に転換。大門支線は軌道、花坂線出合～14林班、574m。	1
07	04	花坂隧道（高野山森林鉄道花坂線）	高野町大字細川	昭和7年	—	高野山森林鉄道（花坂線）軌道の隧道。廃止後は細川と花坂間をつなぐ道として使用。平成18年から崩落の恐れで全面通行止め。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	04	細川貯木場跡地（高野山森林鉄道関係）	高野町大字細川689-2	昭和	—	高野山森林鉄道（幹線）の細川貯木場跡地。現在は高野町の町営住宅。	
08	01	玉川下水処理場	高野町大字高野山	昭和11年	—	大正4年高野山開創1100年記念大法会と昭和9年弘法大師1100年御遠忌大法会に向けて高野山上に本格的な下水処理施設を設置する必要があった。	
08	01	高野山浄水場	高野町大字相ノ浦	昭和11年	—	高野山浄水場。相ノ浦の一ノ枝川に貯水池を作り水源とする施設。	
08	05	光臺院庭園	高野町大字高野山	昭和28年	国登録	重森三玲作庭の庭園	
08	05	西禅院庭園	高野町大字高野山	昭和27年	国登録	重森三玲作庭の庭園	
08	05	正智院庭園	高野町大字高野山	昭和28年	国登録	重森三玲作庭の庭園	
08	05	本覚院庭園	高野町大字高野山	昭和28年	国登録	重森三玲作庭の庭園	
08	05	桜池院庭園	高野町大字高野山	昭和27年	国登録	重森三玲作庭の庭園	
08	05	光臺院書院庭園	高野町大字高野山	昭和38年	国登録	重森三玲作庭の庭園	
08	05	西南院庭園	高野町大字高野山	昭和27年	—	重森三玲作庭の庭園	
08	05	不動院庭園	高野町大字高野山	昭和30年	—	重森三玲作庭の庭園	
08	08	旅館 清水屋	高野町大字高野山	大正末～昭和初	—	清水屋旅館（現井口）。現在は民家。入母屋造鉄板葺、2階建。	
08	08	旧旅館花の屋	高野町大字細川450	明治	—	出水家。現在空家。出水重一高野町長（元）の家。入母屋造。鉄板葺。高野街道京大坂道沿いの旅館。200名余りが宿泊できた。火事で大半焼失。	
08	11	研谷家住宅	高野町大字高野山	大正～昭和	—	研谷家。入母屋造、3階建。高野山内の個人住宅。	
08	11	金川家住宅	高野町大字高野山		—	高野山内の個人住宅。	
08	11	和合庵	高野町大字高野山字一心院谷34	大正15年	国登録	主屋、土蔵、門、塀の4棟が国登録有形文化財。和風と洋風を混合させた独特な作りの建物。木造2階建、鉄板瓦葺。山内で薬屋「虎屋」の松永家の別邸。	2
09	01	橋本警察署高野幹部交番	高野町大字高野山638	大正10年	国登録	橋本警察署高野分署として竣工、その後高野警察署を経て現在の幹部交番。高野山の歴史的景観に配慮した杜寺風の外観。	2
09	04	名迫家跡 正門（天誅組関係）	高野町大字東富貴	幕末	—	『紀伊統風土記』東富貴村の地土と記載される代々次郎右衛門を名乗る寺領の名迫家は天誅組襲撃で正門以外の家屋焼失。平成9年台風で主屋倒壊、正門と蔵のみ残る。	
09	06	女人道（轆轤峠火見台跡下監視施設跡）	高野町大字高野山	昭和	—	第二次世界大戦時に潮岬から大阪へ向かう飛行機を監視するために使われた。火見台の下の木造の平屋建てで、青年団が交代で監視。	
09	06	女人道（轆轤峠先火見台跡）	高野町大字高野山	昭和11年頃	—	全国愛林日に高野山でも昭和11年から行うようになり、金剛峯寺山林課は火見台を女人道轆轤峠先に設置。鉄塔約20m、中に梯子2段掛かる。第二次世界大戦で金属供出され基礎の台のみ残る。	
09	06	同期の桜供養塔	高野町大字高野山553	昭和42年	—	「あゝ同期の桜」と刻された海軍第14期飛行専修予備学生戦没者慰霊塔（高野山奥院供養塔）。戦後23回忌の昭和42年8月完成。	
09	06	空挺落下傘部隊将兵の墓	高野町大字高野山548	昭和	—	空挺落下傘部隊の慰霊顕彰（高野山奥院供養塔）。碑文「祖国日本の弥栄を願い、後に続く者を信じ、空挺落下傘部隊の将兵の霊は此処に静かに眠る」。	
09	06	日満支事変戦没者供養塔	高野町大字高野山548	昭和	—	日満支事変戦没者供養塔（高野山奥之院の供養塔）。満州・上海何事変。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	航空殉難者之碑	高野町大字高野山548	昭和	—	航空機を製造する新明和工業株式会社が建立した高野山奥之院供養塔。令和2年に供養塔の石塔を改修。	
09	06	高野町満州開拓団犠牲者慰霊碑	高野町大字高野山548	昭和29年	—	高野町満州開拓団犠牲者慰霊碑（高野山奥之院供養塔）。満蒙開拓事業は昭和7年より100万戸移住計画の国策で、昭和20年終戦での引揚げは壮絶であった。	
09	06	海軍整備練生慰霊碑	高野町大字高野山553	昭和57年	—	海軍整備科予備練習生の生存する同志が奥之院に慰霊碑建立。昭和14年第1期生より昭和19年第6期生に至る2500人が第二次世界大戦の航空機整備に従事。	
09	06	高野山海軍航空隊供養塔	高野町大字高野山553	昭和	—	太平洋戦争で命を落とした高野山海軍航空隊卒業生60人の慰霊碑（高野山奥之院供養塔）。昭和19年高野山に海軍航空隊の予科練が置かれた。	
09	06	北ボルネオ戦没者慰霊碑	高野町大字高野山548	昭和53年	—	第二次世界大戦で北ボルネオに派遣され戦死した者の1222人の慰霊碑（高野山奥之院供養塔）。	
09	06	七尾市戦没者慰霊碑（十三重塔）	高野町大字高野山548	昭和	—	石川県の七尾市戦没者慰霊碑（高野山奥之院供養塔）。	
09	06	陸軍歩兵大佐高城義孝墓（乃木大将之書）	高野町大字高野山548	明治	—	明治37年（1904）8月12日に戦死した陸軍大佐高城義孝の慰霊顕彰の碑（高野山奥之院供養塔）。碑文は乃木大将書。墓石上に砲弾。	
09	06	伊号第34潜水艦戦士慰霊碑	高野町大字高野山553	昭和	—	呉鎮守府潜水艦戦没者の碑（高野山奥之院供養塔）。広島県呉の海軍潜水艦の伊34は英軍潜水艦に撃沈された最初の日本線潜水艦。	
09	06	陸士第56期慰霊碑	高野町大字高野山553	昭和54年	—	昭和54年9月30日建立。陸軍士官学校第56期生、陸軍航空士官学校第56期生、陸軍経理学校第5期生、満州国陸軍軍官学校第1期生の同期生2840名の友情を記す合同慰霊碑（奥之院供養塔）。	
09	06	明治27・28年日新之役・明治33年北清事変戦死者忠魂碑	高野町大字高野山548	明治	—	明治27年（1894）～明治28年（1895）の日清戦争と明治33年（1900）の北清事変における高野山奥之院の戦死者供養塔。	
09	06	沖繩戦戦没者高野山供養塔	高野町大字高野山	昭和39年	—	塔内に高野山大学学生等が沖縄県摩文仁で収集した遺骨120柱の分骨を安置し、全国の英霊の過去帳を合祀。	12
09	06	「あゝ 同期の桜」碑	高野町大字高野山		—	大円院前。	
09	06	和歌山県特別攻撃隊供養塔	高野町大字高野山		—		
09	06	高野山海軍航空隊 平和祈願供養塔	高野町大字高野山	昭和62年	—		
09	06	和歌山県海外引揚物故者供養塔	高野町大字高野山	昭和45年	—		
09	06	和歌山県伊都郡戦没者追悼慰霊碑	高野町大字高野山		—		
09	06	英霊殿 大東亜戦争一般無縁者之墓・無縁戦士之墓	高野町大字高野山		—		
09	06	成福院摩尼宝塔	高野町大字高野山		—	ビルマ戦戦没者を慰霊するために建立。戦没者の遺品を展示。	
09	06	ビルマ戦没者納骨塔	高野町大字高野山	昭和55年	—	ビルマ戦戦没者を慰霊するために高野山摩尼塔奉賛会が奥之院に建立。	
09	06	戦艦陸奥殉職者供養塔	高野町大字高野山	昭和48年	—	昭和18年に沈没した戦艦陸奥の1121柱の供養塔。引き揚げられた戦艦陸奥の四番砲台の砲座を台盤に推進軸を供養塔の柱とする。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	独立工兵第十五連隊戦没者慰霊碑	高野町大字高野山		—		
09	06	山砲兵第十五連隊慰霊碑	高野町大字高野山		—		
09	06	飛行第八連隊第十九飛行場大隊供養塔	高野町大字高野山		—		
09	06	近衛歩兵第四連隊戦没者慰霊塔	高野町大字高野山		—		
09	06	海防艦「大東」戦没者慰霊碑	高野町大字高野山	昭和52年	—		
09	06	第十五号海防艦鎮魂碑	高野町大字高野山	平成5年	—		
09	06	海軍通信学校第四十一期慰霊碑	高野町大字高野山		—		
09	06	海軍通信学校第五十二期慰霊碑	高野町大字高野山	昭和50年	—		
09	06	昭和殉難者法務死慰霊碑	高野町大字高野山		—		
09	06	大阪府八尾市戦没者英霊塔	高野町大字高野山		—		
09	06	大阪市東成区中本校下戦殉英霊供養碑	高野町大字高野山		—		
09	06	兵庫県三木市戦没者英霊供養塔	高野町大字高野山		—		
09	06	兵庫県尼崎市戦没英霊供養塔	高野町大字高野山		—		
09	06	三重県飯高郡出身英霊供養塔	高野町大字高野山		—		
09	06	前橋陸軍予備士官学校慰霊碑	高野町大字高野山		—		
09	06	東部ニューギニア派遣第四十四兵站地区隊猛第四八一七部隊戦没者慰霊塔	高野町大字高野山		—		
09	06	アンボン島海軍特別陸戦隊戦士之碑	高野町大字高野山		—		
09	06	黒龍江省富錦第七五部隊慰霊碑	高野町大字高野山		—		
09	06	三光汽船慰霊碑	高野町大字高野山		—		
09	06	国際運輸株式会社 慰霊碑	高野町大字高野山		—		
09	06	高野山海軍航空隊適性部隊跡（本大院）	高野町大字高野山		—	石碑建立。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	07	高野町消防組沿革誌石碑	高野町大字高野山（高野山森林公園内）	昭和14年	—	明治16年金剛峯寺が消防組織（火消し方）編成。昭和12年戦争勃発以来、国内で警防団として各組織を統一、元の消防組織解散。碑は当初、消防署裏の天神社境内。	
09	07	神谷の仇討ち（墓所・黒石）	高野町大字西郷（神谷）	明治4年	—	敵討禁止令（明治6年）前の明治4年日本最後の仇討ちの場所。討たれた7人の墓所と仇討ち時に石の陰に隠れた「黒石」が残る。	
10	03	高野山大学図書館	高野町大字高野山385	昭和4年	国登録	鉄筋コンクリート造、地上3階地下1階建、銅板葺。30万冊の仏教書を収蔵・公開する施設。武田五一設計。建築当時は東洋一の図書館とも称された。	1
10	03	高野山霊宝館	高野町大字高野山306	大正9年	国登録	高野山の宝物を収蔵する宝物館。玄関部から中廊により紫雲殿と北廊により放光閣と結ばれる。宝蔵は鉄筋コンクリート造。木造で内外全てを漆喰塗り。	2
10	05	高野山スキー場（軍事関係）	高野町大字高野山	昭和	—	昭和6年スキー場が開かれ、戦時下に厳寒時の心身錬成道場として訓練で利用。昭和15年頃から食糧増産のために芋類・野菜が育てられた。	
10	06	熊谷寺・持宝院	高野町大字高野山	大正	—	円光大師真影堂。桁行3間、梁間4間、入母屋造。銅板葺。向拝1間。表門は大正9年（1920）に建てられている。	
10	06	金剛峯寺 新書院	高野町大字高野山	昭和32年	—	昭和32年神戸市から移築。桁行8間2尺、梁間4間2尺、入母屋造銅板葺。明治2年青巖寺と興山寺を合併して総本山金剛峯寺となる。新書院は旧興山寺の範囲。	2
10	06	金剛峯寺 奥殿	高野町大字高野山	昭和8年	—	桁行11間3尺、梁間6間4尺、入母屋造銅板葺で正面に切妻造の玄関。昭和8年金剛峯寺旧興山寺の範囲に弘法大師入定千百年御遠忌大法会記念に建築。	2
10	06	金剛峯寺 別殿	高野町大字高野山	昭和9年	—	入母屋造、銅板葺、1100年遠忌に建築	
10	06	金剛峯寺 真松庵	高野町大字高野山	昭和40年	—	寄棟造、銅板葺、松下幸之助 寄進の茶室	
10	06	金剛峯寺 阿字観道場	高野町大字高野山	昭和40年	—	桁行七間、梁間三間、切妻造、銅板葺	
10	06	壇上伽藍 金堂	高野町大字高野山	昭和7年	—	天保14年焼失、万延元年棟上、昭和元年再び焼失、御遠忌大法会のために耐震耐火を旨指し昭和7年再建。梁間14間、桁行18間、高さ約23m。本尊は高村光雲作。	2
10	06	壇上伽藍 根本大塔	高野町大字高野山	昭和12年	—	天保14年焼失、御遠忌大法会のために再建、昭和12年に国をあげての落慶法要。高さ488.5mの耐震耐火を備えた鉄骨、鉄筋コンクリート造り建物（外部は木造）。	2
10	06	壇上伽藍 西御堂・弥勒堂（現准胝堂）	高野町大字高野山	明治16年	—	御影堂西隣のお堂で西御堂又は弥勒堂とも呼び明治16年再建。大師が得度剃髪した際、自ら彫刻した准胝観音が本尊。	
10	06	壇上伽藍 六角経蔵（荒川経蔵）	高野町大字高野山	昭和9年	—	小さな六角形経蔵で荒川経蔵ともいう。金堂大火時に類焼、現在はコンクリート造り（大阪の故坂口祐三郎夫妻が寄進）。	
10	06	壇上伽藍 鐘楼	高野町大字高野山	昭和33年	—	RC造、桁行三間、梁間三間、入母屋造、銅瓦葺。設計施工あめりか屋	
10	06	壇上伽藍 浄水所	高野町大字高野山	昭和33年	—	RC造、桁行三間、梁間一間、切妻造、銅板葺。設計施工あめりか屋	
10	06	奥之院 頌徳殿	高野町大字高野山	大正4年	—	奥之院の休憩所、お茶所。桁行5間、梁間3間、妻入、入母屋造、銅板。長押以下は後の補材か。	2
10	06	奥之院 納骨堂	高野町大字高野山	大正15年	—	八角円堂、銅板葺、素木建ての参拝者が納骨、遺髪を納める小堂宇。元和8年建立、腐朽して大正15年御恩忌奉賛事業で大阪の小西久兵衛が寄進。	
10	06	奥之院 高野山震災霊牌堂	高野町大字高野山	昭和5年	—	関東震災犠死者の霊牌堂。武田五一設計	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	高野山大師教会	高野町大字高野山	大正4年	—	大正4年高野山開創千百年記念大法会記念事業で建立。集団得度、阿字観、宗教舞踊等が行われる大講堂。桁行19.3m、梁間30.3m入母屋造銅板葺。	2
10	06	蓮華定院庫裡	高野町高野山	幕末	—	蓮華定院は行勝上人が建久年間（1190～99）に開き始め念仏院といった。真田幸村一族が住んだことがある。客殿、台所、中央玄関（一体型）、檜皮葺。	
10	06	蓮華定院本堂	高野町大字高野山	幕末	—	万延元年（1860）に建てられる。軸部土蔵造、正面三間、一重入母屋造、正面一間向拝付、北側に位牌堂が接続。	
10	06	蓮華定院山門	高野町大字高野山	幕末	—	万延元年（1860）。四脚門、檜皮葺。	
10	06	西塔（金剛峯寺）	高野町大字高野山	幕末	—	現在の西塔は5度の災禍の後、天保5年（1834）再建。本尊は金剛界五仏。方5間の大型多宝塔で、屋根は本瓦型銅板葺。	
10	06	桜池院庫裡	高野町大字高野山		—	覚法法親王開基の寺。複合屋根、檜皮葺、正面玄関付、入母屋造、妻入り、軒唐破風付。	
10	06	安養院庫裡	高野町大字高野山		—	融通念仏宗法明上人の剃髮寺。入母屋造、銅板葺、正面玄関付、軒唐破風、銅板葺。元暦年間（1184～85）再建。長く毛利家の守護を受けた。	
10	06	普賢院 本堂・桜門	高野町大字高野山	明治	—	本堂は桁行3間、梁間3間、入母屋造、檜皮葺、両脇に護摩堂と位牌堂が接続。鐘楼門は一間一戸楼門、入母屋造、本瓦型銅板葺。	
10	06	西門院 本堂	高野町大字高野山	幕末	—	嘉永4年（1851）。正面6間長、宝形造、銅板葺、正面軒唐破風、正面前下屋付、銅板葺。	
10	06	光臺院 本堂・多宝塔・経蔵	高野町大字高野山	昭和2年	—	多宝塔は棟札より大正6年（1917）に建てられていることがわかる。方3間、多宝塔、檜皮葺。	
10	06	大圓院 表門	高野町大字高野山	大正	—	1間1戸4脚門、切妻造、檜皮葺、両脇袖扉付、土堀、檜皮葺。	
10	06	旧丹生院庫裡（現宝善院）	高野町大字高野山	明治23年～	—	2階建、入母屋造、銅板葺、正面玄関付、入母屋造、妻入、銅板葺。昭和39年に寺名を宝善院と変更。昭和後期のものか。	
10	06	清浄心院	高野町大字高野山	幕末	—	現在の建物は54世有永上人の再建。弘法大師の草創で、院号も勅命による。	
10	06	赤松院庫裡	高野町大字高野山	明治初期	—	本堂は桁行3間、梁間3間、宝形造、銅板葺、背面付属屋、桁行10間長、梁行4間長、切妻造。	
10	06	普門院 本堂	高野町大字高野山	幕末	—	宝形造、正面唐破風向背付、銅板葺、側面護摩堂他付属、北側入母屋造。	
10	06	普門院 庫裡	高野町大字高野山	明治	—	西側入母屋造、東側切妻造、銅板葺、正面唐破風玄関、銅板葺付属。明治中期。	
10	06	菰萱堂の絵解き（菰萱堂）	高野町大字高野山	昭和元年	—	菰萱堂では昭和元年に二宮金嶺が「菰萱上人石童丸御一代記絵伝」額絵三十面を描き絵解きしてきた。額絵を歩いてたどることで菰萱と石童丸の悲劇は絵解かれる。	
10	06	清不動堂（外不動堂）	高野町大字高野山	大正9年	—	清不動堂は大正4年高野山開創1100年記念大法会のために大阪の榊谷清吉の発願によって現在の位置に移転。大正9年9月9日に落慶供養。	

【かつらぎ町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
01	02	入道山鉦山	かつらぎ町東淡田	明治10年	—		

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
01	02	古峠の銅鉱山	かつらぎ町上天野	明治7年	—		
01	02	丸山鉱山	かつらぎ町御所	明治	—		
04	04	初桜酒造	かつらぎ町中飯降	明治初期～	国登録	元は明和2年創業の木下酒造で、明治から大正期の主屋・仕込蔵・囲蔵等が残る。	1、2
05	01	紀和鉄道	かつらぎ町中飯降・西飯降・妙寺・丁ノ町・大藪・大谷・佐野・笠田東・笠田中・萩原・窪・背ノ山・高田	明治33年	—	明治33年敷設。町域唯一の鉄道（現JR和歌山線）。明治30年起工式、翌年一部営業開始し、資金難で工事一時中止。翌32年12月未成線の起工式、翌年全路線開通。	
05	01	大谷駅（旧紀和鉄道）	かつらぎ町大谷	昭和27年	—	現JR和歌山線。	1
05	01	西笠田駅（旧紀和鉄道）	かつらぎ町高田	昭和27年	—	現JR和歌山線。	1
05	01	笠田駅（旧紀和鉄道）	かつらぎ町笠田東	昭和2年	—	現JR和歌山線。	1
05	01	妙寺駅（旧紀和鉄道）	かつらぎ町丁ノ町	大正10年	—	現JR和歌山線。明治33年開業で、上りプラットホーム基礎はレンガで構築。	1
05	01	中飯降駅（旧紀和鉄道）	かつらぎ町中飯降	昭和32年	—	現JR和歌山線。	1
05	01	大谷川架道橋（旧紀和鉄道）	かつらぎ町大谷	明治31年	—	現JR和歌山線。橋台はレンガで構築。	1
05	01	小黒谷川架道橋（旧紀和鉄道）	かつらぎ町丁ノ町	明治31年	—	現JR和歌山線。橋台はレンガで構築。桁は平成6年竣工。	1
05	01	第1大和街道架道橋（旧紀和鉄道）	かつらぎ町丁ノ町	明治33年	—	現JR和歌山線。橋台はレンガで構築。石材による隅石も設けられレンガ5段を挟む。	1
05	01	中谷川橋梁（旧紀和鉄道）	かつらぎ町大藪	明治31年	—	現JR和歌山線。橋台はレンガで構築。	1
05	01	不詳構造物（旧紀和鉄道）	かつらぎ町笠田東	明治？	—	現JR和歌山線。笠田駅西方約300mの高等学校踏切の下り方の線路両脇に存在。レンガ造。線路で分断された水路？	1
05	01	笠田川開渠（旧紀和鉄道）	かつらぎ町笠田東	明治33年	—	現JR和歌山線。橋台はレンガで構築。	1
05	01	風呂谷川開渠（旧紀和鉄道）	かつらぎ町萩原	明治33年	—	現JR和歌山線。橋台はレンガで構築。	1
05	01	中島川開渠（旧紀和鉄道）	かつらぎ町萩原	明治33年	—	現JR和歌山線。橋台はレンガで構築。	1
05	01	久保谷川開渠（旧紀和鉄道）	かつらぎ町萩原	明治43年	—	現JR和歌山線。橋台はレンガで構築。主桁側面に「浦賀船渠株式会社製造明治四十三年十二月」の銘板。	1
05	02	大和街道	かつらぎ町中飯降・妙寺・笠田東	明治	—	明治期に県費支弁、大正期県道、昭和前期に国道となる。近世以来のルートの一部引き継ぎつつ近代においても主要道路となる。	
05	02	西高野街道	かつらぎ町御所・志賀・新城・下天野	明治	—	明治期に県費支弁となり、大正期に県道となる。近世以来のルートの一部引き継ぎつつ近代においても主要道路となる。	
05	02	高野参詣道町石道	かつらぎ町山崎・教良寺・上天野・下天野・神田	大正	—	大正期に県道となる。古代以来のルートが近代においても主要道路とされた。	
05	02	妙寺停車場線	かつらぎ町妙寺	大正	—	大正期に県道となる。近代の主要道路。	
05	02	上天野三谷線	かつらぎ町上天野・三谷	昭和	—	昭和前期。昭和前期の匡救事業で敷設された道路。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	02	下天野星山線	かつらぎ町下天野・星山	昭和	—	昭和前期。昭和前期の匡救事業で敷設された道路。	
05	02	道路改修記念碑	かつらぎ町大畑	昭和3年	—		
05	02	道路改修碑	かつらぎ町短野	昭和11年	—		
05	02	不明道標	かつらぎ町中飯降	明治9年	—		
05	02	柏木平松垣内里道改修碑	かつらぎ町柏木	大正6年	—		
05	02	柏木道路改修記念碑	かつらぎ町柏木	大正6年	—		
05	02	広浦道路改修記念碑	かつらぎ町佐野	昭和8年	—		
05	02	道路改修記念碑	かつらぎ町笠田中	昭和10年	—		
05	02	道路改修記念碑	かつらぎ町滝	昭和3年	—		
05	02	丹生神社道路改修寄付碑	かつらぎ町山崎	明治40年	—		
05	02	道路改修記念碑	かつらぎ町山崎	明治34年	—		
05	02	道標（高野参詣道町石道163町石近く）	かつらぎ町山崎	明治3年	—		
05	02	道標（高野参詣道町石道156町石近く）	かつらぎ町山崎	明治か	—		
05	02	道路改修記念碑	かつらぎ町教良寺	大正4年	—		
05	02	三谷坂道標	かつらぎ町三谷	昭和18年	—		
05	02	開道記念碑	かつらぎ町東浜田	明治25年	—		
05	03	北川橋	かつらぎ町萩原	昭和7年	—		1
05	03	三谷橋	かつらぎ町妙寺・三谷	明治45年	—	明治45年5月18日竣成。当初は木橋だったが、昭和30年代にトラス橋に改修。かつらぎ町で最初の紀の川架橋による橋。	
05	03	大門口橋	かつらぎ町笠田東・東浜田	大正元年	—	大正元年竣成。昭和9年改修。大正時代の紀の川架橋。	1
05	03	大門口大橋	かつらぎ町笠田東・東浜田	昭和47年	—	昭和47年（1972）竣成。昭和時代の紀の川架橋。	
05	03	かつらぎ橋	かつらぎ町大谷・兄井	昭和35年	—	昭和35年（1970）竣成。昭和時代の紀の川架橋。かつらぎ町発足時に掲げられた三重大事業の一つ。	
05	09	堤防修築碑	かつらぎ町東浜田	明治16年	—		
05	09	堤防改修記念碑	かつらぎ町島	昭和41年	—		
06	06	旧伊都銀行本店	かつらぎ町	明治	—	当時存在した橋本銀行・四十三銀行橋本支店と合わせた3行のなかで預金残高が最多であった。木造二階建瓦葺漆喰塗の近代和風建築。	1
07	01	大谷村組合農業倉庫	かつらぎ町大谷	大正～昭和	—	大谷村（昭和30年に旧伊都町と合併）が存在していた時代から続く農業倉庫で、現在でも選果場として使用されている。地元では大正末期から昭和初期と伝わる。木造平屋建瓦葺の近代和風建築。	1
07	01	小田井用水 中谷川水門	かつらぎ町中飯降	明治45年	国登録	中谷川と交差地点に設けた暗渠。サイホン原理を利用した吹樋で水路は河床下をくぐり下流へ流れる。	1
07	01	小田井用水 小庭谷川渡井	かつらぎ町笠田東	明治42年	国登録	小庭谷川に架かるレンガ造の単アーチ水路橋。明治後期から始まった改修工事で最初期に完成。	1
07	01	中飯降簡易水道まんぼ（トンネル）	かつらぎ町中飯降	昭和7・8年	—		1
07	01	畑谷池改修記念碑	かつらぎ町妙寺	昭和16年	—	近世に応其上人が開削したとされる畑谷池の、近代の改修記念碑。	
07	01	大蔵開墾記念碑	かつらぎ町大蔵	明治24年	—		

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	06	法福寺蚕霊供養塔	かつらぎ町広口	明治35年	—		
08	06	菊谷医院	かつらぎ町大谷	大正12・14年	—	内科医院。大正12年、大正14年にそれぞれ外壁ペンキ塗りの木造平屋建の診療棟、病室棟が建築された。主屋は昭和10年。	1
08	09	金剛の滝（昭和28年7・18水害関係）	かつらぎ町花園新子	昭和28年	—	昭和28年7・18水害で有田川に大量の土砂が堆積して天然ダムができ、それを切り開いた際に潰となったもの。	
08	09	金剛地大日堂跡（昭和28年7・18水害関係）	かつらぎ町花園新子	昭和28年	—	昭和28年7・18水害で流出した大日堂。村の信仰を集める堂舎が完全に流出したことを物語る跡地。	
08	09	北寺観音堂壁面土石流跡（昭和28年7・18水害関係）	かつらぎ町花園北寺	昭和28年	—	昭和28年7・18水害で土石流が起き、土砂が北寺観音堂（町指定文化財）壁面に付着したままとなる（28水の爪痕）。上東秀明氏証言。	
08	09	仮称「紀州大水害石碑」（昭和28年7・18水害関係）	かつらぎ町花園北寺	昭和	—	昭和28年7・18水害で亡くなった北寺村の方々を銘刻した石碑。犠牲者の記録を永久に遺す貴重な石碑。	
08	09	七郷井完工記念碑	かつらぎ町中飯降	昭和32年	—		
08	13	東山安兵衛氏記念碑	かつらぎ町大畑	近代	—		
08	13	浪分善助墓（字西出前）	かつらぎ町佐野	明治9年	—		
08	13	浪分善助墓（次田）	かつらぎ町佐野	明治13年	—		
08	13	金沢先生顕徳碑	かつらぎ町笠田東	明治28年	—		
08	13	神願寺文覚上人碑	かつらぎ町萩原	明治29年	—		
08	13	浅野老岐守殿松山亀次郎君記念碑	かつらぎ町移	明治36年	—		
08	13	高田共同墓地顕彰碑	かつらぎ町高田	大正元年	—		
08	13	阿弥陀堂森翁碑	かつらぎ町東谷	明治23年	—		
08	13	小西君顕徳記	かつらぎ町平	昭和14年	—		
08	13	成善寺・西方寺菅野君遺功碑	かつらぎ町山崎	明治36年	—		
08	13	望月右内顕徳碑	かつらぎ町兄井	大正6年	—		
08	13	奥村利平翁顕徳碑	かつらぎ町寺尾	昭和4年	—	28水害関係	
08	13	金河先生記念碑	かつらぎ町平沼田	明治28年	—		
08	13	福井先生碑	かつらぎ町宮本	明治32年	—		
08	13	宮井先生顕徳碑	かつらぎ町東湊田	大正10年	—		
08	13	宮野治右門顕徳碑	かつらぎ町東湊田	近代か	—		
08	13	平野氏顕徳碑	かつらぎ町東湊田	大正14年	—		
08	13	前田興之丞顕徳碑	かつらぎ町上天野	大正3年	—		
09	06	平和の礎・かつらぎ町戦没者忠魂塔	かつらぎ町丁ノ町（かつらぎ公園）	昭和55年	—	昭和55年11月、かつらぎ町忠霊顕彰会がかつらぎ公園内に建設した忠魂塔。	
09	06	八幡山忠魂碑	かつらぎ町妙寺	明治40年	—	原位置・移動年・案内場所不明。現在は中飯降墓地の無縁仏祭壇にあり。	
09	06	八幡山忠魂碑前石灯籠	かつらぎ町妙寺	昭和25年	—	丹生神社は慈尊院の丹生神社勧請、創建年不明。	
09	06	八幡山忠魂碑建設記念略歴碑	かつらぎ町妙寺	昭和22年	—	〃	
09	06	大谷神社忠魂碑	かつらぎ町大谷	明治43年	—	〃	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	元興寺英霊供養碑	かつらぎ町大谷	昭和26年	—	〃	
09	06	宝来山神社忠魂碑	かつらぎ町萩原	明治39年	—	〃	
09	06	八幡神社慰霊碑	かつらぎ町高田	昭和10年	—	椿ノ森神社は小祠二社あり、佐々木高綱とその名馬「池月」の霊を祀るとされる。	
09	06	八幡神社国旗掲揚台	かつらぎ町高田	昭和13年	—	紀伊統風土記の「八幡の森」に該当すると考えられる。明治期に数社合祀。	
09	06	高田共同墓地忠魂碑	かつらぎ町高田	昭和25年	—	〃	
09	08	大將軍宮紀元二千六百年記念碑	かつらぎ町東谷	昭和15年	—	〃	
09	06	極楽寺戦没者慰霊碑	かつらぎ町滝	明治39年	—	笛吹神社は妙寺下村家の氏神とされる。名草郡岩橋の高橋明神とも関係するとされる。	
09	06	大宮神社忠魂碑	かつらぎ町広口	明治31年	—	太神宮は江戸時代前期創建とされる。大正5年に八幡宮と合祀、跡地となる。	
09	06	栄光宮	かつらぎ町平沼田	昭和か	—	遍照寺は創建不明だが応其上人中興とされる。近世初頭の仏像3軀は町指定。	
09	06	地福寺満州開拓殉職母子之碑	かつらぎ町平沼田	昭和22年	—	〃	
09	06	忠魂碑	かつらぎ町東浜田	明治39年	—	〃	
09	06	八幡神社忠魂碑	かつらぎ町下天野	大正11年	—	西南戦争から満州事変に至る町内出征者・戦病死者を祀る。	
09	06	報国神社花立	かつらぎ町志賀	大正8年	—	アジア・太平洋戦争復員有志建立。	
09	06	正覚寺記念碑	かつらぎ町新城	明治38年	—	八幡山忠魂碑の建設に至る経緯等を記す。	
09	06	久木丹生神社軍人招魂碑	かつらぎ町花園久木（久木丹生神社）	明治39年	—	久木丹生神社境内に建つ。	
09	06	下花園神社忠魂碑	かつらぎ町花園梁瀬（下花園神社）	大正14年	—	下花園神社境内に建つ。	
09	06	北寺観音堂軍人招魂碑	かつらぎ町花園下北寺（北寺観音堂）	明治34年	—	北寺観音堂境内に建つ。	
10	01	妙寺尋常高等小学校畑野分校	かつらぎ町短野	明治45年	—	現妙寺小学校畑野分校。明治9年に短野・大畑地区に小学校設立。合併を繰り返し明治45年に畑野分教場に木造平屋建の新校舎竣工。西側に昭和35年竣工の講堂。	1
10	01	笠田小学校の門柱	かつらぎ町笠田東	大正9年	—	〃	1
10	01	浜田尋常高等小学校	かつらぎ町東浜田	昭和11年	—	現浜田小学校。明治29年に現在地移転。昭和11年に現存する本館木造2階建校舎が落成。	1
10	01	旧大谷小学校校地拡張記念碑	かつらぎ町大谷	大正8年	—		
10	01	笠田小学校正門門柱	かつらぎ町笠田東	大正9年	—		
10	06	丹生神社鳥居	かつらぎ町大畑	明治36年	—	近世に応其上人が開削したとされる畑谷池の、近代の改修記念碑。	
10	06	大威徳明王碑	かつらぎ町大畑	明治9年	—	八王子神社は、紀伊統風土記に3社ありとの記載で、詳細不明。	
10	06	医王神社鳥居	かつらぎ町短野	昭和12年	—		
10	06	医王神社狛犬	かつらぎ町短野	昭和12年	—		
10	06	医王神社花立	かつらぎ町短野	慶應4年	—		
10	06	医王神社遙拝所鳥居	かつらぎ町短野	昭和12年	—		

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	医王神社遥拝所石灯笼	かつらぎ町短野	明治13年	—		
10	06	医王神社遥拝所手水鉢	かつらぎ町短野	昭和12年	—		
10	06	医王神社花立	かつらぎ町短野	明治26年	—		
10	06	城山神社社名標	かつらぎ町中飯降	昭和2年	—		
10	06	城山神社石段3	かつらぎ町中飯降	明治4年か	—		
10	06	城山神社狛犬	かつらぎ町中飯降	慶應3年	—		
10	06	城山神社百度石	かつらぎ町中飯降	慶應2年	—		
10	06	城山神社石燈籠	かつらぎ町中飯降	明治39年	—	拝殿前、前列2基	
10	06	城山神社石燈籠	かつらぎ町中飯降	昭和2年	—	拝殿前、後列右	
10	06	城山神社句碑	かつらぎ町中飯降	慶應2年	—		
10	06	城山神社山神碑	かつらぎ町中飯降	昭和2年	—		
10	06	天満宮鳥居	かつらぎ町中飯降	昭和12年	—		
10	06	天満宮手水鉢	かつらぎ町中飯降	昭和12年	—		
10	06	天満宮百度石	かつらぎ町中飯降	昭和12年	—		
10	06	天満宮寄付碑	かつらぎ町中飯降	昭和12年	—	もとは八王子神社に奉納されたもの	
10	06	天満宮橋	かつらぎ町中飯降	昭和14年	—	もとは八王子神社及び金刀比羅大権現に奉納されたもの	
10	06	徳円寺手水鉢2	かつらぎ町中飯降	昭和12年	—		
10	06	徳円寺手水鉢	かつらぎ町中飯降	慶應2年	—		
10	06	徳円寺上水道開通記念碑	かつらぎ町中飯降	昭和8年	—		
10	06	大師堂石灯笼	かつらぎ町中飯降	明治33年	—		
10	06	八王子社	かつらぎ町中飯降	明治40年	—		
10	06	東光寺墓地鳥居	かつらぎ町中飯降	明治40年	—		
10	06	推定高坊家墓13	かつらぎ町中飯降	慶應3・4年	—		
10	06	推定高坊家墓14	かつらぎ町中飯降	明治18・29年	—		
10	06	推定高坊家墓15	かつらぎ町中飯降	大正7年	—		
10	06	推定田所家墓10	かつらぎ町中飯降	明治22年	—		
10	06	推定田所家墓11	かつらぎ町中飯降	明治20年	—		
10	06	丹生神社鳥居（上り口）	かつらぎ町西飯降	明治35年	—	丹生神社は慈尊院の丹生神社勧請、創建年不明。	
10	06	丹生神社鳥居（拝殿前）	かつらぎ町西飯降	大正11年	—		
10	06	丹生神社石灯笼（本殿前右）	かつらぎ町西飯降	大正11年	—		
10	06	丹生神社石灯笼（本殿前左）	かつらぎ町西飯降	明治35年	—		
10	06	丹生神社狛犬	かつらぎ町西飯降	大正11年	—		
10	06	椿ノ森八幡社花立	かつらぎ町西飯降	大正11年	—	椿ノ森神社は小祠二社あり、佐々木高綱とその名馬「池月」の霊を祀るとされる。	
10	06	八太神社石灯笼（拝殿前）	かつらぎ町妙寺	昭和11年	—	紀伊統風土記の「八幡の森」に該当すると考えられる。明治期に数社合祀。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	八太神社石灯籠（もと八幡神社）	かつらぎ町妙寺	明治34年	—		
10	06	八太神社狛犬	かつらぎ町妙寺	大正5年	—		
10	06	笛吹神社鳥居	かつらぎ町妙寺	大正14年	—	笛吹神社は妙寺下村家の氏神とされる。名草郡岩橋の高橋明神とも関係するとされる。	
10	06	太神宮跡	かつらぎ町妙寺	大正5年	—	太神宮は江戸時代前期創建とされる。大正5年に八幡宮と合祀、跡地となる。	
10	06	遍照寺石灯籠	かつらぎ町妙寺	大正6年	—	遍照寺は創建不明だが応其上人中興とされる。近世初頭の仏像3軀は町指定。	
10	06	遍照寺大威徳明王碑	かつらぎ町妙寺	明治26年	—		
10	06	遍照寺供養塔	かつらぎ町妙寺	明治39年	—		
10	06	八王子神社鳥居（社務所前）	かつらぎ町丁ノ町	大正14年	—	八王子神社は、紀伊統風土記に3社ありとの記載で、詳細不明。	
10	06	八王子神社鳥居（本殿前）	かつらぎ町丁ノ町	明治39年	—		
10	06	八王子神社手水鉢（拝殿横）	かつらぎ町丁ノ町	明治27年	—		
10	06	八王子神社狛犬（拝殿前）	かつらぎ町丁ノ町	大正14年	—		
10	06	八王子神社狛犬	かつらぎ町丁ノ町	大正14年	—	本殿前	
10	06	八王子神社石段	かつらぎ町丁ノ町	大正14年	—	本殿前	
10	06	和田寺石灯籠	かつらぎ町丁ノ町	明治2年	—		
10	06	和田寺手水鉢	かつらぎ町丁ノ町	明治21年	—		
10	06	和田寺大威徳明王碑	かつらぎ町丁ノ町	明治36年	—		
10	06	江戸観音堂喚鐘	かつらぎ町丁ノ町	明治23年	—		
10	06	八王子神社（市原）鳥居	かつらぎ町丁ノ町	大正9年	—		
10	06	八王子神社（市原）石灯籠（石段下）	かつらぎ町丁ノ町	大正9年	—		
10	06	八王子神社（市原）石灯籠（本殿前）	かつらぎ町丁ノ町	大正9年	—		
10	06	八王子神社（市原）手水鉢	かつらぎ町丁ノ町	大正9年	—		
10	06	八王子神社（市原）石段（拝殿下）	かつらぎ町丁ノ町	大正9年	—		
10	06	八王子神社（市原）石段（拝殿上）	かつらぎ町丁ノ町	大正9年	—		
10	06	八王子神社（市原）狛犬	かつらぎ町丁ノ町	大正9年	—		
10	06	八王子神社（市原）玉垣寄付碑	かつらぎ町丁ノ町	大正9年	—		
10	06	医王寺跡鳥居	かつらぎ町丁ノ町	大正9年	—	もとは八王子神社に奉納されたもの	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	医王寺跡石灯籠	かつらぎ町丁ノ町	大正9年	—	もとは八王子神社及び金刀比羅大権現に奉納されたもの	
10	06	弁財天社花立	かつらぎ町丁ノ町	昭和2年	—		
10	06	太神社石灯籠	かつらぎ町新田	明治26年	—		
10	06	太神社鳥居	かつらぎ町新田	大正10年	—		
10	06	太神社百度石	かつらぎ町新田	大正2年	—		
10	06	太神社手水鉢	かつらぎ町新田	大正10年	—		
10	06	太神社石灯籠	かつらぎ町新田	明治24年	—		
10	06	太神社狛犬	かつらぎ町新田	大正10年	—		
10	06	太神社御造営寄付者碑	かつらぎ町新田	大正10年	—		
10	06	太神社正遷宮出氏子寄付芳名碑	かつらぎ町新田	大正10年	—		
10	06	柏木神社手水鉢	かつらぎ町柏木	明治11年	—		
10	06	柏木神社石灯籠	かつらぎ町柏木	明治11年	—		
10	06	地藏堂法華経塔	かつらぎ町柏木	明治36年	—		
10	06	慶勝寺石段	かつらぎ町大藪	明治20年	—		
10	06	大谷神社社名標	かつらぎ町大谷	昭和3年	—		
10	06	大谷神社百度石	かつらぎ町大谷	明治23年	—		
10	06	大谷神社百度石	かつらぎ町大谷	明治20年	—		
10	06	大谷神社鳥居	かつらぎ町大谷	明治40年	—	西入口	
10	06	大谷神社鳥居	かつらぎ町大谷	明治40年	—	拝殿前	
10	06	大谷神社石灯籠	かつらぎ町大谷	明治28年	—		
10	06	大谷神社手水鉢	かつらぎ町大谷	明治40年	—		
10	06	大谷神社石段	かつらぎ町大谷	明治40年	—	東入口	
10	06	大谷神社石段	かつらぎ町大谷	明治40年	—	本殿前	
10	06	大谷地内小祠花立	かつらぎ町大谷	昭和6年	—		
10	06	明光寺石灯籠	かつらぎ町佐野	明治39・40年	—		
10	06	大師堂石段	かつらぎ町佐野	明治41年	—		
10	06	稲荷神社花立	かつらぎ町佐野	大正10年	—		
10	06	祇園神社社名標	かつらぎ町笠田東	大正11年	—		
10	06	祇園神社鳥居	かつらぎ町笠田東	昭和12年	—		
10	06	夜叉田の森鳥居	かつらぎ町笠田東	昭和4年	—		
10	06	夜叉田の森手水鉢	かつらぎ町笠田東	大正8年	—		
10	06	白鬚大明神石灯籠	かつらぎ町笠田東	昭和4年	—		
10	06	円照寺樋の水受け	かつらぎ町笠田東	大正10年	—		
10	06	円照寺樋の石灯籠	かつらぎ町笠田東	大正10年	—	供養碑か。移転されたものらしい。	
10	06	祇園寺手水鉢	かつらぎ町笠田東	昭和12年	—		
10	06	地藏花立	かつらぎ町笠田東	大正11年	—		
10	06	笠田東第二自治区共同墓地六字名号碑	かつらぎ町笠田東	明治15年	—		
10	06	稲荷社手水鉢	かつらぎ町笠田中	昭和2年	—		
10	06	無量寺花立	かつらぎ町笠田中	昭和4年	—		

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	弥勒堂法花経塚	かつらぎ町笠田中	明治20年	—		
10	06	弥勒堂供養塔	かつらぎ町笠田中	昭和9年	—		
10	06	宝来山神社社名標	かつらぎ町萩原	昭和13年	—		
10	06	宝来山神社鳥居	かつらぎ町萩原	昭和3年	—		
10	06	宝来山神社石灯籠2	かつらぎ町萩原	昭和8年	—		
10	06	宝来山神社石灯籠6	かつらぎ町萩原	明治39年	—		
10	06	宝来山神社石灯籠7	かつらぎ町萩原	明治39年	—		
10	06	宝来山神社石灯籠8	かつらぎ町萩原	明治14年	—		
10	06	宝来山神社石灯籠12	かつらぎ町萩原	明治26年	—		
10	06	宝来山神社石灯籠17	かつらぎ町萩原	明治26年	—		
10	06	宝来山神社石灯籠14	かつらぎ町萩原	明治21年	—		
10	06	宝来山神社石灯籠21	かつらぎ町萩原	明治29年	—		
10	06	宝来山神社石灯籠26	かつらぎ町萩原	大正10年	—		
10	06	宝来山神社石灯籠30	かつらぎ町萩原	大正10年	—		
10	06	宝来山神社石灯籠27	かつらぎ町萩原	昭和15年	—		
10	06	宝来山神社石灯籠28	かつらぎ町萩原	昭和15年	—	十五年戦争	
10	06	宝来山神社石段1	かつらぎ町萩原	明治39年	—	山本忠造 笠田青年会高田支部長	
10	06	宝来山神社石段2	かつらぎ町萩原	大正5年	—		
10	06	宝来山神社石段3	かつらぎ町萩原	大正11年	—		
10	06	宝来山神社百度石	かつらぎ町萩原	昭和15年	—		
10	06	宝来山神社狛犬	かつらぎ町萩原	昭和15年	—		
10	06	遥拝所鳥居	かつらぎ町萩原	明治39年	—		
10	06	神願寺石燈籠	かつらぎ町萩原	慶應1年	—		
10	06	神願寺花立	かつらぎ町萩原	明治39年	—		
10	06	稲本保之輔君記念碑	かつらぎ町萩原	明治22年	—	供養碑か。移転されたものらしい。	
10	06	観音寺花立	かつらぎ町窪	明治26年	—		
10	06	観音寺石灯籠	かつらぎ町窪	明治25年	—	これを潜っていけば奥に若宮八幡神社・羊の宮がある。	
10	06	観音寺手水鉢	かつらぎ町窪	明治25年	—		
10	06	薬師堂花立	かつらぎ町窪	明治26年	—		
10	06	地藏小祠	かつらぎ町窪	慶應3年	—		
10	06	供養堂神変大菩薩台座	かつらぎ町窪	明治16年	—		
10	06	供養堂石灯籠	かつらぎ町窪	大正14年	—		
10	06	大將軍社花立	かつらぎ町移	昭和2年	—		
10	06	大將軍社簾志碑	かつらぎ町移	昭和12年	—		
10	06	極楽寺石段	かつらぎ町移	明治14年	—		
10	06	八幡宮花立	かつらぎ町背ノ山	明治17年	—		
10	06	八幡宮御神体碑	かつらぎ町背ノ山	大正6年	—		
10	06	鉢伏山小社花立	かつらぎ町背ノ山	昭和9年	—		
10	06	背ノ山地内小社石灯籠	かつらぎ町背ノ山	慶應3年	—		
10	06	背ノ山地内小社花立	かつらぎ町背ノ山	昭和11年	—		
10	06	八幡神社手水鉢	かつらぎ町高田	昭和10年	—		
10	06	薬師堂石段	かつらぎ町高田	昭和11年	—		

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	薬師堂手水鉢	かつらぎ町高田	昭和11年	—	供養碑。和歌山県巡査林種楠墓。	
10	06	一字一石塔	かつらぎ町高田	昭和元年	—	父鬼名手線平地区間	
10	06	不動明王碑	かつらぎ町高田	昭和15年	—		
10	06	八坂神社手水鉢	かつらぎ町東谷	明治28年	—		
10	06	八坂神社石段	かつらぎ町東谷	明治29年	—		
10	06	八坂神社花立	かつらぎ町東谷	明治30年	—		
10	06	大將軍宮	かつらぎ町東谷	昭和15年	—		
10	06	大將軍宮灯籠	かつらぎ町東谷	昭和15年	—		
10	06	大將軍宮鳥居	かつらぎ町東谷	昭和15年	—	これを潜っていけば奥に若宮八幡神社・羊の宮がある。	
10	06	若宮八幡神社手水鉢	かつらぎ町東谷	大正13年	—		
10	06	若宮八幡神社花立	かつらぎ町東谷	大正11年	—		
10	06	若宮八幡神社灯籠	かつらぎ町東谷	大正11・明治22年	—		
10	06	羊の宮神社石段	かつらぎ町東谷	大正11年	—		
10	06	羊の宮神社花立	かつらぎ町東谷	明治22年	—		
10	06	阿弥陀堂花立	かつらぎ町東谷	明治21年	—		
10	06	阿弥陀堂法華経塔	かつらぎ町東谷	明治25年	—		
10	06	七（八）大竜王社手水鉢	かつらぎ町東谷	明治5年	—		
10	06	八王寺喚鐘	かつらぎ町東谷	明治23年	—		
10	06	堀越禪観音石灯籠	かつらぎ町東谷	明治42年	—		
10	06	八王子神社花立	かつらぎ町平	明治12年	—	滝村東滝・妙寺町市原繪之森間	
10	06	八王子神社石段	かつらぎ町平	明治21年	—		
10	06	八王子神社通拝所碑	かつらぎ町平	大正7年	—		
10	06	八王子神社石灯籠	かつらぎ町平	明治21年	—		
10	06	福徳寺記念碑	かつらぎ町平	明治26年	—	供養碑。和歌山県巡査林種楠墓。	
10	06	道路改修記念碑	かつらぎ町平	昭和10年	—	父鬼名手線平地区間	
10	06	定福寺喚鐘	かつらぎ町平	昭和13年	—		
10	06	大威徳明王碑	かつらぎ町平	明治16年	—		
10	06	一言主神社花立	かつらぎ町平	明治39・38年	—		
10	06	誠神社社名碑	かつらぎ町平	昭和14年	—		
10	06	北辰妙見神社社名標	かつらぎ町滝	昭和13年	—		
10	06	北辰妙見神社鳥居	かつらぎ町滝	明治42年	—		
10	06	北辰妙見神社石灯籠	かつらぎ町滝	昭和4年	—		
10	06	北辰妙見神社石段（下のもの）	かつらぎ町滝	大正15年	—		
10	06	北辰妙見神社石段（上のもの）	かつらぎ町滝	大正15年	—		
10	06	大威徳明王碑（宇熊谷）	かつらぎ町滝	明治16年	—		

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	大威徳明王碑 (字熊谷) 手水鉢	かつらぎ町滝	明治16年	—		
10	06	大威徳明王碑 (字下福田)	かつらぎ町滝	明治14年	—		
10	06	大威徳明王碑 (字熊谷) 花立	かつらぎ町滝	明治16年	—		
10	06	大威徳明王碑 (字熊谷) 寄進碑	かつらぎ町滝	明治14年	—		
10	06	大威徳明王碑 (字熊谷) 手水鉢	かつらぎ町滝	明治41年	—		
10	06	大宮神社鳥居	かつらぎ町広口	昭和9年	—		
10	06	大宮神社石段	かつらぎ町広口	大正15年	—		
10	06	大宮神社花立	かつらぎ町広口	明治21年	—	施主 大阪堂島	
10	06	大宮神社石灯籠	かつらぎ町広口	明治22年	—	拝殿前右から2	
10	06	大宮神社花立	かつらぎ町広口	明治16年	—		
10	06	大宮神社狛犬	かつらぎ町広口	明治4年	—		
10	06	眠尾大威徳明王碑	かつらぎ町広口	明治11年	—	紀の川堤防治い	
10	06	丹生神社一の鳥居	かつらぎ町山崎	大正元年	—		
10	06	丹生神社石灯籠1・2	かつらぎ町山崎	明治27年	—		
10	06	丹生神社花立	かつらぎ町山崎	大正元年	—		
10	06	丹生神社狛犬	かつらぎ町山崎	大正元年	—		
10	06	丹生神社鳥居	かつらぎ町山崎	大正元年	—		
10	06	成善寺・西方寺鰐口	かつらぎ町山崎	明治31年	—		
10	06	成善寺・西方寺石灯籠	かつらぎ町山崎	大正2年	—		
10	06	栗師堂鰐口	かつらぎ町山崎	明治11年	—	三谷坂登り口	
10	06	雨引山善女竜王手水鉢	かつらぎ町山崎	明治11年	—		
10	06	八幡神社鳥居	かつらぎ町教良寺	大正6年	—		
10	06	八幡神社寄付記念碑	かつらぎ町教良寺	大正6年	—		
10	06	丹生酒殿神社社名標	かつらぎ町三谷	昭和11年	—	境内外。紀の川堤防治い。	
10	06	丹生酒殿神社社名標	かつらぎ町三谷	昭和3年	—	境内	
10	06	丹生酒殿神社献木記念碑	かつらぎ町三谷	昭和13年	—		
10	06	丹生酒殿神社鳥居	かつらぎ町三谷	明治25年	—		
10	06	丹生酒殿神社鳥居	かつらぎ町三谷	明治33年	—	拝殿前	
10	06	丹生酒殿神社狛犬	かつらぎ町三谷	昭和10年	—		
10	06	丹生酒殿神社石灯籠6・12	かつらぎ町三谷	明治3年	—		
10	06	丹生酒殿神社百度石	かつらぎ町三谷	明治35年	—	戦争犠牲者を祀る	
10	06	大師堂石灯籠	かつらぎ町三谷	明治26年	—		
10	06	鎌八幡宮跡石段	かつらぎ町兄井	大正14年	—		
10	06	弁財天社鳥居	かつらぎ町寺尾	昭和9年	—		

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	南蔵寺跡鎮守高野明神鳥居	かつらぎ町寺尾	昭和7年	—		
10	06	高野神社社名標	かつらぎ町平沼田	昭和16年	—		
10	06	高野神社鳥居	かつらぎ町平沼田	昭和16年	—		
10	06	高野神社石灯籠	かつらぎ町平沼田	明治24年	—	大正8年の社叢寄付の記録	
10	06	高野神社手水鉢	かつらぎ町平沼田	大正10年	—		
10	06	丹生神社鳥居	かつらぎ町宮本	昭和12年	—		
10	06	丹生神社手水鉢	かつらぎ町宮本	大正4年	—		
10	06	丹生神社狛犬	かつらぎ町宮本	大正4年	—		
10	06	弁財天社花立	かつらぎ町宮本	大正5年	—		
10	06	弁財天社顕彰碑	かつらぎ町宮本	昭和30年	—	大正8年の社叢寄付の記録	
10	06	蟻通神社狛犬	かつらぎ町東浜田	明治37年	—	本殿前	
10	06	蟻通神社石灯籠	かつらぎ町東浜田	昭和11年	—	拝殿後	
10	06	蟻通神社石灯籠	かつらぎ町東浜田	昭和11年	—	石段両側1	
10	06	蟻通神社石灯籠	かつらぎ町東浜田	明治36年	—	石段両側2	
10	06	釣鐘堂	かつらぎ町東浜田	昭和11年	—	蟻通神社の神宮寺 棟札に昭和11年銘 釣鐘は昭和31年	
10	06	現福寺一字一石塔	かつらぎ町東浜田	明治18年	—	棟札大正11年銘	
10	06	金刀比羅宮花立	かつらぎ町東浜田	明治10年代	—		
10	06	杣形大師花立	かつらぎ町東浜田	昭和13年	—		
10	06	千願不動明王台座	かつらぎ町東浜田	昭和12年	—		
10	06	鞍出淵小社（左側）	かつらぎ町東浜田	大正11年	—	棟札大正11年銘	
10	06	厳島神社鳥居	かつらぎ町島	明治24年	—		
10	06	厳島神社手水鉢	かつらぎ町島	明治45年	—		
10	06	厳島神社花立	かつらぎ町島	明治24年	—	円柱型	
10	06	厳島神社花立	かつらぎ町島	明治29年	—		
10	06	八王寺神社花立	かつらぎ町星川	昭和3年	—		
10	06	八王寺神社狛犬	かつらぎ町星川	大正5年	—	28水関係	
10	06	天満宮（薬師寺上）鳥居	かつらぎ町御所	昭和15年	—		
10	06	天満宮（個人宅上）鳥居	かつらぎ町御所	昭和15年	—		
10	06	薬師寺祠堂記念碑	かつらぎ町御所	明治44年	—		
10	06	三社明神社石灯籠	かつらぎ町日高	昭和2年	—	鳥居後	
10	06	三社明神社石灯籠	かつらぎ町日高	昭和17年	—	祠前	
10	06	三社明神社花立	かつらぎ町日高	明治38年	—		
10	06	丹生都比売神社手水鉢	かつらぎ町上天野	明治19年	—		
10	06	丹生都比売神社百度石	かつらぎ町上天野	大正4年	—		
10	06	丹生都比売神社コンクリート橋	かつらぎ町上天野	大正4年	—		
10	06	丹生都比売神社敷石30間寄進碑	かつらぎ町上天野	大正4年	—		

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	丹生都比売神社敷石40間寄進碑	かつらぎ町上天野	大正7年	—		
10	06	丹生都比売神社社名標	かつらぎ町上天野	昭和8年	—		
10	06	丹生都比売神社修理札	かつらぎ町上天野	明治21年	—		
10	06	丹生都比売神社修理札	かつらぎ町上天野	明治35年	—		
10	06	一沢神社跡石碑	かつらぎ町上天野	明治45年	—		
10	06	中沢神社跡石碑	かつらぎ町上天野	明治40年代か	—		
10	06	八幡神社社名標	かつらぎ町下天野	昭和3年	—		
10	06	八幡神社鳥居	かつらぎ町下天野	昭和10年	—		
10	06	八幡神社寄進碑	かつらぎ町下天野	昭和4年	—		
10	06	延命寺大威徳明王碑	かつらぎ町下天野	明治23年	—		
10	06	延命寺手水鉢	かつらぎ町下天野	明治27年	—		
10	06	善女竜王碑	かつらぎ町神田	明治44年	—		
10	06	丹生神社鳥居	かつらぎ町志賀	大正8年	—		
10	06	下司大明神花立	かつらぎ町志賀	昭和8年	—		
10	06	下司大明神手水鉢	かつらぎ町志賀	明治38年	—		
10	06	大日寺墓石	かつらぎ町志賀	慶應2年	—		
10	06	地蔵堂手水鉢	かつらぎ町志賀	明治36年	—		
10	06	下司塚供養碑	かつらぎ町志賀	昭和4年	—		
10	07	木村榮之句碑	かつらぎ町高田	昭和15年	—		

【有田市】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
01	04	白倉山 珪石（石英・水晶）	有田市宮原町畑	昭和10年頃～	—	昭和10年頃鉱山業者に売り渡され戦前戦後へかけて珪石（石英や水晶）の採取が20年程行われた。	7
03	06	東亜燃料工場	有田市中心島町浜	昭和14年	—	東亜燃料工業株式会社は昭和14年7月5日創立、昭和16年5月に操業を開始。終戦直前に空襲され、昭和25年再開。	3、7
03	06	トンネル（下津港岸壁～工場）	有田市中心島町浜	昭和16年	—	下津港岸壁と工場を結ぶトンネル。延長500m。昭和14年11月19日着工、昭和16年4月に完成。	3
03	06	原油タンク	有田市中心島町浜	昭和17年	—	昭和14年11月19日着工。日本最初の水封式で、建設上困難にあい、昭和17年9月第1基完成、残り4基は地上タンクに切り替えられた。	3
03	06	東燃専用貨物線	有田市中心島町浜（初島駅）	昭和11年	—	昭和11年1月15日、初島駅に東燃専用貨物線が設備され、製品の輸送を容易にした。	3
04	01	織工所	有田市中心島町	明治34年頃	—	明治34年頃より綿ネル製造を板村の西村政一郎、岡本市太郎等が始める。その後脇村四郎、峰本正治、井笹孫三郎等も織工所を開き製造を始めた。	3
04	01	メリヤス製造	有田市中心島	大正元年	—	大正初年、メリヤスの製造が始まった。これらの繊維工場は初島地区で発達した。	3
04	01	旧紀伊メリヤス会社	有田市箕島	大正8年	—	大正8年、箕島に紀伊メリヤス会社創立。	3

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
04	01	作業手袋	有田市	大正7年	—	大正7年岡田岩吉が始めたのが元祖。作業手袋は戦前「軍手」と呼ばれ、戦時中は軍需品として原料の配給を受けた。	3
04	01	旧坂本メリヤス工場	有田市箕島（大日本電線の工場）	大正10年頃	—	大正10年頃、箕島へ始めてできた工場らしいもので、今の大日本電線工場（現三菱電線工業）の所にできた。旧紀伊莫大小（メリヤス）紡績の塵突を中心としたレンガ遺構。	1、3
04	01	和歌山紡績株式会社箕島工場	有田市箕島（大日本電線の工場）	昭和2年？ 大正14？	—	坂本メリヤス工場跡地に建った近代工場。企業合同で大和紡績(株)に社名変更、大日電線（現三菱電線）箕島工場に譲渡、昭和17年閉鎖。現在、浜地商会の缶詰工場で残存。	3
04	08	除虫菊記念碑	有田市山田原（八王子公園）	昭和12年	—	明治19年に除虫菊を有田市山田原にはじめて植えた上山英一郎氏の功績を称え昭和12年5月建立。	6
04	08	上山英一郎翁の銅像	有田市千田（須佐神社前）	昭和17年	—	昭和17年3月建立。戦時中の物資不足でコンクリート製胸像だったが、現在は全身像で昭和60年に建てなおされた。	6
04	08	除虫菊製品製造家	有田市	明治23年～	—	除虫菊が初めての製品は粉末一種類のみで、これを「のみとり粉」と名付けて明治23年に売り出した。製造家は初期に大小5、6軒。	
04	08	除虫菊製品製造会社	有田市	大正	—	大正期に除虫菊生産が急増し、製造家は情勢に対応するため個人経営から相次いで株式会社に組織を改めた。	1
04	08	ブリキ缶工場	有田市	明治40年	—	ブリキ缶の製造は除虫菊関連工業として起こった。明治40年、川口造酒太郎が蚤取り粉容器や線香立の製造をしたのが始まり。	3
04	08	ブリキ缶工場	有田市	大正7年	—	除虫菊工業の発展とともに次第に需要が増大し、大正7年頃、江川米太郎、長尾亀松等が相次いで工場を建設した。	3
04	08	ドラム缶の製造	有田市		—	東亜燃料工業和歌山工場が当市に建設されてから、付随して起こった工業。	3
04	09	大日電線箕島工場	有田市箕島	昭和17年	—	昭和17年戦時下の企業統制で休業中の和歌山紡績の後身大和紡績和歌山工場を買収。戦時中は軍需工場指定、航空機用電線・通信・電気等軍需電線を製造。	3
05	01	紀勢西線箕島駅（JR紀勢本線）	有田市箕島	大正13年	—	当初は別ルートで箕島は経由しない計画だったが、箕島の人々の熱意で、大正13年2月20日箕島駅が開通。現JR紀勢本線。	3、7
05	01	紀勢西線紀伊宮原駅（JR紀勢本線）	有田市宮原町	大正14年	—	箕島を経由することで、宮原を通過しない恐れがあったので村を上げて猛運動をくりひろげ、大正14年12月11日紀伊宮原駅開通。現JR紀勢本線。	3、8
05	01	初島駅（JR紀勢本線）	有田市初島町	昭和13年	—	東燃工場設置事業進展につれて昭和13年12月15日開設。当初は線路を完成したのみで、事務室は東亜燃料設置のバラック建材料倉庫の一部を改造。	3、50
05	01	東燃専用貨物線（初島駅）	有田市初島町浜	昭和17年	—	昭和17年1月15日、初島駅に東燃専用貨物線が設備され、製品の輸送を容易にした。	3
05	01	初島駅 信号扱所	有田市初島町浜	昭和17年	—	昭和17年8月17日、初島駅の構内整備として信号扱所完成。	50
05	01	初島駅 乗降場	有田市初島町浜	昭和17年	—	昭和17年10月8日、初島駅の構内整備として乗降場100m延長工事完成。	50
05	01	初島駅 出改札室	有田市初島町浜	昭和18年	—	昭和18年8月18日、初島駅の構内整備として出改札室完成。	50
05	01	初島駅（初代）	有田市初島町浜	昭和19年	—	昭和19年3月28日、初島駅の本屋竣工。	50
05	01	初島駅（2代目）	有田市初島町浜	昭和24年	—	昭和20年7月28日、空襲で待合室・便所を除き全て灰燼に帰した後、昭和24年3月14日新駅舎竣工。	50
05	01	箕島駅～初島駅間のトンネル	有田市	昭和42年	—	昭和36年～昭和42年に箕島駅～初島駅間での複線化工事により線路が変更され、国道と立体交差になった。	3

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	02	新熊野街道（現国道42号線）	有田市	明治19年	—	明治19年12月、海南市を通り、初島から箕島安諦橋を渡って有田川南側を保田・糸我を径て吉備・湯浅町へと通ずる新熊野街道が開通。	3、50
05	02	田中文七の彰徳碑	有田市宮崎町矢櫃（矢櫃公民館横）	明治40年	—	明治40年9月建立。矢櫃浦への道路開発などに尽力した。	6
05	02	田中平三郎の頌徳碑	有田市宮崎町矢櫃（南龍神社内）	昭和11年	—	昭和11年5月建立。叔父田中文七に仕えた後、独立。共同電話架設、道路改修に尽力し、昭和9年室戸台風で大破した南龍神社造営に協力。	6
05	02	安諦橋南詰 地藏尊	有田市古江見（安諦橋南詰）	江戸	—	天保3年（1832）建立。碑の中央に南無地藏尊、右に「右八紀三井寺道」左に「左八ざい志よ道」の記入。	6
05	03	安諦橋（初代）	有田市箕島	明治18年	—	明治18年7月25日工事着工、11月13日に堅牢な大橋が完成した。11月15日架橋落成の祝賀式。明治20年有田川の増水で流失。	3、6
05	03	安諦橋（2代目）	有田市箕島	明治21年	—	前安諦橋が流出した翌年明治21年4月完成。安諦橋は県の二等道路に昇格していたので、再設は縣費で支弁されたが、明治22年8月19日の水害で再び流失。	6
05	03	安諦橋（3代目）	有田市箕島		—	最新の工夫をこらして架橋したが昭和9年室戸台風で120間流失。ただちに仮修繕を行ったが、翌10年に半分流失した。	6
05	03	安諦橋（4代目）	有田市箕島	昭和11年	—	昭和11年10月3日、旧安諦橋から東へ約1町寄った場所にゲルバート式鉄筋コンクリート橋梁が完成。昭和28年7・18水害時にも持ち耐えた。	6
05	03	安諦橋址碑	有田市箕島	昭和15年	—	安諦橋（初代）の架橋に成功した田中善左衛門の功績をたたえ昭和15年秋に建立。	6
05	03	田中翁の碑	有田市箕島	明治43年	—	明治43年、田中善左衛門をたたえて地元有志が箕島猿田彦神社境内に建立。	3、6
05	03	むかで橋	有田市宮原新町～糸我中番	大正13年	—	宮原新町から糸我中番に架設された。大正13年、1年間で13回、橋が流失したという。	3
05	03	むかで橋	有田市山田原	～明治	—	保田村には山田原と下中島に「むかで橋」と呼ばれるものしかなく、洪水などで橋が流れ落ちたときは臨時の渡舟という状態だった。	3
05	03	教育橋（保田大橋の前身）	有田市山田原～辻堂	明治39年	—	明治39年、山田原・辻堂間にやや安全な橋を架設した。長さ35間、巾6尺（63m、1.8m）。	3、6
05	03	保田大橋（7・18流失）	有田市山田原八王子の畔～辻堂	昭和7年	—	昭和7年5月15日、山田原八王子の畔から辻堂へ保田大橋を架設したが、昭和28年の7・18水害で流失。	3、6
05	03	宮原大橋（7・18流失）	有田市宮原～糸我	昭和7年	—	糸我村、宮原村両村長が中心に機運醸成をはかり、地元負担6対4で分担して工事を進め、昭和7年11月20日に渡初め式。	3、8
05	03	宮原大橋	有田市宮原～糸我	昭和34年	—	昭和28年7・18水害で中央一部橋桁が陥落し、修理していたが、その後少し位置を下流で工事を行い、昭和34年9月23日完工。	8
05	04	端祥洞（山地隧道）	有田市山地	明治34年	—	明治34年9月竣工。全長約400mのトンネルを山地から津井の浜に掘り抜いている。	6、7
05	04	端祥洞碑	有田市山地	明治34年	—	山地隧道の碑。明治34年建立。	6
05	04	逢井隧道	有田市宮崎町	昭和8年	—	昭和8年3月竣工。	
05	05	両荻藻埋立（工業用地造成事業）	有田市	昭和40年	—	県北部臨海工業地帯の一環でソト浜海岸を埋め立てて工業用地の造成、昭和37年12月起工、昭和40年3月完成。	3
05	06	日本通運会社の倉庫	有田市宮原町	大正？	—	出荷されたみかんの積出駅だった宮原駅前に建設された倉庫。	8

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	07	下津沖ノ島灯台	有田市初島町	昭和26年	—	昭和23年～海上警備と救難は下津海上保安署所管（海上保安庁第五管区海上保安本部（神戸）所属）、加太の田倉崎から宮崎ノ鼻までを和歌山下津港の区域とする。昭和26年設置。	3
05	07	紀伊宮崎ノ鼻灯台	有田市宮崎町	昭和41年	—	灯台や灯浮標を設置し海上の安全交通を図るため、昭和41年設置。	3
05	07	有田第二、第三灯浮標	有田市（地ノ島と初島海岸の間）	昭和39年	—	灯台や灯浮標を設置し海上の安全交通を図るため、昭和39年設置。	3
05	07	有田第一、第四灯浮標	有田市（地ノ島と初島海岸の間）	昭和42年	—	灯台や灯浮標を設置し海上の安全交通を図るため、昭和42年設置。	3
05	09	堤防、道路、橋の改修（高垣甚之助）	有田市宮原町道	大正7年	—	大字道の中央の谷川は交通不便、出水期水害の危険で、抜本的な堤防、道路、橋の改修の必要から高橋甚之助は大正6年多額の私財を寄附、大正7年4月工事完成。	8
05	09	高垣甚之助表徳碑	有田市宮原町大字道（宮原神社西）	昭和47年	—	大正年間に堤防や橋の改修に尽力した数々の遺徳を偲ぶ道地区民の手により昭和47年7月に表徳碑が建立された。	6、8
05	11	宮原郵便取扱所（宮原郵便局）	有田市宮原町新町	明治5年	—	明治5年7月1日通信業務を政府事業として開始、有田地方では湯浅と宮原に取扱所を置くことになり、宮原新町の三木弥兵衛宅に宮原郵便取扱所開設。	3、8
05	11	箕島郵便局	有田市箕島	明治8年	—	明治8年12月1日、箕島に開設する。	3
05	11	山田原郵便局（保田郵便局）	有田市山田原	大正8年	—	大正8年9月1日、保田村山田原に開設し山田原郵便局と称する。昭和33年局舎が保田村辻堂に移転し、保田郵便局と改称。	3
05	11	椒郵便局（初島郵便局）	有田市初島町	昭和17年	—	昭和17年1月16日椒郵便局（無集配郵便局）発足。昭和20年7月東燃爆撃の際被爆し局舎全壊。昭和21年9月新局舎完成。昭和28年3月15日初島郵便局と改称。	3、50
05	11	辰ヶ浜郵便局	有田市宮崎町	昭和18年	—	昭和18年3月1日、無集配局として発足する。昭和21年、電話通話事務を開始、昭和22年、電信事務を開始。	3
05	11	有田福島郵便局	有田市箕島	昭和38年	—	昭和38年4月16日、無集配局として発足。	3
05	11	逢井簡易郵便局	有田市宮崎町	昭和40年	—	昭和40年12月1日、無集配局として発足。	3
05	12	有田川農協の有線放送	有田市	昭和32年	—	昭和32年に開始したが、昭和36年の第二室戸台風によって大災害。その後、昭和38年から増設工事を行い39年に完成。	3
05	12	有田市農協有線放送保田交換所	有田市	昭和34年	—	放送開始は昭和34年、保田地区を対象とした。昭和39年、新堂・野・山地・古江見・宮崎町の一部が加入。	3
05	12	有田市農協初島有線放送	有田市	昭和34年	—	昭和34年に放送を開始。	3
05	12	村内放送設備（屋外拡声器）	有田市	昭和29年	—	警報の伝達や避難の指示用として計画、村内9カ所に屋外拡声器をたて、昭和29年村山村長の第一声で放送開始。	8
05	13	箕島電報電話局	有田市	昭和25年	—	昭和25年11月16日開設。昭和37年3月自動電話に改め、同時に糸我郵便局の下にあった電話電信業務を継承し、宮原に糸我機械室を置く。	3
07	01	新田開祖鎮之碑	有田市初島（初島幼稚園前）	昭和11年	—	椒新田元祖として新田開発に力を尽くした名倉右衛門の碑。昭和11年建立。	6
07	01	箕島町北部耕地整理碑	箕島（箕島神社）	大正5年	—	新堂、箕島、北湊の田は古くから灌漑に不便で、明治42年町民が相談り、耕地整地を決断し、明治44年着工、大正5年完成。	6
07	01	蜜柑方役所（会所）	有田市港町（北湊）	江戸～	—	江戸期（明暦以降）、江戸を中心に多量のみかんを出荷し、各村々に「組株」（出荷組織）が生まれ、これを組織立てたのが「蜜柑方」。	3

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	紀州有田柑橘同業組合	有田市箕島町大字北湊	明治38年?	—	明治38年8月「蜜柑方」に代わる機関として設立。	3
07	01	農会	有田市	明治32年～	—	明治32年6月公布の農会法により誕生。大正から特にみかんの販売、輪旋する施設、出荷団体組織の奨励と指導に当る。	3
07	01	産業組合	有田市	明治33年～	—	明治33年3月公布の産業組合法により設立、信用購買販売利用の事業を行う。販売に手をつけたのは昭和に入ってから。	3
07	01	農業会	有田市	昭和19年	—	明治時代末から柑橘同業組合・農会・産業組合がみかんの出荷と販売に貢献したが、戦争進行とともに農業団体統合が国策となり昭和19年全国一斉に発足。	3
07	01	柑橘協同組合	有田市	昭和24年	—	戦後の混乱の中、その機能を失った農業会を解散し、農業協同組合へ計画が進み、昭和24年設立。	3
07	01	和歌山県果実農業組合連合会	有田市	昭和26年	—	昭和26年に各地方に支部が設置され、有田地方にも有田支部が置かれ、協同組合と表裏一体の存在となった。	3
07	01	みかん畑の石積み	有田市	江戸～	—	山寄りの地域開発は慶長から元禄までの間であった。段々に石垣を築いて山腹の斜面を開く技法は、いつ誰が考案したか分らないが、慶長頃から有田では盛んに行われた。	3
07	01	段畑（みかん畑）	有田市	江戸～	—	宮原・保田辺の山腹傾斜地を開墾したのは、元和・寛永（1615～43）の頃と見られ、商品としてのみかんの大量生産はこの時期に始まると思われる。	3
07	01	モノラック架設	有田市山田原	昭和23年	—	滝川原の橋爪氏が昭和23年に静岡県より鉄工職人5人を呼び、明神山の傾斜畑へ架設。有田郡内で2番目の架設。	8
07	01	柑橘園共同灌漑施設完備	有田市千田東	昭和32年	—	昔から干ばつに弱い有田蜜柑の農場に昭和32年、全国初急傾斜地柑橘園スプリンクラー施設が完成。	4、8
07	01	県営柑橘園灌水施設	有田市宮原町	昭和41年	—	昭和39年宮原井、吉備井、糸我井、保田井の各土地改良区に湯浅や金屋町も交えて有田地方畑地灌漑促進協議会結成、県営事業で灌水工事が昭和41年7月起工。	8
07	01	円筒分水	有田市辻堂	昭和34年	—	農業用水などを一定の割合で分配するための利水施設。	
07	01	円筒分水	有田市古江見	昭和34年	—	農業用水などを一定の割合で分配するための利水施設。	
07	01	木箱の製造所	有田市	江戸末期	—	江戸時代末期に輸送上の必要から従来の竹籠から、木箱の製造が各所で盛んになる。木挽による人力での製造。	3
07	01	伊藤孫右衛門の碑	有田市糸我中番（有田公園）	大正4年	—	大正4年5月建立。肥後八代からみかんを持ち帰った伊藤孫右衛門翁没後300年、功績遺徳に報いるため有志で建設。	3
07	01	伊藤孫右衛門の碑の寄付者を刻んだ碑（二基）	有田市糸我中番（有田公園）	大正4年	—	伊藤孫右衛門翁碑の寄付者名を刻む。紀州有田柑橘同業組合を始め、全国各地の人名が読める。	6
07	01	石灯籠	有田市千田	元禄14年	—	元禄14年（1701）、辻堂村のみかん新組が須佐大社へ石灯籠を寄進した。	3
07	01	上田和隧道	有田市千田	天保13年	—	野村、山地、千田の水田の排水改良のため千田神社前の馬場頭の上田和から高田浜へ掘り海へ排水。長さ約310m。天保11年（1840）着工、13年貫通。	3、7
07	01	上田和隧道碑（白井久蔵の碑）	有田市千田	明治16年	—	上田和隧道の工事請負人白井久蔵の碑。彼の晩年、最も苦心した難工事で、翌年病を得て67才で千田にて没。	6、7

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	岩崎隧道	有田市宮原町	明治45年	—	堤防に並行して取水していた宮原井が水害時の決潰口となり、県土木技師村山氏の対策で隧道開削。明治44年12月着工、45年4月竣工。	
07	04	高平家倉庫	有田市	明治	—	箕島の福島郵便局前の道路は元運河で、それを利用して木材を高平家倉庫に引き入れて、木挽きが板を作っていたといわれる。	
07	04	製材工場	有田市	明治	—	木挽き賃の上昇と箱材への需要拡大から機械の製材が注目され、市内では明治34年堀業の合資会社箕島製材所が機械化の最初。職工は52人。	4
07	04	製材工場	有田市	明治40年	—	明治40年、駒谷氏が蒸気機関を整備した製材工場を起したのが最初とされる。	3
07	04	新川貯木場	有田市北港		—	河口に到着した筏は、有田川右岸や北港の新川貯木場に繫留された。	4
07	04	県営貯木場	有田市宮崎町	昭和10年	—	貯木場の収容面積が少なかったもので、昭和10年3月23日、和歌山、新宮に次ぐ県営の水面貯木場が辰ヶ浜に完成。	3、4
07	05	八角網（第1号網）	有田市宮崎町逢井	明治41年	—	明治41年太地町の八角網業者羽部隆之助が北港の山本弥太郎の招きに応じこの浦で現一号網の場所に網を張った。これが逢井八角網の起こり。	6、7
07	05	逢井八角網組合創立	有田市宮崎町逢井	大正	—	羽部隆之助が来て第一号網を張り、その後北港の中尾作右衛門、湯浅の安宅善兵衛に継がれ、大正9年には地元漁民を加えて「逢井八角網組合」創立。	3
07	05	八角網（第2号網）	有田市宮崎町逢井	大正11年	—	大正11年、箕島漁業組合経営の逢井八角網二号新設。	3
07	05	八角網（第3号網）	有田市宮崎町逢井	大正13年	—	大正13年、中尾作兵衛、八角網第三号を矢櫃沖に置く。	3
07	05	船揚場	有田市高田	明治30年	—	堀川審一郎は明治30年、浜近くの田を提供して船揚場を設け、捲き網と網船を購入し、捲き網による漁業を広めた。	3
07	05	漁業組合	有田市高田	明治32年～	—	堀川審一郎は明治32年漁民を説いて漁業組合を組織。この年に更にしほり網を購入、田浦は大変な賑わいを呈した。	3
07	05	八角網（高田浦）	有田市高田	明治41年	—	明治41年高田浦に定置八角網が設置。この前年逢井浦に八角網ができたので、堀川審一郎は見習って設けたのが始まり。	3
07	05	高田八角網組合	有田市高田	昭和30年	—		
07	05	羽部隆之助碑	有田市宮崎町逢井	大正13年	—	逢井の墓地内に大正13年に建立。北海道の定置網を太地でテストし、逢井へ導入。	6
07	05	中尾作右衛門之碑	有田市宮崎町逢井	昭和11年	—	逢井の墓地内に昭和11年建立。隆之助の権利を買い、土地の人を雇い、八角網を定着。	6
07	05	堀川審一郎頌徳碑	有田市千田（須佐神社前）	大正14年	—	高田浦の漁業は彼の努力に負うところまことに多く、大正14年、須佐神社の境内に堀川氏の頌徳碑が建設。	3、6
07	05	鮎供養塔	有田市星尾（鮎茶屋前）		—	有田川の鰯飼の鮎を供養する碑。	6
07	05	青海苔	有田市箕島（有田川河口）		—	有田川河口生産の青海苔は香り品質ともに良品で、古くから箕島青海苔として知られ『紀伊続風土記』にも箕島青海苔を名産として扱っている。	3
07	05	甘海苔養殖	有田市箕島（有田川河口）	昭和26年	—	昭和26年から有田川口のやや海辺に近い場所で甘海苔の養殖を始めた。青海苔の組合員田中善一によって創始。	3
07	05	矢櫃浦先祖の碑	有田市宮崎町矢櫃（墓地中）	昭和38年	—	藩主頼宣が元和年間に海路熊野に遊び帰路牟婁郡太田莊津賀浦の海人2組夫婦（茂兵衛、茂太夫、チヨメ、クマ）を連れ帰り、海老船、鮑船三隻ずつ与え諸役免除して矢櫃浦となす。昭和38年6月。	6
08	01	上水道ポンプ場	有田市新堂	昭和35年	—	水源地は新堂区の有田川右岸堰内地で、さく井を設け水中ポンプで取水。ポンプ場は給水井と平行に築造の111㎡鉄筋コンクリート造、昭和35年5月竣工。	3

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	01	上水道配水池	有田市新堂	昭和	—	配水池は新堂石津谷の標高50mの山中。鉄筋コンクリート造、内法長16m、幅24m、有効水深4mの長方形有蓋槽で床板上部に盛土し、芝を敷く。	3
08	01	宮原簡易水道	有田市宮原町	昭和30年	—	昭和30年2月事業開始。	3
08	01	糸我簡易水道	有田市糸我町	昭和30年	—	昭和30年5月事業開始。	3
08	01	下中島簡易水道	有田市下中島	昭和32年	—	昭和32年6月事業開始。	3
08	01	保田簡易水道	有田市	昭和32年	—	昭和32年7月事業開始。	3
08	01	須谷簡易水道	有田市宮原町須谷	昭和33年	—	昭和33年7月事業開始。	3
08	04	小磯温泉（冷泉）	有田市宮崎町矢櫃	昭和3年	—	矢櫃の観光開発に着眼した古川峰雄が昭和3年に温泉発掘。小磯温泉（冷泉）に道をつけ家を建てた。入浴者が増え、南海電鉄も着目して開発を進めるが昭和9年室戸台風で流失。	3
08	05	有田公園	有田市糸我町中番	大正6年	—	大正6年に整備。伊藤孫右衛門の顕彰碑や歌人林善六の句碑などがある。	3、6
08	05	工事記念碑	有田市糸我町中番（有田公園内）	大正か	—	工事実行委員として生駒利惣太、伊藤兼太郎、山崎實之助、児島正信、三木新四郎の名が刻まれている。	—
08	05	ウエノ公園	有田市宮崎町小豆島	昭和35年	—	昭和35年5月に市が則岡豊松の創建したものを譲り受けたもので、昭和42年7月に市立公園。	3、6
08	05	西有田県立自然公園	有田市矢櫃～広川流域	昭和31年	—	昭和31年11月に県立として指定された。	3
08	05	八王子公園	有田市山田原		—	1000㎡。	3
08	05	保田公園	有田市辻堂		—	360㎡。	3
08	06	仮設の隔離病舎	有田市箕島（赤岩）	明治37年	—	明治37年にも赤痢の大流行があり、罹病者百数十名を出したので、赤岩に仮設の隔離病床を急造。	3
08	06	隔離病舎	有田年初島町（椒村）	明治34年	—	明治34年11月にまず椒村に14坪余（46㎡）の隔離病舎を建設。	3
08	06	隔離病舎	有田市（保田村）	明治37年	—	明治37年に保田村に隔離病舎建設。	3
08	06	隔離病舎	有田市箕島（箕島村）	明治42年	—	明治42年4月に箕島町にも150坪余（495㎡）の隔離病舎建設。	3
08	06	初島病院	有田年初島町	昭和17年	—	昭和17年に東亜燃料工業株式会社工場に初島病院が開設。	3
08	06	国保箕島病院	有田市	昭和25年	—	昭和25年10月国保箕島病院（321坪）発足。昭和31年5月有田市立箕島病院に、翌32年8月有田市立病院に改称し、193の病床数を持つ。	3
08	07	老人ホーム長寿荘	有田市箕島	昭和32年	—	昭和32年8月、箕島に老人ホーム長寿荘が開所。	3
08	08	永楽座（箕島劇場（株））	有田市箕島（福島町内）	明治35年頃	—	明治35年頃から箕島の柳川政楠が興業界に入り、橋座、永楽座を経営した。	3、7
08	08	橋座	有田市	明治35年頃	—	明治35年頃から箕島の柳川政楠が興業界に入り、橋座、永楽座を経営した。	3
08	08	演劇場（則岡興業部）	有田市宮崎町小豆島（ウエノ公園）	昭和10年頃	—	千田の則岡豊松は昭和10年頃「則岡興業部」を創立し、映画、演劇で県下一円を巡業し、ウエノ公園に演劇場を建てた。	3
08	08	箕島映画劇場	有田市	昭和25年	—	昭和25年6月28日、箕島映画劇場開館。	3
08	09	有田郡水害記念碑（明治22年水害）	有田市糸我町中番（有田公園）	明治23年	—	明治22年の有田川水害記念碑。明治23年8月、県知事松本鼎撰文、有田郡長野田四郎書になる記念碑が建立。	8
08	09	水害記念碑（明治22年水害）	有田市糸我町中番（国道42号線と有田川の間）	明治25年	—	明治22年の有田川水害記念碑。明治25年に堤防の決壊した地点に建立。表面に碑文、裏面に「発起有田郡各宗有志」。	6
08	09	堤防改築記念碑	有田市星尾（鮎茶屋前）	明治	—	明治年間に建立された堤防改築記念碑。碑裏に石井竹枝の句「足らで足る身も足らぬ花七日」元保田村村長（嘉永3年生）。	6

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	宮原村供養塔（昭和28年7・18水害）	有田市宮原町新町（天神社北側の堤防の傍）	昭和29年	—	昭和28年7・18水害の殉難者129霊を弔い、復興の決意を表す宝篋印塔形の供養塔。昭和29年天神社境内に建立。昭和35年現在地移転。	8
08	09	須谷地区供養塔（昭和28年7・18水害）	有田市宮原町須谷（有田川堤防内側）	昭和56年	—	須谷自治会が昭和56年7月に建立した昭和28年7・18水害の供養塔。五輪塔の傍の平板石の碑の表面に殉難者32霊、裏面に碑文。	8
08	09	7・18水難者供養塔	有田市辻堂（稱名寺山門横）		—	昭和28年の7・18水害の供養塔。隣には地藏寺住職の佐原天山が制作した寿昌焼の水難観音が安置されていた。	
08	09	昭和28年7・18水害最高水位標	有田市宮原町須谷（天神社近くの道路）	昭和	—	昭和28年の7・18水害最高水位標。	8
08	09	昭和28年7・18水害最高水位標	有田市宮原町道（宮原神社鳥居前）	昭和29年	—	昭和28年の7・18水害最高水位標、29年7月18日建立。	6、8
08	09	昭和28年7・18水害最高水位標	有田市宮原町新町（宮原巡査駐在所前）	昭和29年	—	昭和28年の7・18水害最高水位標、29年7月18日建立。	6、8
08	09	昭和28年7・18水害最高水位標	有田市宮原町滝川原（浄念寺前）	昭和29年	—	昭和28年の7・18水害最高水位標、29年7月18日建立。	6、8
08	09	昭和28年7・18水害最高水位標	有田市宮原町東（字伏谷町道側）	昭和	—	徳本上人遺跡登山道案内標柱の裏面に明治22年8月19日、明治44年9月22日、昭和28年7月18日の大水害水位を示す。	8
08	09	昭和28年7・18水害最高水位標	有田市中島（地福寺境内）	昭和	—	昭和28年7・18水害の最高水位標。旧保田村（各字ごとに一基ずつ）。	6
08	09	昭和28年7・18水害最高水位標	有田市山田原（八王子公園）	昭和	—	昭和28年7・18水害の最高水位標。旧保田村（各字ごとに一基ずつ）。	6
08	09	昭和28年7・18水害最高水位標	有田市星尾（秋葉山麓登口）	昭和	—	昭和28年7・18水害の最高水位標。旧保田村（各字ごとに一基ずつ）。	6
08	09	昭和28年7・18水害最高水位標	有田市千田東（地藏寺境内）	昭和	—	昭和28年7・18水害の最高水位標。旧保田村（各字ごとに一基ずつ）。	6
08	09	昭和28年7・18水害最高水位標	有田市千田東（公民館分館敷地内）	昭和	—	昭和28年7・18水害の最高水位標。旧保田村（各字ごとに一基ずつ）。	6
08	09	昭和28年7・18水害最高水位標	有田市千田西（須佐神社石段登口玉垣内）	昭和	—	昭和28年7・18水害の最高水位標。旧保田村（各字ごとに一基ずつ）。	6
08	09	昭和28年7・18水害最高水位標	有田市辻堂	昭和	—	昭和28年7・18水害の最高水位標。	
08	09	昭和28年7・18水害保田復興記念碑	有田市辻堂（辻堂公園）	昭和47年	—	昭和28年7・18水害の復興記念碑。昭和47年8月31日除幕式。裏面に水害の様あり。	6
08	09	昭和28年7・18水害顕彰碑	有田市高田（高田峠）	昭和48年	—	昭和28年7・18水害の水害顕彰碑。昭和48年7月18日。碑文に水害の様あり。	6
08	09	昭和28年7・18水害供養塔（水害地藏さん）	有田市小豆島（市民病院前・西）	昭和35年	—	昭和28年7・18水害の供養塔。水害で亡くなった無縁の被災者の七周忌を祈念して昭和35年夏に建立。	6
08	09	引揚者住宅（64戸）	有田市港町	昭和22年	—	昭和22年。	3
08	09	災害公営住宅（4戸）	有田市古江見	昭和25年	—	昭和25年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3
08	09	災害公営住宅（50戸）	有田市箕島	昭和28年	—	昭和28年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	災害公営住宅 (130戸)	有田市保田	昭和28年	—	昭和28年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3
08	09	災害公営住宅 (150戸)	有田市宮原町	昭和28年	—	昭和28年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3
08	09	災害公営住宅 (6戸)	有田市糸我町	昭和28年	—	昭和28年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3
08	09	災害公営住宅 (20戸)	有田市箕島	昭和29年	—	昭和29年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3
08	09	災害公営住宅 (102戸)	有田市保田	昭和29年	—	昭和29年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3
08	09	災害公営住宅 (110戸)	有田市宮原	昭和29年	—	昭和29年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3
08	09	災害公営住宅 (20戸)	有田市古江見	昭和30年	—	昭和30年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3
08	09	災害公営住宅 (74戸)	有田市箕島	昭和36年	—	昭和36年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3
08	09	災害公営住宅 (31戸)	有田市保田	昭和36年	—	昭和36年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3
08	09	災害公営住宅 (4戸)	有田市宮原町	昭和36年	—	昭和36年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3
08	09	災害公営住宅 (3戸)	有田市糸我町	昭和36年	—	昭和36年、風水害などで住宅を失った被災者のため市営の低家賃住宅を設けた。	3
08	09	災害公営住宅	有田市	昭和37年	—	風水害の被災者のための公営住宅。昭和37年「有田市誌」1974年有田市PI1004	3
08	09	愛の園幼稚園 (災害地乳幼児の託児所)	有田市宮原町	昭和	—	昭和28年7・18水害後に開設された無料の災害地乳幼児の救援託児所。初島の教会牧師堀井氏が宮原駅北裏に園舎を建てて開設。	3、8
08	09	たろばな幼稚園 (災害地乳幼児の託児所)	有田市宮原町	昭和	—	昭和28年7・18水害後に開設された無料の災害地乳幼児の救援託児所。浄念寺前住職茂野氏が開設。	3、8
08	09	浄念寺本堂 (昭和28年7・18水害関係)	有田市宮原町	昭和	—	昭和28年水害後、本堂をたちばな保育園として使用。当時の浄念寺は流木山積み、本堂内も泥で埋まり託児所どころではなかった。	8
08	09	浄念寺の柏横 (昭和28年7・18水害関係)	有田市宮原町	昭和	—	昭和28年水害でこの柏横に流れ着いた人々を救い「浄念寺の人助け柏横」と呼ばれる。この柏横で水流が変わり本堂が流されなかった。	57
08	09	義人・望月太左衛門顕彰碑	有田市箕島 (市役所東隣)	昭和52年	—	寛永年間に新堂横堤を構築した望月太左衛門の顕彰碑。昭和52年建立。	6、7
08	09	望月太左衛門の碑 望月社跡地	有田市宮崎町小豆島 (中御堂)	昭和	—	万治元年有田川洪水で新堂の横堤が切れ、郡奉行望月太左衛門は藩から築堤を命じられた。7・18水害で破損せず。村民は労を称え対岸の中御堂に望月社を建てて祀る。	6、7
08	09	日根藤六之碑	有田市宮原町 (岩崎堤防の東端)	昭和29年	—	昭和29年建立。寛政2年有田川大洪水で堤防崩壊、郡奉行日根藤六は復旧に努め寛政5年竣工。農民たちが岩崎に日根本廟を建てたが明治41年田殿神社に合祀、現在は岩崎に顕彰碑建立。	4、6
08	09	児島新太夫碑 (七代目)	有田市糸我 (赤畑モーターズ南)	大正10年	—	大正10年建立。毎年の有田川の洪水から糸我村人を守る水門建設に治水基金提供したが許可を得られず計画実現の遺書を残して病没。	6

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	児島新太夫碑（八代目）	有田市糸我（糸我小学校校門右側）	昭和25年	—	昭和25年建立。先代の遺志で親子2代24年間の交渉、大正8年許可を得、翌9年竣工し、村民は水害を免れることとなった。	6
08	09	宮原井土地改良区災害復興碑	有田川町 日根碑の東側	昭和33年	—	宮原井土地改良区災害復興碑。昭和33年11月建立。	6
08	09	地方改善住宅（20戸）	有田市初島町	昭和37年	—	昭和37年。	3
08	09	浦役場	有田市北湊	明治10年	—	「上の岬（宮崎の鼻）は人を取り、下の岬（潮の岬）は舟をのむ」と言われ、宮崎ノ鼻は波が荒く難破船が多く浦役場が難破を被った。明治10年3月。	3
08	09	帝国水難救済和歌山支部箕島救難所	有田市宮崎町（辰ヶ浜青年会議所内）	大正11年	—	大正11年6月13日開所式。救護員約40名、救難船一隻で活躍し、昭和9年伏見宮から救難旗授与。同年室戸台風で救難船流出し、漁船機械化のため閉所。	3、56
08	09	碑	有田市宮崎町	明治42年	—	明治42年建立。海上安全の碑。「南無阿弥陀佛 三畏萬霊」、「為海上安全」。	
08	12	箕島火葬場	有田市箕島	大正7年	—	大正7年。葬儀所12。	3
08	12	墓地整理の記念碑	有田市	大正7年	—	大正7年。	3
09	04	国中翁徳旌表碑	有田市初島町（国主神社北・里）	大正6年	—	大正6年10月建立。地方政治や公共のことに尽くし、地の島払い下げにも尽力した。	6、50
09	04	久保太郎松君公德碑	有田市初島町	昭和15年	—	昭和15年4月建立。助役・村長として17年間、地島払い下げに尽力し激務のため45歳で逝去。	6、50
09	06	宮崎ノ鼻	有田市宮崎町	江戸～明治	—	海防のため遠見番所や狼煙場が設置された場所。海上西北200mの間には暗礁があり、昔から難破が多かった。	3
09	06	遠見番所（御番所）	有田市宮崎町（宮崎の鼻）船越から約300m西	江戸～明治	—	黒船を監視するため海岸線一帯の要所に設けられた。間口3間奥行3間簡素なもので、望遠鏡をそなえた。	3、4
09	06	番所跡近くの墓碑（8基）	有田市宮崎町（宮崎ノ鼻）	江戸～明治	—	番所創置の傍証を得るため、番所跡近くの墓碑を改めたが、8基のうち5基は宝永2年～明治18年銘。番所関係者の墓碑か。	3
09	06	狼煙場	有田市宮崎町（女ノ浦）	江戸～明治	—	「のろし山」山頂にある。紀州沿岸の狼煙場は狼煙を上げて和歌山へ伝えた（日高郡白崎→広川町名南風ノ鼻→宮崎ノ鼻→下津町大崎浦へ）。	3、7
09	06	箕島陣所	有田市箕島	江戸～明治	—	藩主吉宗が正徳5年浦組を強化。嘉永7年宮崎ノ鼻をロシア船が通過時、浦組が働き、安政3年増補。	3
09	06	北湊浦詰	有田市港町	江戸～明治	—	宮原組は主として箕島陣所、宮崎ノ鼻遠見番所、狼煙場、北湊・辰ヶ浜・高田浦の警備を行った。	3
09	06	龍（辰）ヶ浜詰	有田市宮崎町	江戸～明治	—	宮原組は主として箕島陣所、宮崎ノ鼻遠見番所、狼煙場、北湊・辰ヶ浜・高田浦の警備を行った。	3
09	06	高田浦詰	有田市千田	江戸～明治	—	宮原組は主として箕島陣所、宮崎ノ鼻遠見番所、狼煙場、北湊・辰ヶ浜・高田浦の警備を行った。	3
09	06	戦災者の碑（昭和20年東燃空襲）	有田市初島町	昭和44年	—	昭和44年建立。大橋正雄書、昭和20年7月東燃空襲の際、住民が焼死。	6
09	06	あ、特幹顕彰の碑（東燃関係）	有田市初島町	平成3年	—	中本重夫書、戦時中東燃の石油タンク防衛にあたっていた兵士の碑。	5、6
09	06	奉公碑（日清日露戦争）	有田市宮原町滝川原（水神社跡地）	明治44年	—	明治44年5月、日清日露戦争で戦没された英霊の功績を称え冥福を祈る為に建立。	5、8

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	霊安殿（西南戦争以降の英霊）	有田市宮原町滝川原（水神社跡地）	昭和	—	奉公碑の奥の社殿風のコンクリート造りの霊安殿。太平洋戦争後に建立、この中に西南戦争以降の宮原村関係の英霊193柱の霊位を祀る。	8
09	06	善国寺 萬国英霊供養塔	有田市宮原町（善国寺）		—	善国寺境内の墓地入口に建立。無刻銘。宮原町内一篤志家が自費建立。	8
09	06	岩室山 忠霊塔（大東亜戦争記念塔）	有田市	昭和18年	—	昭和18年岩室山上の天狗岩の西に建立。当初は大東亜戦争の戦勝を祈願。戦後は忠霊塔として観音像を祀り、日中戦争以来の宮原出身の戦没者を合祀。	6、8
09	06	本光寺 殉国碑？（お堂）	有田市新堂（本光寺）		—		5
09	06	須佐神社 殉国碑	有田市保田（須佐神社）		—		5
09	06	有田公園 忠魂碑	有田市糸我（有田公園）	大正9年	—	有田公園内に建つ。「忠魂碑 陸軍中將仁田原重行書」。	5
09	06	殉国碑	有田市野		—		5
09	06	忠魂碑	有田市山地		—		5
09	06	殉国碑	有田市男浦		—		5
09	06	安養寺 殉国碑	有田市古江見（安養寺）		—		5
09	06	蓮華寺 英霊塔	有田市宮崎（蓮華寺前辰ヶ浜霊園内）	昭和59年	—	「英霊塔」、「昭和59年3月」。	5
09	06	中御堂 殉国碑	有田市小豆島（中御堂、小豆島墓地内）	昭和27年	—	「殉国碑」、「昭和二十七年五月建之」。	5
09	06	箕島港東共同墓地 殉国碑	有田市港町（箕島港東共同墓地内）	昭和27年	—	大字箕島及び大字北港の内赤岩地区の殉国将兵の英霊を合祀。	5
09	06	矢櫃 殉国英霊塔	有田市矢櫃（矢櫃公民館西側）	昭和28年	—	表面「殉国英霊塔」、裏面「昭和二十八年四月建之 遺族会 矢櫃中」。	5
09	06	港町共同墓地 殉国碑	有田市港町（港町共同墓地内）	昭和28年？	—	表面「殉国碑」、裏面「箕島町長 中谷長太郎 建設委員長駒谷信一」。	5
09	06	初島支所 殉国之碑	有田市初島町（初島支所敷地内）	昭和	—	和歌山県知事小野真次書（紀年銘なし）。	5
09	06	ウエノ公園 顕彰碑・無縁塔・供養塔	有田市宮崎町（ウエノ公園）	昭和25年	—	昭和25年有田市の則岡豊松・ウエノ夫妻が無縁兵士遺骨を引き取り無縁寺建立。昭和32年供養塔、平成2年顕彰碑、平成9年則岡夫妻顕彰碑。	5
09	06	須佐神社 砲弾	有田市保田（須佐神社）		—	台座に「奉納 明治二十七八年日清交戦之際敵艦定遠ヨリ分捕之砲弾」。	
09	08	神武天皇即位紀元2600年記念塔	有田市宮原町（岩室城）	昭和15年	—	昭和15年に紀元2600年の記念事業として岩室城址二の丸跡に建立。	6、8
10	01	宮本官次先生之碑	有田市宮原町道（宮原神社境内）	明治30年	—	宮原八幡宮第29代宮司。安政3年（1856）～明治元年まで寺子屋を開き弟子を導いた。明治30年5月に門弟らが師の恩に感謝し建立。	6、8
10	01	初島地区小学校	有田市初島町	明治6年	—	初島地区では明治6年11月に椒浜を合わせて中村の光明寺内に小学校を開設。	3、50
10	01	椒小学校	有田市初島町	明治9年	—	明治9年に新築。	3
10	01	箕島小学校	有田市箕島（浄心寺の庫裡）	明治6年	—	箕島地区では明治6年4月、村全体を学区とした箕島小学校を浄往時の庫裡で開校し、7月には外舎を設けた。	3
10	01	箕島小学校新築	有田市箕島	明治8年	—	明治8年に新築。	3
10	01	北湊外舎	有田市港町北湊	明治6年	—	明治6年7月箕島小学校の外舎を設けた。各外舎は明治6年9月に「村落小学校」と改称、明治9年4月には「小学校」に改めた。	3

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	01	辰ヶ浜外舎	有田市宮崎町（辰ヶ浜）	明治6年	—	明治6年7月箕島小学校の外舎を設けた。各外舎は明治6年9月に「村落小学校」と改称、明治9年4月には「小学校」に改めた。	3
10	01	辰ヶ浜小学校新築	有田市宮崎町（辰ヶ浜）	明治6年	—	明治6年7月箕島小学校の外舎を設けた。各外舎は明治6年9月に「村落小学校」と改称、明治9年4月には「小学校」に改めた。	3
10	01	矢櫃外舎	有田市宮崎町（矢櫃）	明治6年	—	明治6年7月に箕島小学校の外舎を設けた。各外舎は明治6年9月に「村落小学校」と改称し、明治9年4月には「小学校」と更に改めた。「有田市誌」1974年有田市PI040	3
10	01	小豆島外舎	有田市宮崎町小豆島	明治6年	—	明治6年7月に箕島小学校の外舎を設けた。各外舎は明治6年9月に「村落小学校」と改称し、明治9年4月には「小学校」と更に改めた。「有田市誌」1974年有田市PI040	3
10	01	山田原外舎	有田市山田原	明治6年	—	明治6年7月に箕島小学校の外舎を設けた。各外舎は明治6年9月に「村落小学校」と改称し、明治9年4月には「小学校」と更に改めた。「有田市誌」1974年有田市PI040	3
10	01	野村外舎	有田市野	明治6年	—	明治6年7月に箕島小学校の外舎を設けた。各外舎は明治6年9月に「村落小学校」と改称し、明治9年4月には「小学校」と更に改めた。「有田市誌」1974年有田市PI040	3
10	01	宮原小学校	有田市宮原町	明治8年	—	宮原地区では明治8年1月、中筋の秋竹市右衛門宅に宮原小学校を設けた。のちに宮原町東の円満寺に移。	3
10	01	宮原小学校	有田市宮原町	昭和30年	—	鉄筋コンクリート造の校舎を建てるべく、村当局、教育委員らが奔走、昭和29年12月上棟、30年5月落成式。	8
10	01	滝川原小学校	有田市宮原町滝川原	明治9年	—	明治9年5月、滝川原小学校を設ける。	3
10	01	春日小学校	有田市下中島（光明寺）	明治9年	—	明治9年7月、下中島の光明寺に春日小学校を設ける。	3
10	01	道小学校（宮原小学校から分離）	有田市宮原町道	明治16年	—	明治16年4月には宮原小学校から道小学校が分離した。	3
10	01	峰立小学校	有田市宮原町畑	明治16年	—	明治16年4月、宮原町畑に峰立小学校が設けられた。	3
10	01	糸我地区小学校	有田市糸我町（西村延命寺）	明治6年	—	明治5年8月、西村の延命寺の堂宇を借用して開いたのを、明治6年に小学校とし、明治8年3月に得生寺の庫裡に移転。	3
10	01	糸我小学校新築	有田市糸我町	明治16年	—	明治16年に新築した。45坪。	3
10	01	宮原公民館	有田市宮原町	昭和36年	—	元宮原小学校の南校舎を借りていたが、新築工事中に有田町に合併し、諸般の事情から建設が遅れ、昭和36年7月に完工。	8
10	01	旧和歌山県立箕島商業学校武徳館	有田市箕島	昭和13年	—	箕島商業学校（現箕島高校）の武徳館として建設され、高校移転後に現有田市立箕島中学校武道場として引き継がれた。鉄筋コンクリート造。	2
10	01	愛郷学園子供の家（戦死・戦災者の遺児、農繁期の託児所）	有田月初島	昭和16年	—	昭和16年12月堀井治一郎らが社会事業法の「愛郷学園子供の家」設立、戦時中に保育所になり戦死・戦災者遺児を無料保育し、農繁期は託児所になった。	3、50
10	01	教育塔	有田市箕島（箕島小学校内）	昭和27年	—	鳥取県出身の辻晋堂が制作した高さ約150 c m（像部分）のセメント像。	36
10	03	妙貞禪尼之碣	有田市宮原町（宮原小学校庭）	明治9年	—	天保9年（1838）から38年間に250余人の子女に裁縫を教えた。明治9年に水神社境内に顕彰碣を建立、現在宮原小学校校庭に移築。	8
10	06	豊龍山無縁寺由来の碑	有田市宮崎町小豆島	昭和38年	—	昭和38年2月建立。厚生大臣感謝状受賞記念。	6
10	06	靖国三十三カ所御霊山	有田市宮原町東（円満寺）	昭和16年	—	先住職太田永明師（義隆）が皇紀による紀元2600年記念事業として計画し、昭和12年着工、4年後に完成。	3、8

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	天甫の接待所	有田市港町	江戸	—	江戸時代、巡礼者が多く有田地方の人が有田河口に便船を求め、発着港であった天甫の接待所は数十人が宿泊できた。これが開かれたのが天保10年頃。	6、7
10	06	天甫の接待所（現在の建物）	有田市港町	明治37年	—	現在の建物は、明治37年秋に講の人たちが合力して用地を購入したもので、昭和5年に修造。	6
10	06	大師堂（八畳の間新築）	有田市港町	明治43年	—	大勢の信者の協力により明治43年8月21日八畳間を新築、昭和5年6月21日大師堂を新築。	7
10	06	大師堂碑	有田市港町（大師堂境内）	明治37年	—	明治37年春建立。有田接待、無料輸送開始、桑原安松之碑。	6
10	06	接待開始100年記念碑	有田市港町（大師堂境内）	大正7年	—	大正7年建立。弘法大師けんきよ献供物品、接待開始100年記念碑。	6
10	06	宮崎真水翁頌徳碑	有田市港町（大師堂境内）	昭和35年	—	昭和35年1月建立。宮崎真水翁頌徳碑。	
10	06	接待浄業開始150年記念の碑	有田市港町（大師堂境内）	昭和42年	—	昭和42年建立。接待浄業開始150年記念。	6
10	07	長屋王霊蹟の碑	有田市新島町（東燃工場内）	大正3年	—	大正3年8月建立。表面「長屋王霊蹟之碑 倉田積書」、裏面「御かばねをうつめておきの島近み、はふりやこのはしかみの族」と発起人11名と青年会を二段に刻す。	6、50
10	07	徳本上人像（徳本上人連行遺跡）	有田市須谷字城山1007番地（岩室山城南の岩壁）	昭和34年	—	昭和34年佐原天山作の徳本上人像を祀る。嘉永3年上人33回忌に世話人建立の碑が後ろにある。岩室山頂には寛永9年建立の徳本上人練行自筆の碑。	8
10	07	島田氏旧趾誌の碑	有田市新島町（光明寺）	万延元年	—	万延元年（1860）年に建立。	6
10	07	豊沢円平の碑	有田市港町（摩尼院・赤岩観音）	明治41年	—	明治41年建立。	6
10	07	立川英諒の碑	有田市新島町（妙法寺・新堂石井谷）	明治10年	—	明治10年、徒弟中建立。	6
10	07	竹本伊達吉師碑	有田市古江見（安養寺）	昭和23年	—	昭和23年8月、伊達会建立。	6
10	07	季月翁の碑	有田市箕島（箕島猿田彦神社境内）	明治44年	—	明治44年建立。成川季月（華道）の碑、揮毫は米富弥三郎（元町長）、有叔と号す。安政2年～大正10年。	6
10	07	若野芦洲（乾之助）の碑	有田市宮崎町小豆島（淨妙寺）	明治35年	—	和歌山藩士で、津木村の八幡神社神職にして、箕島で華道と茶道を教えた。明治35年、門弟衆が建立。	3、6
10	07	落合先生之碑	有田市野（立神社内）	明治45年	—	明治45年1月建立。倉田積書。	6
10	07	閑像女神	有田市古江見（富山齒科前）		—	水の神。	6
10	07	四恩塔（四恩の鐘）	有田市宮原町東（円満寺）		—	御霊山の頂にある四恩塔に「四恩の鐘」を吊っている。天沼俊一博士の指導により京都の名匠高橋鐘声堂の制作。	3
10	07	熊野古道万葉の歌碑	有田市糸我（得生寺）	昭和47年	—	昭和47年に建立、平成20年に現在の場所に移動。	6
10	07	林善六の歌碑	有田市糸我中番（有田公園）	大正10年	—	詠進歌人・林善六の碑。大正10年建立。	6
10	07	明治天皇歌碑	有田市宮原町東（円満寺）	昭和15年	—	昭和15年、村山源一氏の筆で建立。	6、8
10	07	芭蕉の句碑	有田市箕島（箕島猿田彦神社下）	江戸	—	安政年間（1854～59）、「蓬萊にきかばや伊勢の初日より」。北湊の「蓬萊吟社」が建立。	6
10	07	山口誓子の句碑	有田市新島町（初島公民館）	昭和37年	—	市内にある山口誓子の句碑、3基の内の1基。昭和37年7月建立。「山窪は蜜柑の花の匂ひ壺」。	6
10	07	山口誓子の句碑	有田市新島町（善福寺境内）	昭和44年	—	昭和44年8月。「花蜜柑追風に香を吹きこめし」。	6
10	07	山口誓子の句碑	有田市港町（天甫間屋橋西側）	昭和50か55年？	—	昭和50？55？年6月建立。「沖合に香を張り出せる花蜜柑」。	6

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	07	橋爪我村の句碑	有田市港町（摩尼院・赤岩観音）	明治30年	—	明治30年2月建立。「魁の会日にひらく桜かな」。	6
10	07	「沖のくらしいのに白帆がみゆるあれは紀の国みかん船」の碑	有田市糸我中番（有田公園）		—	みかんに関する句が書かれている。	6
10	07	川口素雪の句碑	有田市宮原町滝川原（浄満寺境内）	明治元年	—	明治元年、村民が生前の功労を称えて、辞世の句碑を浄満寺の境内に建立。	6、8
10	07	井泉水の句碑	有田市宮原町東（円満寺）	昭和32年	—	昭和32年秋、円満寺前住職太田義隆氏が有田川奥地の自然石に刻んで建立。井泉水の直筆。	6、8
10	07	藤原橋里の句碑	有田市古江見（安養寺）	大正4年	—	大正4年9月建立。「山ざくら武士道ここに二千年」本名藤原立道（医師）。	6

【湯浅町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
04	01	旧湯浅製氷冷蔵	湯浅町湯浅	昭和7年	—	1階鉄筋コンクリート、2階木造。通りに面して作業場とレンガで間仕切った保冷库。2階には水を貯めるプール。現在は現存せず。	1
04	05	日本クエン酸製造工業発祥之地碑	湯浅町湯浅	昭和36年	—	特産蜜柑の早期落果による被害を機にみかんからクエン酸を採取する研究が進められ、大正3年工業的にクエン酸を量産。昭和36年建立。	
04	08	大仙堀	湯浅町湯浅	江戸～	—	材料を搬入し醤油を積み出した内港。「しょうゆ堀」とも呼ばれ、石積み護岸に醤油蔵が建ち並ぶ。大正に一部埋め立てられた。	
04	08	伝統的建造物群保存地区	湯浅町湯浅	江戸～	国伝建	16世紀頃から形成された町であり、近世から近代にかけて建築された町家や土蔵が建ち並ぶ醸造町。	
04	08	湯浅醤油株式会社跡	湯浅町湯浅	大正～昭和	—	大正11年に久保瀬七、赤桐善右衛門、玄後市良兵衛により、藩の保護がなくなり衰退しつつあった醤油業界をまとめるため設立。	
04	09	某レンガ倉庫	湯浅町湯浅		—	旧湯浅製氷冷蔵前にあるレンガ造の倉庫。当初、石油類の貯蔵用倉庫として建築。建物は木造。	1
05	01	有田鉄道 海岸駅跡	湯浅町湯浅	大正4年～昭和	—	大正4年開通、昭和19年廃線となる有田鉄道の駅舎。山田川河口に位置する、有田鉄道の終着地点。沿線で収獲されたみかんや木材を湯浅港まで運搬。	
05	01	有田鉄道 湯浅駅跡	湯浅町湯浅	大正4年～昭和	—	大正4年開通、昭和19年廃線となる有田鉄道の駅舎。沿線で収獲されたみかんや木材を湯浅港まで運搬。	
05	01	有田鉄道 吉川駅跡	湯浅町吉川	大正4年～昭和	—	大正4年開通、昭和19年廃線となる有田鉄道の駅舎。沿線で収獲されたみかんや木材を湯浅港まで運搬。	
05	01	有田鉄道 旧線路跡	湯浅町湯浅	大正4年～昭和	—	大正4年開通、金屋口駅から海岸駅までの有田鉄道の線路。沿線で収獲されたみかんを運搬。昭和19年に一部を残し廃線。	
05	01	紀伊湯浅駅（JR紀勢本線）	湯浅町湯浅	昭和2年	—	昭和2年開通（国鉄紀伊線）。第二次世界大戦以降、有田鉄道が乗り入れした。出荷専門の商人が利用。	1
05	02	道路元標（湯浅道町）	湯浅町湯浅		—	湯浅道町、熊野古道道標横に所在する道路元標。	
05	03	平野橋	湯浅町山田	昭和41年	—	昭和41年建設。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	03	天狗橋	湯浅町山田	昭和37年	—	昭和37年建設。以前は木造の橋がかかる。昔天狗が住んでいたという伝説が名前の由来。	
05	03	田村橋	湯浅町田	昭和43年	—	昭和43年建設。	
05	03	宮後橋	湯浅町湯浅	昭和45年	—	昭和45年建設。	
05	04	田坂隧道	湯浅町田	昭和7年	—	昭和7年建設、現在は通行止め。千田箕島街道の改修にあたり開墾された。	
05	05	憩いの松の碑	湯浅町湯浅	昭和41年	—	江戸時代より湯浅港に集荷された醤油やみかんを船へ積み込んだ場所に明治初めに松の木を20数本植えたことを記念し、昭和41年に建立された碑。	
06	03	久保日用品店	湯浅町湯浅	昭和10年頃	—	昭和19年より営む駄菓子屋。道町南の旧熊野街道の交差点に位置し、立町道標がある。木造2階建て。	2
06	03	万忠金物店	湯浅町湯浅	大正3年	—	旧熊野街道の道町に面した木造3階建。万忠は商号。戦前から鍋・釜・鋳物などを扱ってきた。	2
06	03	金谷伊兵衛商店	湯浅町湯浅	大正10年頃	—	大宮通りの江戸時代から続く老舗金物屋。木造2階建て。現在は現存せず。	2
06	06	旧湯浅信用金庫	湯浅町湯浅	昭和12年	—	旧湯浅信用金庫の前身湯浅信用組合は大正11年創業。昭和12年にRC造2階建を新築。昭和58年に住居として改築。	1
07	01	みかん畑の石積み	湯浅町栖原・田	江戸～	—	みかん栽培のため石を積み上げ段畑を形成。石積みにより効果の高い保温、排水を行う。明治以降は積み出しに湯浅港が使われ、有田鉄道などの交通網も発展。	
07	01	段畑（みかん畑）	湯浅町栖原・田	江戸～	—	山地に囲まれた地形を利用し斜面に段畑を形成し十分な日照量を確保し、みかん栽培を行った。明治以降は積み出しに湯浅港が使われ有田鉄道などの交通網も発展。	
07	01	田・栖原の農漁村の景観	湯浅町栖原・田	江戸～	—	山間部のみかん農業、浜での漁業により形成される景観。山間部には段畑が作られ、戦後は平地もみかん畑として利用。	
07	01	旧二歩口役所跡	湯浅町湯浅	明治～	—	湯浅中央漁業協同組合。石垣荘方面のみかんが集荷され、湯浅港から積み出された。	
07	01	紀伊国屋文左衛門之碑	湯浅町別所	昭和34年	—	昭和34年建立。江戸時代の豪商、紀伊国屋文左衛門の記念碑。当時高騰したみかんを嵐の中江戸まで運び、財をなした伝説がある。湯浅町別所生誕説あり。	
07	05	湯浅中央漁業協同組合倉庫	湯浅町湯浅		—	現在は現存せず。	1
08	04	旧布袋湯	湯浅町湯浅		—	建築年是不詳だが昭和28年修理後現在に至る。レンガ扉や浴室タイル等は当初のもの。現在は現存せず。	1
08	06	大谷耳鼻咽喉科	湯浅町湯浅		—		1
08	08	久保里	湯浅町湯浅	明治・大正	—	商工業地の湯浅に形成された花街の跡。国鉄紀伊線開通後は新地に花街が出現したため、久保里は著しく寂れた。	
08	09	大地震津波心得の記碑	湯浅町湯浅	安政3年	県史跡	安政3年（1856）深専寺門前に建立された石碑。安政地震と津波の被害、教訓を石碑に記した後世まで遺す。	
08	13	菊池海荘屋敷跡	湯浅町栖原	江戸～	—	漁業・商業を営んだ垣内家の分家（新家）初代垣内南斉の邸宅地で、菊池海荘が継いだ。現在は土塀と内部の遺構、祠、石碑が残る。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	13	菊池海莊碑	湯浅町栖原	昭和5年	—	昭和5年50回忌に施無畏寺に建立。江戸で商売し、大塩平八郎、海舟、象山らと親交。私財で失業者救済。剣槍修練させ、幕末に攘夷・海防を唱える。明治に有田郡民政局副知局事。	
08	13	施無畏寺墓地（菊池海莊関係）	湯浅町栖原		—	垣内家（菊池家）一族が葬られている施無畏寺境内の墓地。	
08	13	古碧楼跡（旧旅館広久）（菊池海莊関係）	湯浅町湯浅	江戸～	—	菊池海莊らが学者の集いである古碧吟社の拠点とした旅館広久（広屋旅館）。海莊は漢詩文家として優れ、郷土人や多くの人物を集め、紀南詩壇の興隆へ貢献。	
09	01	有田郡役所跡	湯浅町湯浅	明治	—	明治12年に有田郡役所設置、地方における中央集権制の体制を整えた。明治43年深専寺利生軒から新庁舎へ移り、大正12年郡制廃止と共に閉庁。	
09	06	満願寺 招魂碑	湯浅町湯浅（満願寺）	明治29年	—	明治29年、満願寺裏山山頂に建立。日清戦争戦没者を祀る。	
09	06	顯國神社 忠魂碑	湯浅町湯浅（顯國神社）	大正5年	—	大正5年、天神山に建立、昭和34年顯國神社に移転。日露戦争とそれ以降の戦没者を祀る。	
09	06	施無畏寺 忠魂碑	湯浅町栖原（施無畏寺）	大正4年	—	大正4年建立。田栖川村の英霊を祀る。	
10	01	旧湯浅尋常高等小学校講堂	湯浅町湯浅	昭和11年	国登録	湯浅小学校内。建築面積978㎡の鉄骨平屋造。戦後は湯浅町第2庁舎や有田地方事務所としても使用。	1
10	01	敬業社跡	湯浅町栖原	江戸～明治	—	極楽寺において石田冷雲が創設した私塾。はじめ就正塾、のちに敬業社と称する。耐久社と並び有田の二名塾とも言われた。	

【広川町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
04	01	旧内海紡績広工場（旧東紡績和歌山工場）	広川町広	大正13年	—	内海紡績は大正4年に海草郡内海村に設立され、第二工場を広に建設。昭和19年に日東紡績に統合。第1工場・第2工場・事務所・原綿倉庫・給水塔などがあった。	1
05	01	由良トンネル（JR紀勢本線）	広川町～由良町	昭和3年	—	紀伊由良～広川ビーチ間のコンクリート隧道。JR紀勢本線。	1
05	02	岩淵道路記念碑	広川町下津木	昭和	—	岩淵道路が開通したことを記念して当時の岩淵区民らが建てた記念碑。	
05	04	白木トンネル	広川町山本	昭和10年	—	昭和10年に開通した長さ約51m、高さ約4m、幅約3.7mのトンネル。	
05	04	旧瀧原洞	広川町下津木	昭和2年	—	昭和2年に開通したトンネル。谷口又吉氏から資金援助を受け建設された。	
05	04	谷口又吉記念碑	広川町下津木（旧瀧原洞入口）	昭和3年	—	広川町瀧原出身で旧津木村役場や旧瀧原洞建設資金を援助し、町発展に尽力した谷口又吉の功績を称え昭和3年建碑。平成22年谷口又吉翁顕徳碑移設実行委員会が旧瀧原洞に移設。	
07	01	大正池	広川町前田	大正	—	大正3年に広村ではじめて作られたため池。水面積2.5ヘクタール、水量32万㎡の大池。	
07	01	みかんの段々畑	広川町南広地区	江戸～	—	石垣積みで築き上げられた段々畑。山の斜面に石垣積みで段々畑が形成されみかん栽培が行われ、有田特有の景観が形成。	
07	01	開墾記念碑	広川町井関	昭和10年頃	—	昭和10年に建てられた石製の記念碑。広川町井関地区の畑の開墾を記念している。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	菅谷池増築記念碑	広川町	昭和10年	—	明治22年大水害で山林が崩壊し灌漑水不足となり、昭和8年から山本区長が発起人となり池の堤を改修、昭和10年完成。	76
07	05	旧戸田家住宅	広川町広	江戸～	国登録	江戸時代から「網屋」として製網業を営んだ戸田家の旧邸宅。新上五島町奈良尾近海へ出漁し、後に分家が移住し漁法を伝えた。	
07	05	養源寺堀	広川町広	江戸～	—	養源寺の海側に畠山氏によって築かれた堀。船の出入りや係留地、荷物積み下ろしなど流通の場として使われ、西国や関東沿岸への出漁の基点となる。	
06	03	旧浦清兵衛商店店舗	広川町広	明治	国登録	浦家がかつて営んでいた酒蔵の旧店舗。浦家は酒造業のほか、代々山林経営、肥料業、石灰製造業、海運業等を営んだ。	
06	05	浦家住宅	広川町広	江戸～	国登録	主屋、隠居屋、文庫蔵、前蔵・中蔵及び櫓蔵が登録文化財。主屋は質の高い近代和風建築で、現在は会社の事務所として使用。	
07	05	廣八幡宮手水鉢（漁民関係）	広川町上中野	江戸	—	銚子市外川に港を築いた崎山次郎右衛門が廣八幡宮に奉納した手水鉢。舞殿横にある手水鉢で「闊漱水（かんそうすい）」と書かれている。	
07	05	神興（漁民関係）	広川町上中野	江戸	町美工	江戸時代に広村から九州五島列島へ旅網と称して出漁していた漁業者仲間によって寄進された神輿。	
08	09	広村堤防	広川町広	安政5年	国史跡	安政5年に建設された堤防。濱口梧陵が私財を投げ打ち、村人たちが築堤（高さ3.4m、幅17m・長さ652m）。昭和南海大地震の津波から町を守った。	1
08	09	東濱口家住宅	広川町広	江戸～	国重文	江戸後期に6代目濱口吉右衛門（矩美）が建築。嘉永7年（安政元年）に大津波で本座敷が浸水し、痕跡が柱に残る。7代目吉右衛門（東江）は濱口梧陵とともに広村堤防築堤に貢献。	
08	09	溺死者供養碑	広川町広	江戸	—	嘉永5年（安政の津波の2年前）に津波で亡くなった村人を供養するための供養碑。広村堤防内に建立。	
08	09	感恩碑	広川町広	昭和8年	—	昭和8年広村堤防に建設。津波被害を防ごうと尽力した先人たちへの感謝と偉業を追憶する言葉を刻む。毎年11月5日の「津波祭」式典では感恩碑へ献花。	
08	09	岩崎家墓	広川町山本		—	濱口梧陵と耐久社のもとなる広村田町稽古場を開き、安政津波後、広村堤防築造を援助した岩崎明岳ら岩崎家の墓。	
08	09	古田家墓	広川町山本		—	古田吟処は安政津波の実況を書いた安政聞録の作者で、広村堤防築造を援助した古田吟処ら古田家の墓。	
08	09	防浪堤補修 防潮林補修記念碑	広川町広（広村堤防）	昭和11年	—	広村堤防の補修や防潮林の補修を記念して建立した石碑。	76
08	13	濱口梧陵記念館	広川町広	大正	—	濱口梧陵の西濱口邸を、梧陵の偉業や精神を広く発信するため顕彰館として整備。平成19年に「稲むらの火の館」内に開館。	
08	13	濱口梧陵銅像	広川町広	昭和42年	—	昭和42年に広川町立耐久中学校の校庭に濱口梧陵の偉業を讃え町民の寄付金などで建立された銅像。	
08	13	耐久社（濱口梧陵関係）	広川町広	明治3年	県史跡	耐久中学校敷地内の平屋建瓦葺建物（明治3年建築）。江戸末期に濱口梧陵、濱口東江、岩崎明岳が生まれ故郷の子弟教育のため広村田町に稽古場という剣術、漢学を教授した私塾。	1
08	13	濱口梧陵碑	広川町広（廣八幡宮）	明治26年	—	廣八幡宮の山手の一角に建立。勝海舟撰文。	76
09	06	津木村忠魂碑	広川町上津木（老賀八幡神社）	大正2年	—	世話人は軍人中・古垣内安兵衛・土井藤楠。	76

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	南広村忠魂碑	広川町上中野（法蔵寺）	大正4年	—	神尾將軍揮毫。	76
09	06	広村忠魂碑	広川町広（広村堤防）	明治39年	—	岩崎公健（明岳）揮毫。はじめ養源寺境内（当時の広小学校運動場）にあったものを広村堤防に移設。	76
09	06	教専寺忠魂碑	広川町広（教専寺）	昭和27年	—	教専寺に建つ。	
10	06	日本聖公会広基督教会	広川町広	大正	—	広にキリスト教を伝導した米国人JHロイドが本国アメリカへ帰り、寄付を集めてきて建てた教会堂。	
10	06	乙田天神社旧社地	広川町山本		—	乙田天神社の旧社地。明治に廣八幡宮に神社合祀されるまでは、県指定文化財の乙田の獅子舞が奉納されていた。旧社地には記念碑が残る。	
10	07	四代目濱口儀兵衛墓	広川町上中野	江戸	—	濱口家の四代目儀兵衛の墓。法蔵寺受陽軒に建てられている。	

【有田川町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
02	03	修理川水力発電施設（南海水力発電第一発電所）	有田川町修理川	明治43年	—	明治43年建設の南海水力電気株式会社第一発電所（出力は360kw）。水路トンネルなど石積みの構造物が残る。	1
02	03	川口水力発電施設（南海水力発電第二発電所）	有田川町川口（有田川河川内）	大正8年	—	大正8年に建設された南海水力電気株式会社第二発電所跡（出力は700kw）。放流口など石積みの構造物が残る。	
02	03	遠井水力発電施設（南海水力発電第四発電所）	有田川町遠井（有田川河川内）	昭和3年	—	南海水力電気株式会社第四発電所で、鮎関と呼ばれる遠井谷と有田川の合流地点。7・18水害と直後の台風13号で壊滅し、二川ダム建設工事に伴い石張りの堰堤も破壊。	
02	03	三田水力発電施設（南海水力発電第六発電所）	有田川町遠井（有田川河川内）	昭和4年	国景観	昭和4年建設の南海水力電気株式会社第六発電所で、あらぎ島西側に位置。石張りの重力式堰堤や取水口等が残り、発電施設として現在も機能。現関西電力。	1
02	04	二川ダム	有田川町二川・遠井	昭和42年	—	昭和28年7.18水害を契機に洪水調節と発電、工業用水の確保をかねて建設された多目的ダム。建設反対闘争などの波乱があったが昭和36年から6年で完成。	
02	04	二川ダム記念碑	有田川町二川	昭和42年	—	二川ダム竣工を記念してダム公園背後の高台に建立された。	
04	04	旧岩本醤油醸造元（カネイワ醤油）	有田川町小川	昭和6年	—		1
04	04	高垣酒造	有田川町小川	大正15年	国登録	天保11年創業。大正15年に現在地移転。木造平屋の主屋、土蔵造の仕込蔵・貯蔵庫。国登録文化財。	1、2
05	01	旧有田鉄道金屋口駅	有田川町徳田	大正5年	—	旧駅舎、当初の位置を保つ。昭和53年に改良されており、ホームにコンクリートで拡張した痕跡がある。	1
05	01	旧有田鉄道軌道	有田川町徳田	大正4年	—	金屋口駅舎関連。7.18水害以後の位置を保つ線路跡。鉄道公園内に動態保存されている車輛の線路として残る。公園外は「ぼっぼ道」として遊歩道化（町道）。	1
05	01	旧有田鉄道操車場	有田川町徳田	昭和	—	金屋口駅舎関連施設。7.18水害以後の操車場でSLが入庫している方が古いことを古写真で想定。電動ではなくチェーンブロッックであることも古い要素。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	旧有田鉄道御霊駅	有田川町庄	大正5年	—	大正5年開設の旧駅舎。駅舎自体は改修されたものと思われるが、当初の位置を保ち、砂岩石積みを残す。	
05	01	旧有田鉄道垣倉橋梁	有田川町垣倉・庄	大正5年	—	上路式プレートガーダー橋、両端はIビームガーダー橋。鉄鋼は八幡製鉄所製で○の中にSをデザインしたマークと400-1500の数字。旧橋梁、石積みの橋脚等も当時のまま。	1
05	01	旧有田鉄道烏尾川橋梁	有田川町下津野	昭和32年	—	下路式プレートガーダー橋。山形鋼は八幡製鉄、鉄板は川崎製鉄、リベットは富士製鉄が供給し、駒井鉄工所が昭和32年に製作した銘板。旧橋梁、橋梁下に旧橋脚の痕跡。	1
05	01	旧有田鉄道下津野駅	有田川町下津野	大正5年	—	大正5年開設の旧駅舎。駅舎の大半は解体され、廃線直前の駅舎支柱を残す。	
05	01	旧有田鉄道田殿口駅	有田川町上中島	大正4年	—	大正7年改築、昭和10年待合室新設の記録。かつて側線の一部が農協のホームに繋がりが、みかんの出荷で賑わった。現駅舎は当初の位置を保ち、砂岩石積みを残す。	
05	01	旧有田鉄道藤並駅	有田川町明王寺		—	現在は現存せず。	
05	01	旧有田鉄道天満川橋梁	有田川町天満	大正4年	—	昭和40年3月（株）北海鉄工所製作のプレートあり。	
05	01	旧有田鉄道車両	有田川町徳田	昭和	—	運行に使用された車両（キハ58003、ハイモ180-101）が鉄道公園内に動態保存。乗車体験も行われており、活用が図られている。	1
05	01	紀勢西線有田川鉄橋跡	有田川町上中島・有田市宮崎町（有田川河川内）	大正15年	—	紀勢西線は大正10年和歌山市から着工、大正15年に藤並駅まで開通。乗客増加で複線化計画、昭和42年解体撤去、やや上流側に付け替えられた。現在橋脚が残る。	
05	01	藤並駅（JR紀勢本線）	有田川町明王寺	昭和2年	—	建て替えられ、現在は現存せず。	1
05	02	井口の道標	有田川町井口	大正11年	—	大師山西麓にある。昭和天皇が皇太子時代に和歌山県に行啓された記念に建立された。	
05	02	頌徳碑	有田川町中野	昭和14年	—	参道改修記念碑。「上山義男氏 昭和十四年三月 村長 北山谿太書」の銘文あり。	
05	02	参宮道改修寄付碑	有田川町中野	昭和11年	—	「昭和十一年四月 金六百円 山田正隆氏」の銘文あり。	
05	02	林道改修記念碑	有田川町中井原	昭和3年	—	創作館の庭にあり。表面「本道改修記念碑」裏面「昭和三年五月 中井原区 上山宗十郎書」の銘文あり。	
05	02	吉田の道標	有田川町小川	明治16年	—	四国西国供養と高野、西が峯方面への案内を兼ねた道標。	
05	02	道路開通記念碑	有田川町上六川	昭和45年	—	表面は金屋町長沼田依延書。町道800mの完成記念の石碑で、背面には施工者、関係者の名が刻まれる。	
05	02	下井嘉雄翁頌徳碑	有田川町上六川	昭和45年	—	生石村村議会議員や村長など公職を歴任し、水害復興や道路整備改修に尽力した氏の偉功を讃え、村人有志が建立。	
05	02	青田の道標	有田川町青田	昭和4年	—	正面「左 生石登山口 生石神社五名道 五西月役場」右側面「右 青田道」左側面「昭和四年十一月三日」。	
05	02	道標記念碑	有田川町大西	昭和29年	—	県道三叉路の分岐にあり。庄田徳松85歳、とらの83歳の結婚60周年記念で建立。吉田橋・金屋駅・次の滝・箕島・大月峠・湯浅・生石山・清水への距離を示す。	
05	02	苔口の道標	有田川町宇井苔	大正13年	—	明治22年の車道改修に伴い石垣村長・区長・工事委員が発起人となって建立。日高、栗生方面の案内を示す。	
05	02	道路改修記念碑	有田川町宇井苔	昭和44年	—	裏面に「陸上自衛隊三三地区施設隊施工」他の銘あり。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	02	道標	有田川町三瀬川	昭和32年	—	三瀬川清水線の終点にある。石工の広井氏が石工として修業していた際に製作したもの。	
05	02	龍神街道の道標	有田川町遠井	明治35年	—	遠井辻を清水方面に600m下った地点の花崗岩製道標。施主は海南市阪井の間屋商人山本勝之助で、街道を介した当地方と海南との盛んな交流を示す。	
05	02	道標	有田川町押手	明治元年	—	上横谷から毛原へ超える「旧毛原道」の脇にあり、「右ハをしで やなせ 左ハふるむかい 道」と刻まれている。	
05	03	田殿橋	有田川町井口	大正15年	—	有田川で車馬が通行できる橋として清水橋、金屋橋、安諦橋に次いで大正15年に完成。昭和28年に鉄橋化、昭和28年7.18水害に被災するも流出せず、復興に大きな役割を果たす。	
05	03	平野橋	有田川町川口		—		1
05	03	伏洋橋	有田川町小川	昭和9年	—		1
05	03	川崎橋	有田川町市場～糸野	昭和12年	—		1
05	03	金屋橋	有田川町金屋	明治～	—	金徳橋とも呼ばれた交通の要衝地。むかで橋から明治21年に木橋完成、その後幾度となく洪水で流出、昭和15年に鉄橋化。古写真が多く残る。	
05	03	女夫石橋	有田川町歎喜寺	昭和初期	—	吉原区と歎喜寺区をつなぐ橋で、昭和初期の絵葉書に掲載。この付近は筏立という地名にも表れているように古くから筏を組んだり、筏師のいた場所であった。	
05	03	中戸橋	有田川町岩野川	昭和33年	—		1
05	03	丹生橋	有田川町丹生	昭和33年	—	むかで橋から昭和20年代に鉄橋化されたが、昭和28年7.18水害で流失。その後架け替えられ、昭和33年完工式が挙行。	
05	03	大田口橋	有田川町栗生	昭和32年	—	五村川に架かるコンクリート橋で、昭和32年2月完成、同年4月開通。大きな変更はなく、建設当初の姿をとどめる。施工は植木組。	
05	03	二川橋	有田川町二川	大正～	—	かつての二川橋は現在地よりもやや上流にあり、大正15年に丸木橋から有田川筋では初めてという鉄製の橋に架け替えられた。昭和28年7・18水害で流出。	
05	03	清水橋	有田川町清水	明治～	—	もとは現在地よりやや上流にあり、茶屋堂橋と呼ばれていた。明治44年の調べでは木橋となっており、大正末期には下湯川への道路改修に伴い昭和7年に鉄橋化。	
05	04	川口隧道	有田川町川口	明治	—	水力発電用水路。	1
05	11	旧田殿郵便局	有田川町井口	昭和16年	—	木造2階建。前面道路と同レベルの2階に出入口。昭和49年まで局舎として使用。	1
07	01	和歌山県農業試験場跡	有田川町大谷・井口	大正2年	—	大正2年有田郡農会が施設設置、翌年県に寄付。朝倉金彦を初代場長に迎える、科学的な栽培方法の普及が行われた。昭和36年に奥に移転。絵葉書等の古写真。	
07	01	蜜柑の段畑	有田川町田口・大谷・井口・賢・船坂・丹生他	明治～昭和	—	有田川北岸の蜜柑畑は江戸時代に開墾が始まり、明治後半から大正初期にはほぼ現在と変わらない段畑景観が形成されていることが古写真から分かる。	
07	01	能蔵下池	有田川町西ヶ峯		—		1
07	01	松垣内池	有田川町小川	明治20年	—		1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	笠松左太夫顕徳碑	有田川町清水	昭和2年	国景観	蘭島をはじめとした新田開発や用水路の建設、保田紙の振興等の功績を讃える碑。重要な文化的景観「蘭島及び三田・清水の農山村景観」の重要な構成要素。	
07	01	沼外記右衛門顕徳碑	有田川町沼	昭和41年	—	白山神社の馬場にあり。杖突時代の宝永年間に沼村内の大溝に分水規定を作って水争いを絶った偉業を讃える碑。	
07	03	小島耕地整理記念碑	有田川町小島	昭和18年	—	昭和13年からとりかかった耕地整理が昭和15年に完成した記念碑で、昭和18年3月の建立。	
07	03	矢熊池の修築碑	有田川町奥	昭和24年	—	昭和15年12月から約3か月半をかけて完成した改修工事の記念碑。碑文と書は広村安楽寺の浜口恵章の作。	
07	04	結城山人顕徳碑	有田川町楠本	大正15年	—	共有林の設置など地方開発に尽力した前嶋正房翁の功績を讃える碑。	
07	04	山下竹次郎顕彰碑	有田川町杉野原	昭和25年	—	長らく県有林の管理者であった山下竹次郎が、境界設定に際して区有林の設置に尽力した功績を讃える石碑。	
07	04	藤並村祖先の顕彰碑	有田川町天満（藤並公民館）	昭和38年	—	吉備町合併後の藤並小学校や公民館の建設にあたり、村有林の売却で巨額の負担を賄った。村有林を育てた明治以来の祖先の功績を讃えた碑。	
07	06	蚕霊碑	有田川町二川	明治23年	—	安楽寺境内にあり。二川村住人による建立。	
07	06	蚕霊碑	有田川町沼	昭和31年	—	白山神社馬場にあり。知事表彰を記念して養蚕組合により建立。昭和56年に現在地へ移設。	
08	09	小島の供養塔（昭和28年水害関係）	有田川町小島	昭和48年	—	昭和28年水害後8月18日に禅長寺住職が被害の大きい小島地区に木製供養塔建立。県道拡幅で昭和48年現在地に移転、右塔へ建て替えられた。小島耕地整理記念碑とともにあり。	77
08	09	宅地造成竣工記念碑及び水位標識（昭和28年水害関係）	有田川町長田	昭和31年	—	水害復興の宅地造成工事を記念して、昭和31年10月13日に長田地区西端の有田川堤防下に建立。水害被害の大きい長田地区に建つ。	77
08	09	復興記念碑（昭和28年水害関係）	有田川町尾中	昭和35年	—	有田川の堤防上、昭和28年7.18水害の復興を記念。裏面に被害状況、昭和35年5月完成、永久に記念するため建立と記す。有田川の堤防が決壊し、水害被害の大きい尾中地区に建つ。	77
08	09	出橋（昭和28年水害関係）	有田川町出（有田川河川内）	昭和30年頃	—	昭和28年7.18水害で流出した木製板橋の復興で建設。鋼コンクリート合床版橋。残存長10.21×幅2.55m。橋梁の復興実態を示す土木遺産。	1
08	09	徳田の供養塔（昭和28年水害関係）	有田川町徳田	昭和	—	昭和28年7.18水害の供養塔。金屋橋南詰東100mの地点に建立。「水害横死者之碑」。	77
08	09	金屋水害水位記録石標（昭和28年水害関係）	有田川町金屋	昭和	—	町道沿いの畑地にある水害到達点を後世に伝える水害関連碑。「昭和二十八年七月十八日水害水位」と水害到達点を線で刻む。高80×幅15×奥行9cm、水害到達点地上高40cm。	
08	09	神戸の庚申と地蔵（昭和28年水害関係）	有田川町吉原	昭和	—	昭和28年7.18水害で全体が流失したため、ほぼ同位置に再建。庚申塔、子安地蔵、流れ地蔵がある。	
08	09	岩森の川道地蔵（昭和28年水害関係）	有田川町吉原	昭和	—	昭和28年7.18水害で五輪塔が流失し、その後付近で発見された部材が元の場所に祀られた。その後、新たな地蔵が祀られている。	
08	09	森ヶ滝と北出の堺地蔵（昭和28年水害関係）	有田川町吉原	昭和	—	昭和28年7.18水害で五輪塔が流失、その後付近で発見された部材と付近に流れ着いた部材が元の場所に祀られた。	
08	09	北出八幡社（昭和28年水害関係）	有田川町吉原	昭和	—	明治に石垣尾神社に合祀、戦後に北出地区で悪行が続いて昭和28年7.18水害で1軒を除いて流失浸水被害に遭ったことから、かつての場所に八幡社が再建。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	女夫石の網場（昭和28年水害関係）	有田川町吉原・歓喜寺（有田川河川内）	昭和	—	洪水等の木材流出を防ぐため有田川流材防止組合が栗生に設置。大戦末期、強制伐採での流下材増加に伴い設備増強ため新設。昭和28年7.18水害で壊滅。現在コンクリート基礎残す。	
08	09	水害水位記録石標（昭和28年水害関係）	有田川町川口	昭和	—	祇園神社境内の水害水位記録。コンクリート製で「昭和二十八七八水害水位」と刻む。高63×幅12.5×奥行10cm。旧金屋地区で被害が大きい川口地区にある。	
08	09	水害救命の碑（昭和28年水害関係）	有田川町川口	昭和	—	昭和28年水害時に旧大師堂の老松樹上に避難した7名の生還を記録。弘法大師を薄肉彫り、下面に刻字。旧金屋地区で被害が大きい川口地区の浄音寺境内前にある。	
08	09	茶屋堂地蔵（昭和28年水害関係）	有田川町岩野河	安永7年	—	旧街道沿いにあり、旅人を接待した茶屋堂跡と伝わる。昭和28年7.18水害で森と堂が流失し、幸い地蔵は下手の川中で発見、現在地へ安置。水害の被災と信仰物の復興を示す。	
08	09	水害水位記録石標（昭和28年水害関係）	有田川町岩野河	昭和	—	川口と岩野河の境界にあり、立石地区への旧街道沿いの道標に接して建立。「昭和二十八七八水害水位」と刻む。水害到達点を後世に伝える水害関連碑。	
08	09	産王神社境内の役行者像（昭和28年水害関係）	有田川町宇井苔	昭和32年	—	天保9年建立の役行者像が昭和28年7.18水害で流失、昭和32年再建。その後の水害復興作業中に役行者像が発見、現在2体祀る。水害被害と信仰物の復興を示す。	
08	09	宇井の庚申塔（昭和28年水害関係）	有田川町宇井苔（観音寺境内）	昭和	—	昭和28年水害後に再建されたもの。花崗岩製、高44×幅17.5×奥行15cm。水害被害と信仰物の復興を示す。	
08	09	大洪水浸水地点標識（昭和28年水害関係）	有田郡有田川町清水	昭和41年	—	昭和28年7.18水害の水害到達点を後世に伝える水害関連碑。昭和41年に老人クラブの堀江信吉氏らによって建立。	
09	04	野田四郎の碑	有田川町下津野（有田川町役場吉備庁舎）	昭和11年	—	有田郡長として郡の発展に尽力し、慈父の如く慕われ、名郡長と称された野田四郎の功績を讃える碑。昭和11年建立。旧藤並公民館→藤並神社北→吉備庁舎に移設。	77
09	04	宮崎政之助頌徳碑	有田川町板尾	昭和35年	—	安諦中学校にあり。安諦村長、村議会議員、信用組合長、農会長等を歴任し、電信電話の導入、幹線道路の開設等を遂げた氏の偉業を讃える碑。	
09	06	藤並神社 藤並村忠魂碑	有田川町天満（藤並神社境内）	昭和27年	—	表面には「忠魂碑 吉田茂講書」、裏面には「昭和二十七年五月再建 藤並村遺家族援護会 石工 坂口末吉作」の銘文あり。	77
09	06	田殿丹生神社 田殿村忠魂碑	有田川町出（田殿丹生神社境内）	明治45年	—	鳥居前にあり、表面には「忠魂碑」、裏面には「明治四十五年一月建之 田殿村」の銘文あり。	77
09	06	御霊村忠魂碑	有田川町庄	大正7年	—	飯屋坂にあり、表面には「忠魂碑 木堂犬養毅書 御霊村」の銘文あり。	77
09	06	瀬井地蔵寺の忠魂碑	有田川町瀬井（地蔵寺境内）	明治37年	—	地蔵寺境内にあり。日露戦争関連碑。	
09	06	鳥屋城村忠魂碑	有田川町中井原（金屋中学校裏 鳥屋城山公園）	大正9年	—	鳥屋城村に郷軍人会が旧鳥屋城小学校に建立、戦後GHQの指示で天神山に移設。正面「元帥伯爵 東郷平八郎翁書」、裏面「大正元年建設 鳥屋城村」の銘文。	
09	06	堀畑栄吉氏慰霊碑	有田川町小川	明治39年	—	表面「陸軍歩兵一等率勲八等功士級堀畑栄吉」、裏面「明治三十九年丙午一月建之 戸主兄堀畑松太郎」。	
09	06	若宮八幡社 生石地区忠魂碑	有田川町下六川（若宮八幡社境内）	大正6年	—	若宮八幡社にあり、大正6年5月19日に生石村に郷軍人会によって建立された。	
09	06	五名生石神社 五西月城村忠魂碑	有田川町本堂（五名生石神社境内）	大正2年	—	五明生石神社馬場南西端にあり。大正初期、五西月村に郷軍人会が建立。日露戦争戦利品のロシアの艦砲が用いられている。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	観音寺 大東亜戦争戦没者慰霊塔	有田川町宇井苔 (観音寺境内)	昭和38年	—	観音寺境内にあり。	
09	06	三大神社 安謐村忠魂碑	有田川町板尾 (三大神社境内)	大正15年	—	三大神社境内にあり。正面「忠魂碑 元帥陸軍大将子爵川村景明書」。	
09	06	八幡神社 八幡村忠魂碑	有田川町清水 (八幡神社境内)	昭和8年	—	八幡神社境内にあり。正面「忠魂碑 陸軍大臣 荒木貞夫敬書」。	
09	06	城山神社 城山村忠魂碑	有田川町二川 (城山神社境内)	昭和14年	—	城山神社境内にあり。正面「忠魂碑 陸軍大将鈴木庄六書」。	
09	06	五郷神社 戦没者慰霊碑	有田川町中原 (五郷神社境内)	昭和39年	—	五郷神社境内にあり。五郷地区民一同による建立。	
09	06	吉祥寺 慰霊碑	有田川町粟生 (吉祥寺境内)	昭和24年	—	吉祥寺境内にあり。63名の氏名が刻まれている。	
09	06	城山神社 殉国碑	有田川町二川	昭和29年	—	城山神社参道脇にあり。二川遺族会による建立。	
09	06	ますらおの碑	有田川町日物川 (丹生大明神境内西隣)	昭和34年	—	西南の役以降、太平洋戦争までの戦没者23人の名が刻まれている。	
09	06	忠魂碑	有田川町境川 (西福寺境内)	昭和31年	—	日中戦争・太平洋戦争戦没者13人の名が刻まれている。	
09	06	楠本村忠魂碑	有田川町楠本 (生石神社社殿下道沿い)	大正8年	—	もとは八幡尋常小学校の楠本本校裏にあった丹生神社に建立されていたが、法福寺へと移築後、現在は生石神社へと移築。	
09	06	戊辰戦争戦死者供養碑	有田川町大蔵 (東福寺境内)	明治23年	—	東福寺境内にある。戊辰戦争、明治7年の佐賀の乱、同年の台湾出兵、西南戦争に際して大蔵地区から出征し戦死した人々の鎮魂碑。	
09	06	宮原村奉公碑	有田川町滝川原	明治44年	—	ふるさとの川総合公園内にある水神社境内に建つ。宮原村建立。裏に英霊殿 (昭和26年)。	
09	06	石垣村忠魂碑	有田川町吉原 (国道42号沿い)	昭和7年	—	小高い丘に建つ。三角錐形。表面「忠魂碑 陸軍大将鈴木庄六書」、「昭和七年十月建 有田郡石垣村」。ふもとに石垣地区戦没者慰霊碑。	
09	06	西光寺 殉国英霊之碑	有田川町沼田 (西光寺境内)	昭和52年	—	沼田区・沼田遺族会建立。西南戦争・日露戦争・第二次世界大戦の戦没者23名の慰霊。	
09	07	青田の記念碑	有田川町青田	昭和15年	—	正面「恩賜記念林」右「紀元二千六百年」左「高垣喜久子」。	
09	07	小西栄次郎殉職碑	有田川町二川	大正12年	—	城山神社参道脇にあり。強盗犯と格闘中にピストルで撃たれて殉職した小西巡査の石碑。	
09	07	小西栄次郎殉職碑	有田川町楠本	大正14年	—	当初は殉職地に建立されていたが、二川ダムの建設で水没することになったため昭和39年に現在地へ移転。	
09	08	大塔宮旧跡碑	有田川町二川	明治37年	—	護良親王ゆかりの伝承地の一つである安楽寺境内にあり、安楽寺壇徒による建立。	
09	08	紀元二千六百年記念碑	有田川町小川	昭和15年	—	白岩丹生神社境内にあり。紀元二千六百年事業として建立された記念碑。	
10	01	平松太一頌徳碑	有田川町下津野 (有田中央高等学校)	昭和44年	—	図書館入り口にある。吉備美業学校の設立に尽力し、県立学校となった後もその発展に尽くした多大な功績を讃える顕彰碑。	77
10	01	神保法道頌徳碑	有田川町中野	昭和3年	—	如意輪寺境内にあり。地方教化と小学校開設に尽力した神保法道の功績を讃え、昭和3年の法道還暦の年に弟子たちが建てた。	
10	01	早月小学校校庭寄進記念碑	有田川町尾上	昭和15年	—	「運動場拡張費 一金壹百円也」「庄田徳松 昭和十五年十月」の刻銘あり。	
10	01	有本志女松頌徳碑	有田川町上湯川	昭和3年	—	上湯川分校にあり。新校舎建設にあたり、土地の無償提供を行った氏の遺徳を讃える碑。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	01	長岡大融記念碑	有田川町沼	明治43年	—	明王寺境内にあり。同寺で寺子屋師匠として子弟の教育にあたり沼小学校創立後は教員となって教育に尽くした功績を讃える碑。	
10	02	朝倉金彦の頌徳碑	有田川町奥（県立農業試験場内）	昭和45年	—	有田郡農会技師兼園芸試験場長として26年間柑橘園芸に尽くし、和歌山県の柑橘界の恩人として近代の紀伊国屋文左衛門と讃えられた朝倉金彦の顕彰碑。	
10	02	小楨天文台	有田川町金屋	昭和	—	日本流星研究の開拓者の小楨孝二郎自宅2階屋上の天文台。昭和44年完成を目前に孝二郎は死去。20cm反射望遠鏡をはじめ人工衛星観測用の望遠鏡4台等を設置。	
10	04	源氏物語辞典発願記念のナギの木及び石碑	有田川町市場、小川	昭和7年	—	日本で初めて「源氏物語辞典」を編纂した北山谿太が編纂の志を新たにし、自宅・白岩丹生神社・到岸寺の3か所にナギを植え、自宅・白岩丹生神社に石碑建立。	
10	04	北山谿太氏の碑	有田川町市場	昭和	—	市場稲荷神社上の北山家墓地にあり。	
10	06	金刀毘羅・生石神社跡	有田川町楠本	明治22年	—	法華堂跡にある。合祀に伴い遥拝所と定め、旧跡であることを示す石碑が建立。	
10	07	岩室城趾の碑	有田川町田口	昭和15年	—	岩室山上にあり、コンクリート製角柱。表面「史蹟岩室城跡」、裏面「紀元二六〇〇年奉讃記念建之 村山広幸書 塔内納一巻」。	77
10	07	竹本水鳥太夫の碑	有田川町中井原	昭和2年	—	明徳寺の墓地前にあり。本名は出水熊之助、家業の傍ら浄瑠璃の稽古を重ね、界隈では並びない語り手となる。石碑は昭和2年に門弟や同好者の有志が建立。	
10	07	七肘合戦旧跡碑	有田川町清水	昭和	—	清水城主保田三助友宗が家臣の反乱にあい、三友側は湯川氏に援助を求め、家臣側は高野山に支援を求めて岡軍が七肘山で激突。岡軍の戦死者供養に建立。	
10	07	平野家旧跡碑	有田川町杉野原	大正11年	—	河津の瀧の伝説が残る平野家の旧跡を示す石碑。前方に河津瀧跡が望める。	

【御坊市】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
04	01	旧日の出紡織工場（本社工場）	御坊市名屋	大正2年	—	御坊で最初の近代的工場で大正2年操業。御坊の産業革命の先がけ。大正末に従業員2,000人を越す。旧工場の赤レンガ塀・倉庫が残る。	1
04	01	前田種五郎翁の碑	御坊市湯川町財部	大正13年	—	日高郡会議員、紀陽織布重役。紀陽織布株式会社社長建立。元好浄寺にあり廃寺の際に移転。	23
04	04	岸野酒造	御坊市御坊	大正8年	—	江戸時代からの酒屋。日高別院へとつながる東町通りに面する木造2階（中西重裕「わかやまワクワク探検隊」2002年和歌山新報社）。	20
04	04	伊勢屋（酒蔵）	御坊市菌	明治～昭和	国登録	大規模な酒蔵の遺構として貴重（ごぼうに残る近代建築③広報ごぼう平成19年5月号）。	2、20
05	01	西御坊駅（旧御坊臨港鉄道）	御坊市菌	昭和7年	—	鉄道の駅舎。昭和7年頃の完成で、平成元年に一部改造が加えられているが、開業当時の佇まい。現紀州鉄道。	1
05	01	日の出紡織（大和紡績）引込み線跡等（廃線）	御坊市菌、名屋	昭和11年	—	昭和11年完成。平成元年に西御坊―日高川間が廃止されたが、廃線後の線路が残されている。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	道成寺駅（JR紀勢本線）	御坊市藤田町藤井	昭和5年	—	昭和5年完成。駅舎85.6㎡。現JR紀勢本線。	1
05	01	湯川第4橋梁（旧御坊臨港鉄道）	御坊市湯川町財部	昭和6年	—	鉄道の橋。昭和6年完成。Iビームガーター橋。旧御坊臨港鉄道は昭和6年御坊～紀伊御坊間開業。現紀州鉄道。	1
05	02	巡礼村送りの碑	御坊市藤田町吉田	慶応？	—	「熊本ノ巡礼親子四人 慶応三年卯七月十四日父 明神森ニテ死ス 母十五日死ス 小供二人姉八才弟四才ねぎ久内 〇〇〇八月十五日村送ニテ国へ返ス」。自然石砂岩。	21、23
05	02	道路改修記念碑	御坊市北熊野（県道御坊姉子線・熊野神社参道分岐）	明治？	—	正面に道路改修を喜ぶ短歌を刻み、裏面に「河南龍神往来 明治四十二年改修 村熊野神社参道」。	23
05	02	津井切の道標	御坊市藤田町吉田（津井切一の橋南詰）	大正6年	—	正面「左 道成寺」、各面「大正六年秋建立」、「津井切区」。大正期の道標は珍しい。	23
05	02	旧藤田村の道路元標	御坊市藤田町藤井（専念寺前十字路）		—	正面「藤田村道路元標」。紀年銘なし。花崗岩製。	23
05	03	天田橋（現国道42号線）	御坊市塩屋町、名屋	昭和30年	—	天田橋は日高川河口に架橋。明治9年架橋後、流失が何回か繰り返し昭和30年12月9日現在の天田橋完成。	1
05	03	野口橋竣工記念碑	御坊市野口（野口橋下）	昭和39年	—	野口橋は昭和27年完成、28年大水害で流失、33年復興、36年第二室戸台風で流失、39年竣工。野口橋の碑の横に建つ。	23
05	03	東新蘭橋の橋標	御坊市蘭（南新町）		—	花崗岩製の橋標。「東新蘭橋」と刻む。	23
05	03	善妙寺橋の橋標	御坊市島		—	花崗岩製の橋標。「善妙寺橋」と刻む。花崗岩製？	23
05	04	鹿ヶ瀬隧道記念碑	御坊市野口（安楽寺）	大正14年	—	表面「佐藤為吉君碑」、右側面「大正十四年四月建之」、左側面「日高有田 土木請負業者」、裏面「昭和三年七月建之」。花崗岩製。	21
05	03	西川浚渫記念碑	御坊市 西川	昭和3年	—	荷揚場であった河口を浚渫した記念。「西川浚渫記念碑 日高川海運業組合長田端昌平謹書」。	23
05	11	旧藤井郵便局	御坊市藤田町藤井	昭和3年	—	木造平屋建。昭和3年建築、昭和39年まで特定郵便局として使用（ごぼうに残る近代建築③広報ごぼう平成18年7月号）。	1
05	11	橋本米穀集荷事務所（旧小松原郵便局）	御坊市湯川町小松原	大正9年頃	国登録	豪商の米穀集荷事務所として建築、戦後は郵便局として使用（ごぼうに残る近代建築①広報ごぼう平成18年5月号）。	1
05	11	旧塩屋郵便局	御坊市南塩屋	大正期	—	木造平屋建。大正期～昭和55年まで郵便局業務。外部下見板貼り塗装仕上げ。現在は現存せず。	1
06	03	中松金物店の陳列台	御坊市御坊	大正～	—	民家（商店）地下に残る防空壕と同じ場所（所在調査票 №2 1/5）。	1
06	03	ウエノヤマの陳列台	御坊市御坊	昭和13年	—	風呂神具店。木造総二階造り。一階が作業場と店舗で全面が開口部、左端にショウウインドウ。	1、39
06	03	有田屋の陳列台	御坊市御坊	大正	—	和菓子を製造する昔ながらのお店で、ショウウインドウに季節を感じるディスプレイ。	1、39
06	03	旧正宗屋酒店	御坊市島	昭和3年	—	鉄筋コンクリート造2階建。玄関庇上部に御影石をはめ込み「正宗屋酒店」と刻む。	1
06	03	津村パン店	御坊市御坊	昭和4年	—	現在は現存せず。	1
06	03	沢見邸	御坊市蘭	大正12年	—	レンガのかまどが残る（ごぼうに残る近代建築③広報ごぼう平成19年5月号年）。	1
07	01	灌漑用水路跡（鈴木立庵築造）	御坊市熊野、岩内	明治～	—	御坊の偉人第6代目鈴木立庵築造の2000mに及ぶ灌漑用水路、導水トンネル等。近代の産業（農業）の開発に貢献。	19

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	東郷掛樋の碑	御坊市藤田町藤井（東郷）	昭和36年	—	日高平野の灌漑用水の水門改修記念。「昭和卅六年改築 東郷掛樋」、「施工者 稲葉岩太郎」。	23
07	01	甘藷の新品種を広めた中西次郎助の碑	御坊市名田町楠井（楠井会館前）	大正2年	—	明治時代、収穫量・甘味・耐寒性に優れた甘藷の新品種を農家に奨め、収益を増加させた中西翁の記念碑。「元氣藷 播種者 中西翁之碑」。	19、23
07	01	新池の開発柏木浅右衛門の墓	御坊市湯川町富安（円福寺境内）	明治40年	—	天保8年に私財で農業用の東谷新池開発に着手した柏木浅右衛門を偲ぶために建立した墓。	21、23
07	01	新池の開発柏木浅右衛門の墓	御坊市湯川町富安（東谷新池の堤）	天保9年？	—	天保9年に没した東谷新池の堤に建つ石製の樋を転用した浅右衛門の墓。「新池発願人荊木村浅右衛門墓」。	23
07	01	農業の近代化・畑地灌漑竣工記念の碑	御坊市塩屋町南塩屋（揚水場）	昭和41年	—	昭和37年着工、昭和41年竣工。日高川から名田地区まで延長約11,763mの水路を持つ灌漑事業。生産力は大きく向上。小野県知事題字「慈雨青々」。	23
07	01	西風弥三郎翁彰徳碑	御坊市名田町野島	昭和42年	—	カナダ移住後、母校に多額の寄付。祓井戸農産物集出荷場建設工事にも巨額の寄付。	23
07	04	旧中川家住宅	御坊市御坊	昭和12年	国登録	林業で財をなした昭和初期の邸宅の佇まい（ごぼうに残る近代建築⑩広報ごぼう平成19年3月号）。	2、39
07	05	漁場争いで敗れて自決した高野忠右衛門の碑	御坊市塩屋町北塩屋（円満寺境内）	明治43年	—	明治41年、塩屋村と浜ノ瀬間で漁場の境界争いで敗訴し、その経緯を講演中、自決した塩屋浦漁業組合長。碑は地元有志が建立。	21、23
07	05	北塩屋濁り池の墓	御坊市塩屋町北塩屋濁り池山中	明治10年	—	サンマを積んで大阪へ向かう途中、日高川河口でコレラにより亡くなった串本町樫野崎の岩谷伝蔵の墓。	23
05	02	北塩屋の漁場標示石	御坊市塩屋町北塩屋	明治42年	—	花崗岩製角柱に「従本標至基点第参号 方位貳百貳拾参度参拾分 距離九拾参間」、「明治四拾貳年四月村立」。	23
05	02	塩屋の漁場標示石	御坊市塩屋町北塩屋（天田）	明治42年	—	花崗岩製角柱に「従本標至基点第貳號 方位二百七拾度距離四百五拾七間」、「塩屋浦漁業組合長」。	23
07	08	畜霊塔	御坊市塩屋町北塩屋(天田)～岩内の道沿い	昭和25年	—	正面「畜霊塔」、側面「昭和二十五年二月 中田正吉 橋本松太郎 中田三五郎建立」。	23
08	06	旧塩路医院	御坊市藤田町藤井	明治25年頃	—	明治25年頃建築。日高川の堤に近い場所の本邸や書斎が流出後、現在地に主屋建築、後に明治25年頃に診察室が建てられた。	1
08	06	御坊の偉人羽山家の跡地	御坊市塩屋町北塩屋	明治	—	近代の偉人羽山維碩（大学）は、華岡青洲の門に学び、医業、製菓業を営み、天然痘予防接種をいち早く取入れた。羽山家の屋敷跡。現在には医院に納まっている。	19、22
08	06	御坊の偉人羽山家の墓、羽山兄弟の墓碑	御坊市塩屋町北塩屋（塩屋区共同墓地）	明治～大正	—	羽山維碩（大学）等の墓、羽山直記の跡を継いだ4男芳樹が兄弟達の墓碑。碑文の撰文は2男蕃次郎の親友蘭田宗恵龍谷勸学。	19、22
08	06	御坊の偉人鈴木立庵の家	御坊市岩内	江戸～	—	海南市の鈴木家と同系統の鈴木家屋敷（主屋・長屋門・病棟等）が現存。医業の資料（人体模型、薬研、らいびょうの広告ちらし・版木等）が残る。	19
08	08	白浜開発の父（小竹岩楠）の銅像	御坊市御坊	明治～大正	—	生家に小竹岩楠の銅像。岩楠は日高電灯(株)設立、日高川水力電気(株)設立、白浜温泉開発、白浜温泉自動車(株)設立。	19
08	09	村田美成の碑（明治22年大水害）	御坊市菌（浄国寺墓地）	明治27年	—	明治22年8月の水害による日高郡書記村田美成の殉職の碑。	23
08	09	茶免の水害の碑（昭和28年大水害）	御坊市菌（地藏堂境内）	昭和29年	—	昭和28年7月18日に発生した水害の碑。清水長一郎撰文。建立当時の御坊市長題書。井上豊太郎文字。	23

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	野口橋の碑（昭和28年大水害）	御坊市野口（野口橋下）	昭和33年	—	昭和28年7月18日の水害により流失した橋の復興（昭和33年竣工）の記念碑。野口橋竣工記念碑の横に建つ。	23
08	09	水位標（昭和28年大水害）	御坊市藺（市議会棟前）	昭和33年	—	昭和28年7月18日に発生した水害に係る水位標（場所は移動。）。	23
08	09	7・18水害慰霊塔（昭和28年大水害）	御坊市野口（安楽寺境内）	昭和28年	—	安楽寺の境内にある昭和28年7月18日の水害で亡くなった35名の慰霊塔。	21
08	09	7・18水害慰霊塔（昭和28年大水害）	御坊市藺（源行寺境内）	昭和	—	源行寺の境内にある昭和28年7月18日の水害で亡くなったの方の慰霊塔。御坊町水没死者28名の氏名。和歌山県知事小野真次書。	23
08	09	藤井の耕地復旧記念碑（昭和28年大水害）	御坊市藤田町吉田（県道・御坊美山線沿い）	昭和37年	—	昭和28年大水害の経過と耕地復旧の経緯を記す。昭和29年11月耕地整理と水路改修完成。	23
08	09	牝牛の墓（昭和28年大水害）	御坊市野口（安楽寺境内墓地）	昭和28年？	—	昭和28年大水害で流死した愛牛の墓。「（牛顔浮彫）塩崎家 故牝牛 霊」、「塩崎安蔵建之 昭和二十八年七月十八日 六才」。	23
08	09	書物塚の碑（昭和28年大水害）	御坊市藤田町吉田（吉田八幡神社境内）	昭和28年？	—	昭和28年大水害で泥土に没した井上豊太郎の多量の蔵書を納めた塚。塚上に先生の漢詩・短歌・俳句碑が建つ。	23
08	09	九人塚（廻船漂没墓）	御坊市塩屋町南塩屋（光尊寺墓地）	江戸	—	神戸御影の菱垣廻船が天保12年正月に遭難し、漂没した9人の合同墓。	21、23
08	11	平井邸	御坊市塩屋町南塩屋		—		1
08	11	民家の赤レンガ塀	御坊市藺	明治～	—	レンガを高く積み、頭には屋根瓦を載せ、開口部回りは曲面仕上げ。ごぼらに残る近代建築③ 広報ごぼら5月号。	39
09	04	中岡三郎翁頌徳碑	御坊市湯川町富安（富安公民館脇）	昭和38年	—	昭和5年日高地方小作争議で活躍。区会議員、解放同盟部長、第二室戸台風災害復旧闘争委員長。富安有志一同建立。	23
09	04	哲人政治家田淵豊吉の生家	御坊市藺	明治～昭和	—	田淵豊吉は仙人の名で知られた異色の政治家で、国をあげての戦争に反対した人物で知られる。	19
09	04	田淵豊吉夫妻の墓	御坊市椿（浄国寺墓地）	昭和8年	—	田淵豊吉が昭和7年に亡くなった妻のために建立した墓。昭和18年に亡くなった豊吉本人もここに眠る。	23
09	04	西田篤仙翁頌徳碑	御坊市名田町上野（極楽寺墓地）	昭和37年	—	生前郡会議員・村会議員・区長等で村政に尽くした西田儀三郎の頌徳碑。小作地を村民に戻した。区民建立。	23
09	04	山田長之右衛門氏の墓塔	御坊市藺（常照寺墓地）	昭和41年	—	日高木材労組初代委員長、日高地労協初代委員長、失対労組、御坊町議（御坊市議）、部落解放同盟県連委員長等歴任。	23
09	04	御坊市の解放の碑	御坊市藺（蘭会館玄関横）	昭和44年	—	寄贈者角長生は御坊市役所勤務で25歳で死去。生前、解放記念碑建立を望んでいたことから父が建立。西光万吉の綱領を刻む。	23
09	05	満州国皇帝溥儀の通訳者林出賢次郎の家	御坊市湯川町小松原	明治～昭和	—	林出賢次郎は外務省に通訳として採用、満州国建設にともない新京日本帝國大使館、満州国執政府「行走」に任命、溥儀の通訳をつとめた。	19
09	06	軍需工場旧日の出紡績のレンガ塀に残る戦争の跡	御坊市藺、名屋	昭和	—	太平洋戦争中、米軍の空襲で被弾した跡（ごぼらに残る近代建築③ 広報ごぼら 平成19年5月号）。	53
09	06	民家（中松金物店）地下に残る防空壕	御坊市御坊	昭和	—	民家（店舗）の地下にコンクリートで囲まれた防空壕がある。	53
09	06	源行寺	御坊市藺	昭和	—	戦争中に爆弾が落ち11名死亡（昭和20年6月7日）。金属類回収令で釣鐘供出（供出後溶されず戻る）。	53
09	06	砲台附属施設（トーチカ）	御坊市野口	昭和	—	砲台遺構は残らないが、附属施設（トーチカ）が残る（「和歌山城郭研究第11号」2012 和歌山城郭研究会）。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	山本五十六元帥家族の疎開先	御坊市塩屋町	昭和	—	山本五十六元帥の家族が疎開した先の家等が残されている（「その日がくる前に～それぞれの戦争を訪ねて～」2015 日高新報社）。	
09	06	安養寺の戦没者之碑	御坊市湯川町財部（安養寺）	昭和32年	—	正面に「戦没者之碑」、正面下半に戦没者4名、裏面に遺族4名を刻む。	23
09	06	軍馬の墓・陸軍輜重兵中尉東隆一墓	御坊市熊野（西福寺）	昭和15年	—	昭和15年に戦死した東隆一とともに愛馬の墓を父が建立。「軍馬三生号之墓」。	23
09	06	大溪寺 忠魂碑	御坊市富安	昭和43年	—	裏面に21名の氏名を刻む。	
09	06	塩屋小学校 忠魂碑	御坊市塩屋町南塩屋	大正9年	—	帝國在郷軍人会塩屋村分会・外有志一同建立。	
09	06	極楽寺 忠魂碑	御坊市名田町上野	昭和3年	—	海軍大将伯爵東郷平八郎謹書。帝國在郷軍人会名田村分会建立。	
09	06	九品寺 忠魂碑	御坊市湯川町小松原	昭和7年	—	帝國在郷軍人会湯川村分会建立。	
09	06	小竹八幡神社 慰霊碑	御坊市藺（小竹八幡神社）	平成6年	—	御坊市軍恩連名建立。御坊市長柏木征夫書。	
09	08	御所の芝碑	御坊市塩屋町北塩屋（塩屋王子神社）	昭和15年	—	塩屋王子神社境内に建立。五角形の石柱に「御所芝」と刻む。塩屋王子に後鳥羽院の行在所があったといわれている。	21
09	08	天皇后御来県記念碑（昭和天皇関係）	御坊市藤田町藤井（道成寺駅前）	昭和37年	—	昭和37年5月の両陛下来県記念。御坊市野口の人林松二の句を刻む。	23
09	08	小竹八幡社の親子狛犬（昭和天皇関係）	御坊市藺（小竹八幡社）	昭和8年	—	親子の狛犬の台座に「奉獻 皇太子殿下 御降誕記念 日高郡産婆会一同会長医学博士塩路英吉」。	23
10	01	日高高等女学校跡地の碑	御坊市藺（御坊市民文化会館庭園）	昭和	—	大正4年に設立、大正8年に県立に移管、昭和23年学制改革まで3042名が学ぶ。戦後校舎は日高高等学校西館と称す。	23
10	01	御坊小学校の緯度標	御坊市藺（御坊小学校校庭）	昭和44年	—	花崗岩製角柱標石に「東経一三五度九分二八秒」、「北緯三三度五三分二一秒」と刻んで学校の位置を示す。	23
10	01	故森口彦右衛門先生の碑	御坊市湯川町財部（安養寺）	昭和14年	—	明治17年財部に教員として赴任、明治29年引退、大正9年没。「故森口先生之碑」、「生徒一同建之」。	23
10	01	芝口常楠先生の墓	御坊市御坊（本願寺日高別院）	昭和41年	—	明治37年龍神村下山路小学校（当時安井小学校）勤務以来40年間日高地方の教育に尽くす他、県史蹟名勝天然記念物調査委員として活躍。昭和40年没。	23
10	01	猿渡父子兄弟の碑	御坊市藺（御坊小学校校正門脇）	昭和50年	—	明治30年～昭和35年にかけて御坊小学校の校務員として勤務した猿渡父子3翁の顕彰碑。	23
10	06	天理教湯川分教会 神	御坊市湯川町小松原	昭和14年	—	重層入母屋造りの大建築。昭和14完成（「湯川分教会史」1998年）。	2
10	06	天理教湯川分教会 教職舎	御坊市湯川町小松原	昭和6年	—	1階を会長宅、2階を客間として設計され、昭和6年に完成（「湯川分教会史」1998年）。	2
10	06	日本キリスト教団御坊協会	御坊市藺	昭和30年	—	現在は現存せず。	1
10	06	旧海士王子社跡の碑	御坊市藤田町吉田	明治41年	—	明治41年に吉田八幡神社に合祀された際に碑を建立。花崗岩製。	21、23
10	06	焼芝王子神社旧跡碑	御坊市岩内（岩内コミュニティ）	明治41年	—	岩内王子を祀る社があり、明治41年に村社熊野神社に合祀された際に碑を建立。	21、23
10	06	愛徳山王子跡地の碑	御坊市藤田町吉田（愛徳山王子跡）	明治41年	—	愛徳山王子跡に建つ。「明治四十一年九月 愛徳神社跡地 八幡神社合祀」。昭和41年隣接して「愛徳山王子跡」碑建立。	23
10	06	八幡宮遙拝所碑	御坊市名田町野島	昭和10年	—	正面「八幡宮遙拝所」、裏面「昭和十年十月一日」。	21
10	06	植樹記念の碑（連如上450回忌記念）	御坊市藺（常照寺）	昭和27年	—	連如上人法要の際にソテツを2本植樹。「連如聖人 四百五十回忌法要記念植樹 左右二本」。	23

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	小竹八幡社の時計台	御坊市菌 (小竹八幡社)	明治45年	—	花崗岩製角柱。上部笠形の下に時計を納める孔あり。「奉獻 京都市祇園町 藤田てる」。	23
10	07	旧山本邸	御坊市菌	昭和	—	詩人野口雨情らと親交のあった山本好一がサンデー毎日主催の松竹映画脚本募集の懸賞金で建てた。	1、39
10	07	紀国太夫の碑	御坊市菌 (地藏堂境内)	明治12年	—	明治6年に亡くなった浄瑠璃の名手君太夫を追慕するため門弟が建立。正面「紀国太夫事 豊竹君太夫」、台座「門弟中」。平成24年6月割れて再建。	23
10	07	豊沢広七之碑	御坊市菌 (地藏堂境内)	明治30年頃	—	明治時代に活躍した三味線の名手豊沢広七を偲び門弟が建立した碑。正面「豊沢広七之碑」、台石「門弟中」。	23
10	07	二宮尊徳の頌徳碑	御坊市塩屋町 (大師堂境内)	昭和30年	—	二宮尊徳を尊敬する南塩屋の塩谷長蔵が77歳の時に建立。	23
10	07	孝子久蔵頌徳碑	御坊市湯川町富安 (下富安、大溪寺)	昭和42年	—	江戸時代末期の耳が聞こえない小百姓久蔵の藩主をも感動させた孝養ぶりを顕彰した碑。	23
10	07	祓井戸遺跡の碑	御坊市名田町野島	昭和16・17年頃	—	塩屋の山本直次郎翁の尽力で建立。「御祓井戸遺跡」と刻む。文字は芝口常楠氏のもの。	21、23
10	07	熊野神社の植樹記念碑	御坊市熊野 (熊野神社)	大正15年	—	「南龍院様御手植樹二本 寛文二寅年御手植 大正十五年建之」。花崗岩製石柱。	21、23
10	07	桜植樹記念碑	御坊市 出島堤	昭和41年	—	正和老人クラブ結成記念に出島堤に桜苗木120本を植樹した記念碑。	23
10	07	齒塚	御坊市菌 (天性寺)	昭和37年	—	抜歯された齒の供養碑。日高郡齒科医師会が昭和37年6月4日建立。題字小野真次和歌山県知事。	21、23
10	07	画家 中村南陽の墓	御坊市塩屋町北塩屋 (天田 極楽寺)	明治25年	—	正面「中村南陽之墓」。別面「明治二十五年一月十三日」。	23
10	07	野島の万葉歌碑	御坊市名田町野島 (国道42号 沿い)	昭和39年	—	万葉集巻一にみえる野島浦を詠んだ歌を刻む。書は観音寺住職。	21、23
10	07	塩屋王子神社の歌碑	御坊市塩屋町北塩屋 (塩屋王子神社)	昭和15年	—	平安時代の歌会の歌碑を刻む。紀元二千六百年記念。	21、23
10	07	釈超空 (折口信夫) の歌碑	御坊市菌 (御坊市立体育館前)	昭和46年	—	民俗学者・歌人の折口信夫の歌碑。明治40・45・昭和40年に国学院大学同窓の美浜町田端憲之助に宿泊。田端に小竹祝の歌を送る。	21、23
10	07	菌兄弟の歌碑	御坊市菌 (浄国寺墓地)	昭和3年	—	大正9年に亡くなった兄道郎、大正11年に亡くなった弟武夫のため父菌和四郎が昭和3年に建立。	23
10	07	川瀬広隆の墓 (歌碑)	御坊市 本願寺日高別院	明治14年	—	明治七年没の歌人川瀬広隆の墓石に短歌を刻む。	23
10	07	祓井戸の歌碑	御坊市名田町野島 (祓井戸 音堂)	明治23年	—	「作陽津山城北住人 前原秀輔」の短歌を刻む。	23
10	07	瀬戸周花の句碑	御坊市藤田町藤井	明治11年	—	瀬戸家の庭に周花の子が建立。「垂のない 駕面白し 山桜 周花」。昭和52年？に道成寺から瀬戸邸へ移築。	21、23

【美浜町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
04	01	大和紡績 旧日の出紡績松原工場	美浜町吉原	大正13年	—	大正14年操業。昭和16年大和紡績(株)は和歌山・日の出・福井・出雲の各紡績4社対等合併で設立。戦時中は軍需工場。現在のこぎり形屋根の工場建物跡残る。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	御坊臨港鉄道の大和紡績松原工場への引込線	美浜町吉原	昭和	—	西御坊駅から大和紡績松原工場への引込線があったが、現在線路は撤去されている。	
05	02	兄妹有功碑	美浜町三尾（バス停付近庚申堂脇）	明治44年	—	三尾の萬谷徳松、高橋和気兄妹が巨額の私財を投じて兄は鉄橋（竜王橋）を架け、妹は孝當より尾城に至る南北九町の新道を開き、地域の人々の利便と発展に寄与した顕彰碑。	23
05	05	湯川鶴太郎氏顕徳碑	美浜町浜ノ瀬（旧道沿い）	昭和13年	—	日高川の土砂が河口を埋めて船の出入を妨げていたので、昭和5年浚渫船を購入し海運業者を救った功績を顕彰。	23
05	05	寺井久信夫妻の碑	美浜町三尾（日の御崎）	昭和37年	—	日本海運に生涯をかけた元日本郵船株式会社社長寺井久信と妻貞のため子の久美が建立。	23
05	07	旧紀伊日ノ御崎灯台跡	美浜町三尾	明治28年	—	日ノ御崎灯台は明治28年1月25日初点燈。太平洋戦争末期の昭和20年7月、2度の米軍攻撃で全焼。レンガ塀・門・燈身等の基礎等が残る。	1
05	07	日之岬灯台敷地の碑	美浜町三尾（旧日ノ御崎灯台跡）	明治？	—	旧日ノ御崎灯台敷地「日之岬燈臺敷地」と刻まれた角柱形の石碑が残る。	23
05	07	千鳥の句碑（稲人の句碑）	美浜町三尾（日ノ御崎灯台）	昭和32年	—	昭和15～24年に在職した旧日の御崎灯台長内田十二（稲人）の句碑。昭和20年、10日間に妻・長女・三女が相次いで急逝。「妻長女三女の千鳥飛んで来よ」。	23
05	07	千鳥の句碑（高浜虚子の句碑）	美浜町三尾（日ノ御崎灯台）	昭和26年	—	日の御崎灯台台長内田十二（稲人）の句を稲人の師岡本無漏子が高浜虚子に送り、「妻長女三女それぞれ啼く千鳥」と返送。句碑は昭和26年新灯台敷地南側に建立。	23
05	09	西川改修記念碑	美浜町田井（上田井、橋本整形外科前の西川左岸桜並木の陰）	昭和11年	—	地域住民の悲願であった和田ふるけの浸水対策等西川改修事業は日高平野を救う唯一の事業で昭和11年3年半の大工事で今日の西川及び志賀川の形態が整う。	23
07	01	日高幹線水路（通称鉢巻水路）	美浜町	昭和	—	日高川下流部若野、野口、六郷の3井堰は古くから構築、洪水で破損が繰り返され、戦後莫大な費用を投じ日高幹線水路（通称鉢巻水路）完成で西川右岸も日高川から用水が補給。	
07	01	千貫堰	美浜町和田	昭和	—	以前の千貫堰は西川に木製堰板をはめ込み水位を上げて取水、止水効果が悪く、昭和25年旧和田村の団体営土地改良事業で鋼製の転倒式に大改良。	
07	01	兼平真海師顕彰碑	美浜町吉原（吉原の畑地灌漑用揚水ポンプ東側）	昭和56年	—	昭和29年当時松原村長兼平真海は全国2番目の畑地灌漑施設を完成、容易に灌水できる甘露の水を提供し、蔬菜栽培はビニールハウスで近代農業経営に従事できるようになる。	23
07	01	小山甚蔵翁追思碑	美浜町三尾（切通し脇）	明治38年	—	小山甚蔵は万延2年（1861）38歳で三尾浦御蔵庄屋、維新後は三尾浦戸長。明治8年私財を投じて大山谷池を拡張、水利の便で新田開墾など民利の向上に貢献。	23
07	04	田井畑古川の楠山製材所の貯木場	美浜町田井	昭和	—	楠山製材所（御坊）の貯木場である。	
07	04	昭和製材・常磐製材・木戸地製材・福村製材・共栄製材	美浜町田井	昭和	—	西川河口近くに多く集中して製材所があり、従って貯木場は西川を利用する所が多い。	
07	05	三尾・田杭中央漁場境界石	美浜町三尾（旧日之岬灯台下）	明治27年	—	日ノ岬突端の正面沖合に大倉バエと呼ばれる岩礁と相対して、磯より少し登った磯山上にしばしば漁場争いがあった三尾（美浜町）・田杭（日高町）漁場境界石が建つ。	23

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	05	水産加工施設としてのイリ屋	美浜町吉原・浜ノ瀬	明治、昭和	—	谷国水産、財文、若久、栖原屋等が最近まであるいは現在もシラス、ダシジャコノ加工を実施。	
08	05	煙樹ヶ浜の碑	美浜町和田（煙樹ヶ浜）	昭和43年	—	碑文に田村剛博士が日本一と折紙をつけ、近藤浩一路画伯が煙樹ヶ浜と名付け、南龍公以来紀州藩の保護と沿海諸村の人々の尽力によって今日の美林となったことを記す。	23
08	05	大谷池（大賀蓮池）	美浜町三尾（旧日の岬ユースホステル下）	昭和38年	—	昭和37年1月、大賀蓮を移植するために大谷池を改修。昭和38年4月大賀一郎博士が直接移植された池。	
08	05	大賀蓮記念碑	美浜町三尾（旧日の岬ユースホステル下）	昭和41年	—	大賀蓮池の畔の石碑。「蓮は 平和の 象徴也 八十一翁 大賀一郎書」（昭和41年4月17日和歌山県大賀蓮保存会）銘文、裏面津本漁史撰文、石橋哲静撰文。	23
08	06	奈賀房松頌徳碑	美浜町田井（常福寺墓地）	明治	—	明治32年日高地方に赤痢病流行、松原村では赤痢小屋と呼んだ掘立小屋を作り隔離収容。村役場の房松は昼夜防疫に挺身したが感染し26歳の生涯を終えた。村民が建立。	23
08	06	徐易三の墓	美浜町吉原（煙樹ヶ浜）	大正6年	—	安政5年御坊村で代々医師の家生まれ、御坊で博愛院開設（寺井医院前身）。大正3年御坊伝染病院長。また日高時事新聞を創刊。	23
08	09	津浪之紀事の碑（安政南海大地震関係）	美浜町浜ノ瀬（浜ノ瀬公民館前）	文久	—	嘉永7年（1854）激震・大津波で吉原では田井の切戸を越え、船で避難しようとして沈没溺死者が多かった。「津浪之紀事」は地震時の心得を後世に伝えるため建立。	23
08	09	御崎神社社頭の碑（明治22年災害記念碑）	美浜町三尾（御崎神社境内）	明治23年	—	正面に御崎神社が三代実録や紀伊国神名帳に記されていると刻み、裏面に明治21年暴風雨、明治22年大水害の経緯を刻む。	23
08	09	耳塚の碑（明治22年大水害関係？）	美浜町三尾（旧日の岬ユースホステル付近）	明治？	—	明治22年の大水害で三尾地区に多数の水死者が漂着し土葬できずに一緒に火葬し耳だけ埋葬したという伝承あり。	23
08	09	七・一八水害（昭和28年大水害）	美浜町田井、浜ノ瀬、吉原	昭和	—	日高川、西川の氾濫で、田井、吉原西部、浜ノ瀬が大被害を受けた。新浜から網船を出して救出に向かった。尾上橋、大川橋流出。	
08	09	クモッセン機関長顕彰碑	美浜町三尾（日の御崎山頂）	昭和32年	—	昭和32年デンマーク人の機関長クモッセン（39歳）は日ノ御崎灯台沖で高砂丸船員救助のため海に飛び込み日高町田杭海岸で遺体発見。美浜町三尾に顕彰碑と胸像建立、毎年美浜町・日高町が合同慰霊祭開催。	23
08	09	クモッセン機関長の胸像	美浜町三尾	昭和37年	—	クモッセン機関長の顕彰碑と胸像が殉難した紀州灘を眼下にした日の山に建立。この胸像はデンマーク彫塑家に依頼、1962年駐日大使の除幕。	
08	09	防潮林	美浜町吉原	昭和	—	松本栄次郎は昭和40年83歳の死の直前まで松の保護・育成に情熱を傾けた。防潮林として継承されている。	
08	09	故松本栄次郎翁頌徳碑	美浜町吉原（海浜）	昭和41年	—	松本栄次郎は吉原浦漁業会創設、初代会長。昭和24年植え始めて消防団や婦人会の協力を得ながら私財を投じて数万本の煙樹ヶ浜防潮林保護育成に尽力した功績を刻む。	23
08	14	工野儀兵衛頌徳碑（移民関係）	美浜町三尾（アメリカ村バス停横）	昭和6年	—	安政元年三尾村生まれのカナダ移民の父工野儀兵衛は明治21年34歳で単身カナダに渡り、翌年三尾村の人々をカナダに呼び寄せた。加奈陀三尾村人会が三尾海岸に建立。	23
08	14	カナダ移住百年の碑（移民関係）	美浜町三尾（アメリカ村バス停横）	昭和63年	—	明治21年工野儀兵衛が渡加してから100周年を迎えた昭和63年、美浜町カナダ移住100周年記念事業実行委員会が記念碑を建立。	
08	14	カナダ資料館（元アメリカ村資料館）	美浜町三尾	昭和	—	カナダ移民研究者、三尾地区民及びカナダの和歌山県人会有志などがカナダ移民の生活・生産用具等収集した資料館。現在所有者の事情により閉鎖中。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	14	旧野田家住宅（元中津家住宅）（三尾アメリカ村）	美浜町三尾	昭和9年頃	国登録	明治中期より三尾漁民がカナダ渡航し元所有者中津氏はバンクーバーで働き帰国後、昭和9年頃洋風住宅建設。のち野田氏取得後、町所有。外壁はペンキ塗り。	1
08	14	遊心庵（旧田中家住宅）（三尾アメリカ村）	美浜町三尾	昭和8年頃	国登録	遊心庵（旧田中家）、三尾出身の田中松蔵により建設。松蔵はカナダにおいて鮭漁で成功した人物で、昭和8年故郷三尾に洋風住宅を建築。	
08	14	浜口家住宅（三尾アメリカ村）	美浜町三尾	昭和	—	三尾地内に建築された洋風住宅。主にカナダ移住者が現地で永く働き財をなし帰国或いは縁者が送金して洋風の住宅を建築したもの。	
08	14	小山家住宅（三尾アメリカ村）	美浜町三尾	昭和	—	三尾地内に建築された洋風住宅。主にカナダ移住者が現地で永く働き財をなし帰国或いは縁者が送金して洋風の住宅を建築したもの。	
08	14	碇家住宅（三尾アメリカ村）	美浜町三尾	昭和	—	三尾地内に建築された洋風住宅。主にカナダ移住者が現地で永く働き財をなし帰国或いは縁者が送金して洋風の住宅を建築したもの。	
08	14	龍王神社拝殿・寄進札（三尾アメリカ村園連）	美浜町三尾	昭和	—	三尾村から主にカナダ移住されている方々が帰朝記念として龍王神社に寄進したことを記した札が掲示されている。	
09	01	境界石	美浜町吉原・和田・田井（大沢酒造所裏）	幕末、明治？	—	「吉原、和田境界」「和田・吉原界」「是より西田井領」「是より田井領」と刻す。円柱形磨製。	23
09	01	境界石	美浜町吉原・和田（御坊自動車学校南西隅）	幕末、明治？	—	「吉原、和田堺」と刻す。荒石。	23
09	01	境界石	美浜町吉原・和田（松洋中学校国旗掲揚台）	幕末、明治？	—	「吉原、和田界」と刻す。円柱形花崗岩製。	23
09	01	境界石	美浜町田井（田端邸）	幕末、明治？	—	「是より西田井領」と刻す。方柱形。入山組大庄屋田端家に残る。	23
09	04	池上正順旌功碑	美浜町田井（常福寺前）	明治35年	—	常福寺第8世で、明治22年松原村長となり、郡会議員・県議員を歴任。大正元年没。	23
09	06	海軍日ノ御崎防備衛所・特設見張所跡地	美浜町三尾	昭和17年	—	紀伊水道の敵潜水艦阻止を目的に開設、電波探信儀（対艦レーダー）や二式磁気探知機及び九七式水中聴音機を配置した水中監視部隊が配備。	
09	06	旧紀伊日ノ御崎灯台跡地	美浜町三尾	昭和	—	日ノ岬の旧灯台跡に残る弾痕。太平洋戦争末期の昭和20年7月、2度の米軍攻撃を受け全焼。今も周囲のレンガ塀には数カ所機銃掃射の弾痕残る。	
09	06	トーチカ3基	美浜町和田（入山）	昭和	—	入山周囲線を見渡せる山腹にコンクリートのトーチカがある。銃眼を備えた堅牢な構造物で3基とも同型同大。	
09	06	地下壕（10カ所以上）	美浜町和田（入山）	昭和	—	周囲4キロの小さな山の中腹に素掘りした地下壕が残る。正面入口は縦2m横1.5mで奥行きはまちまち。	
09	06	地下壕（10カ所以上）	美浜町和田（本の脇）	昭和	—	櫓ヶ浜を見下ろす高台に複数ならんで掘られている。民間人も掘ったと伝わる。	
09	06	「閑院・梨本・朝香・賀陽各宮殿下台臨之地」の碑	美浜町吉原（上人松付近海岸沿い）	昭和7年	—	美浜町吉原（新浜）上人松の西方の石碑。裏「於昭和七年十月、陸海軍連合演習 松原村」。10月28、29日に第2艦隊と広島師団合同の煙樹ヶ浜上陸演習。	23
09	06	被爆者慰霊塔	美浜町濱ノ瀬（濱ノ瀬延寿会館前）	昭和46年	—	昭和20年6月22日B29の三菱軽金属KK工場（現大和紡績）への爆撃で退避した住民や勤員学徒も爆撃され死傷者百十名。戦後の木の慰霊塔を昭和46年9月石碑に。	23

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	松見寺の忠魂碑	美浜町松原（松見寺）	昭和12年	—	表面「忠魂碑 海軍大将有馬良橋敬書」、裏面「昭和十二年四月建 帝国在郷軍人会松原村分会」。	
09	06	御崎神社の忠魂碑	美浜町和田（御崎神社東側の松林）	大正8年	—	表面「忠魂碑 陸軍少将長谷川猪三郎謹書」、「帝国在郷軍人会和田村分会 大正八稔拾月建之」。	
09	06	安宅萬吉君墓誌銘	美浜町松原（松見寺）	明治32年	—	台湾で戦病死した近衛第七機関砲隊安宅萬吉の墓誌。	
10	01	常磐義塾跡	美浜町和田（常德寺裏）	明治41年	—	明治41年常德寺第10世淨円師の嗣子湯川淨暢師が本堂の一部を板の間にし、て寺子屋式の授講を始め、同年に常磐義塾を公称。昭和23年3月廃校。昭和53年「常磐義塾之跡」碑建立。	23
10	01	湯川淨暢恭頌碑	美浜町和田（常德寺境内）	昭和	—	常磐義塾の創始者であり、日高地方における中学校教育の先駆者である湯川淨暢師の恭頌碑（昭和8年没）。碑は常德寺境内に建つ。	23
10	01	森彦太郎先生頌徳碑	美浜町和田（常德寺境内）	昭和26年	—	明治41年御坊小学校代用教員以降教諭を歴任。昭和8年常磐義塾塾長湯川淨暢師が急逝後、昭和22年病没まで常磐商業学校校長（旧常磐義塾）。地方史研究の開拓者で「日高郡誌」「日高近世史料」等編集。	23
10	01	常德寺	美浜町和田	明治～	—	常德寺の開創は江戸時代初期に溯り、第11世湯川淨暢師は明治41年日高地方で初めて中等学校の私立「常磐義塾」を境内に創設。常磐義塾跡、境内に湯川淨暢恭頌碑。	
10	01	入山若王子社跡	美浜町和田	明治	—	若王子社は美浜町大字和田字王子後に入山の産土神として鎮座、明治41年神社合祀で御崎神社に合祀後、当社にあった長床は常磐義塾に寄付され、教室として再利用。	
10	06	御崎神社	美浜町和田	幕末	—	平安時代の「日本三代実録」に記載されている日高地方唯一の神社。境内に原指定の姥目の老樹。境内には天保から明治年間の灯籠・手水鉢・狛犬・百度石など。	
10	06	王子神社改築記念碑	美浜町吉原（松原王子神社）	昭和11年	—	昭和11年（1936）、同社改築を記念して建立された（吉原松原王子神社前庭西北隅に建つ）。	23
10	06	八王子社跡の碑	美浜町和田（御崎神社北東）	明治？	—	「三徳窟 八王子社跡」と刻まれた自然石の碑。江戸中期に御崎神社境内に撰社として遷祀。「踏まずの石・・・知って踏めばいのちを奪い、知らずに踏めば眼を奪う」との口伝。	23
10	06	御崎神社跡地の碑	美浜町三尾（御崎神社旧社地）	明治	—	日ノ岬に鎮座していた御崎神社（祭神猿田彦神社）を明治42年龍王神社に合祀、跡地に記念碑。徳本上人の歌碑と並んで「御崎神社跡地」の碑がある。	23
10	06	雷神社跡	美浜町和田	幕末	—	美浜町大字和田字雷谷に「イカヅチさん」「タカオミヤはん」と呼ばれた神社があったが、明治41年神社合祀で御崎神社に合祀。旧参道入口に日御崎御本社。是より五丁半申方の道標や灯籠。	
10	06	済広寺	美浜町和田		—	済広寺は隣村小池の寺谷にあった真言宗の寺院と伝わるが、明治22年8月の水害で浸水、流されたきた木造十一面観音立像を観音堂に安置。	
10	06	松原王子神社	美浜町吉原	江戸	県天然	王子神社社叢が昭和46年3月県指定文化財となる。境内に「王子社改築記念碑」あり。	
10	06	春日神社	美浜町田井		—	田井の産土神。明治40年9月14日に松原王子に合祀。	
10	06	恵比寿神社	美浜町浜ノ瀬		—	明治42年8月小竹八幡神社に合祀されたが、大正末年西宮より奉祀。	
10	07	工匠 江崎庄吉翁の碑	美浜町入山（三宝寺への参道）	昭和42年	—	龍神村皆瀬神社、日高町産湯八幡社、御坊市常照寺などを建立した宮大工。昭和30年没。弟子たちが建立。	23
10	07	豊竹紀玉之碑	美浜町田井（常福寺墓地）	大正5年	—	浄瑠璃の師匠と推定されるが、「行年十七」と刻まれている。	23

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	07	徳本上人遺跡の碑と上人窟	美浜町三尾	幕末	—	徳本上人は寛政8年に日ノ御崎沖で難破した乗組員の亡霊供養のために磯辺の洞窟で別時念仏を修したと伝えられる。この碑は上人没後弟子の徳因が文政5年建立。	
10	07	上人松の碑と上人松の名号碑	美浜町吉原	昭和12年	—	徳本上人は難破沈没した乗組員の回向のため七夜の念仏をした跡と伝えられ、上人松は枯死後昭和53年伐採。根元に田端憲之助氏揮毫の「上人松」の碑が残し、昭和12年に名号碑建立。	23
10	07	今池の徳本上人名号碑	美浜町和田	明治11年	—	明治11年4月に建立した名号碑。建碑の由来は不明。	23
10	07	上ノ池の徳本上人名号碑	美浜町和田	幕末	—	文政7年12月に建立した名号碑。建碑の由来は不明。	
10	07	徳本上人名号碑	美浜町田井		—	自然石の名号碑。水害で流れてきたものという。	
10	07	三尾の万葉歌碑	美浜町三尾（海岸沿い）	昭和45年	—	三尾・海猫島バス停より西へ約600m道路の左側に「大石」と呼ばれる巨岩があり、岩頭に黒御影石をはめ込み「万葉集」巻7、一二二八の歌が刻まれている。	23
10	07	田端憲之助の歌碑	美浜町吉原（吉原松見寺境内）	昭和41年	—	教師で晩年農協勤務の郷土の歌人。「春來都る日高 麦原よ路し支越 牟可志の 子らのなき架 悲し佐」（昭和41年3月20日除幕式）。	23
10	07	中島秀夫の歌碑	美浜町三尾（旧日の岬パーク）	昭和33年	—	明治37年御坊市生まれ。牧水・白秋に師事、空穂の国民文学に属す郷土歌人。昭和23年日ノ岬の帰路本の脇で事故急逝。もと本ノ脇にあったが、昭和48年彼が愛した日ノ山の現在地に移転。	23
10	07	三尾法善寺の句碑	美浜町三尾（法善寺境内）	昭和	—	法善寺第20代住職岡本鳳堂は無漏子と号し、昭和7年地元の俳句結社「藻の花」主宰。同寺境内に無漏子ほか「藻の花」句友の人々の句碑が並ぶ。	23

【日高町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	小坊師トンネル（JR紀勢本線）	日高町～由良町	昭和3年	—	紀伊内原～紀伊由良間のコンクリート隧道。JR紀勢本線。	1
05	02	水滝不動の道標・道路改修記念碑	日高町（旧鹿ヶ瀬隧道手前旧道沿い）	昭和2年	—	正面「水滝不動瀑」、側面「道路改修記念」、「昭和二年九月建 伊都郡高野口町宮本組」。	23
05	02	小杭の道路竣工記念碑	日高町小杭（柏～小杭間）	昭和46年	—	海岸沿い道路約3kmの改修工事竣工記念碑。陸上自衛隊第323地区施設隊施工。昭和41年第1期、昭和42年第2期、昭和46年第3期と改修の経緯を刻む。現在は現存せず。	23
05	02	池田の三界萬霊碑・道標	日高町池田（国道沿い）	明治17年	—	正面「三界萬霊 右ゆら道 左やま道」、裏面「明治十七年二月 施主林田伊代吉 立之」。	23
05	02	池田奥の道標	日高町池田（農道沿い）	明治39年	—	正面「右 き三井寺」、裏面「明治三十九年」と刻む。現在は現存せず。	23
05	02	池田の道標	日高町池田（旧県道沿い）	大正14年	—	正面「右 弘法寺」、右側面「大正十四年」、左側面「左 由良」と刻む。現在は現存せず。	23
05	03	高家王子橋銘	日高町萩原（王子橋）	昭和2年	—	昭和2年に王子橋が改修。石製方形の橋銘に「己う志はし 昭和二年八月」と刻む。現在は現存せず。	23
05	04	由良洞隧道	日高町池田928～由良町阿戸	明治22年	—	由良町にまたがる古いトンネル道。レンガ造り。延長138.4m・高3.1m・幅3.35m。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	玉泉居士(大池五郎右衛門)の碑	日高町志賀2584-2 (長楽寺境内)	明治35年	—	志賀谷随一を誇る大きな用水池(上志賀大池)を上志賀石尾の地に掘った偉人を後世まで伝えて結縁に備えようと記念碑を建立。	23
07	01	坪内与四郎顕徳碑	日高町小浦179 (御霊神社境内)	昭和5年	—	明治4年5月未曾有の暴風雨襲来高浪で小浦の堤防全壊、その堤防復旧に尽力。船河谷池の堤嵩上げ工事も施工。明治12年県会議員当選(4期8年7カ月在職)。	23
07	05	津村孫七の碑(「津村翁碑」)	日高町阿尾143-10 (県道沿い)	大正15年	—	明治初年阿尾戸長。方杭浦から大網を買い入れハマチ漁を始め「一本釣」「手繰り網」「大網」等の漁獲物販売責任者で地元阿尾地区の近海漁業基地の礎を築いた先覚者の顕徳碑。	23
07	05	大出弥右衛門の碑	日高町阿尾143-10 (県道沿い)	昭和8年	—	明治30年代カナダに渡り、大正元年にそこで覚えたキンチャク網漁法を日本に持ち帰った先覚者で、地元阿尾地区の貢献者である翁の顕徳碑。正面「宏度盛徳」。	23
08	01	坂田久三郎顕彰碑	日高町小浦179 (御霊神社境内)	昭和41年	—	アメリカに渡り農場主として成功後、故郷小浦に多額の寄付し、水道や道路といった環境改善に貢献した翁の偉業を讃える碑。	23
08	09	クヌッセン機関長救命艇	日高町阿尾	昭和	—	昭和32年高砂丸船員を救助しようとしたエレンマースク号の救命艇がクヌッセン機関長救命艇保管庫にて当時の状態のまま保存。保管庫は平成25年に移転しリニューアル。	
08	09	「クヌッセン機関長遺骸発見之地」石碑	日高町阿尾	昭和32年	—	船員救助のため海に飛び込んだクヌッセン機関長の遺体とボートが発見された。昭和32年8月に地元田杭区が建立。現在も地元住民が献花を捧げ続けている。	
09	04	鈴木隆憲の墓碑	日高町小浦 (円行寺墓地)	昭和37年	—	第2次大戦時スマトラで地方地区司政官、昭和22年県会議員、昭和23年戦犯容疑者として逮捕、翌年スマトラで処刑(38歳)。県知事小野真次書。	23
09	06	秩父宮御台臨記念碑	日高町萩原873-1 (清水井橋畔)	昭和7年	—	紀伊内原駅西100m、清水井橋のそばにあり、昭和7年大演習の際、秩父宮がこより演習を御覧になった記念の碑。	23
09	06	萩原地内忠魂碑	日高町萩原	大正11年	—	萩原地区にある忠魂碑。帝国在郷軍人会東内原村分会が建立。大正11年5月建立。	
09	06	誓願寺 小中地内忠魂碑	日高町小中 (誓願寺境内)	大正9年	—	小中地区誓願寺の敷地内にある忠魂碑。大正9年2月建立。	
09	06	中志賀薬師山 中志賀地内忠魂碑	日高町志賀 (中志賀薬師山頂上)	大正5年	—	中志賀薬師山頂上にある忠魂碑。大正5年5月16日建立。	
09	06	御霊神社 小浦地内忠魂碑	日高町小浦 (御霊神社境内)	昭和35年	—	小浦地区御霊神社の敷地内にある忠魂碑。昭和35年4月建立。	
09	06	比井地内忠魂碑	日高町比井 (比井若一王子神社南西の丘)	昭和3年	—	当村(比井地区)戦没者の忠魂碑。表の碑銘「南無阿弥陀仏」と刻む。昭和3年4月建立。碑材は軍艦八重山・軍艦千代田搭載の12匁砲。	23
10	01	本乗和尚の碑	日高町志賀2556 (誕生院境内)	明治28年	—	徳本上人の孫弟子の和尚は滋賀県出身。天保元年東京一行院で出家後、久志誕生院住職。そこで開いた寺子屋が志賀小学校の元であり当時の生徒達が碑を建立。	23
10	04	吉田格の碑	日高町小池950 (西福寺墓地)	昭和6年	—	御坊町中町にて眼科医を開業し、明治31年10月日高郡内では最古の歴史を有する紀南新聞の前身たる紀南公論社を創設した翁の碑。	23
10	04	吉田家記念碑	日高町小坂230	大正10年	—	御坊町中町にて眼科医を開業し、明治31年10月日高郡内では最古の歴史を有する紀南新聞の前身たる紀南公論社を創設した翁の碑。	
10	06	徳本上人生誕地の碑	日高町志賀 (誕生院前)	昭和3年	県史跡	宝暦8年に生誕した徳本上人の生誕地に発起人志賀村学生会が建立。	23
10	06	法道和尚の碑	日高町池田大師寺 (普門院)	明治37年	—	安政2年に没した法道和尚の碑。	23

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	07	比井経塚遺跡の碑	日高町比井（比井若一王子神社社叢）	昭和38年	—	宝暦7年社殿修理時に境内から経塚発見、経筒内から保元3年の法華経（国重要文化財）。正面「比井経塚遺跡」（奈良国立博物館長石田茂作博士書）。	23
10	07	向山銅鐸出土地の碑	日高町荊木（向山）	昭和？	—	大正12年旧内原村荊木向山で開墾中に発見された袈裟鐸文銅鐸の出土地に郷土史家森彦太郎が建立。	23
10	07	西河慶次郎の碑	日高町小浦（円行寺墓地）	昭和32年	—	正面「倉田繕書 西河慶次郎碑 門弟中」、裏面「昭和三十二年六月建之」と刻むが、人物の来歴は不詳。	23

【由良町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	紀伊由良駅（JR紀勢本線）	由良町里	昭和3年	—	昭和3年に開業された紀伊由良駅駅舎。JR紀勢本線。	1
05	01	小坊師トンネル（JR紀勢本線）	由良町～日高町	昭和3年	—	紀伊内原～紀伊由良間のコンクリート隧道。JR紀勢本線。	1
05	01	由良トンネル（JR紀勢本線）	由良町～広川町	昭和3年	—	紀伊由良～広川ビーチ間のコンクリート隧道。JR紀勢本線。	1
05	03	玉石橋	由良町畑	昭和10年	—	由良町畑の由良川にかかる石橋。	1
05	04	由良洞隧道	由良町阿戸～日高町池田	明治22年	—	明治22年完成の由良洞隧道で、延長138.4m・高3.1m・幅3.35mの現役最古級の道路用レンガトンネル。	1
05	05	由良港埋立記念碑	由良町横浜（海岸通り）	明治33年	—	正面に「埋立記念碑 明治33年11月3日」と刻む。	23
05	05	由良港埋立記念碑	由良町横浜（海岸沿い）	昭和5年	—	正面に「埋立記念碑 高陽森彦太郎書」と刻む。裏面に由良臨港土地株式会社ほか関係者の氏名を記す。	23
07	01	水谷池	由良町門前	明治26年	—	明治26年に農業用ため池として整備。	
07	01	寺田大池・里大池嵩置記念碑	由良町里（寺田大池）	大正5年	—	明治39年着工、大正5年整備した農業用ため池の寺田大池（里大池）。昭和10年、経緯を記した記念碑建立。	23
07	01	白倉池碑	由良町畑（国道沿い）	明治41年	—	白倉池の由来を記す碑。元禄4年原楠右衛門が築造、文久3年原幸次郎が高置。	23
07	01	開墾記念碑	由良町（衣奈峠付近）	昭和6年	—	大正15年村内有志が計画し、昭和5年耕地完成。裏面「大島耕地整理組合小作人一同建之」。	23
07	04	畑の植林碑	由良町畑（JR沿い長谷寺麓）	明治42年	—	畑地区住民が将来の所得蓄積のため明治38年から杉を数万株植樹した記念碑。	23
08	04	戎湯公衆浴場	由良町網代	大正13年	—		1
08	06	中村昇先生夫妻の墓誌	由良町大引（大引墓地）	昭和57年	—	昭和10年日高郡白崎村医として赴任し、白崎中学校・小学校校医など僻地医療に務めた中村昇とその妻の墓誌。	23
08	07	網代青年会場	由良町網代	昭和元年	—	網代青年会場は、網代地区の集会所となっている。	1
08	07	阿戸葦原会青年会場	由良町阿戸	大正2年	—	阿戸葦原会青年会場は、阿戸地区の集会所となっている。	1
08	09	教専寺の水難碑	由良町阿戸（教専寺境内）	嘉永4年	—	阿戸浦沖で遭難し乗組員16名中15名が水死したと伝わる事件の墓碑と思われる。「長使海陸死者生者 南無阿弥陀仏」。	23
08	09	南海大地震津波潮位	由良町網代（由良町中央公民館前）	昭和51年	—	由良町中央公民館前の建設碑の裏面に南海大地震の津波潮位が刻まれている。	79

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	11	森下邸	由良町門前	昭和8年	—	木造2階建寄棟造、洋瓦葺。森下家は日高町方杭出身で、移民先のカナダから帰国後、由良町に建築。	1
08	14	会津藩士の墓	由良町門前（余興寺）	慶応4年	—	鳥羽伏見の戦いで加太港から由良港へ敗走した会津藩士2人が重傷のため同地で自刃した墓が2つ残る。横浜の光専寺にも1基残る。	23
09	01	警察官殉職の碑	由良町綱代（里隧道近く国道42号沿い）	昭和44年	—	昭和44年に交通事故処理中に殉職した小山真之（32歳）・新家文孝（24歳）両警察官の殉職碑。	23
09	04	由良守応生誕地・石碑	由良町門前（旧居跡の蜜柑畑）	幕末～明治	—	文政10年由良町門前村生まれ、幕末志士として活躍、明治新政府に仕えた。若倉具視使節団一員。生家の場所は現在石碑（昭和39年建立）と文化財看板が建つ。	23
09	04	由良守応の墓地	由良町門前（興国寺境内）	明治	—	由良守応は明治27年に生涯を閉じ、興国寺境内には守応の墓がある。	
09	04	由良守応翁顕彰碑	由良町門前（興国寺）	昭和44年	—	東京で宮内省皇室御馬車掛、馬車鉄道株式会社創設、牧畜場千里軒経営した郷土の先覚由良守応の顕彰碑。題字は大橋県知事、撰書は郷土史家田中敬忠。	23
09	06	紀伊防備隊基地跡	由良町里	昭和14～20年	—	紀伊防備隊基地跡として由良町役場前に石碑（昭和54年建立）が残されている。	23
09	06	白崎の回天基地跡	由良町大引	昭和	—	紀伊防備隊基地周辺の戦争遺産群。現在の白崎海洋公園に、回天魚雷の基地があり、出撃前に終戦を迎えた。	
09	06	阿戸の防空壕	由良町阿戸	昭和	—	紀伊防備隊基地周辺の戦争遺産群。阿戸地区に防空壕が残されている。かつては、弾薬庫であった。	
09	06	海防艦戦死者供養塔	由良町糸谷（海岸沿い）	昭和32年	—	昭和20年7月28日由良湾停泊の海防艦第30号が爆撃され、戦死した艦長以下66名を慰霊。「昭和三十二年七月二十八日 一般有志建設」。	23
09	06	戦死者命名塔	由良町糸谷（海岸沿い）	昭和63年	—	海防艦戦死者供養塔の脇に建立。「昭和六十三年七月吉日 戦友会護持会有志」。	
09	06	海防艦第三十号慰霊碑の由来碑	由良町糸谷（海岸沿い）	昭和32年	—	海防艦戦死者供養塔近くの海沿いに建つ。「昭和三十二年七月二十八日 發起人由良町糸谷区有志」。	
09	06	紀伊防備隊鎮魂碑	由良町糸谷（海岸沿い）	昭和57年	—	海防艦戦死者供養塔の隣に建つ。「橋本鳳山謹書 昭和五十七年九月 紀伊防衛会会長」。	
09	06	興国寺 平和の塔	由良町門前（興国寺）	昭和54年	—	日高郡傷痍軍人会・日高郡傷痍軍人妻の会が戦争の罪惡と悲慘を忘れることなく、永遠に平和を死守することを祈り建立。	23
09	06	海軍紀伊防備隊の防波堤	由良町阿戸	昭和18年	—	海軍紀伊防備隊の防波堤で、現在は海上自衛隊由良基地。倉庫やトロコロール跡残る。	1
09	06	興国寺の忠魂碑	由良町門前（興国寺）	明治	—	興国寺境内に建立。陸軍大将男爵奥保鞏謹書。	
09	06	法林寺の戦没死者碑	由良町衣奈（法林寺）	明治43年	—	西南戦争から支那事変の戦病死者碑が建つ。明治43年建立。その後支那事変までの事績を刻む。	
09	06	白崎村の忠魂碑	由良町大引（あじさい園）	昭和27年	—	あじさい園内（白崎小学校と大引浜の間）に建つ。和歌山県知事小野貞次謹書。昭和27年白崎村民再建。	
09	06	余興寺の殉国碑	由良町綱代（余興寺）	昭和29年	—	野村吉三郎謹書。遺族建立。大東亜戦争戦没者55名の氏名を刻む。	
09	06	驚林寺の忠魂碑	由良町三尾川（驚林寺）	昭和29年	—	三尾川青年会建立。後援区民一同。	
09	06	長谷寺の殉国碑	由良町畑（長谷寺）	昭和29年	—	遺族一同建立。大東亜戦争戦没者23名の氏名を刻む。	
09	06	専福寺の殉国之碑	由良町江の駒（専福寺）	昭和32年	—	江ノ駒遺族建立。大東亜戦争戦死者18名の氏名を刻む。	
09	06	衣奈地区出身戦没者慰霊碑	由良町衣奈（法林寺）	昭和56年	—	衣奈地区遺族会建立。衣奈地区の戦没者の氏名を刻む。慰霊碑前に西南戦争から支那事変の戦病死者碑（明治43年）が建つ。	79

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	08	史蹟平石の標石（応神天皇関係）	由良町（宇佐八幡神社前）	昭和37年	—	「史蹟平石」、「応神天皇御上陸御船つなぎ石と伝う」と刻む。由良町中本茂雄の尽力で建立。文字・文章とも県文化財専門審査委員長田中敬忠。	23
10	01	大畑先生之碑	由良町神谷（旧白崎中学校）	大正？	—	明治13年志賀村生まれで、御坊・松原・三百瀬小学校歴任、白崎第二小学校校長。大正7年39歳で急逝。	23
10	01	実習田記念碑	由良町大字里（由良小学校前田圃中）	昭和17年	—	昭和14年、谷口音松は母校由良小学校へ寄附し、学用品を買い与え、実習田を寄贈した。正面「谷口音松氏寄贈実習田 由良国民学校」。	23
10	01	由良小学校の緯度標石	由良町大字里（由良小学校）	昭和46年	—	「東経135° 07′ 46″ 北緯33° 57′ 47″ 海拔4m65cm」と刻む。昭和46年度卒業生・卒業記念。	23
10	01	白崎中学校の緯度標石	由良町神谷（旧白崎中学校）	昭和47年	—	「東経135° 05′ 25″ 北緯33° 57′ 51″ 海拔2m75cm」と刻む。昭和47年度卒業生一同。	23
10	06	興国寺福興記念碑	由良町門前 興国寺法堂前	昭和8年	—	荒廃していた興国寺を和尚や区民が再興した記念碑。	23
10	07	石垣好助氏頌徳碑	由良町大引（大引小学校校庭）	昭和34年	—	明治33年大引生まれで、日本セメント白崎工場などに勤めた一介のサラリーマンの頌徳碑。	23
10	07	野沢吉造翁の碑	由良町門前（興国寺参道沿い）	昭和47年	—	文楽座に席を置いた三味線の吉造は御坊に生まれ、日高地方有志に浄瑠璃を広めた。大正3年没。もと源行寺にあり戦禍で失われた碑を再建。	23
10	07	茶笏・華塚	由良町門前（興国寺禅堂前）	昭和41年	—	自然石の石碑。正面「茶笏 華塚」、裏面「昭和四十一年三月吉日 湯村 宗悦建之」。	23

【日高川町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
01	04	三湯鉱山跡	日高川町寒川	明治～昭和	—	アンチモニーを採鉱。昭和29年に中止。現在閉鎖。	
01	04	船原鉱山跡	日高川町串本	明治～昭和	—	アンチモニーを採鉱。終戦とともに中止となるが、昭和45年頃まで採鉱するも現在閉鎖。	
01	04	権爺穴（水銀鉱採掘跡）	日高川町和佐	江戸～昭和	—	上和佐の東、標高180mの山腹の水銀鉱採掘の遺跡。坑道あり。	1
02	03	船津発電所（日高川水力電気）	日高川町船津	大正12年	—	ダム式発電所（重力式ダム）で石張の堰堤現存。大正13年から運転開始。現関西電力。	1
02	03	高津尾発電所（和歌山水力電気）	日高川町船津	大正7年	—	大正7年運転開始。旧発電機棟（レンガ造）・堰堤・水路・調整池現存。戦前まで県内最大発電量。現関西電力。	1
02	03	越方発電所	日高川町船津	明治40年	—	二級河川日高川に六つの水力発電所建設。明治40年から運転開始。和歌山県最古の水力発電所か？	
04	08	小池甚一郎翁頌徳碑	日高川町鐘巻（道成寺山門脇）	大正15年	—	地元でおこなわれていた紙漉きを明治9年頃に製紙業への転換に尽力し、地方産業に貢献。県教委日高支会建立。	23
05	01	和佐駅（JR紀勢本線）	日高川町和佐	昭和5年	—	JR線の駅舎。現在も使用中。	1
05	01	下和佐ひび橋梁（JR紀勢本線）	日高川町和佐	昭和	—	JR線の橋梁。現在も使用中。	1
05	01	大山トンネル（JR紀勢本線）	日高川町入野	昭和	—	JR線の隧道。現在も使用中。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	柿の木トンネル（JR紀勢本線）	日高川町和佐	昭和	—	JR線の隧道。現在も使用中。	
05	02	下和佐の道標	日高川町下和佐（県道沿い）	明治15年	—	明治15年に野口村内龍神往來の狹路・坂路改修工事した際に建立。「右くまの・左竜神 道」、「すぐ道成寺」、「修路 明治十五年」。	23
05	02	市川中央線 道路改修記念碑	日高川町市川	昭和36年	—	「着工昭和三十三年七月 竣工昭和三十六年三月 延長二千米」と改修の経緯を刻む。	23
05	02	八軒道の道路竣工記念碑	日高川町高津尾八軒道	昭和3年	—	大正10年に起工し、大正15年に竣工した道路の記念碑。記念碑横に工事のため尽力した「官行造林功労者 片山徳松氏 坂口信吉翁 頌徳碑」が建つ。	23
05	02	原日浦の道路記念碑	日高川町原日浦（観音堂隣接地）	昭和42年	—	原日浦平岩縦道及び中道コンクリート舗装工事（延長865m）を記念した碑。工事に尽力した福寿老人会32名の名を刻む。昭和40～42年工事。	23
05	02	加門大安翁顕彰碑	日高川町 旧美山村桂木峠頂上	昭和53年	—	明治39年旧川上村上初湯川生まれ、県森連専務理事、村教育委員長、村議会議員、森林組合長等歴任。昭和28年大水害後に林道上初湯川線（現県道）を開闢して住民生活向上と不採算林の解消となった。	23
05	03	千曳橋	日高川町和佐	大正10年頃	—	現高橋。	1
05	04	株井トンネル	日高川町高津尾	昭和	—	県道御坊美山線の隧道。昭和44年3月改修工事完成で現在も使用中。	
07	01	三百瀬の耕地整理碑	日高川町三百瀬（蜜柑畑中）	昭和7年	—	正面に三百瀬の耕地整理開墾の経緯を刻む。碑裏面に元和歌山県農林技師、早蘇村長、三百瀬耕地整理組合長の氏名を刻む。	23
07	01	早藤の耕地整理記念碑	日高川町早藤	昭和8年	—	昭和4年着手、同8年完了。上段に開畑の経緯を刻み、下段に早藤耕地整理地区委員長・早藤村長・委員・開墾者の氏名を刻む。	23
07	01	若野堰堤	日高川町若野	昭和23年	—	若野、野口、六郷の三堰を統合して昭和23年完成。昭和28年大水害で流失。昭和32年に復旧。	
07	01	若野堰堤取水隧道	日高川町若野	昭和23年	—	若野、野口、六郷の三堰を統合して昭和23年完成。昭和28年大水害で流失。昭和32年に復旧。	1
07	01	若野井堰記念碑	日高川町若野	昭和32年	—	若野、野口、六郷の三堰を統合して昭和23年完成。昭和28年大水害で流失。昭和32年復旧時に水門上の堤防に建立。	23
07	01	小池徳右衛門の碑	日高川町若野（若野堰付近）	明治35年	—	元庄屋、維新後に戸長、その後郵便局長。明治22年大水害後、若野井堰改修委員長となり、井堰改修工事に尽力。	23
07	01	六郷堰復旧記念碑	日高川町小熊	明治	—	明治水害で堰が流失し、復旧工事後に建立、大正の水害で再度流失。昭和になって発見。現在平成22年に新しく建設されたもの。	
07	01	穴池改修記念碑	日高川町土生（穴池）	昭和35年	—	300年ほど前に造られた穴池が昭和34年に漏水し、改修工事で翌年竣工した記念碑。	23
07	01	中津川新池記念碑	日高川町中津川（新池畔）	大正9年	—	大正3年に竣工した溜池築造の記念碑。正面「溜池新設記念碑」。	23
07	01	小谷の水路橋	日高川町下田原	昭和	—	昭和28年7月18日の水害で水路が崩落し、新しく水路橋（延長100m）を作り、下田原の農地を潤している。	
07	01	穴池	日高川町土生	明治	—	約300年前に造られたといわれる灌漑用池。昭和34年、漏水のため改修工事。翌年竣工。	
07	01	幸合池	日高川町上田原	昭和	—	農業用ため池。	1
07	01	坂本上池	日高川町船津	大正	—	昭和28年放水路護岸復旧工事、昭和57年放水路復旧工事。現大谷上池。	1
07	01	岡本池	日高川町船津	昭和	—	農業用ため池。	1
07	01	新池	日高川町和佐	明治39年	—	ほぼ使用されていないため、堤体は雑草が生い茂っている。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	露谷池	日高川町坂野川	明治	—	農業用ため池。	1
07	01	竿本ため池	日高川町熊野川	明治	—	昭和28年災害により堤体が決壊し、昭和30年に改修。平成元年に斜樋改修。	1
07	01	楠谷池	日高川町佐井	明治	—	農業用ため池。	1
07	01	風呂の谷池	日高川町佐井	明治	—	農業用ため池。	1
07	01	瀬見善水翁の碑	日高川町江川（阿弥陀寺内）	大正2年	—	文化10年江川村大庄屋生まれ。荒地開拓や溜池新設、河川修理に尽力。和歌を伊達千広や加納諸平に学び、日高郡民生局や神奈川県租税課長歴任。地元有志が大正2年建立。倉田續書。	23、71、72
07	01	三百瀬新池の歌碑	日高川町三百瀬（大谷新池畔）	明治？	—	江川組大庄屋瀬見善水は慶応元年新池工事開始し、3年で竣工。善水の新池を詠んだ歌と和歌の師である伊達千広の歌を刻む。	23
07	01	鈴木直太郎翁の頌公碑	日高川町和佐（鈴川谷池）	昭和17年	—	明治41年に鈴川谷を灌漑する新池を造成した直太郎を顕彰して子喜一郎が建立。昭和16年没。	23
07	04	後流し記念碑	日高川町樺山ダム		—	後流しの歴史を記した石碑。	
07	04	後流し記念碑	日高川町佐井	平成	—	後流しの歴史を記した石碑。	
07	04	インクライン（後流し関連）	日高川町各水力発電所	大正	—	発電所の出現によってできた滝型流筏路（バイパス）。	
07	04	鳴滝の磨崖仏（後流し関連）	日高川町鳴滝	明治33年	—	河川内の岩などに刻まれる。水難守護や追善のための造立と推測される。鳴滝のものは「（梵字） 明治三十三年本願」。	23
07	04	老星の磨崖仏（後流し関連）	日高川町老星	大正7年	—	河川内の岩などに刻まれる。水難守護や追善のための造立と推測される。老星のものは「老星字中 大正七年三月 南無阿弥陀仏」。	23
07	04	上岡岩吉顕彰碑	日高川町寒川	昭和38年	—	功績を称え安楽寺境内へ昭和38年7月建立。村長在任中に寒川財産区にスギ30万本植林を計画し、川合事務所開設。	
07	04	官行造林功労者頌徳碑	日高川町高津尾八軒道	昭和39年	—	正面に「官行造林功労者 元船着村長 故片山徳松氏 元船着村議 坂口信吉翁」、裏面に大正14年船着村官行造林実施、昭和37年伐採し多額の分収金を得た村民が両氏の功労を顕彰。	23
08	05	山野公園の標石	日高川町山野	大正？	—	大正8年、山野区長であった森常吉が私費を投じて開拓、運動場を造成し桜・楓を植えた。昭和40年にはブーモールも完成。	23
08	06	岡本丹次先生之碑	日高川町（旧美山村芋野、県道沿い）	大正7年	—	天保12年生まれで先祖伝来の医術を継承し整骨針療に秀でる。明治32年頃無医村であった川中村（旧中津村）に移り、入院患者のための宿屋ができた。大正6年没。	23
08	06	旧西川医院（西川邸）	日高川町江川	大正2年	—	木造平屋建。平成4年まで診察が続けられた。外壁は下見板張で当初はビシク系の塗装。内部は待合室・診察室・調剤室に分かれる。	2
08	09	明治22年水害記念碑	日高川町若野（葬場途中の路傍）	明治38年	町民俗	明治22年の水害の記念碑。「水害記念碑 明治廿二年八月廿二日大雨紀州日高川決英害及全郡家流人畜多死而若野村最甚失家三十七殞命者三十九・・・」。	23
08	09	明治22年水害水位の記録（道成寺石段）	日高川町鐘巻（道成寺石段）	昭和13年	—	明治大水害50周年、道成寺門前石段に「明治二十二年八月廿日 大水この七段までつく」と刻む。	23
08	09	明治風水難供養塔（道成寺）	日高川町鐘巻（道成寺境内）	昭和13年	—	道成寺境内に供養塔建立。	
08	09	水害標石（明治22年大水害）	日高川町高津尾（高津尾小学校南側）	明治22年	—	明治22年に発生した水害の記念碑。自然石に「明治廿二年 未曾有洪水・・・」と刻む。	23

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	水害水位標石（昭和28年大水害）	日高川町高津尾（旧高津尾小学校北東隅）	昭和49年	—	旧高津尾小学校北東隅にある大水害の水位を刻んだ標柱。	
08	09	水害復旧記念碑（昭和28年大水害）	日高川町松瀬（松瀬コミュニティセンター）	昭和34年	—	昭和28年7月18日の水害（日高川）の記録と復興の記念碑。碑面に朱線で水位を刻む。昭和34年丹生地区区長会建立。	23
08	09	水害復旧記念碑（昭和28年大水害）	日高川町和佐（旧農協本所前）	昭和34年	—	25戸の家屋と16名の人名を失った昭和28年7月18日の水害（日高川）の記録と復興の記念碑。昭和34年建立。丹生地区会長建立。	23
08	09	水害復旧記念碑（昭和28年大水害）	日高川町江川（江川ホブール横）	昭和34年	—	昭和28年7月18日の水害（江川）の記録と復興の記念碑。碑に水位が線刻されている。昭和34年丹生地区建立。	23
08	09	水害慰霊碑（昭和28年大水害）	日高川町弥谷	昭和31年	—	昭和28年7月18日弥谷地区で発生した山津波の災害における慰霊碑（弥谷地区の犠牲者85名）。	23
08	09	供養地蔵尊	日高川町皆瀬	昭和38年	—	昭和38年に建てられた供養地蔵尊。	
08	09	水害水位記念碑（昭和28年大水害）	日高川町皆瀬（下阿田木神社）	昭和36年	—	正面「水害水位標 記念碑（水位朱線）」、側面「昭和二十八年七月十八日流失ス」、「昭和三十六年三月 世話人西岡利一 渡瀬石材店建之」。	23
08	09	薬師堂記念碑（昭和28年大水害関係）	日高川町三十木	昭和39年	—	正面上部に「南無薬師如来 八瀬観音菩薩 大師遍照金剛」と刻み、下部に「奉祀由来記」として昭和28年大水害で流失した橋とともに堂の復旧の経緯を記す。	23
08	09	大水害の水位標（昭和28年大水害）	日高川町高津尾（高津尾小学校バックネット裏）	昭和	—		
08	14	沖野岩三郎顕彰碑（大逆事件関係）	日高川町寒川	昭和38年	—	小説家・牧師。生誕地寒川へ昭和38年7月建立。大逆事件に巻き込まれるも処刑を免れる。「日高川 名を聞くたにも 恋しかり われをうみにし母のいませば」。	
09	04	森 武楠 胸像	日高川町江川（丹生中学校内）	昭和28年	—	丹生村村長、村産業組合長等要職を務め、山林百十余町歩を寄付、財団法人興仁会を設立。昭和28年遺徳を讃え碑を建立。胸像は保田龍門作。	
09	04	西川熊助翁の墓	日高川町山野（地福寺）	明治44年	—	明治初年に推されて山野村戸長に就任し村のために尽力。アメリカ移民渡航費も用意した。山野四川有志建立。	23
09	04	西川淺氏頌徳碑	日高川町川原河（旧美山村川上橋橋畔）	昭和44年	—	明治34年生まれ、昭和2年西川医院を継ぎ、各校の校医、国民体力管理医、村議、県議を歴任、戦後は県医大新設に奔走、県森連会長として林業復興、昭和28年大水害後の復興に献身。54歳で生涯を終える。	23
09	06	道成寺 顕忠記念碑	日高川町鐘巻（道成寺境内）	明治33年	—	元帥陸軍大将大勲位功二級彰仁親王書。碑裏の花崗岩に建設委員・彫刻師・建碑受負人の名を刻む。台座に砲弾設置。	23
09	06	日露戦争従軍記念碑	日高川町佐井（集会所脇）	明治39年	—	上部に「日露戦役記念 佐井地区出征軍人」、下部に11名の氏名を刻む。	23
09	06	松井大佐表忠碑	日高川町和佐（光性寺）	昭和10年	—	松井清助大佐は明治11年松瀬生まれ。昭和7年支那事変で戦死。陸軍大將本庄繁書。	23
09	06	軍医玉置泰順の碑	日高川町鐘巻（道成寺三重塔脇）	明治10年	—	東京で西洋医術を学び、陸軍軍医となり熊本鎮台に赴任。熊本神風連の乱で戦傷死。	23
09	06	谷口幸太郎氏の碑	日高川町江川（阿弥陀寺境内）	昭和18年	—	元丹生村村長で現職県会議員として応召し、満州で戦病死した谷口幸太郎の碑。陸軍少尉正八位勲七等。	23
09	06	淘汰寺の忠魂碑	日高川町高津尾（淘汰寺境内）	大正8年	—	淘汰寺境内に建つ。	
09	06	偏照寺の忠霊碑	日高川町愛川（偏照寺境内）	明治39年	—	偏照寺境内に建つ。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	安楽寺の忠霊碑	日高川町寒川（安楽寺境内）	大正10年	—	安楽寺境内に建つ。隣に西南戦争～大東亜戦争の寒川地区の戦没者を刻む殉国英霊碑（昭和55年）。	
09	06	皆瀬の殉国碑	日高川町皆瀬（上湯川皆瀬緑沿い）	昭和33年？	—	県道沿いに建つ（川原河小学校対岸）。皆瀬遺族会建立。	
09	06	松林寺の忠霊碑	日高川町初湯川（松林寺境内）	昭和42年	—	松林寺境内に建つ。小野真次県知事書。	
09	06	桂木の殉国碑	日高川町愛川（新桂木トンネル東側）	昭和44年	—	道路沿いに建つ。李部落建立。支那事変・大東亜戦争戦没者を刻む。	
09	06	平和の礎（英霊之碑）	日高川町高津尾（日高川交流センター前）	平成26年	—	発起人日高川町遺族会、協賛日高川町。日高川町の戦没者氏名を刻む。	
10	01	植松憲先生之碑	日高川町江川（丹生神社境内）	明治？	—	日高町志賀生まれで、明治15年江川遼翠小学校奉職、明治24年江川八幡社社掌兼務、明治41年45歳で病没した先生を慕って教え子たちが建立。	23
10	01	相台宗次郎翁頌徳碑	日高川町高津尾（高津尾小学校校庭）	昭和37年	—	明治25年旧中津村西原生まれ、高津尾小学校卒、明治42年父と上京し製紙原料商店創立、昭和14年川越市で製紙工場（後の日新工業）を経営。高津尾小学校校舎建築に私財を寄附。区民一同が建碑。	23
10	01	森勘蔵翁頌徳碑	日高川町船津（船津小学校校庭）	昭和39年	—	明治23年旧船津村（旧中津村）生まれで旧船津小学校卒。流筏に従事し、朝鮮鴨緑江で木材搬出で成功、その後地元植林に貢献し、学校へ児童図書や寄贈など教育に寄与した功績を刻む。	23
10	01	川辺西小学校の緯度標石	日高川町小熊（旧川辺西小学校講堂横）	昭和	—	「東経百三十五度十一分 北緯三十三度五十四分」。	23
10	01	川辺西小学校の針・ペン供養塔	日高川町小熊（旧川辺西小学校構内）	昭和4年	—	学校で使い捨てた針とペンを供養する碑。正面「供養塔」、裏面「昭和四年十一月 教化総動員隊建之」。	23
10	06	木坊子宗貫の碑	日高川町下和佐（光源寺墓地）	昭和18年	—	昭和16年に往生した和尚の碑。檀家が建立。「当寺中興 木坊子宗貫之碑」。	23
10	06	身体障害者地蔵	日高川町鐘巻（道成寺奥の院参道）	昭和46年	—	脳性小児麻痺のため生涯を閉じた子の菩提と同じ境遇の人たちに祈りをこめて母が建立した地蔵。	23
10	06	野槌大明神の碑	日高川町高津尾	昭和35年	—	自然石に「野槌大明神」と刻まれた碑。台石に「昭和三十五年七月三日」と刻む。少し小さな「野槌大明神」と刻んだ碑もある。野槌は「つちのこ」の方言という。	23
10	06	寒川神社重修記念碑	日高川町寒川（寒川神社）	明治13年？	—	碑文に寒川神社の由緒と荒廃していた神社を明治13年に寒川大海が自損金300余円で修復した経緯を刻む。倉田績撰並書。	23
10	06	寒川神社の百度石	日高川町寒川（寒川神社）	明治16年	—	自然石の正面に「百度石」、裏面に「明治十六年旧五月 世話人寒川大海 小学校生徒中建之」を刻む。	23
10	06	寒川直景・寒川大海之碑	日高川町初湯川（上阿田木神社）	昭和42年	—	第20代寒川直景は戦国の戦乱後に上阿田木神社を再興し境内に杉・檜を育成。慶長14年没。第32代寒川大海は明治7年に同神社社掌、杉・檜を補植。明治26年没。	23
10	06	宗海権僧正之碑	日高川町初湯川（上阿田木神社）	昭和41年	—	寒川直景・大海之碑の横に建つ。宗海は元禄の頃、上阿田木神社の別当寺である阿弥陀寺中興の祖。	23
10	06	上阿田木神社の碑	日高川町初湯川（上阿田木神社）	昭和25年	—	「記念碑 国有境内地一万三千一坪三合 昭和二十五年六月十日附譲与ヲ許可セラル」。	23

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	06	西川清翁頌徳碑	日高川町皆瀬（下阿田木神社）	昭和2年	—	安政5年生まれで、一等看護長として西南戦争従軍後に村で医院開業し、各種公共事業に貢献。戸長・郵便局長・村会議員など歴任。明治39年に25間幅80間を神社境内に編入する功績を讃えて建碑。	23
10	06	滝頭峠の子安地藏	日高川町（旧美山村滝頭峠）	昭和7年	—	地蔵光背に「昭和7年十一月九日 滝口コトメ」と刻む。	23
10	07	芳澤あやめ生地 の碑	日高川町高津尾（あやめ橋付近）	昭和24年	—	江戸時代に活躍した旧中津村小原長滝出身の歌舞伎（女形）の初代芳澤あやめの生地に建立。正面「名優 初代 芳沢あやめ生地」。裏面「昭和二十四年己丑 岡田村長建立」。	23
10	07	芳澤あやめ顕彰碑	日高川町高津尾（若者広場）	昭和50年	—	旧中津村小原長滝出身の歌舞伎の名優（女形）初代芳澤あやめを顕彰するため建立。	23
10	07	故馬場金太郎翁之碑	日高川町和佐（中の瀬葬場）	大正？	—	明治時代になって瀬見善水の斡旋で和佐に移住し、村のために尽力したため村人が碑を建立。	23
10	07	小森翁の墓碑	日高川町鐘巻（道成寺本堂裏）	明治20年	—	三重県竹川の神官家の生まれで各地巡遊後に藤井村に居住。剣道・謡曲の鼓の名手で学ぶ者が多かった。	23
10	07	玉置喜四郎翁碑	日高川町下和佐（光源寺境内）	昭和14年	—	和佐村生まれで土生の来迎寺や御坊の大御堂大改修の棟梁。「妙好人玉置喜四郎翁碑 昭和十年五月四日往生」。	23
10	07	玉置一淑翁の碑	日高川町和佐（生蓮寺境内）	大正13年	—	手取城主玉置直和が戦いに敗れて瑞穂流茶道の宗匠になった経緯を刻む。「瑞穂流中興祖玉置一淑翁碑」。	23
10	07	鶴沢藤正の碑	日高川町（越方峠頂上）	大正4年	—	義太夫三味線の師匠と考えられる碑。裏面に多くの世話人の名を刻む。	23
10	07	鶴沢又之助の碑	日高川町三十（湊谷寺参道）	大正15年	—	旧中津村三十木生まれで三味線と義太夫を村民に教えた。門弟たちが建立か。「大正十五年 行年八十三才 鶴沢又之助碑 俗名橋本新助」。	23
10	07	塩路厳穂翁の碑	日高川町土生（塩路家墓地内）	昭和5年？	—	「塩路厳穂物部有隣之墓」と厳穂の和歌を刻む。代々医療を業とした塩路家に生まれ、日高郡医師会長を務め、和歌・漢詩に精通。昭和5年没。	23
10	07	草枕（森常吉）の歌碑	日高川町大滝川（滝神社参道）	昭和	—	明治4年川辺町山野生まれ草枕（森常吉）の歌碑。草枕は昭和39年没。歌碑はもと山野公園から移設。	23
10	07	草枕（森常吉）の歌碑	日高川町山野（地福寺墓地）	昭和	—	川辺町山野生まれ草枕（森常吉）の歌碑。明治42年頃に山野で米穀商開業。山野区長、村会議員など歴任。	23
10	07	藺義成翁の歌碑	日高川町鐘巻（道成寺本堂裏）	昭和	—	明治23年に没した御坊市新町の回船業を営む豪商和泉屋7代目藺喜太夫の辞世の歌。	23
10	07	伊藤千広の歌碑	日高川町和佐（千曳山麓の小祠脇）	明治？	—	陸奥宗光の父で歌人の才があった千広が熊野詣での帰りに瀬見善水邸で詠んだ歌碑。	23
10	07	瀬見善水の歌碑	日高川町江川（阿弥陀寺境内）	明治？	—	江戸時代中頃に廃寺同様となっていた阿弥陀寺を瀬見氏の先祖が再興した縁で建立されたものか。	23
10	07	馬場行篤の歌碑	日高川町和佐（中の瀬葬場）	明治13年	—	中の瀬葬場の行篤翁墓塔に馬場金太郎の父の歌が刻まれている。	23
10	07	野島無量子の句碑	日高川町中津川（宗福寺）	昭和37年	—	「錫ついで 紀の風花をあふぎけり 野島無量子」。	23

【印南町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
04	08	鈴木梅仙の墓碑	印南町切目（光明寺付近火葬場脇）	大正7年	—	近代日本の墨匠（製墨業）鈴木梅仙の墓碑。「尚左堂梅翁居士」、「俗名鈴木梅翁」と刻む。大正6年82歳の時に梅仙から梅翁に改名。	23
05	01	稲原駅（JR紀勢本線）	印南町印南原	昭和5年	—	JR紀勢本線。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	印南駅 (JR紀勢本線)	印南町印南	昭和5年	—	JR紀勢本線。	1
05	01	切目駅 (JR紀勢本線)	印南町島田	昭和6年	—	JR紀勢本線。	1
05	02	南部川往来里道改修記念碑	印南町上洞 (県道南部上洞線沿い)	明治40年	—	印南町上洞から佐田峠を越え、南部川村大串・高野を経て南部町へ至る里道で、現在県道に昇格している。	23
05	02	印南原の道標	印南町印南原	明治4年	—	「右 印南浦 西坂 若松神霊道 左 切目川」、側面「明治四年八月十六日」。花崗岩製角柱。	23
05	02	経平峠の道標	印南町西神の川 (経平峠)	明治5年	—	角柱正面上部に仏像、下部に鹿を半肉彫。鹿のために建碑したとある。「右 山地道 左 三佐道」、側面「壬申九月廿三日為鹿建」。	23
05	02	西神の川の道標	印南町西神の川	明治6年	—	「右ハほん川道 (中津村本川) 左ハ大たきき道 (川辺町大滝川) 世光弘建之 明治六酉年」。河原石自然石製。	23
05	02	印南町の道標	印南町印南原 (稲原中学校付近)	明治17年	—	稲原中学校付近で倒れていたものを異三郎医伯が同家庭に運んだ。「左 印南熊野道」、「右 道成寺道 左 御坊」。	23
07	01	羽六の切抜き (掘割)	印南町羽六	天保8年	—	天保8年造成の長さ150m・幅40m・高さ60mの堀割で、旧河川跡に14haの良田が造成された。橋の畔に経緯を記した昭和57年顕彰碑建立。	23
07	01	耕地整理竣成記念碑	印南町羽六	昭和	—	出合橋近くの耕作地に建立。昭和4年着手、昭和7年竣成。耕地面積拾六町六反七畝歩。	
07	01	片見谷池	印南町印南		—		1
07	01	尻掛河池	印南町印南原	明治28年	—	万治年間に築造、明治27年に起工し増築した日高郡内で最も大きい灌漑池。	1
07	01	尻掛河池増築記念碑	印南町印南原	明治28年	—	明治に尻掛河池を増築した際に建立された石碑。	23
07	01	耕地整理竣工記念碑	印南町切目 (切目駅付近里道沿い)	昭和3年	—	明治45年工事着手、大正9年竣成した切目川下流西ノ地一帯の耕地整理工事の記念碑。耕地面積・経費総額・関係者氏名を刻む。	23
07	02	西岩吉翁頌功碑	印南町羽六 (清流小学校校庭)	昭和38年	—	大正3年村助役西岩吉 (後に村長) は村内の疲弊を救うため乳牛を導入して酪農をはじめ、県下牛乳一大産地の基礎を作った。中紀 (現切目川) 酪農協同組合が建立。	23
07	05	魚類一切之供養塔	印南町西ノ地 (火葬場付近国道沿い)	昭和37年	—	正面「魚類一切之供養塔」、裏面「南無阿弥陀仏 昭和三十七年一月」。隣に昭和11年の無縁塔あり。	23
07	05	川上左一朗顕彰碑	印南町印南 (印南町漁業協同組合事務所前)	昭和46年	—	明治41年生まれ、大正13年父祖の漁業を継ぎ、昭和8年漁協職員、昭和27年組合長。製氷工場創設、漁港整備拡張、事務所建設などの功績を刻む。県知事大橋正雄書。	23
08	06	津村環翁の碑	印南町西ノ地 (切目王子神社前)	明治40年	—	切目王子神社前の石碑で、碑文が読みづらく人物の経歴は不詳。医業関係か。	23
09	04	中本康英翁頌徳碑	印南町櫻川 (真妻神社脇)	昭和8年	—	慶応元年櫻川生まれ、明治27年収入助役・村長を歴任し道路・治水・産業・教育など村政に尽くす。県政にも参与。	23
09	04	明治百年記念碑	印南町櫻川 (真妻神社前)	昭和43年	—	明治初期に郷土櫻川区に尽くした谷沢佐平 (区有林確保)・松本徳市 (教育)・脇野鶴松 (経済)・高瀬茂助 (経済) 4翁の功績を記す。	23
09	04	夏目康太郎翁頌徳碑	印南町印南原 (稲原防災センター)	昭和26年	—	明治5年生まれで、明治35年に県会議員当選、昭和7年まで勤め、稲原村長や塩屋村長も兼ねることもあった。県下の福祉や産業・交通・治水・教育などに尽力。	23
09	06	光明寺の石梵鐘	印南町島田 (光明寺)	昭和16年	—	光明寺鐘楼横に国家総動員法による金属回収令により供出された梵鐘の代わりに石の重りを鐘楼に吊るしてバランスをとった石が残る。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	西神ノ川の忠魂碑	印南町西神ノ川（神濃薬師堂）	大正10年	—	表面「忠魂碑 安正書」、左側面「大正十年一月建設」、右側面「帝国在郷軍人会真妻村分会」。	
09	06	稲原の忠魂碑	印南町稲原（稲原防災センター）	大正12年	—	表面「忠魂碑 海軍大將伯爵東郷平八郎謹書」、裏面「」。	
09	06	印定寺の忠魂碑	印南町印南（印定寺）	昭和7年	—	表面「忠魂碑 陸軍大將鈴木庄六書」、裏面「昭和七年十一月建之」。	
09	06	光明寺の忠魂碑	印南町島田（光明寺）	昭和9年	—	表面「忠魂碑 陸軍大臣荒木貞夫敬書」、裏面「昭和九年三月建設」。	
09	06	永福寺の忠魂塔	印南町古井（永福寺墓地）	昭和？	—	永福寺墓地の軍人墓にある。	
10	01	旧上洞尋常小学校	印南町上洞	昭和34年	—	現上洞小学校。	1
10	01	旧櫻川尋常小学校	印南町櫻川	昭和5年	—	現櫻川小学校。	1
10	01	村崎源先生彰徳碑	印南町上洞（上洞小学校校庭）	昭和18年	—	慶応3年東村（龍神村）生まれ、明治18～大正6年まで上洞小学校で教員。「徳風日新」銘。井上豊太郎謹書。	23
10	01	西川平吉先生の碑	印南町古井（永福寺墓地）	昭和40年	—	日高中学校の先生。昭和39年交通事故のため急逝。永福寺で区葬がおこなわれた。	23
10	03	出口三木蔵・出口米一 頌徳碑	印南町白河（青年会場前）	昭和11年	—	昭和2年、出口三木蔵（神戸で石炭商）が建設費を寄贈し、甥出口米一（印南郵便局長）が旧邸跡地76坪を寄附して青年会場が建設できた両氏の篤志を記念した石碑。	23
10	06	島田の真言二百万遍碑	印南町島田（切目駅付近旧県道沿い）	明治24年	—	正面「光明真言二百万遍 明治二十四辛卯三月 世話人島田中」。	23
10	06	宇杉八幡神社の合祀記念碑	印南町古屋（宇杉八幡神社）	明治41年	—	正面「大將軍社 富王子（光川） 奉宮神社（本郷） 大歳神社（山口） 弁天社（宇杉） 戎社（本坂）」、裏面「明治四十一年移転及び合祀」。	23
10	06	叶王子神社旧跡の碑	印南町印南（叶王子跡）	大正2年	町史跡	叶王子（津井王子）社は明治41年に山口八幡神社に合祀され、旧跡に石碑が建立された。	23
10	06	東宮神社遺跡の碑	印南町本郷（旧東宮神社跡地）	昭和15年頃	—	明治41年宇杉八幡神社に合祀後、昭和15年頃に跡地に石碑建立。「正四位 紀俊」書。裏面「元弘ノ昔大塔宮御足ヲ休メ給ヒシ地」。	23
10	06	信覚上人の碑	印南町丹生（来迎寺境内）	昭和38年	—	信覚上人は印南町崎ノ原生まれ、文政10年から11年間来迎寺住職。その後京都禅林寺や宝池寺。井上豊太郎が建立。	23
10	07	与一・おさよの比翼塚	印南町印南（印定寺）	昭和30年	—	明和年間、印南浦で心中した与一とおさよを偲ぶ石碑。現在も命日に供養が営まれている。	23
10	07	竹本山雪太夫の碑	印南町西山口	明治32年頃	—	明治から大正にかけて活躍した義太夫の名手初代竹本山雪太夫と2代竹本山雪太夫の碑。弟子たちが建立。	23
10	07	印南音頭作者之墓	印南町印南（東光寺参道）	昭和47年	—	新印南音頭印南哀史小唄の作詞作曲者丸田大雅（キングレコード、僧籍名義純）の墓碑。印南地区公民館長建立。	23
10	07	井上豊太郎墓碑	印南町丹生（来迎寺境内）	昭和61年	—	明治24年真妻村崎の原生まれ、真妻村で代用教員、御坊で新聞社、後に中央大学進学、弁護士となる。和歌・俳句・書画・郷土研究など地方文化向上に寄与。昭和42年没。	23

【みなべ町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	岩代駅（JR紀勢本線）	みなべ町西岩代19-2	昭和6年	—	JR紀勢本線。木造の駅舎で、現在も当時の建物を使用している。現在は無人駅。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	南部駅（JR紀勢本線）	みなべ町芝371-2	昭和6年	—	JR紀勢本線。木造の駅舎で、現在も当時の建物を使用。現在は駅舎の一部を間借りして町が青少年センターを設置。	1
05	02	みかへり坂の碑	みなべ町晩稲	大正14年	—		
05	02	南部町道路元標	みなべ町南道・新町	大正？	—	十字路西北隅に残る。花崗岩製。	23
05	03	下角橋	みなべ町清川	昭和45年	—		
05	03	宇呂住橋	みなべ町清川	昭和44年	—		
05	03	犬郷上橋	みなべ町西本庄	昭和44年	—		
05	03	犬郷下橋	みなべ町西本庄	昭和44年	—		
05	03	新庄橋	みなべ町気佐藤	昭和39年	—		
05	03	尾田橋	みなべ町晩稲	昭和31年	—		
05	03	世美谷橋	みなべ町晩稲	昭和31年	—		
05	03	宮前橋	みなべ町東本庄	昭和37年	—		
05	03	下高野橋	みなべ町高野	昭和35年	—		
05	03	数永橋	みなべ町高野	昭和39年	—		
05	03	別当橋	みなべ町東神野川	昭和42年	—		
05	03	鎌倉橋	みなべ町東神野川	昭和43年	—		
05	03	鶴の湯橋	みなべ町熊瀬川	昭和34年	—		
05	03	幸先橋	みなべ町清川	昭和36年	—		
05	03	久世谷橋	みなべ町清川	昭和37年	—		
05	03	臼ノ谷橋	みなべ町清川	昭和38年	—		
05	03	古田橋	みなべ町西本庄	昭和38年	—		
05	03	丸山橋	みなべ町西岩代	昭和29年	—		
05	03	尾葉奈橋	みなべ町西岩代	昭和37年	—		
05	03	旧木下橋	みなべ町東岩代	昭和元年	—		
05	03	上辺橋	みなべ町東本庄	昭和45年	—		
05	03	高橋	みなべ町滝	昭和	—		1
05	04	小野坂隧道	みなべ町晩稲～田辺市上芳養)	昭和11年	—	コンクリートブロックトンネル。延長73m・幅員4m・高3.5m。昭和11年完成。扁額「天門関通」。	1
05	04	切目辻隧道	みなべ町清川	昭和29年	—		
05	04	法手見隧道	みなべ町清川	昭和45年	—		
05	04	楠本恒助の旌功碑	みなべ町西本庄	大正4年	—	楠本恒助が尽力した鹿瀬洞隧道（広川町上津木～日高町原谷）開通記念碑。原谷有志建立。碑が倒れた後、庭石用にみなべ町に移される。	23
07	01	穂手見用水トンネル	みなべ町島之瀬	明治17年	—		
07	01	内中源蔵翁頌徳碑	みなべ町晩稲	昭和28年	—	みなべの梅産業発展を導いた先覚者。	
07	01	上の池	みなべ町晩稲大谷池尻	明治	—		1
07	01	楠山谷池	みなべ町高野	明治	—		1
07	01	八重谷池	みなべ町六十川	大正	—		1
07	01	水越池	みなべ町西本庄水越谷	大正	—		1
07	01	汐ヶ谷池	みなべ町東岩代汐ヶ谷	明治	—		1
07	01	滝谷池	みなべ町市井川滝谷	明治	—		1
07	01	後谷池	みなべ町高野猿谷垣内	明治	—		1
07	01	大池	みなべ町高野松山谷口	明治	—		1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	竹田翁頌徳碑	みなべ町芝	昭和6年	—	村民建立。大阪で財をなした竹田翁が大正年間に猪野山を買い上げて町へ寄贈。町は各戸に分けて開墾し、現在は梅畑となる。	23
07	05	浜崎権四郎頌徳碑	みなべ町植田	昭和44年	—	南部浦の漁業発展のため漁港建設（昭和43年完成）に尽力した南部浦漁協組合長の顕彰碑。	23
08	08	長岡翁頌徳碑（鹿島遊園地）	みなべ町植田	昭和3年	—	鹿島（遊園地）の開拓に尽力した長岡佐介の功績を称え、逝去の翌年、保勝会が建立。漢文で記されている。	
08	08	長岡翁記念会館跡（鹿島遊園地）	みなべ町植田	昭和	—	鹿島（遊園地）の開拓に尽力した長岡佐介を偲ぶ資料館。鹿島のシンボリックな建物。屋上からは外海が一望。	
08	08	波止場（鹿島遊園地）	みなべ町植田	昭和	—	観光地としての利便性を高めるため、県補助を受けて設置。田辺・白浜間の巡行船が鹿島に寄港した時期もあった。	
08	08	長岡佐介庵功碑（千里遊園地）	みなべ町山内（観音堂境内）	昭和3年	—	鹿島開発後に千里（遊園地）を開発した貿易商長岡佐介の功績を称え、長岡翁逝去の翌年、治勝会が建立。	23
08	08	太子塔跡（千里遊園地）	みなべ町山内	大正	—	太子塔（高灯楼）の跡地。見晴らしの良い高い高台にあった。千里遊園地の目玉的な施設。	
08	08	千里観音堂（千里遊園地）	みなべ町山内	昭和	—	現在も初午などの行事が行われる。新福寺から千里に戻った馬頭観音は50年に1回開帳。	
08	08	千里の浜（千里遊園地）	みなべ町山内		—	白砂青松の砂浜を見に多くの観光客が訪れた。	
08	09	鹿島明神守護謝恩祭記念の碑	みなべ町植田（鹿島）	大正4年	—	宝永・嘉永大津波から里を守った鹿島明神への謝恩祭を記念して、嘉永の大津波60年記念に建立。	23
08	09	東善八翁之碑	みなべ町東本庄	昭和39年	—	嘉永4年に水害が多い南部川の水流を替えるため鶯ヶ巣山の尾根を切り通す難工事を完成した人物の百年祭を記念して建立。	23
09	06	須賀神社の忠魂碑	みなべ町西本庄（須賀神社境内）	大正2年	—		
09	06	高城の忠魂碑	みなべ町高野	昭和27年	—		
09	06	清川天寶神社の忠魂碑	みなべ町清川（清川天寶神社境内）	昭和	—		
09	06	名之内大東重戦没者墓	みなべ町清川	昭和28年	—		
09	06	名之内忠魂碑	みなべ町清川	昭和28年	—		
09	06	来迎寺「礎散華の魂」碑	みなべ町東本庄（来迎寺境内）	平成8年	—	英霊46名の氏名を刻む。	52
09	08	有間皇子結松記念碑	みなべ町西岩代（国道42号沿い）	昭和11年	—	岩代村青年団建立。表面に蘇峰学人の文字で「有間皇子結松記念碑」、裏面に有間皇子の和歌二首を刻む。	23
09	08	有間皇子の歌碑	みなべ町西岩代（国道42号沿い）	昭和39年	—	万葉学者沢潟久孝博士揮毫。有間皇子の和歌を万葉仮名で刻む。	23
09	08	千里王子社花山院法皇の歌碑	みなべ町山内（千里王子社）	昭和28年	—	花山法皇御製の「旅の空夜半の煙とのぼりなば あまのもしほ火たくかとか見む」を刻む。	23
10	01	牧野環先生胸像と頌徳碑	みなべ町芝	昭和12年	—	和歌山県立農林学校（現南部高校）校長。保田龍門作。	
10	01	堅田種知翁の碑	みなべ町芝（丸山頂上の墓地）	明治？	—	西本庄で家塾を開き、南部で小学校が開設されると塾生を率いて初代教師に任命。明治13年鹿島神社神官を兼ねる。	23

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	01	堅田真種翁の碑	みなべ町芝 (丸山頂上の墓地)	昭和？	—	種知の子。明治9年南部小学校で教鞭後、印南、南部、上南部で教鞭。明治39年鹿島神社掌を継ぐ。『南部地誌略』著者。	23
10	01	関本上人生誕之地の碑	みなべ町熊岡	昭和45年	—	光明寺法主。和歌山修徳女学校、西山高等女学校創立。紀南女学校設立発起人。昭和34年県文化功労章。	23
10	06	西田元教翁出生之地の碑	みなべ町徳蔵	昭和28年	—	宗教家。大本教の出口王仁三郎の妹と結婚。明治33年危篤に陥った際に王仁三郎の祈禱を受けて助かったとされる。	
10	07	大木翁頌徳碑	みなべ町芝	昭和6年	—		
10	07	滝口警部頌徳碑	みなべ町清川	昭和37年	—	39歳の若さで殉職した警部。	
10	07	庄司浄光法尼之碑	みなべ町筋	昭和37年	—		
10	07	里平髪切塚	みなべ町気佐藤	明治37年	—	歌人里平（裏川吉蔵）が明治37年にちよんまげを切り落とした記念に建立した碑。新庄橋数十mの梅林に建つ。	23
10	07	働く少年の像	みなべ町芝	昭和38年	—		
10	07	熊代繁里翁の碑	みなべ町山内 (親福寺裏山墓地)	明治9年	—	みなべ町気佐藤生まれの国学者熊代繁里翁の墓碑。維新後は熊野本宮権宮司。表面「櫻蔭大人之興津城」。	23
10	07	紀州路みなべの万葉歌碑	みなべ町埴田	昭和	—		
10	07	大江邦彦の歌碑	みなべ町芝	昭和	—		
10	07	榎美代子の歌碑	みなべ町西岩代 (光照寺墓地)	昭和42年	—	亡母のために建立した墓で榎美千代の短歌を刻む。	23
10	07	三鍋王子社の歌碑	みなべ町北道 (三鍋王子社)	昭和43年	—	みなべ町出身の歌人今井規清と森上隆繁の短歌を刻む。	23
10	07	三鍋王子社の句碑	みなべ町北道 (三鍋王子社)	明治25年	—	板碑を句碑に転用。梅風社建立。「ふくまの風にかれ行尾花かな 大野梅村」ほか2句。	23
10	07	千里王子社の句碑	みなべ町山内 (千里王子社)	昭和40年	—	大阪で句誌『山茶花』を主宰する下村非文が千里の浜訪問時の句。「桜員大宮人の踏みにし浜 非文」。	23
10	07	鹿島神社の句碑	みなべ町埴田	昭和	—		
10	07	西国三十三番霊場満願記念碑	みなべ町晩稲 (小殿の宮境内)	昭和42年	—	昭和35年に発願し、7年後に満願成就。発起人3名の他、45名の姓名を刻む。	23
10	07	阿波惣塚の碑	みなべ町滝	昭和33年	—	腹痛のための阿波惣 (阿波惣明神) 参りに関わる碑。	23
10	07	大乘妙典一字一石塔	みなべ町清川	明治14年	—		

【田辺市】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
02	03	水電起業記念碑 (川中口・秋津川水力発電所)	田辺市上秋津	大正7年	—	川中水電合資会社、秋津川水電株式会社の創立から発電所の竣工の経過が刻まれる。相談役加藤陽三撰。	1、44
02	03	甲斐川発電所	田辺市龍神村甲斐ノ川	大正	—	二級河川日高川には六つの水力発電所が建設された。発電所形式は水路式で、現在も利用されている。	63
02	03	柳瀬発電所 (日置川水力電気)	田辺市龍神村柳瀬	大正8年	—	二級河川日高川には六つの水力発電所が建設。発電所形式は水路式で、現在も利用 (関西電力)。出力1800kw。	1、63

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
02	03	四村川発電所（旧四村川電氣下湯川発電所）	田辺市本宮町下湯川	大正14年	—	発電所形式は水路式で、現在も利用されている。関西電力最小の発電量（87kw）。取水後は素掘り暗渠を通る。	1
02	03	五味発電所跡	田辺市龍神村小家	昭和	—	二級河川日高川には六つの水力発電所が建設された。椿山ダム建設で冠水のため廃止。ダム延長は69.44mで現在は発電所跡地となる。	63
02	03	殿山発電所（合川ダム）	田辺市合川	昭和	—	発電所形式はダム水路式で、現在も利用されている。	32
04	09	中嶋山の採石場跡（神子浜採石業）	田辺市神子浜二丁目	明治～昭和	—	高さ20m、延長250mにわたる広大な石山。当地では最も規模が大きく、上質の砥石や各種石材を大量に産出した。砕石の痕跡が残る。	34
04	09	祇園八坂社（神子浜採石業）	田辺市神子浜二丁目	大正～	—	大正7年中嶋山採石場跡に社を造営。中嶋山採石の石垣・石段・玉垣の石柱、従事者名が入り旧鳥居（中嶋金四郎・濱田徳松）、手水鉢（中嶋喜太夫?）。	34
04	09	ランボウの跡（神子浜採石業）	田辺市文里一丁目		—	ランボウ（発破）の痕跡が残る。石山の仕事は、山から岩石を砕き落とすランボウ（発破）から始まる。	34
04	09	神楽神社拝殿の石垣（神子浜採石業）	田辺市神子浜二丁目		—	積み石を使った谷積みみの石垣。土木工事用材として広く使用された「積み石（かた石）」を使う。	34
04	09	闘雞神社の馬場堰堤（神子浜採石業）	田辺市東陽		国史跡・名勝	土木工事用材として広く使用された「積み石（かた石）」を使った布積みみの石垣。国史跡熊野参詣道及び国名勝南方曼陀羅の風景地の指定地内。	34
04	09	神島高校グラウンド（神子浜採石業）	田辺市文里二丁目	昭和	—	近くの石山で造られた積み石で積み上げられている。土木工事用材として広く使用された「積み石（かた石）」を使う。	34
04	09	石取場跡碑（神子浜採石業）	田辺市神子浜二丁目	平成	—	「石山の仕事」再現・実演会時に掘り出された本体石を利用。「矢あな」や「ランボウ」の跡残る。取場跡の保存、碑の建立は長年の悲願であった。	34
05	01	紀伊新庄駅（JR紀勢本線）	田辺市新庄町	昭和6年	—		1
05	01	田辺駅（JR紀勢本線）	田辺市湊	昭和6年	—	平成29年から旧駅舎を解体し建て替え。	1
05	02	植田理太郎君道路開鑿記念碑	田辺市串	明治	—	前ノ川往来（木守～合川）の道路改修に寄与した植田理太郎の顕彰碑。	32
05	02	碑（道路開通記念）	田辺市中屋敷町	昭和	—	弁天通開通記念のため建立。正面には「碑」の一文字、背面に昭和8年3月竣工と刻まれる。氏名は摩滅。	42
05	02	鈴山農道開通記念碑	田辺市鮎川	昭和33年	—	詳細不明。	32
05	02	虎ヶ峯林道開通記念碑	田辺市龍神村上柳瀬（林道沿い）	昭和2年	—	上山路村・中山路村・秋津川村が連合して私設虎ヶ峯林道組合を設けて大正2年起工、延長二里半改修し大正4年竣工。昭和42年大改修。	23
05	02	山地新道記	田辺市上秋津		—	龍神温泉へ行く過酷さと新道建設にかかる経費が刻まれている。	44
05	02	谷川道路開通記念	田辺市秋津川		—	起工日、延長、経費が刻まれている。建立者谷川有志者青年会。建立者谷川有志者青年会。	44
05	02	白浜道路碑	田辺市新庄町内之浦	昭和	—	日本道路公団が地元の要望に応じて市内と白浜温泉を結ぶ有料観光道路約6kmを昭和38年に完成。	25
05	02	松本鉄一郎・岡本清次郎頌徳碑	田辺市龍神村下福井（県道沿い）	昭和36年	—	昭和9年起工・昭和18年竣工した手谷林道（昭和36年県道昇格）に尽力した松本区長と岡本土工組合長を顕彰。奥日高森林組合建立。県知事小野真次書。	23

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	02	林道高野龍神線完工記念碑	田辺市龍神村（護摩壇山付近）	昭和41年	—	正面「一望樹海展眼下（小野真次県知事書）」、台石「工事概要 路線名 林道高野龍神線・・・四十一キロ、工期 自昭和三十三年度 至昭和四十一年度、和歌山県」。	23
05	02	黒ノ峠の道標	田辺市鮎川		—	3方面の地名が刻まれる。下川往来（鮎川～下川下）と三川往来（鮎川～三川）が交わる黒ノ峠に建つ。	32
05	03	小野原橋	田辺市上三栖	昭和10年	—		1
05	03	金比羅橋	田辺市龍神村五味	昭和	—	全長75m、幅員4.5m。	63
05	03	福井橋	田辺市龍神村福井	昭和	—	全長96.2m、幅員5.5m。	63
05	03	皆瀬橋	田辺市龍神村皆瀬・道	昭和	—	全長40.9m、幅員4.5m。	63
05	03	梅津呂橋	田辺市龍神村上湯ノ又	昭和	—	全長48.3m、幅員1.5mの吊橋。	63
05	03	下柳瀬橋	田辺市龍神村小柳瀬・応地	昭和	—	全長61.8m、幅員5m。	63
05	03	龍神橋	田辺市龍神村津ノ又・宮代	昭和	—	全長53.5m、幅員6.25m。	63
05	03	高砂橋	田辺市龍神村殿垣内	昭和	—	全長28.7m、幅員4.5m。	63
05	03	上山路橋	田辺市龍神村西・東	昭和	—	全長73.5m、幅員6m。	63
05	03	保之平橋	田辺市龍神村広瀬・上柳瀬	昭和	—	全長65.8m、幅員4m。	63
05	03	宮の瀬橋	田辺市龍神村福井・津越	昭和	—	全長90.9m、幅員3.6m。	63
05	03	湯本橋	田辺市龍神村湯ノ又	昭和	—	全長38.9m、幅員4m。	63
05	03	鮎川橋	田辺市鮎川	昭和11年	—	橋の完成は鮎川村分断の解消と富里・三川と田辺をつなぐ交流と物流の点からも意義深いものとなった。	32
05	03	請川橋	田辺市本宮町請川	昭和7年	—		1
05	04	水呑隧道	田辺市鮎川	昭和8年	—	上野・竹ノ又と鮎川村小川を結ぶ。	1、32
05	04	深谷隧道	田辺市鮎川・深谷	昭和	—	鮎川と深谷を結ぶ。	32
05	04	高尾隧道	田辺市中辺路町野中・広見川	昭和19年	—	野中と広見川を結ぶ。コンクリートトンネル。木材等の資材の運搬に大きな役割を果たした。	1、40
05	04	逢坂隧道	田辺市中辺路町福定・近露	昭和20年	—	福定と近露を結ぶ。コンクリートブロックトンネル（トンネル内は素掘りモルタル吹付）。工事の請負責任者は近藤愛次郎。	1、40
05	05	開湊碑	田辺市新庄町橋谷地区（山長商店敷地南詰）	大正20年	—	明治22年設立した開湊社の文里港修築の功績と創設者の名前が刻まれている。新庄村商業組合建立。	25、43
05	05	南平藏翁頌徳碑	田辺市新庄町橋谷地区（橋谷天満宮鳥居脇）	昭和16年	—	南の生涯と新庄文里湾の発展は翁の功績と刻まれる。もと文里港近くにあったが昭和の津波後現在地に移転。西牟婁郡新庄村有志建之。	25、43
05	05	榎本彌吉翁碑	田辺市上屋敷町	明治	—	長谷川重基とともに紀勢志三州の航路開拓に尽力した功績が記されている。尾張浅田申之識、福岡鉄崇書。	42
05	05	長谷川重基功績碑	田辺市上屋敷町	明治	—	共立汽船会社を起こした長谷川重基の経歴と功績が刻まれている。農商務次官従四位西村捨三題表、田中荘吉撰。	42
05	05	井沼養衛門氏碑	田辺市末広町	昭和	—	発動機船運送業の開祖で大浜波止場の功労者であることを永久に伝えるため建立された。山本季宣謹書。	42
05	09	水源略記	田辺市三栖	幕末	—	水源の記録が簡潔に刻まれている。鈴木幹造撰。	44
05	09	長野村築テイ碑文	田辺市長野	明治	—	堰堤と川道を整えたことで民福に害はないと刻まれている。明治22年大水害？。日比重明撰並書。	44
05	09	赤木友之助翁頌徳碑	田辺市鮎川		—	赤木友之助氏は、富田川河川に深く関わった元助役で、富里三川運搬組合長を務めている。	32、46

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	新池之記碑	田辺市新庄町内之浦	明治	—	水不足の内之浦では元村長中嶋悦蔵の祖父栄七が頼母子講を結成して貯水池を開掘。明治28年完成。	25
07	01	川崎水路トンネル(円五郎トンネル)	田辺市中辺路町近露	明治43年	—	親子が掘り抜いた素掘りの農業用トンネル水路。	1
07	01	三ツ石溝	田辺市龍神村栃谷～丹生平	明治4年	—	—	1
07	01	三ツ石溝記念碑	田辺市龍神村東	昭和31年	—	嘉永年間に救民のため計画し、明治4年起工・竣工した水路で、明治22年洪水で壊滅。復旧したが一部通水できず隧道を施工した経緯を刻む。脇に完成記念の歌碑(武田清長)あり。	23
07	01	芝向水路	田辺市龍神村津木～鍛冶ヶ谷	大正14年	—	—	1
07	01	黒瀬水路	田辺市中辺路町近野	昭和9年	—	—	1
07	03	開墾成功之碑	田辺市上秋津	昭和	—	満3年6か月をかけて、迫戸地区の一部を開墾した経緯、経過、関係者名が刻まれている。上秋津村長中山利助誌。	44
07	03	埋立記念碑	田辺市江川	大正	—	碑文はない。埋立落成を記念し建立した。	42
07	03	文里土地開拓碑	田辺市文里1丁目	大正	—	文里の開拓への経緯と発起人、起工・竣工日が刻まれる。文里入口にあつたが現在は移転。建立者湯崎温泉文里土地株式会社。	42
07	03	桐本庄之助ノ墓	田辺市新屋敷町	昭和	—	文里移転の時期尚早を民衆を代表して訴えたが、かなわず海に身を投げたことと碑建立の経緯が刻まれている。柴庵学人記。	42
07	04	前ノ川製板所跡	田辺市木守	明治～大正	—	製板所(石垣・排水口・機械台基礎、窯等)、鉄砲堰、導水路堰堤の杭穴残る。奈良県出身植田理太郎が製板事業を始め、明治39年「日本製材(株)木守出張所」、さらに「丸み製板所」と変遷。	35
07	04	安川製板所跡	田辺市安川	明治～大正	—	製板所(石垣・排水路・機械台、水車用水路等)、取水堰、水路残る。明治42年に田辺出身近藤新十郎が製板事業を始め、操業10年を終え大正8年に撤収。	35
07	04	和田川製板所跡	田辺市和田	明治～?	—	製板所(石垣・水車等)、索道のワイヤーをかけた旦那岩、取水用堰堤。佐武伊平と植音松の共同経営で、創業は明治44年頃と推察。	—
07	04	植田理太郎君道路開鑿記念碑	田辺市串	明治	—	製品搬出の必要から、木守～合川まで約五里半(22km)の牛馬車道の改修工事に富与した植田理太郎の顕彰碑。	—
07	04	侍従御差遣記念碑	田辺市伏菟野	昭和	—	木炭の奨励を受け、差遣があつたことを記念し建立された。建立者伏菟野木炭協会会長榎本甚助。	44
07	04	法傳寺の無縁仏	田辺市下川上	明治～大正	—	危険な仕事で事故や病気で亡くなった安川製材所の従事者の無縁仏が納められる。当初下川上の無縁墓地に埋葬されたが道路工事で移転。	—
07	04	真砂久一氏頌徳碑	田辺市深谷	昭和	—	森林施業や社会教育事業に従事した真砂久一氏の生涯と功績が刻まれている。三川村深谷小谷句建之。	46
07	05	勝浦沖難船溺死者之碑	田辺市古尾	明治	—	碑文はない。	42
07	05	勝浦沖難船溺死者の碑	田辺市古尾	明治	—	サンマ漁船の犠牲者慰霊碑。明治25年の勝浦沖でのサンマ漁船の犠牲者慰霊碑。749名出漁、生存者520名、行方不明者229名。一部は八丈島に流される。	31
07	07	田辺管内新庄村新築塩区之碑	田辺市新庄町(新庄公民館)	明治44年	市指定	天保飢饉時の天正9年に旧塩田を田畑にし、新たに塩田を開拓した田辺領家臣の功績を讀える。元は新庄尋常高等小学校内に建立。	25
08	06	木津医院	田辺市中屋敷町	昭和3年頃	—	—	1
08	06	目良純齋先生墓碑	田辺市稲成町	明治	—	医者が目良純齋の功績が刻まれている。子碧斎が建立。	43

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	06	目良碧齋墓碑	田辺市稲成町	明治	—	医者の子目良碧齋の生涯と業績、碧齋を取り巻く当時の社会情勢が刻まれている。碧齋撰並建。	43
08	06	天然医方	田辺市磯間	明治	—	「目良碧齋設海場干三壺崎明治巳午四月」以外、碑面の風化が進み読みとがでない。	42
08	06	目良三柳氏の碑	田辺市稲成町	昭和	—	医者で田辺町議会議員を務めた目良三柳の生涯と功績が刻まれている。	43
08	06	「種痘医 小山肆成」碑	田辺市新庄町（紀南病院玄関前）	平成17年	—	鎮国時の天保14年、独自に種痘法を完成した小山肆成の偉業を称える顕彰碑。公立紀南病院組合建立。	25
08	08	三壺崎海水浴場碑	田辺市磯間	明治	—	明治20年に磯間エビス浦を三壺崎と名付けた目良碧齋が建てたもので、三壺崎海水浴場の効能が刻まれている。	42
08	08	赤別荘	田辺市下屋敷町	昭和8年頃	—	龍神温泉の伝統的な和風建築の旅館。紀伊徳川家の湯治場としての由緒。木造総2階建て。	1
08	08	上御殿本館	田辺市龍神村龍神	明治18年	国登録	川湯温泉において伝統的な外観を残す老舗旅館。木造総2階建、入母屋造棧瓦葺き。	2
08	08	亀屋旅館本館	田辺市本宮町川湯	昭和3年	国登録	湯の峰温泉街に江戸後期に創業した老舗旅館。昭和初期に本館裏手の2階建てで上家棟が増築され、昭和30年代に本館が建替えられる。	2
08	08	旅館あづまや	田辺市本宮町湯峯	昭和初期	—	正面「宝永津波の碑」、右面「津波到達線（古老言傳） 海抜十三米八十糎」、裏面「平成二十四年春調査建立 新庄公民館」。	25
08	09	宝永津波の碑（津波到達線）	田辺市新庄町（大潟神社石段脇）	平成24年	—	陸橋下の海抜12.79m地点に津波潮位を示す黒御影石製プレート了新庄公民館が設置。	25
08	09	宝永の津波潮位プレート	田辺市新庄町（東光寺前陸橋下）	平成10年	—	宝永地震と安政南海地震の津波の高さの違いについて刻まれている。海抜17.1m。新庄公民館建立。	25
08	09	津浪之碑	田辺市新庄町（東光寺山門前）	昭和48年	—	安政南海地震に伴う津波到達点（海抜9.0m）。新庄公民館建立。	25
08	09	安政津浪の碑（潮位線）	田辺市新庄町（橋谷天満宮の階段脇）	昭和47年	—	安政南海地震に伴う津波到達点（海抜8.5m）。新庄公民館建立。	25
08	09	安政津浪の碑（潮位線）	田辺市新庄町（北原河内神社参道）	昭和47年	—	安政南海地震に伴う津波到達点（海抜7.6m）。新庄公民館建立。	25
08	09	安政津浪の碑（潮位線）	田辺市新庄町（名喜里大潟神社の階段脇）	昭和47年	—	安政南海地震に伴う津波到達点（海抜9.8m）。新庄公民館建立。	25
08	09	安政津浪の碑（潮位線）	田辺市新庄町（跡之浦梵天社石段脇）	昭和47年	—	安政南海地震に伴う津波到達点（海抜7.6m）。新庄公民館建立。	25
08	09	安政津浪の碑（潮位線）	田辺市新庄町（内之浦山祇神社階段脇）	昭和47年	—	安政南海地震、昭和南海地震に伴う津波の潮位を示しているモニュメント（海抜3.8m）。	25
08	09	安政南海津波潮位碑・昭和南海津波潮位碑	田辺市新庄町（内之浦ひがた親水公園）	平成11年	—	昭和南海地震に伴う津波の潮位を示す。海抜2.3m。駅前国道筋新庄町456番地田辺木協前から移動。	25
08	09	南海大地震津浪潮位標（駅前）	田辺市新庄町（JR紀伊新庄駅前）	昭和23年	—	昭和南海地震に伴う津波の潮位を示す（国道バイパス北原高架下）。海抜4.5m。新庄町745番地から移動。	25
08	09	南海大地震津浪潮位標	田辺市新庄町（北長町内会館前）	昭和23年	—	昭和南海地震に伴う津波の潮位を示す。海抜2.6m。新庄町651番地の役場前から移動。	25
08	09	南海大地震津浪潮位標（役場前）	田辺市新庄町（JA新庄支所橋詰）	昭和23年	—	昭和南海地震に伴う津波の潮位を示す。海抜2.5m。新庄町2632番地から移動。	25
08	09	南海大地震津浪潮位標	田辺市新庄町（跡之浦小公園内）	昭和23年	—		25

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	南海大地震津浪潮位標 (内の浦部落会館前)	田辺市新庄町 (内之浦町内会館敷地内)	昭和23年	—	昭和南海地震に伴う津波の潮位を示す。海拔4.0m。旧内の浦部落会館前から新内の浦町内会館前に移動。	25
08	09	南海道地震潮位プレート	田辺市新庄町 (跡之浦町内会館前)	平成18年	—	跡之浦町内会が設置。ステンレス製プレート。海拔3.7m。外壁に津波痕跡があった民家撤去の際にレベルを再現。	25、43
08	09	南海道大地震津浪潮位標	田辺市新庄町 (内之浦山祇神社階段脇)	平成3年	—	コンクリート造で、昭和南海地震の津波の潮位を示している。海拔6.0m。	25
08	09	南海大地震津浪遭難者供養像	田辺市新庄町 (東光寺墓地内)	昭和51年	—	東光寺墓地内に、昭和南海地震遭難者の供養と後世への警告のため供養像を建立。地区別69名の遭難者名を刻む。	25
08	09	南海道地震津波潮位標	田辺市芳養町	昭和	—	昭和南海地震に伴う津波の潮位を示している。	
08	09	一本松地藏の山 (昭和南海地震関係)	田辺市新庄町		—	昭和南海地震の際、多くの遭難者が逃げた場所で、たき火をたいた。周囲より一段高い土地で、現在果樹園となる。	
08	09	稲妻墓 (昭和南海地震関係)	田辺市新庄町	昭和	—	昭和南海地震で避難所より援護局の人の遺体を運び、仮埋葬した。遺族が来られた時は、墓掘り返し遺体を引き渡した。	
08	09	防潮堤 (昭和南海地震関係)	田辺市新庄町 橋谷〜名喜里 (文里港)	昭和25年	—	昭和南海地震後に検討された津波対策のひとつ。製材工場群から住宅を守るため、全長1030mの防潮堤が築かれ、現在もその役割を果たす。	25
08	09	チリ地震津波の碑 (潮位線)	田辺市新庄町 (橋谷会館敷地内)	令和2年	—	昭和35年5月24日のチリ地震の津波潮位を示す。新庄の歴史に親しむ会が60周年目に建立。	25
08	09	チリ地震津波の碑 (潮位線)	田辺市新庄町 (波止場大師堂出井地区集会所)	令和2年	—	昭和35年5月24日のチリ地震の津波潮位を示す。新庄の歴史に親しむ会が60周年目に建立。	25
08	09	チリ地震津波の碑 (潮位線)	田辺市新庄町 (新庄公民館敷地内)	令和2年	—	昭和35年5月24日のチリ地震の津波潮位を示す。新庄の歴史に親しむ会が60周年目に建立。説明版も設置。	25
08	09	左向谷迫戸の砂防堰堤 (明治22年大洪水関係)	田辺市上秋津	明治	—	明治22年大洪水後、土砂災害防止のための堰堤。コンクリートを使用しない空石積工法で1つ1つの石が大きいことが特徴。現在も砂防堰堤として機能。	
08	09	会津川の堤防 (明治22・26年大洪水関係)	田辺市下万呂〜上万呂	明治	—	明治22年、26年の大洪水で荒廃した会津川をオランダ人の計画で川敷拡張、連続堤・高堤防化を推し進めた。明治27年に補助金を受け河川改修。	
08	09	熊野本宮大社旧社地大斎原 (明治22年大洪水害)	田辺市本宮町本宮		国史跡	明治22年大洪水で社殿流出、明治24年に上四社は現在地へ移転。水害後中四社・下四社を祀る石祠が建てられ、基壇や石垣等が往時の姿を残す。国史跡熊野三山に指定。	
08	09	長野八幡神社 (明治22年大洪水関係)	田辺市長野		—	明治22年大洪水の際、社殿が流出したが氏子によりご神体が救出。社殿は明治27年に再建、現在も神社として機能している。	
08	09	西尾岩吉先生頌徳碑 (明治22年大洪水関係)	田辺市中三栖	昭和	—	西尾岩吉先生の経歴と明治22年大洪水時に東奔西走し復旧の難事を達成したことが刻まれる。三栖青年会建之。	44
08	09	招魂碑 (明治22年大洪水関係)	田辺市秋津町	明治	—	明治22年大洪水の慰霊碑。	43
08	09	水難記念碑 (明治22年大洪水関係)	田辺市長野	昭和	—	明治22年大洪水における長野八幡神社の惨状と神社の判断、取り組みが刻まれている。俊明謹誌。	44
08	09	水難者慰霊碑 (明治22年大洪水関係)	田辺市龍神村柳瀬		—	明治22年大洪水の慰霊碑。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	洪水記念碑（明治22年大水害関係）	田辺市本宮町		—	明治22年大水害の記念碑。	
08	09	大洪水の記念碑（明治22年大水害関係）	田辺市本宮町請川		—	明治22年大水害の記念碑。	
08	09	明治22年大水害百周年記念碑	田辺市湊	平成	—	明治22年大水害の最高水位を示している（蟻通神社前）。	
08	09	明治22年大水害百周年記念碑	田辺市湊	平成	—	明治22年大水害の最高水位を示している（消防団支部横）。	
08	09	明治大水害記念碑（明治22年大水害）	田辺市高雄一丁目	平成	—	明治22年大水害の栄町・本町付近の最高水位を示している。	
08	09	記念碑（安政地震・明治22年大水害・明治36年大火事）	田辺市本宮町湯峯		—	安政地震、明治22年大水害、明治36年大火事が刻まれている。	
08	09	治水紀功之碑（明治26年大水害関係）	田辺市本町	明治	—	西牟婁郡内の日置川、富田川、会津川の明治26年大水害の惨状と明治27年河川改修の偉功が刻まれる。旧台場公園にあったが明治41年旧会津橋東詰堤へ移転。秋山徳隣謹撰。	42
08	09	ジェーン台風殉難者之碑	田辺市古尾	昭和	—	ジェーン台風の慰霊碑。江川漁業協同組合建之。	
08	10	栗栖七郎翁彰徳碑	田辺市天神崎	昭和	—	人権運動に取り組んだ功績が刻まれている。建立者西牟婁地方人権尊重推進会。	43
08	13	旧南方熊楠家住宅	田辺市中屋敷町	明治中期～	国登録	大正5年から25年間過ごし、植物学、民俗学に打ち込む。庭の柿の木から新種変形菌の発見など研究園でもあった。主屋、書斎、土蔵、井戸屋形、庭が残る。建物は国登録有形文化財。	
08	13	南方熊楠の墓	田辺市稲成町	昭和	—	昭和16年74歳で永眠し、高山寺境内墓地に建つ。字は弟子の雑賀貞次郎が熊楠の自筆文字の中から選んだ。	
08	13	南方熊楠翁顕彰碑	田辺市扇ヶ浜	昭和	—	南方熊楠の顕彰碑。	
08	13	昭和天皇行幸記念歌碑（南方熊楠関係）	田辺市新庄町（神島）	昭和5年	—	熊楠は昭和4年神島に上陸時に御召艦長門で昭和天皇に拝謁。南方熊楠自詠自筆の歌を刻む。建立者新庄村、南方研究所。	25、43
08	13	神島（南方曼陀羅の風景地）	田辺市新庄町		国天然・名勝	昭和天皇行幸に際し御召艦で進講。標本110点をキャメル箱に入れ進献。後日、熊楠自詠自筆の行幸記念碑が建立。神島保全運動を展開し、昭和5年県指定、昭和10年国天然記念物。	
08	13	闘雞神社（南方曼陀羅の風景地）	田辺市東陽		国史跡・名勝	田辺に居を構えた頃から調査研究の場として、『南方二書』で飯庵山を平地には類を見ない密林で風致景観上の重要性を指摘した。妻松枝は田村宗造宮司の四女。	
08	13	須佐神社（南方曼陀羅の風景地）	田辺市下万呂		国名勝	『南方二書』でシイに寄生した大葉ヤドリギが紫褐色の花を咲かせたと記した。	
08	13	伊作田稻荷神社（南方曼陀羅の風景地）	田辺市稲成町		国名勝	「森林鬱蒼たる大社」と評価し、『牟婁新報』で植物研究の対象として保護すべき「本邦稀有の珍品」であるとした。	
08	13	継桜王子（南方曼陀羅の風景地）	田辺市中辺路町野中		国史跡・名勝	明治期に合祀に伴い全伐の危機に瀕したが、熊楠らの運動で一方杉31本のうち9本が残った。『南方二書』に重要性が記されている。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	13	高原熊野神社 (南方曼陀羅の風景地)	田辺市中辺路町高原		国史跡・名勝	『南方二書』に樹齡800年の大樟樹を削って棒を造りご神体としたと記し、小畔四郎宛の書簡で周辺村民が一丸となり反対し合祀が立ち消えたと記す。	
08	13	奇絶峽 (南方曼陀羅の風景地)	田辺市上秋津		国名勝	『南方二書』で奇絶峽の「美景は耶馬溪に優れること数等なる上珍植物多し」と評価し、道路建設等の開発による破壊を憂えた。	
08	13	龍神山 (南方曼陀羅の風景地)	田辺市上秋津		国名勝	『南方熊楠日記』で植物採集したと記され、『南方二書』では人々に親しまれた山で、その絶景は子供教育にも役立つとした。	
08	13	天神崎 (南方曼陀羅の風景地)	田辺市天神崎		国名勝	熊楠が保護すべき景勝地としてあげたと伝わり、後に日本のナショナルトラスト運動の発祥地となる。熊楠の世界観・風景観を継承。	
08	13	糸田猿神社跡 (南方熊楠関係)	田辺市稲成町		—	多数の粘菌を採集し、神社合祀反対運動のきっかけとなった神社。新種粘菌アオウツボボコリの発見場所。明治40年4月1日合祀・廃社が決定、社叢は完全伐採。	
08	13	横手八幡神社 (南方熊楠関係)	田辺市高雄三丁目		—	『南方二書』添付の写真裏書きに勝景の地の景観破壊を嘆いている。	
08	13	磯間浦安神社 (南方熊楠関係)	田辺市磯間		—	合祀から逃れたこの地で、神社合祀への怒りをにじませている。ここから神島を遠望している。	
08	13	神楽神社 (南方熊楠関係)	田辺市神子浜		—	神社の森の裾にため池があり、珍種の藻を発見。合祀による史跡や天然記念物の消失も指摘。	
08	13	日吉神社 (南方熊楠関係)	田辺市神子浜		—	社叢が特異な形態であるとし、隣接の神楽神社とともに保全を強く呼びかけた。	
08	13	ひき岩群 (南方熊楠関係)	田辺市稲成町		県天然	新聞随筆に指定時の調査の不十分さを指摘したが、景観の優秀性を評価。『南方熊楠日記』に植物採集したと記される。	
08	14	天誅倉 (天誅組関係)	田辺市龍神村小又川	幕末	県史跡	天誅組の一員、水郡長雄一行8名が幽閉された倉。現在の倉は復元されている。	62
08	14	祐川寺 (大逆事件関係)	田辺市本宮町請川	江戸～	—	成石兄弟の菩提寺。「蛙聖成石平四郎の墓」と記された墓石と「蛙聖成石平四郎兄弟之碑」がある。	
08	14	泉蔵施跡 (大逆事件関係)	田辺市本宮町耳打	江戸～	—	明治40年7月成石平四郎は中央大学を卒業後、40～50日間泉蔵庵に籠もり、法律や社会主義関係の本を読む。	
08	14	川湯温泉 (大逆事件関係)	田辺市本宮町川湯		—	明治40年8月末、成石平四郎は毛利柴庵に川湯温泉や瀬峡を案内し、新宮まで同行する。	
08	14	熊野川 (大逆事件関係)	田辺市本宮町		国史跡	明治40年10月成石平四郎は熊野川の船頭となり、船頭組合を組織し、若い船頭を啓蒙したが、無力感と体調不良で2か月足らずで船頭をやめる。	
08	14	湯峯温泉 (大逆事件関係)	田辺市本宮町湯峯		—	明治43年新村忠雄が新宮の大石誠之助宅に居候中、成石平四郎と意気投合し、教週間請川を訪れ、湯峯・川湯温泉に逗留。	
08	14	七越峰 (大逆事件関係)	田辺市本宮町本宮・高山		国史跡	出獄後成石勘三郎は、友人植幸吉と二人で、小学生の頃遠足で行った七越峠へ登り、スシ弁当を食べながら、小学時代、青年時代のことを一日中語り合った。	
09	01	旧田辺市警察署	田辺市上屋敷	昭和24年	—	木造2階建洋館。昭和30年～38年まで田辺市図書館。現田辺市中部公民館。	1
09	04	安藤侯廟碑	田辺市東陽	明治	—	安藤直次侯の功績と藤巖神社の創建について刻まれている。拝書安藤直行。	42

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	04	元宮内大臣伯爵田中光顯潜伏之趾（光顕伯の歌碑）	田辺市龍神村丹生川（県道脇）	昭和11年	—	長州藩の光顕は幕府に追われ慶応元年に龍神村丹生川の千葉熊吉宅に数箇月間隠れた。京へ上る際に千葉家に遺した歌を裏面に刻む。上山路村建立。	23
09	04	脇村友三翁頌碑	田辺市湊	明治	—	幕末の田辺領の大年寄。田辺小学校設立に尽力。碑文はない。正五位男爵安藤直行書。	42
09	04	遺為碑	田辺市秋津町	明治	—	村治に移めた鈴木惣十郎氏の手柄や功績が刻まれている。現在は碑面が摩滅し、読むことができない。村中共立。	43
09	04	林国松翁頌徳碑	田辺市新屋敷町	昭和	—	消防事業功労者として、消防署の近くに建立されている。田辺町建立。	42
09	04	鈴木宗右エ門翁頌徳碑	田辺市秋津町	昭和	—	村長を務めた鈴木宗右エ門氏の功績が刻まれている。建立者下秋津村有志。	43
09	06	海軍正八位中川亀吉碑	田辺市稲成町	明治	—	日清戦争で戦死した中川亀吉の功績が刻まれている。	43
09	06	忠魂碑	田辺市秋津町	明治	—	日露戦争にかかる下秋津村の忠魂碑。建立者牟婁新報社長毛利清雅誌。	43
09	06	士官候補生志波八十八君碑	田辺市秋津町	明治	—	志波八十八氏の生涯と日露戦争の功績が刻まれている。建立者友人一同。	43
09	06	秋津川稲成神社 日露役記念碑	田辺市秋津川（秋津川稲成神社）	明治	—	日露戦争に従事した戦死者、凱旋諸氏を刻んでいる。建立者秋津川村尚武会。	33、44
09	06	忠魂碑	田辺市東陽	明治	—	日露戦争にかかる田辺町、西ノ谷村、湊村の忠魂碑。	42
09	06	闘雞神社 興重聖戦忠魂碑	田辺市東陽（闘雞神社境内）	昭和	—	陸軍少将鯉里行一書。	
09	06	闘雞神社 忠魂碑	田辺市東陽（闘雞神社境内）		—		33
09	06	大谷倉七記念碑	田辺市中万呂	明治	—	日清戦争で戦死した大谷倉七氏の功績が刻まれている。発起人土井良彦、大谷甚蔵。	43
09	06	出征記念碑	田辺市中辺路町大内川	明治	—	日露戦争で出征した方の氏名や碑建立の経過が刻まれている。谷本更生誌。	45
09	06	阪本捨四郎碑	田辺市中辺路町栗栖川	明治	—	日清戦争から凱旋し、日露戦争中に病死した阪本捨四郎氏の功績が刻まれている。栗栖川村有志者誌。	45
09	06	坂本新助兵曹碑	田辺市上秋津	大正	—	日露戦争での創がもとで戦死した坂本新助氏の生涯と功績が刻まれている。父重五郎建之。	44
09	06	上山路村忠魂碑	田辺市龍神村東	大正	—	上山路村の忠魂碑。	63
09	06	中山路村忠魂碑	田辺市龍神村柳瀬	大正	—	中山路村の忠魂碑。	63
09	06	龍神村忠魂碑	田辺市龍神村龍神	大正	—	龍神村の忠魂碑。	63
09	06	下山路村忠魂碑	田辺市龍神村	大正	—	下山路村の忠魂碑。	63
09	06	戦傷者之碑	田辺市稲成町	昭和	—	日露戦争の戦傷者11名の氏名と功績が刻まれている。八巻嘉作謹撰謹書。	43
09	06	戸田晴夫君墓碑	田辺市古尾	昭和	—	戸田晴夫氏の陸軍での功績と生涯について刻まれている。建立者乃父三綱誌。	42
09	06	秀峯義勇居士墓碑	田辺市秋津町	昭和	—	日中戦争で戦死した根岸秀男氏の生涯と功績が刻まれている。	43
09	06	早稲田三等機関兵曹碑	田辺市上秋津	昭和	—	上海事変で戦死した早稲田伊三郎氏の功績が刻まれている。兄杉若茂助建之。	44
09	06	岡田海軍一等水兵碑	田辺市上秋津	昭和	—	海軍に在籍中病死した岡田仁平氏の功績が刻まれている。建立者父岡田卯蔵。	44
09	06	忠臣乃木大將碑	田辺市下三栖		—	三栖王子跡近くの報恩寺裏山に建つ。「妙心管長●湛書」。	
09	06	軍人軍属招魂碑	田辺市下三栖		—	三栖王子跡近くの報恩寺裏山に建つ。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	上芳養小学校 忠魂碑	田辺市上芳養（上芳養小学校校庭）		—		33
09	06	稲成神社 忠魂碑	田辺市稲成（稲成神社境内）		—		33
09	06	八幡神社 忠魂碑	田辺市中芳養（八幡神社境内）		—		33
09	06	珠簾神社 忠魂碑	田辺市三柄（珠簾神社境内）		—		33
09	06	大神社 忠魂碑	田辺市芳養（大神社境内）		—		33
09	06	川上神社 忠魂碑	田辺市上秋津（川上神社境内）		—		33
09	06	秋津川稲成神社 忠魂碑	田辺市秋津川（秋津川稲成神社境内）		—		33
09	06	東光寺 戦没者之霊碑	田辺市新庄町（東光寺境内）	昭和45年	—	正面「戦没者之霊」。下部に戦没者150名の氏名を刻む。	25、33
09	06	長野八幡神社 忠魂碑	田辺市長野（長野八幡神社境内）		—		33
09	06	春日神社 忠魂碑	田辺市下川下（春日神社鳥居横）	大正元年	—	乙女の湯の近くの春日神社鳥居横に建立。「大正元年建之 石工川添村市鹿野佐田勇次郎 陸軍中将正四位勲二等功三級山田保永書」。	
09	06	須佐神社 頌徳社	田辺市万呂（須佐神社境内）		—		33
09	06	豊秋津神社 頌徳社？	田辺市秋津（豊秋津神社境内）		—		33
09	06	千光寺 英霊堂	田辺市上秋津（千光寺境内）		—		33
09	06	万福寺 英霊堂（お砂箱）	田辺市秋津川（万福寺境内）		—		33
09	06	震洋の基地跡（鳥の巣平和公園）	田辺市新庄町	昭和24年	—	小型特攻ボートの震洋の基地。格納トンネル7本確認。平成27年NPO法人震洋鳥の巣基地跡保存会が震洋鳥の巣平和公園開設。休憩室・石碑・説明板・原寸大復元ボート設置。	31
09	06	平和の塔	田辺市龍神村	昭和	—	忠魂碑見直し論により下山路地区遺族会発起で建立。	63
09	06	B29墜落地・慰霊碑	田辺市龍神村殿原	昭和	—	1945年5月5日、爆音がとどろき、火災を噴きながら山林へ墜落。毎年5月5日に慰霊祭を開催。	62
09	06	慰霊碑	田辺市龍神村龍神	昭和	—	忠魂碑見直し論により建立。	63
09	06	田辺文里港 海外引揚者上陸記念碑	田辺市文里2丁目	昭和21年	—	昭和21年文里港は引揚指定港となり22万人が引き上げた。神島高校南西部の公園内に40周年記念事業として昭和61年記念碑建立。	
09	06	大浜台場	田辺市上屋敷2丁目		—	田辺市『田辺市史』第2巻 2003	30
09	06	梅田宅吉の碑	田辺市上秋津		—	日露戦争中に病死した梅田宅吉の功績が刻まれている。梅田仲蔵誌。	44
09	06	故那須庄吉エ門忠魂碑	田辺市長野		—	日露戦争で病死した那須庄吉エ門の功績が刻まれている。	44
09	06	花木徳松碑	田辺市新庄町		—	日露戦争をはじめとした海軍での功績が刻まれている。	43
09	06	殉国乙女の碑	田辺市新庄町（東光寺境内）	昭和45年	—	昭和20年1月19日、動員先の軍需工場で爆撃を受け亡くなった田辺高等家政女学校の氏名11名が刻まれている。	25、31
09	08	大塔宮劔神社碑	田辺市鮎川	昭和	—	大塔宮入村600年を記念し、滞在の経過が刻まれた碑が建立された。田村憲一建之。	45
09	08	北白川宮登臨碑	田辺市天神崎	大正	—	碑文なし。	42

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	08	御大典記念碑	田辺市（湊）	昭和	—	昭和天皇即位の勅語の一句が刻まれ、昭和3年に建立したようだが終戦後行方不明。工事で地下から掘り出され現在地へ建立。	42
10	01	旧田辺高等女学校・開校記念碑	田辺市（湊）	昭和12年	—	木造平屋校舎。現東陽中学校。田辺高等女学校の開校記念碑。	1、31
10	01	退軒湯川先生之碑	田辺市古尾	明治	—	教育者である湯川退軒の生涯と功績が刻まれている。門人鈴木純謹撰。	42
10	01	海野先生の碑	田辺市芳養松原	大正	—	海野先生の生涯と教育に携わった功績が刻まれている。友人南岳杉坂房吉撰。	43
10	01	小川勝門先生の碑	田辺市芳養松原	大正	—	芳養、田辺、白浜の神社の杜司等を務め、その後皇学を修め、教員を務めた功績を刻む。白浜町才野の須原雪女の碑と好一対。門人旭堂榎本東謹撰。	43
10	01	野村先生彰徳碑	田辺市上秋津	昭和	—	教育者の野村先生の生涯と功績が刻まれている。児島献吉郎書。	44
10	02	石田先生之碑	田辺市南新町		—	石田酷古先生自記の碑文。本草学の学者。	42
10	03	建築記念碑	田辺市末広町	大正	—	佛教会館の建築を記念し建立された。	42
10	03	高尾山経塚記念塔	田辺市上秋津	昭和	—	千光寺の歴史と高尾山経塚の発掘、出土品のことが刻まれている。	44
10	05	市営総合グラウンドのスタンド（現田辺商工）	田辺市文里	昭和25年	—		1
10	05	戒石初太郎碑	田辺市上の山2丁目	大正	—	碑文なし。紀南相撲協会取締役沖田栄次が建立したか。	42
10	05	沖田川栄吉碑	田辺市上の山2丁目	大正	—	碑文なし。建立者大阪角力協会地方頭取。	42
10	06	錦水神社碑	田辺市東陽	明治	—	碑文なし。	42
10	06	岩屋山大悲閣の碑	田辺市稲成町	昭和	—	岩屋鶴音創建の推察と明治14年以降の境内の整備等について刻まれている。世話人稲成村谷字民一同。	43
10	06	伊藤貫一牧師之碑	田辺市末広町	昭和	—	教会で勤めた伊藤貫一牧師の功績が刻まれている。建立者協会関係者一同。	46
10	06	牧師山内量平氏の記念碑	田辺市末広町		—	細字のため不明。建立者日本福音ルーテル教会。	46
10	07	弁慶松由来記	田辺市新屋敷町		—	弁慶ゆかりの事柄やその時代の田辺の歴史や文化と弁慶松について刻まれている。	42
10	07	教育勅語30年記念碑	田辺市向山	大正	—	向山青年会、常口婦人会建立。	32
10	07	盤洞詩碑	田辺市上の山2丁目	昭和	—	コングリート造で、詩も碑も全て自作自筆自建。	43
10	07	惠精歌碑	田辺市三栖	昭和	—	三原惠精の歌碑が刻まれている。	44
10	07	虎ヶ峯の歌碑	田辺市龍神村（虎ヶ峯龍神村側道路脇）	昭和20年	—	杉巨木・石仏とともに建つ。「天孫降臨の地 天地の誓い固めし虎ヶ峯 双龍共に縁結びの神 昭和廿年八月吉日」。	23
10	07	弁慶松句碑	田辺市福路町	昭和	—	元禄頃の浪華の隠士、榎並舎羅が読んだ句が刻まれている。祇園さんから移された。	42
10	07	三原惠精尼句碑	田辺市古尾	昭和	—	三原惠精尼の句が刻まれている。碑の材は元会津橋の標柱を利用している。	43
10	07	青々句碑	田辺市秋津川	昭和	—	句が刻まれている。建立者山本孫一郎。	44
10	07	嵐雪句碑	田辺市中辺路町近露・野中	昭和	—	嵐雪の句が刻まれている。筆者野村第一風。	45
10	07	虚子句碑	田辺市中辺路町近露・野中	昭和	—	虚子の句が刻まれている。建立者小山耕生。	45
10	07	座囀句碑	田辺市古尾		—	座囀の句が刻まれている。	43
10	07	田所八悟句碑	田辺市上の山2丁目		—	田所八悟の句が刻まれている。	42
10	07	松尾魂亭句碑	田辺市上の山2丁目		—	松尾魂亭の句が刻まれている。	42

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	07	玉置香風句碑	田辺市上の山2丁目		—	玉置香風の句が刻まれている。	42
10	07	目良風鴉句碑	田辺市稲成町		—	目良風鴉の句が刻まれている。	43
10	07	小川白砂、飯塚春水句碑	田辺市稲成町		—	小川白砂、飯塚春水の句が刻まれている。	43
10	07	神子阿涼句碑	田辺市稲成町		—	神子阿涼の句が刻まれている。	43
10	07	野村第一風の句碑	田辺市稲成町（高山寺）	昭和11年	—	昭和11年没後、門人たちが建立。上秋津生まれの文化人で、安養寺住職。	23
11	01	温恭藤浅子の墓碑	田辺市南新町		—	生まれてすぐに亡くなった赤ん坊を悼んだ墓碑。	46
11	01	妙教院殿碑	田辺市南新町		—	田辺藩主安藤直裕が継母のために建立。藤原直裕謹建。	42
11	01	藤川慶三之碑	田辺市新屋敷町		—	明治42年6月9日にフィリピンで病死したと刻まれている。	42
11	01	淡水柏木常雄碑	田辺市東陽	大正	—	— 碑文はない。従四位男爵安藤直雄書。建立者有志者。	42
11	01	岩浪市五郎之碑	田辺市上の山2丁目	明治	—	— 碑文なし。建立者世話人中。	42
11	01	若千鳥松吉之碑	田辺市上の山2丁目	大正	—	— 碑文なし。建立者世話人。	42
11	01	故染分唯七之碑	田辺市上の山2丁目	大正	—	— 碑文なし。	42
11	01	撫養重太夫翁頌徳碑	田辺市鮎川		—	— 詳細不明。	46
11	01	森脇竹蔵翁頌徳碑	田辺市鮎川		—	— 詳細不明。	46
11	01	城戸染蔵翁頌徳碑	田辺市下川下		—	— 詳細不明。	46
11	01	新谷頼蔵翁頌徳碑	田辺市下川上		—	— 詳細不明。	46
11	01	桜瀬さん先生頌徳碑	田辺市下川下		—	— 詳細不明。	46
11	01	両臺制記念碑	田辺市新庄町（跡之浦山上墓 地）	昭和28年	—	昭和26年のルース台風により両臺制のうち埋め墓が流失。新たに地区東方の丘陵地に共同墓地を造成。	25

【白浜町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
01	01	間歩穴	白浜町湯崎周辺	昭和か	—	採掘坑（ほとんどもが埋められている）。鉱山産業が盛んだったことを示す。	
01	01	鉱山施設跡	白浜町湯崎周辺（梶原谷）	大正8年～	—	大正～昭和頃の鉱山採掘施設。鉱山産業が盛んだったことを示す。	
01	01	鉱石搬出港跡	白浜町湯崎周辺（梶原谷）	大正8年～	—	大正～昭和頃の鉱山採掘鉱石を搬出するための港。鉱山産業が盛んだったことを示す。	
01	04	精錬焼成窯跡	白浜町久木	江戸～近代？	—	石組みの焼成窯が大小3窯ずつ配置。周囲に坑道や鉱滓発見。	
01	04	富田石石切り場跡	白浜町堅田	明治～大正	—	良質な砂岩である富田石の石切り場跡。	
04	02	豊田与之助君頌功碑	白浜町 南富田（金毘羅宮）	明治44年	—	南富田村蚕業組合を設立して尽力した功績を讃える。南富田村蚕業組合員が建立。	24
04	04	原民蔵之臺	白浜町（草堂寺）	明治11年	—	讃岐の原民蔵が文久年間に白浜に来て白砂糖の製法を伝授し、特産品とする功績を刻む。	24
04	05	仏国理学博士 今津明先生・同礼子夫人記念碑	白浜町（御幸通り）	昭和35年	—	徳島生まれの理学博士。大阪で今津化学研究所設立、害虫駆除剤開発。晩年、白浜当屋敷に隠居、屋敷の整地開発に尽力。	24
04	08	貝釷用貝殻散布地	白浜町富田	昭和	—	富田で盛んであった貝釷をとった後の貝の捨て場。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	椿駅 (JR紀勢本線)	白浜町椿	昭和9年	—	昭和40年に紀伊椿駅から椿駅に改称。昭和60年に無人化。	1
05	01	紀伊日置駅 (JR紀勢本線)	白浜町日置	昭和9年	—	昭和29年に一部改修、昭和60年に無人化。	1
05	01	日置川橋梁 (JR紀勢本線)	白浜町日置～安宅	昭和11年	—	日置川に架橋。延長326m。	1
05	01	富田川橋梁 (JR紀勢本線)	白浜町富田	昭和10年	—	延長290m。富田川に架橋。	
05	01	安宅坂トンネル	白浜町～すさみ町	昭和11年	—	周参見～紀伊日置間の全長1280mのコンクリート製隧道。JR紀勢本線。	1
05	02	旧日置大橋	白浜町日置	昭和13年	—	鉄筋コンクリート製、全長159.34m。欄干にB29による機銃掃射の弾痕痕跡 (現在は、別の場所で部分的に保存)。令和2年度に撤去 (一部橋梁が河川内に残る)。	1
05	02	西前線改修記念碑	白浜町堅田	昭和6年	—	県道沿い堅田第二踏切そばに建立。昭和5年竣工の村道。延長二百九間の改修。	78
05	02	河野一郎先生頌徳之碑	白浜町富田 (国道沿い)	昭和41年	—	「国道開通之恩人 正二位勲一等 河野一郎先生頌徳之碑 衆議院議長山口喜久一郎謹書」、「白浜町有志一同」。	
05	03	宇津木橋	白浜町宇津木	昭和37年	—	橋長127.8m、幅員4.5m、トラス橋。日置川に架橋。	
05	03	久木橋	白浜町久木	昭和30年	—	橋長110m、幅員5m、トラス橋。日置川に架橋。	1
05	03	岡里橋	白浜町富田	昭和	—	一部補修がされているが、管内唯一の現役で使用される木橋。富田川支流高瀬川に架橋される。紀州藩主の狩場があったので、オカリ→岡里という名になったとの伝承あり。	
05	03	小房橋	白浜町小房	昭和36年	—	橋長119.7m、幅員4.5m、鋼製吊り橋。日置川に架橋。	
05	04	旧卒塔婆隧道	白浜町玉伝～上富田町生馬	昭和5年	—	延長88m、幅員3.6m。コンクリートブロックトンネル。難所であった白浜町玉伝～上富田町生馬を結ぶ。	1
05	04	湯崎隧道	白浜町湯崎	昭和10年	—	延長31m、幅員5.1m。現役使用。ポータル石積み、側壁コンクリート。	1
05	05	棒杭 (ボーグイ)	白浜町沿岸部 (白良浜等)	大正～昭和	—	白砂や様々な商品を積みだすための船を舫う石製の棒。大阪への運搬等に利用。	78
05	07	市江埼灯台	白浜町市江	大正10年	—	八角形の灯塔に平屋の付属室が接続。高11m。完成後の外観変更はないが、昭和52年に無人化。	1
05	10	南紀白浜空港滑走路 (旧空港)	白浜町	昭和43年	—	昭和43年開業当時の滑走路 (約1k m)。	
07	01	富田川 血深井堰	白浜町	明治27年	—	富田地区38haを潤す灌漑用水施設。	
07	01	富田川 大井堰	白浜町	明治23年	—	栄・中・才野地区69haを潤す灌漑用水施設。	
07	05	(上組) 汁納屋	白浜町中	昭和	—	昭和の改修。一部に江戸時代後期の木組を残す。地引き網漁の盛況だったことを示す。	2
07	05	(上組) 網納屋	白浜町中	昭和23年	—	網の制作やその保管を行った建物。地引き網漁の盛況だったことを示す。	2
07	05	(上組) 大網船納屋	白浜町中	昭和23年	—	船を納める巨大な小屋。当時の和船3艘が残る。地引き網漁の盛況だったことを示す。	2
07	05	(下組) 共同炊飯所	白浜町中	昭和	—	昭和21年改築。網納屋と汁納屋が合体した小屋。当時の和船3艘が残る。地引き網漁の盛況だったことを示す。	
07	05	堅田 重作氏之像	白浜町堅田	昭和41年	—	堅田漁業協同組合構内に建立。大正10年細野湾で真珠貝アコヤ貝の自生を発見、真珠養殖場を造る。	78
07	06	久木風穴	白浜町久木	大正	—	蚕の保存用洞窟。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	08	久木越えの炭焼窯	白浜町久木	明治期か	—	完存する炭焼窯。古座街道沿いに位置する。	
08	04	源泉施設	白浜町湯崎ほか	昭和3年	—	硫湯（湯崎七湯の一つ）他。観光客が宿泊した。	
08	05	児童公園門碑	白浜町（瀬戸御船山麓児童公園）	昭和25年	—	児童公園入口の門柱に「のびよ あかるくすこやかに ふるさとの子ら 町制十周年記念 昭和二十五年三月三日開園」。	24
08	06	辻田雪江先生頌徳碑	白浜町 綱不知	平成13年	—	明治44年生まれ、昭和12年医院開業。地域医療に尽力。	
08	08	旅館万亭	白浜町山神通	昭和31年	—	白浜温泉街を見下ろす高台の山上通りに面する。平田雅哉による建築（改築）。本館と離れ。観光客が宿泊した。	2
08	08	小竹岩楠翁碑	白浜町（御幸通常喜院下路傍）	昭和33年	—	白浜温泉郷開発に尽力した実業家の遺徳を顕彰。	24
08	08	小竹岩楠翁銅像	白浜町（常喜院境内）	昭和39年	—	保田龍門作。戦時中に金属回収で献納後、昭和39年再建。昭和10年の銅板銘文。	24
08	08	辻利吉君頌徳碑	白浜町（椿温泉裏山大師堂の台地）	昭和8年	—	椿温泉の開発・経営に尽力。	24
08	08	辻照三翁頌徳碑	白浜町（椿温泉裏山大師堂の台地）	昭和26年	—	辻利吉の跡をうけて椿温泉の開発・経営に尽力。	24
08	09	岩城惣八墓石碑文（宝永・安政大地震・明治22年大水害関係）	白浜町 綱不知	明治26年	—	岩城惣八夫妻の墓石に宝永・安政大地震、明治22年大水害の様子を刻む。	24
08	09	大津浪犠牲者供養塔・大津浪津波潮位線	白浜町 綱不知（地蔵堂）	昭和36年	—	昭和35年大津波の津波潮位線。昭和21年南海大地震の大津波の犠牲者21名のためにチリ地震一周忌に建立。	24
08	09	林翁寺 洪水到達水位碑（明治22年大水害）	白浜町内ノ川（林翁寺）	昭和	—	明治22年水害による水位碑。富田川洪水記として経緯を記す。	24
08	09	群霊記念碑（富田川洪水記）（明治22年水害）	白浜町内ノ川（林翁寺）	明治	—	明治22年水害による記念碑。碑の側面に記録。	
08	09	野田民治氏治水功績碑（明治22年大水害）	白浜町内ノ川	明治32年	—	明治22年水害後の治水事業に対する功績碑。	
08	09	洪水溺死者各霊墓（明治22年大水害）	白浜町中	明治23年	—	明治22年水害による慰霊とともに、洪水の概要や危険性を後世に伝える。	24
08	09	春日神社境内 洪水到達水位碑（昭和33年水害）	白浜町田野井	昭和33年	—	昭和33年日置川水害による水位碑。災害の記憶を伝える。	
08	09	三須和神社 洪水到達水位碑（昭和33年水害）	白浜町安居	昭和33年	—	昭和33年日置川水害による水位碑。災害の記憶を伝える。	
08	09	大古地区 洪水到達水位碑（昭和33年水害）	白浜町大古	昭和33年	—	昭和33年日置川水害による水位碑。災害の記憶を伝える。	
08	09	工事完成記念誌	白浜町 湯崎	昭和24年	—	湯崎岸壁コンクリート柱にはめこみ銅板で記されていたが昭和37年埋立・護岸工事で撤去。昭和21年南海大地震後、昭和24年嵩上げ工事完成。	24
08	09	一徳地蔵尊縁起銅板	白浜町中（旧南富田小学校校庭）	昭和13年	—	昭和12年12月20日、小学校講堂で支那事変出征遺家族慰安の映画会で発生した火災の犠牲者約80名を追悼。	24

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	南海道地震による津波の潮位碑	白浜町 綱不知	平成8年	—	昭和21年の南海大地震の津波潮位を刻む。震災50周年に白浜町建立。	
08	13	南方熊楠記念館本館（南方熊楠関係）	白浜町字崎の北	昭和40年	国登録	昭和40年建築、平成29年改修。	
08	13	昭和天皇陛下御歌の碑（南方熊楠関係）	白浜町 番所山（南方熊楠記念館前）	昭和39年	—	昭和4年に昭和天皇行幸時に熊楠が案内したことを回想して昭和37年に詠んだ御歌を刻む。	24
09	04	杉本翁頌徳碑	白浜町堅田（聖徳寺境内）	大正8年	—	西富田村初代村長、村会議員、社寺総代、郡農会議員、村農会長などを歴任した業績を記す。	24
09	04	楠本捨吉翁頌徳碑	白浜町内ノ川（北富田小学校北東側道路沿い）	昭和43年	—	北富田地区民一同建立。村長在職24年間に地域開発と福祉向上に努めた。	
09	06	臨海海軍部隊跡地	白浜町臨海	昭和20年	—	トーチカ跡（隧道）。八角コンクリート製砲座防護壁。	
09	06	市江崎特設見張場	白浜町市江	昭和19年	—	第2電波探信所跡。方形の掘形で、海側に通路あり（見張り場）。	
09	06	草堂寺 忠魂碑	白浜町富田	明治39年	—	日露戦争戦没者の忠魂碑。前面に日露戦争～太平洋戦争の東富田地区の英霊之標（昭和61年）あり。	24
09	06	林翁寺 忠魂碑	白浜町内ノ川	明治40年	—	日露戦争戦没者の忠魂碑。石碑に太平洋戦争戦没者銘板（86名の氏名）埋め込む（昭和51年）。	24
09	06	熊野三所神社 忠魂碑	白浜町白浜	昭和7年	—	侍従武官長陸軍大將奈良武次書。帝国在郷軍人会瀬戸鉛山分会建立。隣に白浜英霊顕彰之碑（昭和51年）建立。	24
09	06	西富田小学校 忠魂碑	白浜町西富田	昭和11年	—	陸軍大將鈴木壯六書。現在所在未確認。	24
09	06	元小学校校庭 慰霊碑	白浜町中	昭和19年	—	旧南富田小学校校庭に建つ。	24
09	06	満願寺 忠魂之碑	白浜町東富田（満願寺境内）	昭和31年	—	大東亜戦争戦死者21名の氏名。	24
09	06	九軒駒吉墓碑	白浜町 瀬戸（本覚寺）	明治？	—	明治10年、西南戦争で戦死。「高峯忠山義誠居士九軒駒吉墓」。	24
09	06	故海軍一等水兵勲八等功七級芝田五十吉之墓	白浜町 瀬戸（本覚寺）	明治40年	—	明治34年、日露戦争において24歳で戦死。瀬戸鉛山村出身。	24
09	06	故陸軍歩兵軍曹榎本嶋市之碑	白浜町栄（観福寺）	明治39年	—	文字不鮮明。遼東半島で戦死か。勲七等功七級。	24
09	06	大原松四郎君墓	白浜町（南富田中の墓地）	大正9年	—	日本郵便会社三等運転士、郵船三嶋で英国離馬風琉（リバプール）に到り、欧州大兵乱に巻き込まれる。享年25歳。	24
09	06	故海軍二等機関兵中岩茂平之碑	白浜町富田（草堂寺境内）	明治37年	—	明治37年7月31日戦死（日露戦争）。勲八等功七級。	
09	06	普門寺 慰霊之碑	白浜町椿（普門寺境内）	昭和60年	—	普門寺第十五世・戦没者慰霊碑建立奉賛会建立。隣に英霊之標（54名の氏名）。	
09	06	三須和神社の忠魂碑	白浜町安居	明治？	—	三須和神社境内に建つ。前面に戦没者慰霊碑（平成7年）。	
09	06	日出神社の忠魂碑	白浜町日置（日出神社境内）	明治44年	—	日出神社境内に建つ。隣に戦没者慰霊碑（昭和47年）。	
09	08	斉明天皇遺跡碑	白浜町 熊野三所神社境内	昭和37年	—	正面「斉明天皇行幸之史蹟」、「瀬戸部文化財保護委員会」。	24
09	08	行幸記念碑（昭和天皇）	白浜町 綱不知（ユガガ神社境内）	昭和5年	—	昭和4年、昭和天皇が瀬戸臨海研究所臨幸の際に上陸した記念に瀬戸鉛山村長が建立。	24
09	08	臨幸記念碑（昭和天皇）	白浜町（京都大学臨海実験所構内）	昭和5年	—	昭和4年、昭和天皇が瀬戸臨海研究所臨幸を記念して京都帝国大学総長が建立。	24
10	01	旧大瀬小学校校舎	白浜町大瀬	昭和11年	—	昭和45年閉校。校舎面積250㎡。	
10	01	柏木市郎翁頌徳碑	白浜町（東富田小学校校庭）	昭和32年	—	郷土産業や学校教育のため尽力し、学校施設に私財を投じた旧村長の遺徳を顕彰。和歌山県知事小野真次書。	24

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	01	柏木鎮太郎君記念碑	白浜町 (東富田小学校講堂前)	昭和15年	—	昭和15年旧村長柏木市郎の嗣子陸軍少尉植太郎が中国で戦死。遺書に保険金全額を母校の講堂建設に望み、父が完成。	24
10	01	榎本先生頌徳碑	白浜町 十九洲 (満願寺)	昭和10年	—	明治36年東富田小学校代用教員、明治44年正教員。開発や金融機関設立に尽力。享年31歳。隣にも昭和60年の頌徳碑。	24
10	01	朝山英楠君頌徳碑	白浜町 南富田 (金毘羅宮)	明治28年	—	顕揚小学校に勤務し、26歳での早逝を惜しみ学生諸氏が建立。	24
10	01	浜本英子先生の碑	白浜町 南富田 (金毘羅宮)	明治42年	—	剥脱著しく文字不鮮明。中井要撰。	24
10	01	浜本繁子先生の碑	白浜町 南富田 (金毘羅宮)	明治42年	—	浜本英子に裁縫を学び私塾を開き婦道を教えた。	24
10	01	中井要先生の碑	白浜町 南富田 (金毘羅宮)	昭和2年	—	明治23年、南富田小学校校長。同43年江住小学校校長。大正14年没。	24
10	01	尾原三蔵碑	白浜町 南富田 (観福寺)	明治28年	—	明治初年、学制改革に際し児童教育の任を受け功績あり。その後、十九洲所属入会山所有権訴訟に尽力。	24
10	01	榎本先生碑	白浜町 北富田内ノ川 (林翁寺)	明治44年	—	教育者の氏を惜しむ記念碑。享年37歳。	24
10	06	法名釈智海碑	白浜町 十九洲 (満願寺)	大正2年	—	流刑や幽閉を繰り返しながらも地域や年齢を問わず教育した業績を記す。	24
10	06	当寺開基満願院釈正圓法師之碑	白浜町 十九洲 (満願寺)	明治23年	—	明治18年に満願寺を創建した法師の業績を記す。	24
10	06	誠忠院釈正隆法師之碑	白浜町 十九洲 (満願寺)	明治40年	—	満願寺第二世。日露戦争で戦死。	24
10	06	朝来昂新三十三ヶ所開設記念碑	白浜町 (椿温泉バス停付近)	昭和10年	—	西国三十三所の仏像や道標を新たに設置。	24
10	06	須原雪女頌徳碑	白浜町 (西富田嶋居地藏堂)	明治44年	—	堂宇改築に出資した須原雪女を讃えるため存命中に建立した碑。	24
10	07	川口伊吉翁生碑	白浜町 湯崎 (業師堂境内)	明治40年	—	「小睡庵撰書 明治丁未六月 元謀 宮本善吉 原長蔵 高田伊助建」。	24
10	07	中村憲吉歌碑	白浜町 (白良浜東南端)	昭和32年	—	「紀の国のいでゆの浜に児をつれ来 花すみれ摘むも冬と思はず」、「田辺アララギ会 明光バス株式会社」。	24
10	07	高浜虚子句碑	白浜町 綱不知 (山手通りへの登り口)	昭和11年	—	昭和8年に熊野巡遊の際によんだ句。「白浜の牡丹桜に名残りあり」。元はユガ神社下から移設。	24
10	07	高浜虚子句碑	白浜町 (崎の湯)	昭和26年	—	和歌山県観光連盟建立。御影石。「温泉のとは(永遠)にあふれて春尽きず」。	24
10	07	四代豊竹湊太夫句碑	白浜町 湯崎 (金徳寺境内)	昭和35年	—	天保15年湯崎今津氏宅で客死。昭和35年、碑を顕彰、追善法要、文楽人引浄瑠璃興行。「千金の春もあらしの夕桜」。	24
10	07	本田溪花坊句碑	白浜町 (新地内山王明神)	昭和15年	—	「雲の聳ゆる神の国梅かをる 溪花堂」、「紀元二千六百年建之 発起人 白浜 水上柳堂 大阪 梶文葉」。	24
10	07	其桃翁句碑	白浜町 (白浜荘裏庭)	昭和9年?	—	昭和6年来遊先の白浜荘で没。「陽炎や後ろ山まで砂白き」、「昭和九年甲戌晩春 下関三千堂其桃老師句碑 和歌山垂井逸水建之」。	24
10	07	邦枝完二句碑	白浜町 (三段壁)	昭和28年	—	小説家邦枝完二が白浜エレジー黒潮物語を完成した際に明光バスが建立。「黒潮や梅紅白の散るところ」。	24
10	07	青々句碑	白浜町 瀬戸 (本覚寺)	昭和36年	—	青々25周忌に本覚寺総代浦政吉が建立。「貝を見てあとは桔梗を眺めけり」。	24
10	07	誓子句碑	白浜町 堅田	昭和41年	—	堅田漁業協同組合構内に建立。「真珠 作業場 絶対に静止の海 誓子」	78
10	07	故正木善松翁碑	白浜町 綱不知	昭和12年	—	高浜虚子句碑の隣に建つ。瀬戸鉛山角力協会建立。	
10	07	口紅の遺書誌	白浜町 (三段壁)	昭和25年	—	心中した男女が岩に口紅で書いたものを岩に刻んだ。「白浜の海は今日も荒れている 一九五〇・六・一〇 定一 貞子」。	24
10	07	菊田一夫文学碑	白浜町 (平草原)	昭和31年	—	劇作家菊田一夫が明光バスの依頼に応じて作った詩。	24
10	07	宮城道雄詩碑	白浜町 (平草原山頂)	昭和31年	—	琴の名手宮城道雄が白浜の風景をよんだ詩。	24

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	07	鍋井画伯讃碑	白浜町（三段壁）	昭和38年	—	白浜を愛した鍋井克之画伯を讃えた碑を建立。	24
10	07	真白良媛像銘	白浜町（湯崎海岸）	昭和38年	—	彫刻者日高正法、撰文牧村史陽、揮毫柳莫山、寄贈者中田明正。	24

【上富田町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	02	新開道路之記	上富田町市ノ瀬（根皆田）	明治21年	—	明治15年従来の根皆田と岩田間の険路な山道や仮道の川べり道と別に山麓に新道を設けた。この事績を後世に伝えるため明治21年建碑を建立。	
05	02	梅田みちびき地蔵	上富田町梅田	昭和32年	—	国道42号と311号の分岐点に交通安全協会田辺支部が交通安全を祈って建立。左ほんぐう・右しらはまの道標も刻まれる。	73
05	04	岡坂隧道	上富田町岡	大正4年	—	上富田町～田辺市を結ぶ隧道。岡坂は生活道だが急勾配で大正4年竣工。長約65×幅2.7×高約4.5mの入口レンガ積、側面素掘りトンネルで、現役使用。現在下方に新岡坂トンネル。	1
05	04	旧卒塔婆隧道	上富田町生馬～白浜町玉伝	昭和5年	—	長88mの卒塔婆隧道完成。難所であった上富田町生馬～白浜町玉伝を結ぶ。交通量が増えたため現在下方に新卒塔婆隧道（延長731m）。	1
05	09	人柱彦五郎之碑	上富田町朝来（彦五郎堤）	昭和39年	—	慶安年間に富田川（岩田川）堤防の大改修時に村人彦蔵・五郎が自ら堤防建設の人柱となった由来を記す。	
07	01	岩崎の灌漑用水路（野田用水路）	上富田町岩崎	明治17年	—	明治17年（1884）朝来の惣田川の水を引くため坂の下に坑道を掘り農業用水を通した。現在には使用されていない。	1
07	01	大沼排水隧道（新川隧道）	上富田町朝来	大正4年	—	朝来駒周辺（約40ha）は大沼と呼ばれ、排水は水路を通して新庄村（現田辺市）滝内へ流出させる難問題で、大正4年全工事完結（排水能力不十分で昭和53年に大規模改修）。	1
07	01	朝来村耕地整理碑	上富田町朝来峠	大正6年	—	朝来大沼排水の難工事に成功し、耕地整理の実績を後世に伝えるため大正6年建碑。宝暦8年（1757）に熊野街道のために設置された石橋を石碑に再利用。	
07	01	洞溝銘	上富田町岩崎日産	明治	—	明治17年に巖を切り溝を通した難工事の結果肥沃に至った経緯を伝えるため建碑。高138cm。以前の国道沿いの用水路トンネル近くから現在には岩崎会館前に移動。	
07	01	開鑿記念碑	上富田町市ノ瀬（汗川）	明治24年	—	明治22年大水害後の復興灌漑工事の未完を憂い猪野民蔵ら6名は難工事とされた岩場（市ノ瀬登り尾）20余間に溝を24年開削し、事績を伝えるため同年建立。	
07	01	猪野民蔵之碑	上富田町市ノ瀬（小山）	昭和11年	—	猪野民蔵の事績を後世に伝えるため、市ノ瀬小山地区有志4名により昭和11年猪野民蔵旧宅内に建立された。	
07	01	上溝水路	上富田町市ノ瀬 小山（清水谷）	天保4年	—	三栖新兵衛と同源之亟らが市ノ瀬地区南岸丘陵地の取水口の小山清水谷から下ノ岡興禅寺上方まで約6kmの水路を約2年難工事で完成（高低差約10m）。現在も活用。	
07	01	水源略記	上富田町市ノ瀬	文久元年	—	町指定水路開設顕彰碑の1つ。興禅寺内上溝水路終点近くの水天像の横に三栖五郎太夫・同助左衛門が先人の事績を伝えるため文久元年（1861）建碑。	
07	01	水天像	上富田町市ノ瀬	天保5年	—	町指定水路開設顕彰碑の1つ。興禅寺内上溝水路終点近くに、事績を後世に伝えるため、庄屋高垣宇右衛門が天保5年（1834）に建立。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	清水溪記と水天像	上富田町市ノ瀬 小山（清水谷）	天保5年	—	町指定水路開設顕彰碑の1つ。清水谷川右岸山腹水路取水口近くに、事績を伝えるため庄屋高垣宇右衛門が天保5年（1834）に建立。祈念の水天像（嚙嚼拳天王）も建立。	
07	03	開墾記念碑	上富田町岡 奥草	明治22年	—	馬倉定右エ門がこの碑を建立。「明治二十二年父友吉、此所に於いて開墾に着手す」。	
07	03	土地改良事業完工記念碑	上富田町朝来（里田国道42号沿い）	昭和55年	—	南海大地震による地盤沈下と富田川の土砂堆積で悪化した排水対策で昭和37年の排水路完工を記念。	73
08	09	富田川災害記	上富田町朝来（円鏡寺境内）	明治23年	—	明治22年大水害の惨事の状況を後世に伝えるため、今井弥一郎ほか同志が明治23年に円鏡寺内に建立。	
08	09	溺死招魂碑と西牟婁郡復旧記	上富田町朝来	明治24年	—	明治22年大水害の溺死者の招魂と惨事及び復旧の経緯を後世に伝えるため栗栖市太郎、同品平が明治24年彦五郎堤防内に建立。	
08	09	明治洪水溺死群霊臺	上富田町岩田	明治23年	—	明治22年大水害の岩田村内の溺死者120余人の供養「群霊墓」を三宝寺住職大信和尚が同志と謀り、翌23年に三宝寺境内に建立。	
08	09	明治大水害溺死者慰霊碑	上富田町生馬	明治	—	明治22年大水害の生馬地区溺死者110名（一説107名）の精霊供養のため、鈴木村造らが観音寺参道（石段途中）に建立。	
08	09	名号塔（南無阿弥陀佛）	上富田町生馬	明治	—	明治22年大水害の死亡者供養塔（慰霊碑）。鳥淵の観音堂（馬頭観音）の側に建立。	
08	09	富田川水害礫集積地（盛り土）	上富田町朝来	明治	—	富田川が決壊して田畑に流れ込んだ土砂、石、がれきを復旧作業で取り除いて積み上げた盛り土。役場近くの水田地に1箇所残る（高1.2×長辺約16×短辺12.5m）。	
08	09	中本伊兵衛供養塔	上富田町朝来（円鏡寺）	明治24年	—	四国近海において日本郵船会社の武蔵丸で暴風雨により遭難した供養塔。	73
09	06	岩崎不動山の狼煙跡	上富田町岩崎（不動山）	幕末	—	山頂に藩政時代、異国船の渡来の時村々に知らせるためと富田川川上の三宝寺狼煙所に知らせるために狼煙をあげた場所。	
09	06	三宝寺裏山 狼煙跡	上富田町岩田	幕末	—	三宝寺裏山山頂。異国船の渡来の際（特に幕末黒船）、狼煙を上げたところ。遺構はない。	
09	06	櫛原神社の忠魂碑	上富田町朝来（櫛原神社）	大正6年	—	櫛原神社に建立された忠魂碑。	73
09	06	櫛原神社の御霊碑	上富田町朝来（櫛原神社）	昭和41年	—	櫛原神社に建立された御霊碑。	73
09	06	妙道寺の戦没者之碑	上富田町朝来（妙道寺）	昭和29年	—	妙道寺に建立された戦没者の碑。	73
09	06	不動産入口の戦没者之碑	上富田町朝来（不動産入口）	昭和48年	—	不動産入口に建立された戦没者の碑。	73
10	07	繁里歌碑	上富田町生馬出水	慶応2年	—	国学者で歌人で知られる熊代繁里の歌碑。慶応2年（1866）建立。	

【すさみ町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	安宅坂トンネル（JR紀勢本線）	すさみ町～白浜町	昭和11年	—	周参見～紀伊日置間の全長1280mのコンクリート製隧道。JR紀勢本線。	1
08	09	為後壘	すさみ町周参見4996	安政4年	町建造物	安政地震津波（1854年）後の安政4年1月に山崎地区の住人が建設した津波記念碑で、津波襲来前に大日山山頂に避難して難を逃れられたとして建立。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	大日如来堂	すさみ町周参見	安政4年	—	為後鑒がある山頂にあり、山崎地区では毎年1月28日大日講合わせて夜間の津波の避難訓練を兼ねて音を頼りに広場へ登った。現在も津波避難目標地点。	
08	09	避難路	すさみ町周参見	安政4年	—	安政南海地震津波の避難路。	
08	09	谷三郎左衛門顕彰碑	すさみ町周参見	昭和2年	—	宝永地震津波後に波避堤（360m現存）を築造した谷三郎左衛門の顕彰碑を昭和2年地元有志が万福寺裏山に建立。昭和40年に浪避堤南東端の国道脇に移設。	
08	09	堤防（国道42号沿）	すさみ町周参見4581付近	享保3年	—	下地海岸に延長455mの波避堤を築いて、住民を津波や高波から守った義人として知られている。	
08	09	津波の碑	すさみ町周参見4280	昭和	町建造物	昭和21年（1946）12月21日の南海地震津波の状況について後世の参考にするようにとの趣旨で当時の周参見町が建立。	
08	09	平運丸遭難碑 4基	すさみ町周参見5350-4	明治4年	町建造物	明治4年淡路島洲本稲田藩家臣277名の北海道移住の鉄製蒸気船が周参見沖亀島岩礁で座礁沈没。84名溺死。生存者は万福寺等で滞在療養。この移住は世に言う稲田騒動庚午事変。	
08	09	汽船和歌山丸溺死招魂碑	すさみ町周参見5350-4	明治43年	町建造物	明治43年紀州航路定期汽船の大阪商船和歌山丸は周参見港入港、暴風で小泊沖長嶋暗礁に接触沈没。船員、乗客93名中64名死亡。当日は周参見村で運搬船7隻、漁船17隻の被害。	
09	06	江須崎特設見張所跡地	すさみ町江住	昭和19年	—	江須崎に設置された太平洋戦争末期の特設見張所。	
10	01	城桂谷の碑	すさみ町江住	明治15年	町建造物	江住浦に熊野（いや）私学校（現在の市立高校に該当）を創設した。	

【新宮市】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
01	01	細谷鉾山跡	新宮市佐野	昭和8年	—	佐野鉾山。硫化鉍、金、銀、銅の産出。昭和8～16年昭和鉍業、昭和20年頃まで帝国鉍発。牛車で選鉍場から紀伊佐野駅まで輸送。	
01	01	大山かな山跡	新宮市熊野川町大山	江戸末～昭和	—	江戸時代末から操業。坑道の一部が残る。	
01	01	六貫谷鉾山跡	新宮市熊野川町上長井	昭和18年	—	昭和18年から帝国鉍発として営業。	
01	01	鎌塚鉾山跡	新宮市熊野川町鎌塚	昭和	—	鉾山跡。	
02	01	松沢炭坑跡	新宮市熊野川町宮井	明治24年	—	明治24年操業開始。現在も坑口や建築物、積み出し設備が残る。昭和38年閉山。	1
02	01	宮井炭坑跡	新宮市熊野川町宮井	明治18年	—	明治18年良鉍社、明治20年尾崎炭鉱で操業開始。	1
02	01	志古炭坑跡	新宮市熊野川町志古	明治	—	山上から索道で運び選炭の後に貯蔵するホッパー跡残る。ここからトロロッコで川原まで運び船で新宮まで運んだ。	1
02	01	笹地炭坑跡	新宮市高田口高田		—	鉾山跡。	
02	01	熊野炭坑跡	新宮市	明治	—		1
02	01	三和炭坑跡	新宮市	明治	—		1
02	01	三熊炭坑跡	新宮市	明治	—		1
02	01	尾崎石炭場跡	新宮市小濱		—	熊野川町で産出した無煙炭を川船でここに運び、積み替えて阪神等に海上輸送。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
02	01	松沢炭鉱貯炭場跡	新宮市徐福		—	熊野川町で産出した無煙炭を新宮駅より貨車で積み出し、勝浦港に鉄道輸送（トラック輸送の場合もあり）。	
02	01	松沢石炭場跡	新宮市池田		—	熊野川町で産出した無煙炭を川船でここに運び、積み替えて阪神等に海上輸送。	
02	01	東鉱社石炭所跡	新宮市小濱		—	熊野川町で産出した無煙炭を川船でここに運び、積み替えて阪神等に海上輸送。	
02	03	高田小水力発電所	新宮市西高田	大正8年	—	小水力発電所。圧力鉄管。	1
02	03	上津川第2発電所	新宮市熊野川町棕呂	昭和37年	—	昭和37年操業開始。	
02	03	関西電力 滝本発電所	新宮市熊野川町滝本	大正10年	—	水力発電所。那智勝浦町大野の第2堰堤から新宮市側へ水路。水槽・排砂升・会所などは切石積。	1
02	03	新宮水力電気株式会社跡	新宮市新宮（登坂）	明治32年	—	新宮は、近畿の都市で8番目に電灯が開通。こより市内へ配電された。	
02	03	新宮火力発電所跡	新宮市あけぼの		—	製紙、製材の動力として利用。現在の須川洋行製材所付近。	
02	03	新宮水力電気木製電柱跡	新宮市新宮	明治33年	—	新宮城跡出丸に電柱の痕跡が残る。	
02	03	新宮水力電気送電線支柱跡	新宮市新宮	明治33年	—	新宮城跡鐘ノ丸石垣に支柱の痕跡が残る。	
02	03	宮井変電所	新宮市熊野川町宮井		—	変電所。	
02	03	新宮変電所	新宮市下田2丁目7		—	関西電力（旧関西配電）新宮変電所、給電所、保線所、現業所、変圧所、社宅。昭和36年に拡張。	
03	04	土井造船所跡	新宮市阿須賀	昭和初期頃	—	昭和5年の進水式の造船所。昭和15年の火災などの写真が残る。	
04	02	新宮製糸工場跡	新宮市神倉2丁目5～7	大正7年	—	大正7年熊野蚕糸（株）設立。新宮第三尋常高等小学校の跡地に建設。昭和2年の地図には「郡是繭糸販売組合双盟社」。昭和14年東郡蚕糸会社新宮製糸場閉鎖。戦後は市営住宅地。繭の倉庫一棟が車庫として現存。	
04	04	尾崎酒造（尾崎屋酒造部）	新宮市船町	明治13年	—	酒蔵。明治3年、三本杉で創業。明治13年に同地へ移転し、酒造を開始。	
04	04	新宮醤油	新宮市下木町	明治30年	—	醤油醸造所。	
04	06	汐崎瓦製造所	新宮市王子町2丁目5-44		—	瓦屋。一時、新宮市清水元付近でも採土。	
04	06	中山瓦工業	新宮市あけぼの4-57		—	瓦屋。	
04	06	池端瓦製造所跡	新宮市橋本2丁目4～6（旧町沢3894-5）		—	瓦屋。	
05	01	JR西日本 新宮駅	新宮市徐福1丁目	昭和27年	—	旧京都駅をモデルにしたという鉄筋コンクリート造、吹き抜け構造の二階建。	1
05	01	旧鉄道省 新宮駅	新宮市徐福1丁目	昭和13年	—	旧大阪駅をモデルにしたという木造吹き抜け構造の二階建。昭和26年焼失。新装記念絵葉書あり。	
05	01	JR西日本 新宮駅地下通路	新宮市徐福1丁目	昭和13年	—	旧一番線との乗り換えに便利な曲線の幅広い階段を有し、手摺に装飾灯の跡が残る。	
05	01	JR西日本 新宮駅旧一番ホーム跡	新宮市徐福2丁目	昭和13年	—	昭和初期に各地に普及したガソリンカーの折り返しに便利な行き止まりのホーム跡。	
05	01	JR西日本 新宮駅構内機関区跡	新宮市徐福2丁目	昭和13年	—	かつて10数両のSLが配置され、扇形庫と転車台のあった円形の敷地、給炭場跡など。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	01	JR西日本 新宮駅構内 各施設跡	新宮市徐福2丁目	昭和13年 以降	—	客貨車区、保線区、電気通信区、車掌区、操車場、貨物ホーム、石炭積出し場等の跡。	
05	01	JR西日本 三輪崎駅跡	新宮市三輪崎1丁目	昭和11年	—	無人化後に、取り壊された。	
05	01	新宮鐵道 新宮駅跡	新宮市蓬萊	大正2年	—	大正元年に三輪崎（新宮市）～勝浦（那智勝浦町）間開業。翌年新宮～熊野地～三輪崎開業。現在のJR駅前広場、道路付近。現在のJR駅前広場と道路付近北向きに建つ。	
05	01	新宮鐵道路線跡	新宮市蓬萊	大正2年	—	旧新宮駅～熊野地駅約600mの緩やかな曲線を含む軌道跡が市道となっている。	
05	01	新宮鐵道路線跡	新宮市大浜墓地	大正2年	—	墓地内の通路と墓石の列の曲線にその痕跡を見ることができている。	
05	01	新宮鐵道、国鉄熊野地 駅舎、構内跡	新宮市熊野地1丁目	大正2年	—	材木の搬出が盛んであった構内の敷地跡が広い道路やコンビニ駐車場として残る。駅舎跡は民家となっている。	
05	01	国鉄熊野地貨物線跡	新宮市熊野地1丁目	昭和13年	—	国有化による路線変更で孤立した熊野地駅へ新しい新宮駅から作られた貨物線跡。現在は市道。	
05	01	国鉄熊野地駅から王子 製紙工場へ引込線跡	新宮市あけぼの	昭和	—	途中踏切二ヶ所の引込線と王子製紙構内のホーム跡が残る。	
05	01	C1196 蒸気機関車	新宮市あけぼの	昭和11年	—	新宮機関区に一時所属、串本～紀伊本木と熊野地貨物線の貨客、新宮駅の入替に従事。	1
05	01	紀伊佐野（当時「佐野 村」）駅舎、旧ホーム	新宮市佐野3丁目	大正12 年？	—	国有化後に増改築されているが、独特の柱構造や軽便鉄道当時の短いホームが残る。	1
05	01	紀伊佐野駅～巴川製紙 新宮工場引込線跡	新宮市佐野3丁目	昭和	—	途中踏切一ヶ所、工場内ホームは現在「スーパーセンターオークワ」構内。	
05	01	紀伊佐野駅鉦石積出用 ホーム跡	新宮市佐野3丁目	戦中？	—	駅舎西側、佐野鉦山から牛車で搬送の銅鉦石を無蓋車に積載するための高いホーム。現在は民家。	
05	01	新宮観光ケーブルカー 路線跡	新宮市新宮（新宮城跡）	昭和29～ 56年	—	全国最短の鉄道として、特殊な路盤、階段状のホーム、城壁に刻まれた滑車等が残る。山上は「二の丸」駅、山麓は「丹鶴」駅。	
05	01	JR西日本丹鶴隧道	新宮市新宮（登坂）	昭和15年	—	紀勢西線延伸工事として鉄道省岐阜工事局が建設。全国でおそらく唯一、近世城郭の真下を貫く単線型鉄道トンネル。紀勢西線延伸工事として鉄道省岐阜工事局が建設。	
05	01	新宮鐵道 稻荷山隧道	新宮市三輪崎東高森	大正2年	—	明治様式のレンガ造り。入口上部の要石の構造がよく分かり、天井にSLの煤が残る。	1
05	01	新宮鐵道 御手洗隧道	新宮市三輪崎東高森	大正2年	—	明治様式のレンガ造り。入口上部の要石の構造がよく分かり、天井にSLの煤が残る。	1
05	01	新宮鐵道 袖摺隧道	新宮市佐野	大正2年	—	明治様式のレンガ造り。入口上部の要石の構造がよく分かり、天井にSLの煤が残る。	1
05	01	新宮鐵道 袖摺橋梁跡	新宮市佐野	大正3年	—	川の中に、傾いたレンガ造りの橋台が残る。	
05	01	新宮鐵道 逆川橋梁橋 台	新宮市新宮（広角）	大正2年	—	レンガ造りから石造りへと変化する当時の技術発達が見らる。橋脚を利用して現在は歩道橋になっている。	1
05	01	JR東海 熊野川鉄橋	新宮市～紀宝町	昭和15年	—	熊野川に架かる鉄道橋でありながら、資材を直接海より河川敷に運搬した珍しい工法。	1
05	02	国道42号線	新宮市大橋通～佐野	昭和	—	新宮～田辺間は昭和44年に全通した。	
05	02	国道168号線	新宮市五新～東敷屋	昭和	—	新宮と五條を結び、宮井まで戦前に開通。昭和34年に東敷屋付近の工事完了で全通。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	02	丹鶴町・駅前本通道路 (県道)	新宮市伊佐田、丹鶴	大正11年	—	新宮鐵道新宮駅と町中心部(役場・速玉大社)を結ぶ為、城濠(伊佐田池)埋めて敷設。	
05	02	産業道路(県道231号線)	新宮市五新～緑ヶ丘～清水元～大浜～熊野地	昭和	—	国道168号線より市街地を経ずに貯木場、製材所、製紙工場への木材輸送のために敷設。	
05	02	県道(新宮－三輪崎間)	新宮市新宮(広角)～三輪崎	明治17年	—	新宮から三輪崎間で初めて開通した車道。勝浦まで開通したのは明治33年。	
05	02	道路元標(国道42号線)	新宮市馬町	大正10年頃	—	道路標識。表「新宮町道路元標」、裏「和歌山縣」と刻まれている。	
05	02	三輪崎の道標	新宮市三輪崎	明治17年	—	県道(新宮－三輪崎間)開通を記念して、当時工事に用いられた石のローラーに碑文を刻み、建てたもの。	
05	02	橋本の道標	新宮市春日	明治11年	—	「右那智山道」と刻まれた石製の道標。近代に入り、橋本から山際を通り広角へと上る道が整備された。	
05	03	市道丹鶴橋	新宮市丹鶴	昭和15年	—	紀伊木本へ国鉄延長に伴い既存市道下部を斜めに掘り抜く橋の特殊構造。駅前本通り丹鶴町の道路下を掘り抜く鉄筋コンクリート橋梁の特殊工事。	
05	03	熊野大橋(国道42号線)	新宮市～紀宝町	昭和10年	—	日本橋梁株式会社が昭和8年着工、10年完成、4月5日渡り初め式。熊野川に架かりトラス形状が途中で変わる珍しい構造。橋脚に空襲跡残る。	1
05	03	三輪崎勝線橋(国道42号線)	新宮市三輪崎	昭和41年	—	JR西日本紀勢線を跨ぎ、当時の国鉄による白浜～新宮間複線化計画に対応した構造。	
05	03	旧相賀橋(国道168号線)	新宮市相賀	昭和	—	高田川に架かる。	
05	03	旧田長橋(国道168号線)	熊野川町田長	昭和10年頃	—	下部コンクリートアーチ。現在の田長橋は昭和47年竣工。	
05	03	三津ノ橋(国道168号線)	熊野川町神丸・能城	昭和34年	—	赤木川に架かる。	
05	03	旧志古橋(国道168号線)	熊野川町志古	昭和32年	—	志古川に架かる。	
05	03	敷屋大橋	熊野川町敷屋	昭和35年	—	電源開発株式会社建造によるカンチレバートラス橋。西敷屋～東敷屋間。熊野川に架かる。	
05	03	旧宮井大橋(国道311号線)	熊野川町宮井	昭和33年	—	新大橋の完成に伴い、橋脚は撤去されたが、右岸の取り付け道路が残る。	
05	03	高田川流域の吊橋群	新宮市高田	昭和	—	相賀(自然ブール)の吊橋、高田の吊橋、里高田の吊橋、大坪橋。	
05	03	赤木川流域の吊橋群	熊野川町赤木ほか	昭和	—	赤木の吊橋、赤木川橋(昭和6年)、小口キャンプ場の吊橋、鎌塚の吊橋、瀧本の吊橋。	
05	03	赤木橋	熊野川町赤木	昭和41年	—	赤木川に架かるトラス橋。	
05	03	旧仙龍橋	新宮市橋本1丁目	昭和	—	市田川に架かる。	
05	03	布引谷川橋(国道168号)	新宮市高田		—	高田川に架かる。	
05	03	旧白見谷橋(国道168号)	新宮市高田		—	高田川に架かる。	
05	03	栃の谷橋(国道168号)	新宮市高田		—	高田川に架かる。	
05	03	旧高田谷川橋(国道168号)	新宮市高田		—	高田川に架かる。	
05	03	旧相賀出張橋(旧県道)	新宮市相賀		—	高田川に架かる。	
05	03	旧大宮橋(旧県道)	新宮市高田		—	高田川に架かる。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	03	旧高田川橋 (旧県道)	新宮市高田		—	高田川に架かる。	
05	03	大野橋	新宮市高田里		—	高田川に架かる。	
05	03	世々良樹橋	新宮市高田西 (近大入口)		—	高田川に架かる。	
05	03	旧登坂橋 (J R 西日本高架)	新宮市新宮	昭和15年	—	登坂の道路下を掘り抜き鉄筋コンクリート橋梁とする特殊な工事。現在は架け替え拡張。	
05	03	浮島橋	新宮市浮島		—	浮島川に架かる。	
05	03	貯木橋	新宮市あけぼの		—	市田川に架かる。第一貯木場(旧堀) 明治24年完成、第二貯木場(新堀) 明治40年完成。	
05	03	第一虹沢橋	新宮市五新		—	市田川に架かる。	
05	03	高倉橋 (国道168号)	新宮市磐盾		—	市田川に架かる。	
05	03	虹沢橋	新宮市磐盾		—	市田川に架かる。	
05	03	磐盾橋 (旧168号)	新宮市磐盾		—	市田川に架かる。	
05	03	三栄橋	新宮市緑ヶ丘		—	市田川に架かる。	
05	03	第一王子橋	新宮市熊野地		—	市田川に架かる。	
05	03	第二王子橋	新宮市熊野地		—	市田川に架かる。	
05	03	田鶴原橋	新宮市田鶴原		—	市田川に架かる。	
05	03	丸山橋	新宮市下田	昭和40年	—	市田川に架かる。	
05	03	南丸山橋	新宮市下田		—	市田川に架かる。	
05	03	第一下田橋	新宮市下田		—	市田川に架かる。	
05	03	第二下田橋	新宮市緑ヶ丘		—	市田川に架かる。	
05	03	あけぼの橋	新宮市あけぼの		—	市田川に架かる。	
05	03	旧四滝谷川橋	新宮市熊野川町四滝		—	四滝谷川に架かる。	
05	03	玉置口橋	新宮市熊野川町玉置口		—	玉置川に架かる。	
05	03	瀬大橋	新宮市熊野川町鳴津		—	北山川に架かる。熊野市紀和町小川口へと渡る。	
05	03	富士根橋	新宮市熊野川町西敷屋		—	篠尾川に架かる。	
05	03	旧桜谷橋 (国道168号)	新宮市熊野川町宮井		—	桜谷川に架かる。	
05	03	旧猪岩橋	新宮市熊野川町田長		—	熊野川岸に架かる。	
05	03	三津野橋	新宮市熊野川町日足		—	赤木川に架かる。	
05	03	谷口橋	新宮市熊野川町棕井		—	赤木川支流に架かる。	
05	03	赤木川橋	新宮市熊野川町赤木		—	赤木川に架かる。	
05	03	高倉橋	新宮市熊野川町上長井		—	中ノ川に架かる。	
05	03	小口橋	新宮市熊野川町上長井		—	東川に架かる。	
05	03	渡月橋	新宮市熊野川町西		—	中ノ川に架かる。	
05	03	西川橋	新宮市熊野川町西		—	中ノ川に架かる。	
05	03	中ノ川橋	新宮市熊野川町鎌塚		—	中ノ川に架かる。	
05	03	暮ヶ谷橋	新宮市熊野川町東		—	東川に架かる。	
05	03	引土橋	新宮市熊野川町滝本		—	中ノ川に架かる。	
05	03	滝本二月橋	新宮市熊野川町滝本		—	中ノ川に架かる。	
05	03	滝本橋	新宮市熊野川町滝本		—	中ノ川に架かる。	
05	03	荒木川市梨橋	新宮市佐野		—	荒木川に架かる。	
05	03	中央橋	新宮市佐野		—	佐野川に架かる。	
05	03	山見橋	新宮市佐野		—	佐野川に架かる。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	03	荒木橋	新宮市峰伏		—	荒木川に架かる。	
05	03	秋津野橋	新宮市佐野		—	佐野川に架かる。	
05	03	楠橋	新宮市佐野		—	佐野川に架かる。	
05	03	荒木橋	新宮市佐野		—	荒木川に架かる。	
05	03	桂橋	新宮市佐野		—	佐野川に架かる。	
05	03	旧松籟橋	新宮市佐野		—	トンネル。	
05	04	旧高田隧道(県道230号線)	新宮市高田	昭和15年	—	トンネル。素掘り。	
05	04	旧越路隧道(国道168号線)	新宮市南檜杖	大正14年	—	新宮市街地から山へ入る国道168号旧道。中央付近素掘り。新宮寄りにはコンクリート左指ヶ鼻橋、高田側にもう一つ隧道。越路隧道(新)は昭和39年完成。	
05	04	旧志古隧道(国道168号線)	熊野川町志古	昭和	—	昭和34年以前。素掘りの隧道。	
05	04	下河遂道(旧)	新宮市高田		—	トンネル。素掘り。	
05	04	小口遂道	新宮市熊野川町上長井		—	トンネル。	
05	05	プロペラ船発着場跡	新宮市下本町(水の手)	昭和30年代	—	新宮プロペラ船株式会社使用。観光客増加に伴い、当時市役所下にも川原に下りるコンクリート道路を敷設し、本宮、瀬峡へ乗客を輸送。	
05	05	プロペラ船発着場跡	新宮市御幸町(熊野川原)	大正～昭和	—	川原より発着のため、建造物は存在しなかった。	
05	05	プロペラ船発着場跡	新宮市熊野川町志古	大正～昭和	—	現在は熊野交通ウォータージェット乗船場(昭和45年以降)となっている。	
05	05	熊野交通四滝整備工場	新宮市熊野川町四滝	昭和45年以降	—	ウォータージェット船の整備工場。	
05	05	成川の渡跡	新宮市～紀宝町	明治～昭和	—	三重県側は上記プロペラ船発着場と同じ場所。和歌山県側は新熊野大橋下の川原。	
05	05	池田の渡跡	新宮市～紀宝町	明治～昭和	—	三重県側は紀宝町鶴殿の川原。和歌山県側は池田港。	
05	05	乙基の渡跡	新宮市～紀宝町	明治～昭和	—	三重県側は紀宝町北檜杖の川原。和歌山県側は相筋二丁目の川原。	
05	05	牛鼻の渡(鮎田の渡)跡	新宮市～紀宝町	明治～昭和	—	三重県側は牛鼻神社下付近。和歌山県側は速玉大社下付近の川原。	
05	05	敷屋の渡跡	熊野川町敷屋	明治～昭和	—	西敷屋～東敷屋間。	
05	05	嶋津の渡跡	熊野川町嶋津～熊野市紀和町	明治～昭和	—	嶋津～小川口間。	
05	05	宮井の渡跡	熊野川町宮井	明治～昭和	—	宮井付近には4つの渡しがあった。現在の宮井大橋の場所や周辺の炭鉱等と結ばれていた。	
05	05	楊枝の渡跡	熊野川町～紀和町	明治～昭和	—	楊枝の薬師に渡るには、和気、音川、宮井、志古、楊枝口に渡しがあった。	
05	05	赤木川の渡跡	熊野川町赤木ほか	明治～昭和	—	吊り橋が整備されるまでは、渡しがあった。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	05	池田港(旧新宮港) 跡	新宮市池田	明治～昭和	—	木材を船に積み込み搬出。石炭等も搬出。熊野川河口部の港。木材の外洋への搬出拠点。近代以前より拠点であった。	
05	05	紀功碑	新宮市阿須賀	明治43年	—	元新宮藩士細井八左(池田港周辺の整備を行った)を顕彰するため区民が建立。もとは池田にあったが戦後阿須賀神社境内に移転。	
05	05	三輪崎港	新宮市三輪崎	明治～大正	—	木材や佐野鉦山産出の銅鉦石搬出。熊野川河口は閉塞しやすく搬出困難で、外洋に面した三輪崎へ港を移す。大正2年新宮鉄道開通で勝浦へ港が移る。	
05	05	熊野川河口導流堤	新宮市あけぼの	明治42年	—	河口の流路を安定させて氾濫を防ぎ、貯木場や製材所を保護するために築かれた。和歌山市の原庄組が建設。	
05	05	水難救済会熊野灘詰所、見張り場跡	新宮市王子町3丁目	大正3年	—	主に熊野川河口を出入りする船舶の遭難に備え、木材業者、漁民らを中心に設立された。記念式典の写真が残る。	
05	11	新宮横町郵便局	新宮市大橋通3丁目4-18		—	郵便局。	
05	11	新宮初野地郵便局	新宮市千穂1丁目1-55		—	郵便局。	
05	11	熊野地郵便局	新宮市蓬萊2丁目4-19		—	郵便局。旧地は2丁目4-21。	
05	11	新宮王子郵便局	新宮市田鶴原2丁目8-6		—	郵便局。	
05	11	新宮郵便局(旧)	新宮市仲ノ町1丁目3-1	明治38年	—	郵便局。昭和4年11月丹鶴町へ移転で建物払い下げ登坂(新宮市新宮7683)に移築。丹鶴ダンス教室となり、現在は民家として現存。	1
05	11	新宮橋本郵便局	新宮市橋本1丁目3-32		—	郵便局。	
05	11	旧三輪崎郵便局跡	新宮市三輪崎2丁目17	明治14年	—	現在は三輪崎2丁目1-6に移転。	
05	11	新宮佐野郵便局	新宮市佐野2丁目11-5	昭和25年	—	郵便局。	
05	11	日足郵便局	新宮市熊野川町日足	明治7年	—	郵便局。	
05	11	九重郵便局	新宮市熊野川町九重	明治43年	—	郵便局。	
05	11	小口郵便局	新宮市熊野川町上長井		—	郵便局。	
05	11	志古郵便局跡	新宮市熊野川町志古		—	郵便局。	
05	11	日本通運新宮支店跡	新宮市徐福		—	新宮駅前。主に国鉄による貨物荷物を配送。	
05	11	日本通運三輪崎駅営業所跡	新宮市三輪崎		—	三輪崎駅前東側。主に国鉄による貨物荷物を配送。	
05	11	日本通運紀伊佐野駅営業所跡	新宮市佐野		—	紀伊佐野駅前。主に国鉄による貨物荷物を配送。	
05	12	NHK新宮放送局	新宮市王子町1丁目7-8	昭和17年	—	昭和17年日本放送協会大阪中央放送尾局新宮臨時放送所。昭和23年新宮ラジオ中継放送所に昇格。昭和28年第2放送中継開始。	
05	12	和歌山放送新宮放送局	新宮市王子町2丁目1-13	昭和34年	—	和歌山放送ラジオ開局により、田辺、新宮支局を開設。	
05	12	新紀テレビ放送局跡	新宮市大橋通1丁目	昭和39年?～	—	大阪のテレビ電波を山上の無線塔で受けて各戸に有線中継開始。名古屋の番組を見る状態解消。自前番組放送したが各戸アンテナ受信可能で閉局。	
05	12	新宮郵便局跡地	新宮市新宮7684	昭和4年	—	横町(大橋通)より移転。鉄筋コンクリート造り、簡素で装飾を排した代表的な昭和建築。2階に電話交換室。新築記念絵葉書あり。	
05	12	西日本電信電話株式会社新宮別館	新宮市下本町2丁目6-3	昭和37年	—	昭和36年、県下二番目のダイヤル自動化に伴い、新宮消防署跡地に日本電信電話公社新宮電報電話局として建築。基礎が深い岩盤まで届く強固な工法(敷地の一部が元伊佐田池のため)。	
06	03	オークワフ本店	新宮市丹鶴	昭和34年	—	新宮遊園地跡地に県内初のセルフ方式スーパーマーケット「主婦の店新宮店」として開店。後に「新宮大桑百貨店」、現在オークワ新宮仲之町店。旧蓬萊小学校の建築材を再利用。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
06	03	オークワ各支店	市内各所	昭和	—	1970年までに駅前店、神倉店、橋本店、野田店などを開店。野田店は旧新宮保健所の建物を利用。	
06	03	仲ノ町商店街アーケード	新宮市仲ノ町1～3丁目	昭和38年	—	完成50周年記念イベントを実施。	
06	06	和歌山相互銀行新宮支店跡	新宮市仲之町3丁目1-4		—	建物現存、入口に回転ドア設置。	
06	06	幸福相互銀行新宮支店跡	新宮市徐福1丁目8-3		—	建物現存、宇治川電気熊野支店として建築、戦後関西電力新宮営業所。新築落成記念写真あり。	
06	06	紀陽銀行新宮駅前支店跡	新宮市徐福1丁目3-17		—	店頭に紀南初の文字による時刻表示灯設置。	
06	06	紀陽銀行新宮支店	新宮市大橋通2丁目3-1		—	銀行。現在の建物は2代目。	
06	06	百五銀行新宮支店	新宮市大橋通2丁目4-1	大正末	—	大正末に那智銀行として初期の鉄筋コンクリートで明治のレンガ張りの装飾残る代表的な大正建築→大同銀行→戦後三和銀行新宮支店→百五銀行。	
06	06	第三相互銀行新宮支店跡	新宮市新町3丁目1-7		—	平成に元デレジャア教会保育園跡地（神倉4丁目6-36）へ移転。鉄筋5階建ての建物が残っていたが、令和2年に解体。	
06	06	新宮信用金庫本店営業部	新宮市大橋通3丁目1-4		—	銀行。	
06	06	新宮信用金庫徐福支店	新宮市蓬萊2丁目1-5		—	田辺米穀新宮出張所跡地に建築。	
06	06	新宮信用金庫緑ヶ丘支店	新宮市緑ヶ丘1丁目8-35		—	銀行。	
06	06	新宮信用金庫佐野支店	新宮市佐野1丁目2-21		—	銀行。	
07	01	市道丹鶴橋横の水路橋	新宮市丹鶴町	昭和15年	—	市道丹鶴橋の工事に伴い、道路に並行した旧新宮城お濠からの農業用水路を水路橋にした。	
07	02	貝持畜産	新宮市熊野川町志古	昭和	—	肉牛の畜産場。	
07	02	養豚場跡	新宮市神倉4丁目（井の沢）		—	丸山に移転。	
07	04	十津川木材協同組合貯木場跡	新宮市橋本2丁目14-23		—	十津川木材協同組合貯木場新宮出張所市売場。現在のイオン新宮店駐車場付近。	
07	04	新宮第一貯木場（旧堀）跡	新宮市あけぼの	明治24年	—	大規模な水面貯木場跡。約1万坪。伐廃止後は埋め立てられて陸上貯木場（新宮原木市場）。現在は、自動車専用道路新宮北インターチェンジとして工事中。	
07	04	新宮第二貯木場（新堀）跡	新宮市あけぼの、王子町3丁目	明治40年	—	大規模な水面貯木場跡。約7千坪。現在は市田川河川敷。	
07	04	新宮第二貯木場（新堀）開堀記念碑	新宮市あけぼの	明治40年	—	第二貯木場開堀を記念し、建立された石碑。後に現在の木材会館前に移設。	
07	04	貯木場（原木市場）跡	新宮市南谷	昭和34年	—	十津川木材協同組合による陸上の貯木場（原木市場）跡。現在はイオン新宮店。	
07	04	貯木場（原木市場）跡	熊野川町能城	昭和	—	木原造林株式会社による陸上の貯木場（原木市場）跡。	
07	04	貯木場（原木市場）跡	新宮市下田1丁目	昭和30年代	—	陸上の貯木場（原木市場）跡。現在は更地。	
07	04	製材所	市内各所	明治～昭和	—	川崎製材、稲田製材、久保製材、速民製材、板美製材、他。現在は十数件の製材所が操業。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	04	製材所跡	市内各所	明治28年～	—	山口、丸山、山中、久堀、長野、板谷、稲垣、板谷、笹本、和新、山幸、紀南産業、新宮挽材、新宮商会、植松、山下、草加、中浦、中佐、昭和、村嶋、尾崎、竹中、田中、野村、三曳、田垣内、他。最盛期は約50軒操業。	
07	04	（株）本州製紙熊野事業所（王子製紙熊野工場跡）、取水管	新宮市蓬萊1丁目4	明治45年	—	地元木材を原料に特殊紙を製紙。M45紀熊製紙所、T2熊野製紙合資会社、T7熊野製紙株式会社、T13富士製紙熊野工場、S8王子製紙熊野工場、S24本州製紙熊野工場、H8王子製紙中津工場熊野事業所、H12年操業停止。工場正門、熊野地駅引込線、熊野川導水管残る。	
07	04	巴川製紙新宮工場跡、取水管	新宮市佐野3丁目11	昭和20年	—	地元木材を原料に製紙。S15新宮木材パルプ操業、S20新宮木材パルプを吸収合併（巴川製紙新宮工場）、H7閉鎖。現在広大な敷地はスーパーマーケット。熊野川の導水管や紀伊佐野駅の引込線跡残る。	
07	04	林道	主に旧高田村、旧熊野川町内全域	昭和30年代	—	木材搬出路。伐り出した木材輸送に用いられた。	
07	04	熊野川（十津川、北山川、赤木川など）		明治～昭和	—	木材搬出路。筏等による木材の輸送。道路網が整備される昭和30年代に筏による輸送は終焉。	
07	04	スラ（シュラ）跡	各所	明治～昭和	—	木材搬出路。木材搬出のために組まれた。	
07	04	ヤエン（索道）跡	各所	明治～昭和	—	木材搬出路。林道開鑿の困難な山間に明治末より建設された。	
07	04	木馬道跡	新宮市高田口、田長（鼻白滝下）ほか	明治～昭和	—	木材搬出路。牛馬や人力で木樋に載せた木材を引いた搬出路の跡。	
07	04	鉄砲堰跡	熊野川町畝畑、瀧本ほか	明治～昭和	—	木材流送用の施設。水量の少ない支流を堰き止め、水を溜めてから破堤し、一気に木材を流した堰の跡。	
07	04	山元製材所	熊野川町畝畑、北ノ川ほか	大正	—	山間の伐採地付近で製材した所（製板所）。製材した板は数枚まとめて筏に組み、流送された。	
07	04	ヒラバリ跡	熊野川町小口	明治～昭和	—	上流域の貯木場（仮置場）、現在の南方商店前。	
07	04	土場跡	熊野川町西屋敷、日足、上長井ほか	明治～昭和	—	川岸に設けられた筏組立場所。山林から運ばれた材木を集積し、筏を組み、下流へと流した。	
07	04	紀州造林（株）熊野川土場跡	新宮市熊野川町能城山本		—	山林から運ばれた材木を集積した。	
07	04	アバ（網場）	熊野川町和田、相須、九重、畝畑、高瀬口、浅里、南松杖、（鮎田）ほか	明治～昭和	—	流下する木材や小規模筏を滞留させ、まとめて流すか、より大きな筏に組んだ集積場。	
07	04	筏難所	熊野川町田長（マキノシリ）、七日巻、釣鐘	明治～昭和	—	急流や浅瀬など、筏下りの難所。事故が多発した。	
07	04	筏師宿跡	熊野川町九重、宮井、新宮市高田口	明治～昭和	—	筏師の宿泊した簡易な宿。主に下りの際に利用された。	
07	04	筏師道跡	熊野川町鳴津ほか	明治～昭和	—	筏師が帰路に用いた道。一部三重県に跨がる。棹等の道具を担いで帰った。	
07	04	炭窯跡	新宮市高田、熊野川町四瀧、椋井、瀧本ほか	明治～昭和	—	木炭（主に備長炭）を焼いた窯。円形で壁の石積みが残る。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	04	目立工場跡	新宮市あけぼのほか	明治～昭和	—	製材用ノコギリの目立を行った。市内各所に存在したと思われるが、詳細不明。現在もあけぼのに目立工場が残る。	
07	04	鍛冶屋跡	新宮市相筋ほか	明治～昭和	—	カンやトビなど後の道具制作や修理等を行った。	
07	04	鉄工所跡	市内各所	明治～昭和	—	木材搬出の船舶部品やヤエン器材等の製作や修理等、鉦山機械等も製作。新宮鉄工、小内、中津、森浦、庄司、大西、榎本、前川、三共、榎本他。	
07	04	金比羅さん	熊野川町上長井	明治～昭和	—	後師が安全祈願のために祀った。和田川、小口川、赤木川が眼下す山上に祀る。上長井以外にも田長にも金比羅神社。川の難所に小さな祠等を祀る。	
07	04	不動さん	熊野川町西敷屋、田長、和田川、畝畑ほか	明治～昭和	—	川の難所付近に祀られている。	
07	04	山の神	新宮市相賀ほか	明治～昭和	—	林業関係者等により祀られた。	
07	04	高倉神社手水鉢	熊野川町畝畑	明治13年	—	和田川上流大原川(谷)の川作(水路掘削)の完成記念に奉納された手水鉢。川作は木材流送のため行われた。	
07	05	三輪崎漁港	新宮市三輪崎1丁目		—	漁港。	
08	01	新宮浄水場	新宮市磐盾9-36	昭和8年	—	熊野川右岸で取水し揚水場から隧道を経て蛇沢浄水場（ポンプ室鉄骨造）まで導水。隧道出入口も現存。	1
08	01	石ヶ坪配水池	新宮市新宮	昭和38年	—	配水池。鉄筋コンクリート。	
08	01	丹鶴配水池	新宮市新宮	昭和8年	—	新宮城跡にある配水池。鉄筋コンクリート。蛇沢浄水場から浄水が送水される。	
08	01	南谷ポンプ室（水道）	新宮市新宮	昭和40年	—	木造。	
08	01	広角配水池	新宮市広角	昭和40年	—	配水池。鉄筋コンクリート。	
08	02	川原町跡	新宮川原	明治～昭和	—	横町、御幸町、新道の三筋に商店、宿屋、風呂屋など、明治～大正の最盛時約200軒。昭和25年最後の鍛冶屋が消滅。	
08	03	金龍寺長屋	新宮市千穂1丁目6	昭和	—	長屋。	
08	03	速玉大社長屋	新宮市新宮1番地	昭和	—	長屋。	
08	03	本廣寺長屋	新宮市新宮	昭和	—	長屋。	
08	03	雇用促進住宅相筋宿舎	新宮市相筋2丁目13	昭和	—	団地。	
08	03	井の沢団地	新宮市井の沢	昭和26年	—	木造等。	
08	03	大浜団地	新宮市王子町	昭和28年	—	木造等。	
08	03	王子団地	新宮市王子町	昭和34年	—	鉄筋コンクリート造。34年棟、36年棟、37年棟、39年棟、44年棟、45年棟。	
08	01	石ヶ坪団地	新宮市新宮	昭和38年	—	配水池。鉄筋コンクリート。人口増加による丹鶴配水池の容量不足で夏季に断水が発生するなどし、建設が急がれた。	
08	01	丸山団地	新宮市丹鶴	昭和8年	—	新宮城跡にある配水池。鉄筋コンクリート。蛇沢浄水場から浄水が送水される。	
08	03	下田団地	新宮市下田	昭和30年	—	鉄筋コンクリート造等。	
08	03	田鶴原団地	新宮市田鶴原	昭和28年	—	木造。	
08	03	砂羅団地	新宮市橋本	昭和27年	—	木造等。	
08	03	萩野団地	新宮市橋本	昭和29年	—	鉄筋コンクリート造。	
08	03	野田団地	新宮市野田	昭和30年	—	木造等。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	03	広角団地	新宮市広角	昭和31年	—	木造等。	
08	03	鴻田団地	新宮市鴻田	昭和36年	—	コンクリートブロック造等。	
08	03	三輪崎団地	新宮市三輪崎	昭和30年	—	木造。	
08	03	佐野団地	新宮市佐野	昭和28年	—	木造。	
08	03	相筋団地	新宮市相筋	昭和29年	—	木造。	
08	03	日足団地	新宮市熊野川町日足	昭和28年	—	木造。	
08	03	赤木団地	新宮市熊野川町赤木	昭和29年	—	木造。	
08	03	西敷屋団地	新宮市熊野川町西敷屋	昭和29年	—	木造。	
08	03	上長井特定住宅	新宮市熊野川町上長井	昭和29年	—	木造。	
08	03	西特定住宅	新宮市熊野川町西	昭和44年	—	木造。	
08	03	鎌塚特定住宅	新宮市熊野川町鎌塚	昭和39年	—	木造。	
08	03	滝本特定住宅	新宮市熊野川町滝本	昭和40年	—	木造。	
08	03	日足特定住宅	新宮市熊野川町日足	昭和45年	—	木造。	
08	03	九重特定住宅	新宮市熊野川町九重	昭和32年	—	木造。	
08	04	銭湯跡	各所	昭和	—	新宮湯、王子湯(王子青年クラブ横)、勇み湯(元鍛冶町)、月の湯(横町二丁目)、千鳥湯(徐福)、仙童湯(神倉4丁目)。三輪崎地区の銭湯。	
08	04	市営椰の湯(旧千鳥湯)	新宮市阿須賀2丁目5-10	昭和	—	銭湯。	
08	05	横町公園	新宮市横町1丁目1	昭和	—	旧新宮市立図書館跡。	
08	05	徐福公園	新宮市徐福1丁目4	昭和	—	昭和初期、公園として整備。石壁は南海地震で倒壊。	
08	06	新宮病院	新宮市仲之町2丁目	明治41年	—	病院。南海地震の火災で焼失。戦後2度にわたって新築。	
08	06	済生会病院跡	新宮市春日		—	病院。恩賜財団済生会設立後、全国でも早期に建設された。	
08	06	熊野病院跡	新宮市新宮(登坂)	明治27年	—	佐藤豊太郎(佐藤春夫の父)により開院。戦後、近畿大学新宮商経専門学校として利用。	
08	06	小口診療所	新宮市熊野川町上長井	昭和	—	診療所。	
08	06	高田診療所跡	新宮市高田	昭和	—	診療所。高倉神社の南にあった。	
08	06	熊野川診療所跡	新宮市熊野川町日足	昭和	—	診療所。	
08	06	新宮市民病院跡	新宮市新宮	昭和22年	—	大正2年の浮島遊郭設置に伴う駆黴院から。	
08	06	萩野病院跡	新宮市橋本1丁目10	昭和	—	感染症の隔離病棟を設置。	
08	06	国鉄診療所跡	新宮市徐福3丁目	昭和30年頃	—	平屋ガラス張りのモダンな建築、現在徐福公園前駐車場。	
08	07	新宮保健所跡	新宮市野田8	昭和	—	現在の東牟婁振興局内に移転後は建物の一部を改築、オークラ野田店として利用された。	
08	07	寿楽荘跡	新宮市三輪崎	昭和31年	—	老人福祉施設。国鉄三輪崎駅から新宮寄りの木造平屋。現在は木ノ川に移転。	
08	07	授産所跡	新宮市蓬萊3丁目7-29	昭和	—	昭和8年7月1日創立の共同作業場「新宮市方面事業助成会附属新宮市授産場」。現在は消防分団車庫。	
08	07	医師住宅	新宮市緑ヶ丘	昭和44年	—	医師のための住宅。	
08	07	紀南学園	新宮市井の沢	昭和	—	孤児院。昭和45年に松山に移転。跡地に新宮市立図書館を建築(令和3年に移転)。	
08	07	旧井の沢放課後児童クラブ	新宮市井の沢	昭和45年	—	学童保育施設。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	08	映画館「新宮東宝劇場」跡	新宮市横町2丁目1	昭和24年	—	跡地は現在駐車場。	
08	08	映画館「新宮東映劇場」跡	新宮市馬町2丁目4	昭和（戦後）	—	跡地は現在パチンコ21世紀駐車場。	
08	08	映画館「新宮松竹劇場」跡	新宮市馬町2丁目3	昭和（戦後）	—	跡地は現在パチンコ21世紀。	
08	08	映画館「葵劇場」跡	新宮市谷王子3-2	昭和初期	—	戦前「新宮ニューズ館」として開業。戦後「新宮映画劇場」→「アオイ劇場」。	
08	08	浮島映画劇場跡	新宮市浮島2丁目15付近	昭和10年代	—	劇場。	
08	08	日ノ出座劇場跡	新宮市馬町2丁目	明治33年	—	劇場。日の出通。	
08	08	末広座劇場跡	新宮市馬町3丁目	明治	—	劇場。日の出通。	
08	08	新玉座劇場跡	新宮市相筋1丁目6	明治30年	—	尾崎屋酒造部の船町へ移転後の跡地に建築。	
08	08	新宮熊野座映画館跡	新宮市三輪崎2丁目3-21		—	現在は医療法人井畑医院。	
08	08	丹鶴城遊園地跡	新宮市丹鶴	明治	—	明治以降に次第に遊園地として整備、大正期には3階建ての展望塔も設置。	
08	08	新宮遊園地跡	新宮市丹鶴388-10	昭和30年頃	—	旧新宮税務署跡地に戦後「新宮遊園地」開園。小規模ながらメリーゴーランドや飛行機の回転塔等も備えた県下初都市型遊園地。現在はソタヤ。	
08	08	新宮ボウリングセンター跡	新宮市池田	昭和42年	—	ボウリング場。	
08	08	新宮荘跡	新宮市丹鶴7684		—	旅館。現在のNTT前敷地。	
08	08	有萬（アルマン）跡	新宮市伊佐田町1丁目2、他		—	旅館。旅館の一部として、西村伊作設計の旧チャップマン邸を使用。登坂側にも玄関、客室、宴会場などの二階建て増築。当時のパンフレットあり。	
08	08	丹鶴荘跡	新宮市下本町2丁目5		—	旅館。	
08	08	茂ノ井旅館跡	新宮市別当屋敷町5		—	旅館。当時のパンフレットあり。	
08	08	あぶ庄	新宮市元鍛冶町2丁目4-2		—	旅館。当時のパンフレットあり。	
08	08	二の丸旅館跡	新宮市新宮		—	旅館。新宮城跡鐘ノ丸で営業。当時のパンフレットあり。	
08	08	大前屋旅館	新宮市三輪崎	明治36年	国登録	旅館。木造2階建て、入母屋造、瓦葺、1階には出格子を構え、2階には出桁造の軒や高欄付きの腰高窓を設ける。平成元年頃まで営業。	
08	08	旅館跡（明治～戦前）	各所		—	旅館。油屋、宇治長旅館、大島屋、清水屋、他。	
08	09	高田水害記念碑	新宮市高田西奥	昭和31年	—	7名犠牲。昭和31年10月30日に建立された。	
08	09	日足水害記念碑	新宮市熊野川町日足	明治？	—	明治22年大水害を記念して建てられた石碑。浸水高がわかる。	
08	09	昭和南海地震火災跡	各所	昭和21年	—	昭和21年12月21日に大地震が発生。市街地では火災が発生し、大きな被害。現在も地中には焼土、瓦礫が埋蔵。	
08	09	カーナボンセーア号座礁地	御手洗海岸	明治16年	—	イギリス汽船カーナボンセーア号が御手洗海岸で座礁難破。三輪崎、広角の住民らが乗組員を救助。	
08	12	三本杉（相筋）遊郭	新宮市相筋1丁目4～6付近	明治39年	—	衆井楼、熊本楼、広島楼、上村楼、いろは楼、金水楼、錦楼、木本楼、金波楼、栄楼、一力。明治45年元日に大半焼失、翌年浮島に移転。	
08	12	浮島遊郭	新宮市浮島5～7付近	大正2年	—	金水楼、熊本楼、錦楼、第二水治楼、巴楼、喜代み楼、浪花楼、いろは楼、第三水治楼、大勢楼、八幡楼。	
08	12	高田会館	新宮市高田	昭和30年	—	集会所。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	12	小口中央会館	新宮市熊野川町上長井	昭和32年	—	集会所。	
08	12	志古集会所	新宮市熊野川町志古	昭和45年	—	集会所。	
08	12	旧西敷屋集会所	新宮市熊野川町西敷屋	昭和44年	—	集会所。	
08	12	東集会所	新宮市熊野川町東	昭和38年	—	集会所。	
08	12	九重集会所	新宮市熊野川町九重	昭和41年	—	集会所。	
08	12	嶋建集会所	新宮市熊野川町嶋津	昭和45年	—	集会所。	
08	13	旧西村伊作邸（西村記念館）	新宮市丹鶴	大正3年	国重文	文化学院を創立した大正期の文化人である伊作が自ら設計し、地元の大工を指導して建築。	1
08	13	旧チャップマン邸（西村伊作関係）	新宮市丹鶴	大正15年	国登録	西村伊作邸筋向いに位置する伊作が設計した洋館。チャップマンはアメリカの宣教師で伊作と親しく交流した。	1
08	13	旧佐藤春夫邸（佐藤春夫記念館）	新宮市新宮	昭和2年	—	文豪佐藤春夫の東京の住まいを記念館するため移築。佐藤春夫・西村伊作・大石七分（伊作弟）設計。	1
08	13	佐藤春夫筆塚	新宮市下本町	昭和41年	—	旧市民会館に設置された。毎年11月3日に筆供養を開催。令和3年に丹鶴ホール敷地に移設。	
08	13	「望郷五月歌」詩碑（佐藤治夫関係）	新宮市新宮	昭和34年	—	佐藤春夫の詩碑。速玉大社境内に建立されている。	
08	13	太平洋食堂跡	新宮市船町	明治37年	—	大石誠之助が自宅の向いに開店したレストラン。自ら料理人として西洋の食生活を庶民に紹介した。	
08	14	南谷墓地（大逆事件関係）	新宮市南谷	大正	—	大逆事件で犠牲となった大石誠之助、高木顕明、峯尾節堂の墓がある。	
09	01	和歌山県東牟婁郡役所跡	新宮市谷王子町	明治45年	—	明治45年、和歌山の原庄組が建設。大正15年に解体後、東牟婁市庁舎、東牟婁地方事務所、現在はオークワ立体駐車場。鬼瓦を歴史民俗資料館で収蔵。	
09	01	新宮町役場跡	新宮市丹鶴（お堀の北）	大正12年	—	初期は平屋の新宮町役場。大正12年木造二階建新築。昭和21年引揚者用アパートに転用、役所事務は公会堂に移して新市役所とする。	
09	01	新宮市役所跡	新宮市丹鶴（八幡山）	大正5年	—	西村伊作設計の大正5年建築の旧新宮市公会堂を使用。戦後は市役所に転用、昭和38年現在の場所に移転。解体後は跡地に昭和41年新宮市民会館建設。	
09	01	三輪崎支所	新宮市三輪崎	昭和41年	—	市役所の支所。	
09	01	旧法務局熊野川出張所	新宮市熊野川町	昭和36年	—	法務局出張所。木造。	
09	01	和歌山県東牟婁事務所跡	新宮市新宮（オークワ）		—	高等小学校→東牟婁郡役所→東牟婁市庁舎→和歌山県東牟婁地方事務所。	
09	01	敷屋地区コミュニティ消防センター	新宮市西敷屋		—	消防施設。	
09	01	新宮警察署跡	新宮市下本町6-3	大正8年	—	西日本電信電話㈱新宮別館の敷地北側部分。戦後大橋通りに移転。	
09	01	新宮消防署跡	新宮市下本町6-3		—	西日本電信電話㈱新宮別館の敷地南側部分。昭和32年、丹鶴小学校横に新築移転（現在丹鶴ホール敷地）。	
09	01	新宮市公会堂跡	新宮市丹鶴（八幡山）	大正5年	—	西村伊作設計。南面の石垣の一部は、市民会館解体時まで残存していた。	
09	03	和歌山拘置所新宮拘置支所跡	新宮市春日1-36		—	現在は緑丘3丁目2-64に移転。跡地に新宮市職業訓練センターを建設。	
09	03	新宮裁判所	新宮市千穂3丁目		—	昭和31年に改築。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	旧新宮高等女学校空爆跡	新宮市伊佐田町2丁目1	昭和20年	—	駅前パーキング内コンクリート塀（旧高等女学校塀）に米軍の空爆（昭和20年）による破片の貫通痕が多数残る。	
09	06	熊野大橋橋脚空爆跡	新宮市	昭和20年	—	直撃は免れたが、三重県寄りの橋脚に米軍の空爆（昭和20年）の痕跡が残る。	
09	06	防空壕	新宮市丹鶴（登坂）、相筋	昭和	—	新宮城跡や権現山の山麓に防空壕が造られていたが、現在は埋め戻されている。	
09	06	丙寅戦死者の碑	新宮市新宮（南谷墓地）	明治11年	—	慶応2年第2次長州征伐の戦死者を悼み、慶応3年に作成されたが、明治維新で建立されず放置。明治11年十三回忌に南谷墓地内に建立。	
09	06	熊野速玉大社 忠魂碑	新宮市新宮（熊野速玉大社境内）	明治41年	—	新宮中学校隣地に建立、その後新宮市役所（公会堂）前を経て、戦後に速玉大社境内に移設。	
09	06	戦災震災慰霊塔	新宮市新宮（南谷墓地）	昭和51年	—	昭和19年の震災、昭和20年の戦災、昭和21年の震災による犠牲者を慰霊。	
09	06	戦災震災復興顕彰碑	新宮市下本町（旧新宮市市民会館前）	昭和53年	—	昭和53年12月21日新宮市が建立。第二次世界大戦及び昭和21年南海大地震からの復興を顕彰。市民会館解体に伴い撤去されたが、顕彰プレートを市役所内に掲示。	
09	06	日露戦役三十年記念碑	新宮市王子町（王子神社境内）		—	県史跡浜王子跡（王子神社）境内に建つ。	
10	01	学校跡、幼稚園跡	各所	明治～昭和	—	尋常小学校、尋常高等小学校、新制小中高等学校、国民学校、他。	
10	01	旧丹鶴小学校校門	新宮市下本町2丁目2-1	大正10年	—	元は新宮第一尋常小学校の校門（新宮市新町2付近）。西村伊作が長女の卒業を記念し、設計・寄贈。戦後、小学校の移転に伴い、現在地に移設。	
10	01	旧小口小学校	新宮市熊野川町上長井	昭和27年	—	小学校。木造。	
10	01	旧小口小学校鎌塚分校	新宮市熊野川町鎌塚	昭和35年	—	小学校。木造。	
10	01	旧宮井中学校	新宮市熊野川町宮井	昭和23年	—	中学校。木造。	
10	01	旧九重小学校	新宮市熊野川町九重	昭和34年	—	小学校。木造。	
10	01	旧敷屋小学校	新宮市熊野川町西敷屋	昭和27年	—	小学校。木造。	
10	01	旧敷屋幼稚園	新宮市熊野川町西敷屋	昭和29年	—	幼稚園。木造。	
10	01	城南中学校	新宮市清水元	昭和45年	—	中学校。伊佐田町から移転。	
10	01	近畿大学附属女子高等学校	新宮市新宮	昭和39年	—	現在の近畿大学付属中学校、高等学校。	
10	01	近畿大学新宮商経専門学校	新宮市新宮（登坂）	昭和28年	—	旧熊野病院に建てられた。旧熊野病院建物を利用、西側に二階建教室を増築。	
10	01	旧制新宮中学校	新宮市神倉	明治36年	—	明治34年和歌山県立二中新宮分校として開校、明治36年県立新宮中学校として独立。	
10	01	町立新宮高等女学校	新宮市伊佐田町	明治39年	—	大正2年郡立移管。大正5年県立移管。戦後跡地を新宮市立城南中学校。現在は新宮郵便局など。	
10	01	新宮実業学校	新宮市神倉	昭和6年	—	県立新宮中学校に隣接して開校。後に新宮商業学校、戦後は新宮中学校、新宮女学校と統合して新制新宮高校商業科。後の県立新宮商業高校の前身。	
10	01	和歌山県立新宮商業高等学校	新宮市佐野	昭和38年	—	県立新宮高校商業科を分離独立して開校。現在県立新翔高校。	
10	01	洋裁学校、洋裁研究所	各所		—	紀南ドレスメーカーカーク女学院（山路）、新宮高等技芸学校、中村洋裁研究所、松村、前川。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	01	熊野高等速算学校・熊野商工実務学校	新宮市新宮7683（登坂）	昭和10年	—	羽根学園。木造2階建物は現存。正面玄関に大きな4つ玉そろばんの欄間。熊野高等経理学校。	1
10	01	新宮准看護学院	新宮市伊佐田町1丁目2-12	戦後	—	新宮医師会館内。	
10	02	近畿大学高田水産実験場	新宮市高田西	昭和49年	—	三重県御浜町から移転された。淡水魚の養殖研究が行われている。	
10	03	新宮市立図書館跡	新宮市横町1丁目1	昭和28年	—	旧新宮税務署の移転に伴い解体移築して図書館とする。現在は解体され、跡地が横町公園。	
10	03	熊野神宝館	新宮市新宮	昭和33年	—	熊野速玉大社の境内。国宝等が収蔵される。	
10	03	新宮市民会館跡	新宮市新宮	昭和41年	—	旧市役所の跡地に建設された。鉄筋コンクリート地下1階、地上4階建。中ホールにあった村井正誠作の壁画は丹鶴ホールに移設。	
10	03	三輪崎青年会館	新宮市三輪崎	昭和2年	国登録	30坪の天井高5mの板間があり、演芸に使用できるよう設計され、三輪崎の鯨踊の練習も行われる。	1
10	03	熊野川総合開発センター	新宮市熊野川町日足	昭和	—	現在の熊野川行政局の隣。森林組合が入る。	
10	05	新宮市民運動競技場	新宮市佐野	昭和	—	黒潮国体サッカー競技場として二面を利用。	
10	05	高田若もの広場跡	新宮市高田西	昭和	—	広場。	
10	06	熊野速玉大社社殿	新宮市新宮	昭和27・28年	—	明治16年の火災により社殿、山門が焼失。その後、仮社殿であったが、昭和27～28年に再建された。	
10	06	阿須賀神社社殿	新宮市阿須賀	昭和27年	—	昭和20年、戦災により社殿が焼失。	
10	06	神倉神社社殿	新宮市神倉	大正7年	—	拝殿（縣造）は明治13年台風のために倒壊。大正7年に小拝殿が再建され、昭和5年頃から境内の整備が行われた。	
10	06	神倉神社社務所、鳥居、神橋	新宮市神倉1丁目12-8	昭和5年	—	神倉神社輯修復奉讃会発行の記念絵葉書あり。	
10	06	三輪崎八幡神社	新宮市三輪崎	明治44年	—	もと三輪崎海岸の新町付近に鎮座していたが、明治35年の火災で類焼。明治44年に上諏訪社があった現在地へ移転。	
10	06	東仙寺	新宮市新宮	明治30年	—	栗師町にあったが、明治29年の火災で焼失。翌年現在地に移転。寺地は丹鶴山→栗師町→清水元と移動。	
10	06	日本基督教会新宮教会	新宮市仲ノ町3丁目1	明治17年	—	教会。大石余平（西村伊作の父）らが建てる。大正10年、日和山へ移る。現在は、伊佐田町に移る。	
10	06	新宮カトリック教会	新宮市神倉	昭和30年	—	教会。	
10	06	旧天理教南海大教会	新宮市新宮	明治24年	—	明治24年に天理教南海支教会が設立される。現在も建物が残り、正明保育園となっている。	
10	06	天理教南海大教会	新宮市池田1丁目1	昭和	—	教会。	
10	06	金光教新宮教会	新宮市伊佐田町1丁目2-2	明治	—	教会。	
10	06	金光教熊野教会	新宮市相筋1丁目10		—	教会。	
10	06	金光教南紀教会	新宮市田鶴原町1丁目4-20		—	教会。	
10	06	阿弥陀院	新宮市熊野地2丁目12-12		—	寺院。	
10	06	日蓮正宗真福寺	新宮市丸山4-7	昭和43年	—	寺院。	
10	06	清水寺（清水大師）	新宮市清水元2丁目1-38		—	寺院。	
10	06	出雲大社新宮教会	新宮市神倉	昭和4年	—	市田町（仮教会）から移転。	
10	07	「鳩ぼっぼ」歌碑	新宮市徐福	昭和37年	—	新宮駅前。作詞者である東くめを顕彰するため建立。	
10	07	徐福顕彰碑	新宮市徐福	昭和15年	—	紀元2600年記念事業として建立。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
10	07	神武天皇聖蹟顕彰碑	新宮市阿須賀、佐野	昭和16年	—	阿須賀神社及び佐野王子跡に建立された。昭和15年に紀元2600年を記念して聖蹟指定を受ける。	

【那智勝浦町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
01	02	妙法鉱山	那智勝浦町妙法山周辺	江戸～	—	江戸時代前期には那智銅山開発が進み、昭和以降に帝国鉱産が中央選鉱場建設した。昭和29年に三菱金属鉱業が引き継ぎ、銅・硫黄を採鉱。昭和47年閉山。	1
01	04	円満地鉱山	那智勝浦町円満地	昭和	—	石原産業。	
01	04	色川鉱山	那智勝浦町色川	昭和	—	井筒鉱業。	
01	04	勝浦鉱山	那智勝浦町勝浦	昭和	—	日室鉱業。	
01	04	那智鉱山	那智勝浦町	昭和	—	藤田組。	
01	04	平野・佐野・高原鉱山	那智勝浦町	昭和	—	昭和産業。	
01	04	尻剣谷精錬所跡	那智勝浦町市野々	江戸～近代？	—	石組の焼成窯跡が上下9窯ずつ2列に並ぶ（計18窯）。周囲に坑道やズリ山、石積みなど。	
02	03	関西電力 那智発電所 堰堤・水路	那智勝浦町飛滝（第1堰堤）・市野々（第2堰堤）	大正2年	—	関西電力。第1堰堤は那智大滝直下。平成23年大水害で破損。水路現存。第2堰堤は暗谷川。現存。	1
02	03	関西電力 滝本発電所 堰堤・水路	那智勝浦町口色川（第1堰堤）・大野（第2堰堤）	大正10年	—	関西電力。第1堰堤は赤谷川に石積ダムを設置。トンネルで滝本川に注入し下流に第2堰堤設置。第2堰堤から水路・水槽は新宮市。	1
05	01	紀伊浦神駅	那智勝浦町浦神	昭和11年	—	現在も駅舎として機能している（JR紀勢本線）。昭和11年竣工。	1
05	01	下里駅	那智勝浦町下里	昭和10年	—	現在も駅舎として機能している（JR紀勢本線）。昭和10年竣工。	1
05	01	字久井駅	那智勝浦町字久井	昭和11年	—	現在も駅舎として機能している（JR紀勢本線）。昭和11年竣工。	1
05	01	那智駅	那智勝浦町浜ノ宮	昭和10年	—	現在も駅舎として機能している（JR紀勢本線）。昭和10年竣工。和風スタイルの外観、木造平屋建。	2
05	01	C58型ー353蒸気機関車	那智勝浦町築地	昭和	—		1
05	01	旧新宮鉄道 那智川橋脚跡	那智勝浦町	大正元年	—	現在使用されている橋梁の下流に橋脚が遺棄されている。間知石積。	
05	01	旧新宮鉄道 隧道	那智勝浦町字久井他	大正元年	—	紀勢線初の隧道。大正元年敷設。	1
05	01	旧新宮鉄道 隧道（大 狗子トンネル）	那智勝浦町大狗子	大正元年	—	大正元年三輪崎（新宮市）～勝浦（那智勝浦町）開業。大狗子トンネルは旧国道42号として現存。扁額「洞揺激感」。	
05	01	旧新宮鉄道 隧道（小 狗子トンネル）	那智勝浦町小狗子	大正元年	—	大正元年三輪崎（新宮市）～勝浦（那智勝浦町）開業。小狗子トンネルは旧国道42号として現存。扁額「洞満氣意」。	
05	01	山口熊野頌徳碑	那智勝浦町浜ノ宮（那智駅前）	昭和15年	—	那智町出身でアメリカ帰りの国会議員である山口の頌徳碑。紀勢線建設に尽力した。	2
05	07	乙島灯台	那智勝浦町乙島	昭和27年	—	（海上保安庁）。	1
05	09	西中野川水源堰の碑	那智勝浦町平野	明治	—	「堰切貫普請初 明治三年十月六日より翌末二月十九日出来 棟領 平野 区 与左衛門 井関邑銅山」。	82
05	11	旧井関郵便局	那智勝浦町井関	大正元年	—	木造平屋建。外部は下見板貼り塗装仕上げ。内部の天井仕上げ材も当時のまま。現在住居として使用。	1
06	06	旧大同銀行	那智勝浦町勝浦	昭和3年	—	現港郵便局。RC造2階建。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	01	笹の子池	那智勝浦町湯川	明治	—	水門に長井水路水門碑建立（明治29年）。	1
07	01	長井農業用水路	那智勝浦町長井	明治	—	市屋村庄屋で、灌漑用水のため与根河大池堤を完成。大正14年に建立。	1
07	01	引地嘉左衛門顕彰碑	那智勝浦町市屋	大正14年	—	明治19年熊野灘で暴風雨により沈没したノルマントン号遭難遺族が50周年法要時に建立。「英國商船諾曼頓號沈没之碑」。	81
08	09	ノルマントン号遭難碑	那智勝浦町狼煙山（現ホタル浦島）	昭和10年	—	明治25年、勝浦沖でのサンマ漁船遭難碑（倉田績書）。749名出漁、生存者520名、行方不明者229名。	82
08	09	熊野洋漁船遭難記念碑	那智勝浦町勝浦	明治40年	—	明治35年11月新宮・大阪航路の大黒丸が遭難、船長・船員4名の慰霊碑。	82
08	09	延命寺の大黒丸船員の碑	那智勝浦町宇久井	明治37年	—	昭和19年東南海大地震の津波の記念碑。地区住民建立。	82
08	09	天満の大津浪記念之碑	那智勝浦町天満（天満神社）	昭和25年	—	妙法山阿弥陀寺境内に建立。	82
08	10	人民解放運動戦士之碑	那智勝浦町南平野（阿弥陀寺境内）	昭和40年	—	佐藤春夫の父豊太郎生家。和風主屋は江戸期の建築で寺子屋として使用。洋館は豊太郎建築。	1
08	13	縣泉堂（佐藤春夫閨係）	那智勝浦町下里	大正13年	—	西村伊作設計。平面は長方形の会堂正面にポーチを付加。内外面とも完成時の姿をよく残す。	1
08	13	日本基督教団 紀南教会（西村伊作閨係）	那智勝浦町下里	大正14年	国登録	中里生まれで、明治維新後に戸長・村長・県会議員等を歴任、殖産興業に尽力。	83
09	01	大野辰平翁遺徳碑	那智勝浦町下和田（大秦寺境内）	明治42年	—	明治9年三重県御近町阿田和沖で雲揚艦が遭難、殉難者1名（海軍少尉百川知房）が宇久井赤嶋沖で漂流、宇太唐地に墓碑建立。	80
09	06	雲揚艦殉難者臺碑	那智勝浦町宇久井太唐地	明治9年	—	日露戦争の色川村戦没者5名の忠魂碑。妙宝山上に建立。	80
09	06	妙宝山の忠魂碑	那智勝浦町色川	明治42年	—	村民が教育基金を蓄積して日露戦争の戦勝記念とした記念碑。「戦役記念教育基金碑 伯爵東郷平八郎書」。	83
09	06	教育基金碑	那智勝浦町天満（円心寺）	明治39年	—	大秦寺境内に建立。	
09	06	大秦寺 忠魂碑	那智勝浦町下和田（大秦寺境内）	大正10年？	—		

【太地町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	05	水産共同組合事務所	太地町太地3263-2	大正7年	国登録	太地漁港の通りに西面して建つ。桁行11m梁間9.5mの木造入母屋造棧瓦葺で、外部木部は建具を含め淡いピンク色の特異な外観。	2
07	05	近代捕鯨基地跡	太地町太地 向島	江戸～昭和	—	江戸期の向島は鯨組大納屋があり、そこに帝国水産が近代捕鯨基地を建設した。昭和36年から極洋捕鯨が3年間、昭和51～62年まで日本捕鯨が操業した。現在地上には何も残っていない。	
07	05	スロープ（捕鯨関係）	太地町太地 向島	昭和	—	鯨体引き揚げに使用するもの。極洋捕鯨、日本捕鯨の事業所の一部。	
07	05	スロープ（捕鯨関係）	太地町太地 太地港	昭和	—	鯨体引き揚げに使用するもの。	
07	05	燈明崎山見支度部屋跡	太地町太地 燈明崎	江戸～明治	町史跡	海上に目を凝らし鯨の噴気を探したり海上の鯨舟を指揮した山見従事者が準備や休憩のための建物があった場所。建物は残っていない。昭和57年太地町文化財指定（史跡）。	
07	05	燈明番士住居跡	太地町太地 燈明崎	江戸～明治	—	寛永13年（1636）に紀州藩が設置した燈明を管理する藩士が居住した建物があった場所。住居を囲む石垣が残る。支度部屋に隣接。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	漂流人記念碑	太地町太地 平見の坂	明治～大正	—	古式捕鯨に終止符を打った明治11年の海難「春美流れ」を後世に伝えるために建てられた石碑。倉田績（いさお、大正8年歿）揮毫。	
09	06	東明寺の防空壕	太地町太地（東明寺境内）	昭和	—	戦中に使用されたもので、東明寺敷地内にある。	

【古座川町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
01	02	平井露頭跡	古座川町平井	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	峯谷鉾山跡	古座川町	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	下露鉾山跡	古座川町下露	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	黒谷鉾山跡	古座川町佐田	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	海老鉾山跡	古座川町長追	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	中の畑谷鉾山跡	古座川町真砂	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	宮ノ平鉾山跡	古座川町長追	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	松ノ前鉾山跡	古座川町大川	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	久留美谷鉾山跡	古座川町佐田・大川	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	蔵土鉾山跡	古座川町蔵土	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。現在も火薬庫跡がある。	
01	02	松原鉾山跡	古座川町南平	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	池田鉾山跡	古座川町明神	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	潤野鉾山跡	古座川町潤野	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	高瀬鉾山跡	古座川町高瀬	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	大谷鉾山跡	古座川町直見	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。現在、鉾山跡からの湧水が町指定文化財ハッチョウトンボが生息する湿田へ注ぎ込む。	
01	02	月野瀬鉾山跡	古座川町月野瀬	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
01	02	国王鉾山跡	古座川町直見	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	白倉鉾山跡	古座川町池野山	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	口広鉾山跡	古座川町池野山	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	西畑谷鉾山跡	古座川町池野山	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
01	02	添谷鉾山跡	古座川町小川	江戸～昭和	—	古座川弧状岩脈には鉾脈型熱水性鉾床があり、江戸時代～終戦頃まで主に銅を採掘した小規模鉾山跡。	
03	03	参宮橋 (5724)	古座川町添野川	昭和23年	—	H桁橋 (床鉄板)。	
05	03	小柳橋 (0008)	古座川町一前	昭和6年	—	RCT桁橋。	
05	03	鳥の小森橋 (0049)	古座川町成川	昭和	—	不明。	
05	03	出合橋 (0062)	古座川町榎山	昭和	—	RCT桁橋。	
05	03	津路橋 (0081)	古座川町山手	昭和	—	木橋 (上路式)。	
05	03	大塔谷口橋 (0082)	古座川町松根	昭和	—	木橋 (上路式)。	
05	03	泉郷橋 (0092)	古座川町添野川	昭和	—	不明。	
05	03	松ノ木橋 (0095)	古座川町松根	昭和	—	不明。	
05	03	桑通橋 (5708)	古座川町小森川	昭和2年	—	吊橋 (木製構造)。	1
05	03	成見川橋 (5709)	古座川町小森川	昭和29年	—	吊橋 (鋼木・製混合構造)。	
05	03	栗須橋 (5710)	古座川町小森川	昭和5年	—	吊橋 (木製構造)。	1
05	03	きじやま橋 (5713)	古座川町小川	昭和3年	—	吊橋 (鋼木・製混合構造)。	1
05	03	小松谷橋 (5716)	古座川町西赤木	昭和29年	—	吊橋 (鋼木・製混合構造)。	
05	03	三尾の口橋	古座川町三尾川	昭和25年	—	吊橋 (鋼木・製混合構造)。	
05	03	苔石橋 (5725)	古座川町下露	昭和22年	—	吊橋 (鋼木・製混合構造)。	
05	03	宮の平橋 (5741)	古座川町宇箇井	昭和29年	—	吊橋 (木製構造)。	
05	03	添谷橋 (5764)	古座川町小川	昭和25年	—	吊橋 (木製構造)。	
05	03	下地橋 (5766)	古座川町三尾川	昭和28年	—	吊橋 (木製構造)。	
05	03	栗ノ木橋 (5767)	古座川町添野川	昭和23年	—	不明。	
05	04	榎山隧道	古座川町榎山	昭和25年	—	素掘、ブロック・パネル・タイル張り。	
05	11	佐田簡易郵便局	古座川町佐田	大正7年	—	木造平屋建。明治38年開局、大正7年から現局舎。内部はほぼ竣工当初のまま。	1
07	04	木材留場 (網場) 跡	古座川町瀧ノ押	明治～昭和	—	木材を一時留め置き木材流送の効率化を図るため古座川流域に多数設けられた。石やコンクリート、ワイヤーからなる構造物で、現在もコンクリート構造物が残る。	
07	04	木材留場 (網場) 跡	古座川町椎平	明治～昭和	—	木材を一時留め置き木材流送の効率化を図るため古座川流域に多数設けられた。石やコンクリート、ワイヤーからなる構造物で、現在もコンクリート構造物が残る。	
07	04	木材留場 (網場) 跡	古座川町小川	明治～昭和	—	木材を一時留め置き木材流送の効率化を図るため古座川流域に多数設けられた。石やコンクリート、ワイヤーからなる構造物で、現在もコンクリート構造物が残る。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
07	04	木材留場（網場）跡	古座川町宇津木	明治～昭和	—	古座川最下流の留場（網場）で規模も大きい。貯木場（揚場）までの流送の最終調整を担った。石やコンクリート、ワイヤーからなる構造物で、現在も痕跡が残る。	
07	04	佐本川筋岩石破砕跡	古座川町長追	明治～昭和	—	管流しを行う際に、妨げとなる岩場を破砕した跡。	
07	04	立合の木材トンネル	古座川町立合	明治～昭和	—	管流しのために岩盤に開けられたトンネル。立合川筋の木材の流送を担った。	
07	04	高川原貯木場（揚場）	古座川町高池	明治～昭和	—	木材を引き揚げた場。現在も跡地が残っている。	
07	04	高池製材所集積跡	古座川町高池	明治～昭和	—	製材所の跡地群。揚場に隣接して製材所が集積した。	
07	04	筏師慰霊碑	古座川町高瀬	明治	—	筏師の慰霊碑。	
07	04	佐藤新次郎頌徳碑	古座川町佐田	明治	—	桟筏税排床に向けて運動した人物の頌徳碑。	
07	04	小山直一顕彰碑	古座川町真砂	明治	—	私財を投じて、流送の際に妨げとなる岩場を破砕した人物の顕彰碑。	
07	04	真砂町場跡	古座川町真砂	江戸～昭和	—	流域の中継点として発展した町場。	
07	04	猿川のトロッコ跡	古座川町美里	昭和	—	谷の出口まで木材を運んだトロッコ跡。	
07	04	蔵土郷のトロッコ跡	古座川町蔵土	昭和	—	谷の出口まで木材を運んだトロッコ跡。	
07	04	北海道大学和歌山研究 林本館	古座川町平井	昭和2年	国登録	大正14年に演習林427haを購入し開設。現本館は昭和2年建設、平成7年改修。木造2階建。	1
09	06	高池小学校 忠魂碑	古座川町高池（高池小学校裏）	昭和	—		
09	06	忠魂碑	古座川町高池高池	昭和	—	日露戦争。	
09	06	旧小川小学校 忠魂碑	古座川町椎平（旧小川小学校裏）	昭和	—		
10	03	芳流館 互明社	古座川町高池	昭和？	—	木造平屋建洋館。ペンキ塗り外壁。若衆組という青年会の拠点。	1

【北山村】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
02	04	電源開発㈱七色ダム	東牟婁郡北山村七色	昭和40年	—	型式は重力式アーチダム。利用目的発電。堤高61.0m、堤頂長200.8m、堤体積157,000m ³ 。竣工1965年。	
05	03	奥瀬橋	東牟婁郡北山村竹原	昭和35年	—	竹原地区から北山川対岸の熊野市に通じる橋。もとは林道橋として当時は莫大な予算を投じて建設され、生活道路として現在も使われる。	
05	03	新大沼橋	東牟婁郡北山村大沼	昭和42年	—	大沼地区から北山川対岸の熊野市に通じる橋。渡し船のあった場所にかけられ、バス路線になるなど、村の中心部につながる重要な橋。	
05	03	上瀬橋	東牟婁郡北山村下尾井	昭和47年	—	下尾井地区から対岸の熊野市に通じる車も通れる吊り橋。当時としては最高級と言われ、現在も優美な景観が観光客に親しまれる。	
05	03	小松橋	東牟婁郡北山村小松	昭和30年	—	小松地区から対岸の熊野市に通じる木桁吊橋。熊野市の学校に通うなど生活道路であったが、台風の増水で流失して復旧はしていない。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	03	中洲橋	東牟婁郡北山村大沼	昭和44年	—	大沼地区の中洲に通じる橋。現在は改修され橋跡はないが、他の橋同様、住民生活に欠かせないものであった。	
05	04	小森隧道	東牟婁郡北山村下尾井	昭和43年	—	村内、国道169号における唯一のトンネル。全長260.6m、昭和43年開通。	
05	09	七色堰堤（北山川）	東牟婁郡北山村七色	昭和40年	—	七色ダムの堰堤。ダムの堰堤を道路として利用し、北山村の玄関口となっている。北山川を渡って三重県熊野市への歩道の役割もはたしている。	
05	09	竹原堰堤（北山川）	東牟婁郡北山村竹原	昭和	—	北山川を渡って三重県熊野市への歩道の役割もはたしている。	
07	04	妙法連華経塔	東牟婁郡北山村七色	明治5年	—	北山川筏流しの難所「七色の滝」で犠牲になった筏師の供養と難所の改修工事を記念して建立された。村内には江戸時代以降の安全祈願の不動様・磨崖仏等が数箇所残る。	
09	06	忠霊塔	東牟婁郡北山村大沼	昭和17年	—	日露戦争以降の戦没者を祀っている。昭和17年建立。	

【串本町】

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
03	04	古座造船所 （古座川の中州）	串本町中湊	大正～昭和	—	古座川中州は造船所や工場、喫茶店等が並び、運動会も行うほど賑った。古座造船所は海軍指定でもあり、第五福竜丸もカツオ漁船として造られた。現在は全て建物流失。	
03	04	串本造船所	串本町串本	昭和	—	戦時中は陸軍の造船所として機能していた。また袋港には近代捕鯨の事業所もあった。	
04	04	森嘉味噌醬油酒造元の外壁	串本町串本	明治	—	レンガ造りの外壁が残されている。	1
04	06	石灰焼成釜跡	串本町田並	昭和	—	この地方ではサンゴを原料とした石灰製造が行われ、造られた石灰は檜野埼灯台等の漆喰にも使用された。この釜は昭和34～54年まで使用されたようである。	
05	01	鉄道（紀勢本線）	串本町	昭和11年	—	昭和11年下里・串本間、昭和15年串本・江住間開通。	
05	01	紀伊有田駅	串本町有田	昭和15年	—	現JR紀勢本線。	1
05	01	田並駅	串本町田並	昭和15年	—	現JR紀勢本線。	1
05	01	和深駅	串本町和深	昭和15年	—	現JR紀勢本線。	1
05	01	紀伊田原駅	串本町田原	昭和11年	—	現JR紀勢本線。	1
05	02	有田村道路元標	串本町有田	大正	—	有田村道路元標。有田公民館前に建っている。	
05	03	矢ノ熊橋2号橋	串本町串本	昭和40年	—	昭和40年架設。橋長2.4m、幅員3.7m。	
05	03	矢ノ熊橋3号橋	串本町串本	昭和43年	—	昭和43年架設。橋長2m、幅員1.8m。	
05	03	宮川橋	串本町串本	昭和43年	—	昭和43年架設。橋長3.6m、幅員4.1m。	
05	03	北地橋	串本町串本	昭和45年	—	昭和45年架設。橋長3.7m、幅員1.9m。	
05	03	末吉橋	串本町串本	昭和43年	—	昭和43年架設。橋長3.5m、幅員3.7m。	
05	03	中之橋	串本町串本	昭和38年	—	昭和38年架設。橋長4.5m、幅員2.7m。	
05	03	汐入上橋	串本町鬻野川	昭和45年	—	昭和45年架設。橋長5.7m、幅員3m。	
05	03	寺之元橋	串本町鬻野川	昭和37年	—	昭和37年架設。橋長12.9m、幅員2.63m。	
05	03	滝の谷橋	串本町二色	昭和45年	—	昭和45年架設。橋長4.5m、幅員2.5m。	
05	03	串ノ元橋	串本町高富	昭和38年	—	昭和38年架設。橋長11.8m、幅員2m。	
05	03	寺前橋	串本町高富	昭和34年	—	昭和34年架設。橋長10.7m、幅員2.6m。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	03	山の神橋	串本町高富	昭和10年	—	昭和10年架設。橋長10m、幅員3.6m。	
05	03	蔵尻橋	串本町高富	昭和10年	—	昭和10年架設。橋長10.1m、幅員3.6m。	
05	03	高富橋	串本町高富	昭和38年	—	昭和38年架設。橋長8.4m、幅員4.6m。	
05	03	常水川橋	串本町田並	昭和37年	—	昭和37年架設。橋長17.4m、幅員1.4m。	
05	03	火伏橋	串本町西向	昭和45年	—	昭和45年架設。橋長19.1m、幅員3m。	
05	03	太鼓橋	串本町西向	昭和35年	—	昭和35年架設。橋長19.7m、幅員2m。	
05	03	伊串橋	串本町伊串	昭和39年	—	昭和39年架設。橋長24m、幅員6.1m。	
05	03	上ヶ地橋	串本町西向	昭和45年	—	昭和45年架設。橋長25m、幅員2.1m。	
05	03	市谷橋	串本町古座	昭和	—	架設年不明。橋長8m、幅員5.85m。	
05	03	女鹿の谷橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長2m、幅員3m。	
05	03	山口第1号橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長3m、幅員1.42m。	
05	03	山口橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長5m、幅員2.9m。	
05	03	岩淵谷橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長2m、幅員2.98m。	
05	03	東谷第3号橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長8m、幅員2.55m。	
05	03	東谷第2号橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長6m、幅員2.53m。	
05	03	東谷第1号橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長5m、幅員2.5m。	
05	03	炭床橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長7m、幅員2.02m。	
05	03	足谷橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長3m、幅員4m。	
05	03	西谷第3号橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長7m、幅員2.5m。	
05	03	西谷第2号橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長6m、幅員3.2m。	
05	03	広田橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長7m、幅員4.8m。	
05	03	南の谿橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長6m、幅員3.3m。	
05	03	西谷第1号端	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長4m、幅員3m。	
05	03	通り橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長13m、幅員10.4m。	
05	03	横畑橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長3m、幅員6.95m。	
05	03	目津橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長3m、幅員4.45m。	
05	03	重の谷1号橋	串本町伊串	昭和	—	架設年不明。橋長7m、幅員2.95m。	
05	03	品田橋	串本町伊串	昭和	—	架設年不明。橋長6m、幅員4m。	
05	03	伊串上地橋	串本町伊串	昭和	—	架設年不明。橋長5m、幅員4m。	
05	03	小谷橋	串本町伊串	昭和	—	架設年不明。橋長6m、幅員3.4m。	
05	03	宮前橋	串本町伊串	昭和13年	—	昭和13年架設。橋長6m、幅員3.2m。	
05	03	大浦橋	串本町伊串	昭和	—	架設年不明。橋長4m、幅員5.8m。	
05	03	浜地橋	串本町姫	昭和	—	架設年不明。橋長5m、幅員7.2m。	
05	03	榎谷橋	串本町姫	昭和	—	架設年不明。橋長11m、幅員3.65m。	
05	03	よきとぎ橋	串本町姫	昭和41年	—	昭和41年架設。橋長10m、幅員3.4m。	
05	03	エチ橋	串本町姫	昭和41年	—	昭和41年架設。橋長10m、幅員3.65m。	
05	03	石戸橋	串本町姫	昭和	—	架設年不明。橋長2m、幅員2.35m。	
05	03	天満橋	串本町姫	昭和	—	架設年不明。橋長4m、幅員2.83m。	
05	03	西ノ谷橋	串本町姫	昭和	—	架設年不明。橋長5m、幅員2.45m。	
05	03	池の谷橋	串本町姫	昭和	—	架設年不明。橋長6m、幅員3.35m。	
05	03	市谷第1号橋	串本町古田	昭和	—	架設年不明。橋長3m、幅員2.53m。	
05	03	榎谷第2号橋	串本町姫	昭和	—	架設年不明。橋長5m、幅員4.3m。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	03	櫻谷第3号橋	串本町姫	昭和	—	架設年不明。橋長9m、幅員4.4m。	
05	03	二の露橋	串本町中湊	昭和	—	架設年不明。橋長6m、幅員3.1m。	
05	03	三の露橋	串本町中湊	昭和	—	架設年不明。橋長3m、幅員3.4m。	
05	03	寺の谷第3号橋	串本町中湊	昭和	—	架設年不明。橋長2m、幅員2.2m。	
05	03	寺の谷第2号橋	串本町中湊	昭和	—	架設年不明。橋長3m、幅員3.92m。	
05	03	寺の谷第1号橋	串本町中湊	昭和	—	架設年不明。橋長4m、幅員3.9m。	
05	03	和田橋	串本町中湊	昭和	—	架設年不明。橋長9m、幅員4.45m。	
05	03	江崎橋	串本町中湊	昭和	—	架設年不明。橋長4m、幅員4m。	
05	03	宮城谷橋	串本町中湊	昭和	—	架設年不明。橋長6m、幅員3.5m。	
05	03	右東谷橋	串本町中湊	昭和	—	架設年不明。橋長4m、幅員6.35m。	
05	03	きちごん谷橋	串本町中湊	昭和	—	架設年不明。橋長5m、幅員6m。	
05	03	宮城谷川橋	串本町中湊	昭和	—	架設年不明。橋長6m、幅員3.4m。	
05	03	原町橋	串本町西向	昭和	—	架設年不明。橋長4m、幅員8m。	
05	03	汐入橋	串本町鬪野川	昭和41年	—	昭和41年架設。橋長24m、幅員3.7m。	
05	03	八幡橋	串本町鬪野川	昭和41年	—	昭和41年架設。橋長15m、幅員2.9m。	
05	03	浦木橋	串本町二色	昭和35年	—	昭和35年架設。橋長19.6m、幅員3.7m。	
05	03	貝岡橋	串本町有田	昭和21年	—	昭和21年架設。橋長3.5m、幅員2.5m。	
05	03	大山橋	串本町有田	昭和42年	—	昭和42年架設。橋長6.2m、幅員2.8m。	
05	03	栗師橋	串本町有田	昭和35年	—	昭和35年架設。橋長14.6m、幅員2.9m。	
05	03	院蛇羅橋	串本町有田	昭和36年	—	昭和36年架設。橋長25.1m、幅員4.1m。	
05	03	新字井橋	串本町高富	昭和	—	架設年不明。橋長7.5m、幅員1.6m。	
05	03	土地木橋	串本町高富	昭和38年	—	昭和38年架設。橋長23m、幅員5.4m。	
05	03	長字井橋	串本町高富	昭和38年	—	昭和38年架設。橋長19m、幅員5.4m。	
05	03	新田橋	串本町和深	昭和42年	—	昭和42年架設。橋長33m、幅員3.2m。	
05	03	有田橋	串本町有田	昭和33年	—	昭和33年架設。橋長35.8m、幅員4.2m。	
05	03	江郷橋	串本町有田	昭和38年	—	昭和38年架設。橋長20m、幅員2.3m。	
05	03	田子田橋	串本町田並	昭和40年	—	昭和40年架設。橋長5m、幅員3m。	
05	03	江田橋	串本町江田	昭和	—	架設年不明。橋長6.8m、幅員3m。	
05	03	背ノ谷橋	串本町田子	昭和36年	—	昭和36年架設。橋長5.6m、幅員3.9m。	
05	03	田子大橋	串本町田子	昭和27年	—	昭和27年架設。橋長35m、幅員5.6m。	
05	03	二川橋	串本町田子	昭和41年	—	昭和41年架設。橋長8.4m、幅員2.8m。	
05	03	安指大橋	串本町和深	昭和26年	—	昭和26年架設。橋長19.2m、幅員5.6m。	
05	03	冠者口橋	串本町和深	昭和40年	—	昭和40年架設。橋長5.1m、幅員2.3m。	
05	03	追谷口橋	串本町和深	昭和45年	—	昭和45年架設。橋長8.8m、幅員2.8m。	
05	03	追谷橋	串本町和深	昭和31年	—	昭和31年架設。橋長6.9m、幅員2.8m。	
05	03	真浦橋	串本町和深	昭和40年	—	昭和40年架設。橋長4.2m、幅員3.4m。	
05	03	下地橋	串本町和深	昭和44年	—	昭和44年架設。橋長13.1m、幅員3m。	
05	03	熊谷橋	串本町和深	昭和45年	—	昭和45年架設。橋長6.1m、幅員3m。	
05	03	宮平橋	串本町里川	昭和41年	—	昭和41年架設。橋長8.6m、幅員4.05m。	
05	03	古川橋	串本町里川	昭和45年	—	昭和45年架設。橋長5.4m、幅員4m。	
05	03	比曽原橋	串本町里川	昭和38年	—	昭和38年架設。橋長17.4m、幅員2.7m。	
05	03	比曽原上橋	串本町里川	昭和40年	—	昭和40年架設。橋長3.3m、幅員3.8m。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	03	猿川橋	串本町里川	昭和40年	—	昭和40年架設。橋長9.2m、幅員3.7m。	
05	03	新田並橋	串本町田並	昭和31年	—	昭和31年架設。橋長20.5m、幅員5.5m。	
05	03	田子郷橋	串本町田子	昭和	—	架設年不明。橋長2.7m、幅員2.8m。	
05	03	北曽口第2号橋	串本町津荷	昭和	—	架設年不明。橋長12.1m、幅員0.8m。	
05	03	亀の甲橋	串本町津荷	昭和	—	架設年不明。橋長14.2m、幅員2.1m。	
05	03	江川橋	串本町津荷	昭和	—	架設年不明。橋長3m、幅員2.5m。	
05	03	津荷西谷第1号橋	串本町津荷	昭和	—	架設年不明。橋長5.6m、幅員2.5m。	
05	03	松葉橋	串本町津荷	昭和	—	架設年不明。橋長3m、幅員2.15m。	
05	03	津荷南橋	串本町津荷	昭和	—	架設年不明。橋長5.8m、幅員24.6m。	
05	03	立場谷第2号橋	串本町上田原	昭和	—	架設年不明。橋長5m、幅員3m。	
05	03	立場谷第1号橋	串本町上田原	昭和	—	架設年不明。橋長5.3m、幅員3.5m。	
05	03	長谷橋	串本町上田原	昭和	—	架設年不明。橋長10.5m、幅員4.75m。	
05	03	するすゞ橋	串本町上田原	昭和	—	架設年不明。橋長7m、幅員2.6m。	
05	03	和田地橋	串本町上田原	昭和	—	架設年不明。橋長4.7m、幅員4.2m。	
05	03	大畑第2号橋	串本町佐部	昭和	—	架設年不明。橋長4.7m、幅員2.5m。	
05	03	市洞橋	串本町佐部	昭和	—	架設年不明。橋長5.6m、幅員3.06m。	
05	03	大畑橋	串本町佐部	昭和	—	架設年不明。橋長9.4m、幅員3m。	
05	03	大川端橋	串本町佐部	昭和	—	架設年不明。橋長4.5m、幅員4m。	
05	03	役見端橋	串本町佐部	昭和	—	架設年不明。橋長4.4m、幅員4.9m。	
05	03	明神橋	串本町佐部	昭和	—	架設年不明。橋長11m、幅員2.5m。	
05	03	湯の谷橋	串本町佐部	昭和	—	架設年不明。橋長7m、幅員4m。	
05	03	荒船第3号橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長4.52m、幅員2.4m。	
05	03	高浜第2号橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長3.9m、幅員0.8m。	
05	03	高浜第3号橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長4.65m、幅員0.9m。	
05	03	高浜第5号橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長4.3m、幅員2.5m。	
05	03	荒船第2号橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長6m、幅員2.5m。	
05	03	荒立橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長5m、幅員3m。	
05	03	山谷橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長2m、幅員2m。	
05	03	玉蔵院橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長3.15m、幅員1.5m。	
05	03	田原上地橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長2m、幅員3.1m。	
05	03	東向橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長3.4m、幅員4m。	
05	03	荒船第1号橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長10m、幅員3m。	
05	03	荒船大浦橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長5.05m、幅員3m。	
05	03	ヘクサピ橋	串本町田原	昭和	—	架設年不明。橋長7.8m、幅員2.75m。	
05	03	沖出橋	串本町田原	昭和29年	—	昭和29年架設。橋長20m、幅員5.5m。	
05	03	古座大橋	串本町中湊	昭和25年	—	昭和25年、敗戦から5年後の貧しい時代に完成。当時、古座川を渡る最下流の橋で、町の中心街を通り新宮方面や串本方面への行き来で賑わった。	
05	04	出雲隧道（県道41号線）	串本町出雲	昭和43年	—	昭和43年竣工、県道41号線内。	
05	04	高濱隧道（国道42号線）	串本町高富	昭和42年	—	昭和42年竣工、国道42号線内。	
05	04	旧高濱隧道（旧国道）	串本町高富	昭和	—	年代不明、旧国道、現在は落石により通行不可。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	04	逢坂山隧道 (国道42号線)	串本町有田	昭和42年	—	昭和42年竣工、国道42号線内。	
05	04	田並隧道 (国道42号線)	串本町田並	昭和41年	—	昭和41年竣工、国道42号線内。	
05	04	富山隧道 (国道42号線)	串本町田子	昭和41年	—	昭和41年竣工、国道42号線内。	
05	04	和深隧道 (国道42号線)	串本町和深	昭和42年	—	昭和42年竣工、国道42号線内。	
05	04	里川隧道 (県道39号線)	串本町里川	大正3年	—	レンガと石積。大正3年～昭和6年の間建設 (昭和6年自動車通行可能)。県道39号線、平成5年新トンネル完成で車両通行禁止。	1
05	07	檜野崎灯台	串本町檜野	明治3年	国史跡	明治に建設された日本最初期の灯台。R. H. ブラントン設計。戦後に嵩上げされたが、土台部分・灯塔部分は往時のものが残る。	1
05	07	檜野崎灯台旧官舎	串本町檜野	明治3年	国登録	明治に建設された檜野崎灯台職員の官舎。石造りの往時の姿を残す。エルトワールル号遭難事件では生存者が官舎の灯台職員に助けを求め、治療が行われた。	1
05	07	潮岬灯台	串本町潮岬	明治11年	—	明治6年初点灯 (木造)。明治11年に石造に改築。当初はR. H. ブラントン、石造はマクリッチが設計した洋式灯台の一つ。	1
05	07	潮岬灯台官舎	串本町潮岬	明治3年	—	潮岬灯台の官舎。ブラントンによる2番目の官舎。宇津木石の石造。倉庫・門柱・塀・日時計現存。	1
05	07	檜野港防波堤灯台	串本町檜野	昭和25年	—	昭和25年設置。塔高8.5m。	
05	07	鶴島灯台	串本町出雲	昭和28年	—	昭和28年設置。塔高12.37m。	
05	07	紀伊大島港南防波堤灯台	串本町大島	昭和30年	—	昭和30年設置。塔高7.46m。	
05	07	戸島崎灯台	串本町大島	昭和30年	—	昭和30年設置。塔高7.81m。	
05	07	白野魚港北防波堤灯台	串本町須江	昭和30年	—	昭和30年設置。塔高7.46m。	
05	07	串本港北防波堤灯台	串本町串本	昭和32年	—	昭和32年設置。塔高8.46m。	
05	07	袋港導灯 (前灯、後灯)	串本町串本	昭和35年	—	昭和35年設置。塔高 前灯9.83m、後灯11.83m。	
05	07	串本新港南防波堤灯台	串本町串本	昭和45年	—	昭和45年設置。塔高10.15m。	
05	07	古座川河口灯台	串本町古座	昭和7年	—	昭和7年初点灯。塔高8.4m。	
05	09	古座川河口導流堤 (通称かんがり)	串本町古座	昭和7年	—	昭和7年に造られた古座川河口の導流堤。	1
05	12	木製電柱	串本町和深 (東地)	昭和	—	和深地区旧国道沿いに建っている。	
05	12	木製電柱	串本町和深 (新田平見)	昭和	—	熊野古道新田平見道入口近くにあり、現在も使用されている。	
05	12	木製電柱	串本町有田	昭和	—	有田田並間の旧国道沿いに建っている。	
05	12	木製電柱	串本町高富	昭和	—	高富地区内に数本散見される。	
05	12	木製電柱	串本町檜野	昭和	—	檜野崎灯台前広場入口の橋近く。木柱だけが残されている。	
05	12	木製電柱	串本町佐部	昭和	—	佐部地区内県道沿いに建つ。現在も街灯が設置されている。	
05	12	木製電柱	串本町二色	昭和	—	二色地区の国道付近に2本あり、1本は街灯が設置されている。	
05	14	口熊野奥熊野境界社	串本町田原	昭和2年	—	昭和2年建立。串本町と那智勝浦町の境界あたりに立つ。	
05	14	有田・田並境界石柱	串本町有田 (田並)	明治～大正	—	旧有田村と旧田並村の間で地先の漁場を巡って、激しい境界紛争が行われていた。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
05	14	SL用水移送管	串本町鬪野川		—	詳細不明。	
06	07	大島遊郭	串本町大島	明治39年	—	明治39年から公娼の遊郭として認可された。大正2年火事により全焼した。	
07	01	植松弥助の墓	串本町串本	幕末～明治	—	慶応2年徳島から甘藷を持ち帰り、紀南各地に広め、熊野芋・弥助芋の名で広く知られた。没後明治19年に和歌山県令、45年に西牟婁郡農会長の表彰。墓は串本串木谷墓地内。	
07	01	大船池	串本町田並		—	農業用ため池。	
07	01	下佐池	串本町高富		—	農業用ため池。	
07	01	白旗池	串本町二色		—	農業用ため池。	
07	01	弁天池	串本町鬪野川		—	農業用ため池。	
07	01	ガッコの池	串本町大島		—	農業用ため池。	
07	01	ゴンイチの池	串本町須江		—	農業用ため池。	
07	01	ヒガシの池	串本町須江		—	農業用ため池。	
07	01	姫池	串本町姫		—	農業用ため池。	
07	01	池の谷池	串本町伊串		—	農業用ため池。	
07	01	大浦池	串本町西向		—	農業用ため池。	
07	01	東谷池	串本町神野川		—	農業用ため池。	
07	01	岩淵小池	串本町西向		—	農業用ため池。	
07	01	岩淵大池	串本町西向		—	農業用ため池。	
07	01	岩淵谷池	串本町古田		—	農業用ため池。	
07	01	よこぼり池	串本町中湊		—	農業用ため池。	
07	01	ひょうたん池	串本町津荷		—	農業用ため池。	
07	01	玉蔵院池	串本町田原		—	農業用ため池。	
07	01	山中池	串本町田原		—	農業用ため池。	
07	01	長谷池	串本町上田原		—	農業用ため池。	
07	01	小池の口池	串本町佐部		—	農業用ため池。	
07	04	岩洲のあば	串本町西向	明治～	—	古座川河口部の材木の集散地。川岸の各所に流下材の集積場所があり、明治43年以後、付近に蒸気機関による製材工場が建ち始め、昭和初年頃が最盛期。	
07	05	吊鯨塔	串本町大島	昭和15年	—	この供養塔のある大島水谷地区で水揚げされた鯨が解体されていた。この供養塔は昭和15年に建てられた。	
07	05	木曜島移民顕彰碑	串本町潮岬	明治～昭和	—	明治中期～昭和初期にかけて海外への出稼ぎが盛んに行われた。顕彰碑はオーストラリアの木曜島への移民を称えて平成10年建立。	
08	01	真谷の井戸	串本町古座		—	詳細不明。	1
08	01	堀切の滝	串本町津荷	明治？	—	年代不明。津荷川にある落差約4 mの滝。河道を変えるために岩盤を掘削し人工的に作られた。明治中期には出来ていたと考えられている。	
08	02	下浦海岸埋立	串本町串本	大正～昭和	—	大正7年から昭和50年頃にかけて、漁港の築造や宅地造成などで串本の各地が埋め立てられ、串本の町並みは大きく変化した。	
08	06	旧西医院	串本町西向	大正8年	—	木造2階建は医院として診察室や手術室があった。洋館平屋建は昭和4年に医院として建築。	1

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	エルトゥールル号遭難事件 遭難者墓地	串本町樫野	明治～	国史跡	5年に一度、串本町によりエルトゥールル号遭難事故の犠牲者の慰霊祭が執り行われている。	
08	09	エルトゥールル号遭難事件 遭難者上陸地	串本町樫野	明治	国史跡	遭難者墓地の東に隣接する小さな浜と崖地からなる。遭難した生存者が泳ぎ着き又は流れ着いた場所と伝わっている。	
08	09	エルトゥールル号遭難事件 船甲羅	串本町樫野	明治	国史跡	大小の岩礁が点在しており、海の難所とされている。エルトゥールル号が衝突した岩礁地帯。	
08	09	エルトゥールル号遭難事件 関係 太龍寺跡	串本町樫野	江戸～	—	太龍寺は当時の場所から移されているが、跡地が残されている。生存者は官舎から太龍寺に移され、この地で治療を受けた。	
08	09	エルトゥールル号遭難事件 関係 連正寺	串本町大島	江戸～	—	太龍寺では手狭になったことから、生存者は連正寺に移され、この地で治療を受けた。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町鬪野川（橋杭）	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成8年にJRきのくに線ガード下に設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町串本（大水崎）	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成9年にサンナンタンランド大水崎踏切前に設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町串本（矢の熊）	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成10年に土木所長官舎近くに設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町串本（堀笠島）	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成11年に元警察官舎町有地に設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町串本（南）	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成12年に町道電柱横に設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町串本（袋）	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成13年に袋バス停前に設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町串本（袋）	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成14年に右切地蔵前に設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町二色	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成15年に元二色町営住宅町有地に設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町二色	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成15年にしき園踏切近くに設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町高富	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成16年に釜郷原防火水槽付近に設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町有田	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成17年にJRきのくに線有田駅近くに設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町田並	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成18年に円光寺石垣附近に設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町江田	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成19年に江田集会所近くに設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達 標柱	串本町田子	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成20年に田子区民会館敷地内に設置。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
08	09	昭和南海地震津波到達標柱	串本町和深（安指）	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成21年に安指区民会館敷地内に設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達標柱	串本町大島	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成22年に連生寺近くの駐車場内に設置。	
08	09	昭和南海地震津波到達標柱	串本町大島	昭和	—	昭和南海地震による津波の到達記録の津波碑で、昭和南海地震の50周年である平成23年に大島漁協上町道に設置。	
08	09	吉村宮一組合長記念碑	串本町串本	昭和	—	昭和南海地震により損壊した上浦漁港再建のため奔走した串本漁協組合長の功績を称えて須賀浦集会所近くに建立した記念碑。	
08	09	良栄丸遭難之碑	串本町串本	昭和	—	和深村の漁船が千葉県銚子沖で遭難、アメリカへ漂着。乗組員12名全員が死亡。船長の出身地串本の串木谷墓地に追悼碑が建立。	
08	09	第三正福丸遭難の碑	串本町和深	昭和	—	和深沖5kmの海上で、和洋海運株式会社（東京都）所属の貨物船「第三正福丸」が遭難。和深東地区の墓地区内に碑が建立。	
08	09	英人の建てた遭難記念碑	串本町潮岬	大正	—	出稼ぎの海外移民中の日本人6名が出漁中に亡くなり、弔いのため船首のホッキョクが郷里の潮岬の高松寺に追悼碑を建立。	
08	09	ノルマントン号沈没	串本町大島沖	明治	—	漂着した乗組員が矢倉甚兵衛宅や和田金兵衛宅に滞留した。	
08	09	防風石垣	串本	～昭和	—	強風や波から母屋を守るために築かれた町内各所で見られる石垣。1960年代からは母屋の強度が増したため石垣が不要となる。	
08	11	小型火葬炉跡	串本町和深		—	詳細不明。施設跡に残るプレートには箱田式火葬炉、箱田工務所と書かれている。	
08	11	潮岬測候所跡	串本町潮岬	大正元年	—	大正元年開設。平成21年に潮岬特別地域気象観測所に移行したため、今も敷地だけが残る。	
08	11	検潮所	串本町串本	明治	—	明治25年観測開始。袋港にあり、何度か改築、建て替えが行われている。	
08	11	神田家なまこ壁	串本町串本	江戸～	—	串本きつての商家神田家の倉庫外壁。この漆喰の原料に田並のサンゴが使用されている。	
09	01	橋爪家屋敷跡	串本町古田	～明治	—	明治維新前から明治元年11月頃までの大庄屋橋爪周輔の屋敷跡。現在は石垣だけが残る。	
09	01	浦氏屋敷跡	串本町江田	～明治	—	明治2年頃までの江田組大庄屋浦氏の屋敷跡。「江田殿倉庫」は江田組十二カ村の年貢を集め、現在もその倉庫の石垣が残る。	
09	04	木野仲輔石碑	串本町大島	明治	—	大島村の発展に寄与。エルトゥール号遭難時の大島村助役。大島の蓮生寺に石碑が建てられている。	
09	06	B29墜落場所	串本町潮岬	昭和20年	—	昭和20年6月1日に接触事故で1機が潮岬青少年の家近くの谷に墜落、海に墜落した1機と併せて乗員22名中20名が死亡。県道41号沿いの墜落地点付近に標柱を設置。	
09	06	海軍特設見張所跡	串本町潮岬	昭和	—	潮岬望楼の芝内。太平洋戦争時、望楼の芝一带にレーダー基地（二十二号電探（レーダー））や機銃陣地が置かれた。施設跡は残存しないが跡地に標柱設置。	
09	06	海軍望楼跡	串本町潮岬	昭和	—	日清戦争から太平洋戦争にかけて運用された敵国の艦船を見張るための望楼施設跡。潮岬望楼の芝内に建物の一部が残り、壁に機銃掃射の弾痕跡も見られる。	
09	06	串本造船所防空壕	串本町串本	昭和	—	陸軍の艦船を造る造船所があった。昭和20年5月17日の空襲で造船所を含む袋地区は全焼の被害を受けた。現在はダイビングセンターの倉庫として使用。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	06	イサデ飛行場燃料倉庫	串本町潮岬	昭和4年	—	かつて潮岬中学校周辺はイサデと呼ばれる芝地で、昭和4年から終戦まで飛行場として利用されていた。その飛行場の燃料倉庫跡が残る。	
09	06	空襲被害場所（串本）	串本町串本	昭和20年	—	昭和20年1月19日B29が国民学校付近に10発の爆弾を投下し建物被害多数、1名死亡。その記録として標柱を串本小学校グラウンド内に設置。	
09	06	空襲被害場所（潮岬）	串本町潮岬	昭和20年	—	昭和20年6月22日B29からの爆弾投下で広範囲に被害。死者18名、家屋全焼数戸。その記録として標柱を潮岬公民館敷地内に設置。	
09	06	空襲被害場所（和深）	串本町和深	昭和20年	—	昭和20年6月22日和深地区にB29が8発の爆弾（内不発弾1）を投下。付近のイヤン谷や西ノ平見の田畑に炸裂、1名死亡。記録として標柱を和深児童公園内に設置。	
09	06	空襲被害場所（出雲）	串本町出雲	昭和20年	—	昭和20年6月26日出雲区にB29が6発の爆弾を投下、8名の命がうばわれた。記録として標柱を出雲公民館敷地内に設置。	
09	06	潮騒の森防空壕	串本町潮岬	昭和19年	—	権現地区には海軍の通信所もあり空襲目標とされた。昭和19年から陸軍特設警備隊が本土決戦に備えて全住民が避難できる大規模防空壕を建設。現在在は柵で入口封鎖。	
09	06	海軍機銃第2陣地跡	串本町串本	昭和	—	太平洋戦争末期、艦載機による空襲に備えて、航空隊基地周辺には機銃陣地が築かれ、ここには十三耗機銃と二十五耗機銃が据えられた。現在は兵舎の基礎部分と待避壕が残る。	
09	06	海軍軍需部横穴壕	串本町大島	昭和	—	海軍大阪警備隊軍需部串本支庫の施設で、現存する横穴壕に爆薬を保管したといわれ頑丈に作られる。大島水谷地区にあり、入口は柵で封鎖。	
09	06	空襲被害場所（上田原）	串本町上田原	昭和20年	—	昭和20年6月26日午前9時前、B29が投下した爆弾で付近の7名が犠牲。その記録として標柱を上田原集会所敷地内に設置。	
09	06	海軍無線送信所	串本町串本	昭和	—	戦争の激化で、昭和19年海軍基地の通信兵器は全て耐弾の地下施設に移された。施設跡が現在も残り、入口は扉を施錠。町が管理している。	
09	06	空襲被害場所（姫川）	串本町姫川	昭和20年？	—	昭和24年4月、東から飛来したB29がこの一帯へ爆弾投下。爆弾の破片で小学生1名死亡。農作業中の大人1名重傷。記録として標柱を姫川地区内道沿いに設置。	
09	06	津荷防空壕跡	串本町津荷	昭和	—	昭和19年以降、米軍機の飛来に伴い各地に防空壕が掘られた。津荷の防空壕は埋められているが、痕跡付近に標柱を設置。	
09	06	海軍基地門柱跡	串本町串本	昭和	—	この付近に海軍基地があり、裏山には陸軍防空情報基地があった。元の位置からは移動しているが、串本中学校正門付近に旧海軍門柱跡が残る。	
09	06	海軍機銃第1陣地台座跡	串本町串本	昭和	—	海軍機銃第1陣地跡で、二十五耗連装機銃が2基設置され、部隊のための兵舎が建てられた。現在は金比羅さんが祀られた小さな森の中に台座だけが残る。	
09	06	八幡神社 忠魂碑	串本町和深（八幡神社境内）	昭和28年	—	大東亜戦争講和記念に西南役以来の戦病没将兵を祀る。「世話人村長山鹿藤太郎 設計者助役井口源五郎」。	
09	08	行幸記念碑	串本町出雲	昭和	—	昭和天皇来町記念。元々は串本小学校内に建てられたものを移設。	
09	08	行幸記念碑	串本町潮岬	昭和	—	昭和天皇来町記念。潮岬望楼の芝、潮岬灯台近くに記念碑が建っている。	
09	08	行幸記念碑	串本町檜野	昭和	—	昭和天皇来町記念。檜野灯台敷地内に記念碑が建っている。	
09	08	昭和天皇御製碑	串本町潮岬	昭和	—	望楼の芝内に立つ。	
09	08	宮殿下台臨記念碑	串本町潮岬		—	詳細不明。陸軍大将奈良武次と刻まれている。	
09	08	弁天前大敷天覧記念碑	串本町檜野	昭和	—	昭和天皇が大敷網漁を御覧された記念碑。檜野埼灯台前広場に立つ。	

中分類	小分類	名称	所在地	建設・設置時期等	指定等	概要	文献
09	08	御野立所跡	串本町檜野	昭和	—	昭和天皇が昭和4年6月3日にこの地で休憩された。檜野埼灯台前広場に立つ。	
10	07	高浜虚子の句碑	串本町潮岬	昭和	—	昭和8年4月9日高浜虚子の串本来遊を記念して串本俳句会が建てた。	
10	07	浜口今夜の句碑	串本町二色	明治～昭和	—	高浜虚子の弟子で串本出身の浜口今夜（本名：一郎）の句碑。	
10	07	山口誓子の句碑	串本町潮岬	明治～昭和	—	山口誓子の来遊を記念して昭和35年に建立。	
10	07	阿波野青畝の句碑	串本町檜野	明治～昭和	—	阿波野青畝が檜野で呼んだ句。昭和35年に建立。檜野埼灯台前太平洋側の広場に立つ。	
10	07	下村海南の歌碑	串本町潮岬	明治～昭和	—	和歌山市出身のジャーナリスト下村海南（宏）の歌碑。潮岬望楼の芝内、潮風の休憩所の前に建立。	
11	01	神田文左衛門氏の碑	串本町串本	明治	—	串本と上野・二色との境界争い等に奔走し、8年かかって解決をした功績を称えて串本串木谷墓地内に建立。	

集計表

	鉱山	エネルギー産業	重工業	軽工業	交通・運輸・通信業	商業・金融業	農林水産業	社会	政治	文化	その他	合計
和歌山市	0	1	0	15	72	7	15	50	173	526	0	859
海南市	0	0	5	19	66	1	22	6	22	38	0	179
紀美野町	0	0	0	0	11	0	5	4	19	3	0	42
紀の川市	2	2	0	6	41	2	19	23	15	75	0	185
岩出市	0	0	0	2	30	0	9	1	4	43	0	89
橋本市	0	1	0	8	39	2	10	8	19	6	0	93
九度山町	2	2	0	0	34	2	4	4	3	0	0	51
高野町	1	1	0	0	28	6	7	15	50	36	0	144
かつらぎ町	3	0	0	1	43	1	7	24	22	275	0	376
有田市	1	0	4	14	49	0	43	77	32	57	0	277
湯浅町	0	0	0	6	12	4	6	8	4	2	0	42
広川町	0	0	0	1	5	2	8	11	4	3	0	34
有田川町	0	6	0	2	40	0	13	18	29	14	0	122
御坊市	0	0	0	4	19	6	11	17	22	31	0	110
美浜町	0	0	0	1	9	0	8	22	15	25	0	80
日高町	0	0	0	0	8	0	4	3	7	8	0	30
由良町	0	0	0	0	7	0	5	8	22	8	0	50
日高川町	3	3	0	1	11	0	29	17	15	31	0	110
印南町	0	0	0	1	8	0	9	1	9	14	0	42
みなべ町	0	0	0	0	30	0	12	9	9	21	0	81
田辺市	0	6	0	7	38	0	20	78	56	33	13	251
白浜町	5	0	0	4	17	0	9	22	21	31	0	109
上富田町	0	0	0	0	5	0	12	7	6	1	0	31
すさみ町	0	0	0	0	1	0	0	8	1	1	0	11
新宮市	4	20	1	6	141	13	37	93	20	46	0	381
那智勝浦町	7	2	0	0	13	1	3	7	5	0	0	38
太地町	0	0	0	0	0	0	6	1	1	0	0	8
古座川町	21	0	1	0	20	0	15	0	3	1	0	61
北山村	0	1	0	0	8	0	1	0	1	0	0	11
串本町	0	0	2	2	169	1	24	36	29	5	1	269
合計	49	45	13	100	974	48	373	578	638	1334	14	4166

【引用・参考文献】

番号	文献名
1	和歌山県教育委員会2007『和歌山県の近代化遺産－和歌山県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書－』
2	和歌山県教育委員会2010『和歌山県の近代和風建築－和歌山県近代和風建築総合調査報告書－』
3	有田市1974『有田市誌』
4	有田市2006『私たちの有田市』
5	有田市遺族連合会2001『戦中戦後苦難の思い出』
6	有田市文化協会2009『碑紀行』
7	有田市文化協会2017『こんな話が残っています』
8	有田市宮原愛郷会1993『今昔 宮原の里』
9	打田町1984『打田町史』
10	打田町1986『打田町史』第三卷
11	梅田律子2016『紀の川市歴史民俗資料館企画展資料』紀の川市教育委員会生涯学習課
12	沖縄戦戦没者高野山供養塔奉賛会1994『五十回忌記念 沖縄戦戦没者高野山供養塔史』
13	海津一郎2013「和歌浦・愛宕山の石造物調査」『和歌山大学教育学部紀要 人文科学』第63集
14	貴志川町1981『貴志川町史』第三卷
15	紀美野町教育委員会2015『新刊版 わたしたちのまち 紀美野町』紀美野町社会科教育研究会編、2020改訂版
16	粉河町2003『粉河町史』第一卷
17	粉河町1996『粉河町史』第四卷
18	後藤敦史・高久智広・中西裕樹 2018『幕末の大阪湾と台場』戎光祥出版
19	御坊市教育委員会2006『御坊ゆかりの先人たち』
20	御坊市教育委員会2007『御坊市中心部の町並み景観』
21	御坊文化財研究会2006『御坊市の石造物』
22	塩屋文化協会2018『羽山家の記』
23	清水長一郎1998『日高路の碑巡礼』御坊文化財研究会
24	白浜郷土研究会1964『白浜町の碑文』（野口民雄編）
25	新庄の歴史に親しむ会2018『新庄地域の記念碑－石碑を中心として－』
26	高橋克伸2010「明治13年の和歌山城内民有地一件について－「陸軍省大日記」より－」『和歌山市立博物館紀要』第24号
27	武内雅人2015「隧道が語る森田庄兵衛の新和歌浦開発事業」『和歌山地方史研究』和歌山地方史研究会
28	橘信秀1996『那賀郡石仏史』那賀郡老人クラブ連合会
29	田中敬忠1953「名勝岡公園の回顧と展望」『和歌山新聞』（昭和28年3月3日付）
30	田辺市2003『田辺市史』第2巻
31	田辺市2003『田辺市史』第3巻
32	田辺市2011『大塔村史』通史・民俗編
33	田辺市遺族連合会2000『二度と戻って来ない私達の記録 皇紀2660年・2000年記念誌』
34	田辺東部郷土史懇話会1999『紀州の礪山と神子浜砥：神子浜における採石業』
35	田辺木協組合2003『木に生きる：紀州田辺木材史』
36	辻 晋堂1992『辻晋堂著作集 泥古庵雑記』
37	中尾肇1978『靖軒中尾純翁』靖軒・中尾純翁を顕彰する会
38	那賀町1981『那賀町史』
39	中西重裕2002『わかやまワクワク探検隊』和歌山新報社
40	中辺路町1990『中辺路町誌』下巻

41	ニュース和歌山2020年10月24日更新記事「松下会館横にある胸像はだれ？」
42	野口民雄1959「田辺市及びその周辺の碑文（１）」『田辺文化財3』田辺市教育委員会
43	野口民雄1960「田辺市及びその周辺の碑文（２）」『田辺文化財4』田辺市教育委員会
44	野口民雄1961「田辺市及びその周辺の碑文（３）」『田辺文化財5』田辺市教育委員会
45	野口民雄1963「田辺市及びその周辺の碑文（５）」『田辺文化財7』田辺市教育委員会
46	野口民雄1964「田辺市及びその周辺の碑文（６）」『田辺文化財8』田辺市教育委員会
47	橋本市立学文路中学校1977『学文路 郷土研究の記録』
48	橋本市郷土資料館2002『橋本市郷土資料館報第17号 石造物の伝言』
49	橋本市まちの歴史資料保存会2007『橋本の町と歴史～区画整理事業「再生と希望」～』
50	初島町教育委員会1962『初島町誌』
51	華岡青洲の郷 上名手地域の調査研究・記録作成及びその活用事業実行委員会2013『上名手の礎』和歌山県紀の川市那賀地区公民館 上名手分館
52	東本庄遺族会1997『礎 散華の魂』
53	日高新報社2015『その日がある前に～それぞれの戦争を訪ねて～』（日高新報戦後70年プロジェクト取材班）
54	三尾功2011『城下町和歌山夜ばなし』宇治書店
55	美里町立下神野小学校1978『開校百年誌』下神野小学校創立百周年記念事業実行委員会編
56	箕島町誌発行会1951『たちばなのさと』
57	宮原災害復興誌編集委員会1962『七、一八宮原災害復興誌』
58	桃山町企画室町誌編纂班2002『桃山町誌 歴史との対話』
59	桃山町教育委員会・文化財保護委員会1994『桃山町文化財』
60	森下誠2016『長谷毛原今昔物語 村の明け暮れ』元気長谷毛原会
61	保田龍門没後五〇年記念事業実行委員会発行2016『保田龍門 わかやま作品巡りガイドブック』
62	龍神村1985『龍神村誌 上巻』
63	龍神村1987『龍神村誌 下巻』
64	和歌山県1970『重要文化財東照宮修理工事報告書』
65	和歌山県立美術館1968『郷土の美術家 明治・大正・昭和の物故作家』
66	和歌山県立文書館2004『収蔵史料目録六 北一夫氏旧蔵北家文書目録』
67	和歌山県立文書館2018『和歌山県立文書館だより』第51号
68	和歌山市1973『史跡和歌山城紅葉溪庭園整備報告書』
69	和歌山市1984『和歌山市の民話（資料集・下）』
70	和歌山市立博物館2010『写真にみるあのころの和歌山—和歌山城（戦前）編—』
71	川辺町史編さん委員会1988『川辺町史 第1巻（通史編 上）』
72	続日高郡誌編集委員会1970『続日高郡誌 下巻』
73	朝来高齢者生きがい活動推進協議会1994『私たち庶民の信仰』
74	野上町1985『野上町誌』下巻
75	橋本市1975『橋本市史』下巻（橋本市史編さん委員会編）
76	広川町1974『広川町誌』下巻
77	吉備町1980『吉備町誌』下巻
78	白浜町1988『白浜町誌 本編 下巻3』
79	由良町1995『由良町誌』通史編 上巻
80	那智勝浦町史編纂委員会1976『那智勝浦町史』史料編一
81	那智勝浦町史編纂委員会1976『那智勝浦町史』史料編二
82	那智勝浦町史編さん委員会1980『那智勝浦町史』上巻
83	那智勝浦町史編さん委員会1980『那智勝浦町史』下巻

和歌山県近代の文化遺産調査報告書 I

— 県内所在把握調査 —

2023 年 3 月 31 日

編集・発行：和歌山県教育委員会

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通一丁目 1 番地

印刷・製本：株式会社 協和

〒642-0017 和歌山県海南市南赤坂 5-3